

大阪市平野区

長原遺跡発掘調査報告

XVIII

大阪市都市整備局による長吉長原東住宅建設にかかる
発掘調査報告書

2009.3

財団法人 大阪市文化財協会

大阪市平野区

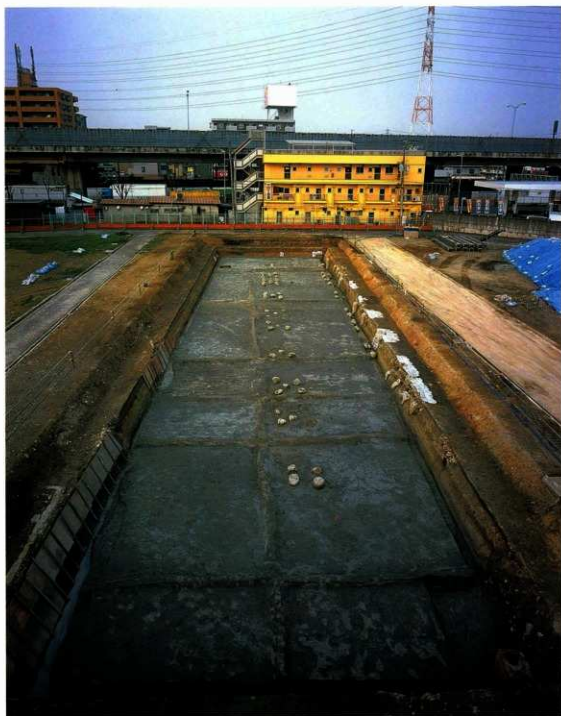
長原遺跡発掘調査報告

XVIII

大阪市都市整備局による長吉長原東住宅建設にかかる
発掘調査報告書

2009.3

財団法人 大阪市文化財協会



奈良時代の水田(Ⅱ区：東から)

大阪市平野区

長原遺跡発掘調査報告

XVIII

大阪市都市整備局による長吉長原東住宅建設にかかる
発掘調査報告書

2009.3

財団法人 大阪市文化財協会

序 文

本書は、当協会が刊行してきた『長原遺跡発掘調査報告』シリーズの18冊目となる。大阪市平野区に位置する長原遺跡は、1976年に市営地下鉄谷町線・近畿自動車道建設工事に伴う発掘調査が始まって以来、30余年に及ぶ調査研究が続けられ、重要な埋蔵文化財と研究成果が蓄積されてきた。現在では、長原遺跡は旧石器時代から江戸時代に至る府下でも屈指の複合遺跡として知られるようになった。今回の調査地のある東地区でも、これまでに弥生時代～古墳時代を中心に様々な時代の遺構や遺物が見つかっている。本書では縄文時代の尖頭器製作址や飛鳥・奈良時代の方格地割によって区画された水田跡について報告をする。これらの資料は長原遺跡全体の歴史的な変遷を明らかにするための貴重な資料であるだけでなく、大阪の歴史を解明するうえでも基礎的な資料となることを確信している。

長原遺跡が平野区のみならず広く市民の皆様がたに顕彰されることを願うとともに、今後とも埋蔵文化財の発掘調査が広く認知されるよう、その成果の還元に努めていきたい。

最後に、今回の発掘調査と報告書刊行に当ってご尽力をいただいた大阪市都市整備局ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げるとともに、今後ともより一層のご支援とご協力をお願い申し上げる次第である。

2009年3月

財団法人 大阪市文化財協会
理事長 脇 田 修

例 言

- 一、本書は財団法人大阪市文化財協会が2007年度に実施した、平野区長吉長原東2丁目の大阪市営長吉長原東住宅建設工事にかかる長原遺跡発掘調査(NG07-3次、NGは長原遺跡を示す)の報告書である。
- 一、発掘調査と報告書作成の費用は、大阪市都市整備局の負担による。
- 一、発掘調査は、財団法人大阪市文化財協会文化財研究部次長南秀雄の指揮のもと、長原調査事務所長代理絹川一徳が主として担当した。調査の期間・面積は第1章に記す。
- 一、本書の執筆および編集は、南、長原調査事務所長趙哲済の指揮のもと、絹川が行った。ただし、第Ⅱ章第6節の自然科学分析についての執筆はバリノ・サーヴェイ株式会社辻本裕也・斎藤崇人に委託した。本書の用字用語や体裁などの調整は、文化財研究部技術管理担当課長田中清美ほか、趙、同部事業企画担当課長代理清水和明、同部事業担当係長佐藤隆らの報告書校正委員が行った。
- 一、出土土器の所属時期については文化財研究部学芸員の助けを得た。英文目次・要旨は大阪歴史博物館学芸員宮本康治と絹川で作成した。
- 一、遺構写真は主として絹川が撮影し、一部の撮影を寿福写真房寿福浩氏に委託した。遺物写真の撮影は、阿南写真工房阿南辰秀氏に委託した。
- 一、空中写真測量および基準点測量は、株式会社バスコに委託した。
- 一、花粉・植物珪酸体分析、堆積物微構造分析作業はバリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その分析結果は第Ⅳ章に収録した。
- 一、発掘調査で得られた出土遺物、図面・写真などの資料はすべて当協会が保管している。
- 一、発掘調査から本書の作成に係わる作業には、補助員諸氏から多くのご援助を受けた。深謝の意を表したい。

凡 例

1. 本書で用いた層位学・堆積学的用語、および断面図に示した岩相の基本パターンは、[趙哲済1995]に準じる。
2. 本書における地層名は第〇層と表記する。また、各遺構埋土の地層名は「第」をとって〇層とのみ表記し、調査地の地層名と区別する。
3. 遺構名の表記は、溝(SD)、土壇(SK)、小穴(SP)、水田畦畔(SR)、その他遺構(SX)、石器遺物集中部(LC)の分類記号の後に、番号を付している。この番号はまず遺跡における層序番号を冠し、その後に遺構の分類別に各層序ごと1からの通し番号を付けた。
4. 本書における遺物番号は、土器・金属製品・木製品、弥生時代以降の石器(ただし石鏃を除く)・石製品について、1からの通し番号を付した。また、旧石器・縄文時代の石器遺物については、別途、調査地の固有番号をアルファベット2文字で示し、その後に調査時あるいは調査後に付した整理番号を続けて表記した。この方法は[大阪市文化財協会1995]に準拠するものである。
5. 本書で用いた座標値は世界測地系に基づく。水準値はT.P.値(東京湾平均海面値)を用い、本文・挿入図中ではTP+〇mと記した。
6. 本書で用いた地層の土色および土器の色調は[小山正忠・竹原秀雄1996]に拠った。なお、第Ⅱ章第2節以降の本文中の土色を示す記号は略した。
7. 各遺物の記述方法、分類、年代観などについては、以下の文献に従っている。石器の定義・記載法について：[竹岡俊樹1989]・[旧石器文化談話会2007]・[瀬川一徳2000]、石鏃について：[菅榮太郎1995]、弥生土器について：[寺沢薫・森井貞雄1989]。なお、弥生土器の編年観について上記文献に従いながらも、本書では土器様式である庄内式を時期名として扱い庄内期とし、弥生時代終末期に位置づけている。

本文目次

序文

例言

凡例

第Ⅰ章 長原遺跡の調査概要	1
第1節 遺跡の立地と歴史的景観	1
第2節 長原遺跡東地区における既往の調査	4
第3節 調査に至る経緯と経過	6
第Ⅱ章 調査の結果	9
第1節 調査地の層序	9
1) 層序	9
第2節 縄文～古墳時代の遺構と遺物	17
1) 縄文時代の遺構と遺物	17
i) 石器遺物集中部と出土層準	ii) 石器調査の方法について
2) 石器遺物集中部LC1201	18
i) 石器遺物組成	ii) 微細石器遺物の分布
iii) 出土剥片	iv) 接合資料
v) 石器遺物集中部LC1201の性格	
3) 古墳時代の遺構と遺物	24
第3節 飛鳥時代の遺構と遺物	26
1) 飛鳥時代の畠作関連遺構	26
i) 第7層下面の遺構(Ⅱ区)	ii) Ⅱ区東側の遺構
iii) Ⅱ区中央の遺構と遺物	iv) 第7層下面の遺構の性格
2) 飛鳥時代後半の水田遺構	31
i) 第1期水田	ii) 第2期水田
第4節 奈良時代の水田遺構	37
1) 第3期水田の概要	37
2) Ⅰ区の第3期水田	40
3) Ⅱ区の第3期水田	42
4) 第3期水田の年代	47

第5節	各層出土の遺物	48
	i) 各層出土の遺物	
	ii) 各層出土の石器	
	iii) II区出土の木製品	
第6節	堆積層解析と微化石分析	52
	1) はじめに	52
	2) 資料採取地点の詳細層序	53
	i) 資料採取地点の堆積層の累重状況	
	ii) 分析層準	
	3) 分析方法	55
	i) 軟X線写真撮影観察	
	ii) 土壌薄片作製鑑定	
	iii) 花粉分析	
	iv) 植物珪酸体分析	
	4) 軟X線写真観察・薄片作製鑑定結果	56
	i) 5地点(6-1層畦畔)	
	ii) 6地点	
	iii) 4地点	
	5) 花粉化石の層位別産状	61
	6) 植物珪酸体の産状について	62
第Ⅲ章	遺構と遺物の検討	69
第1節	古代の調査区および周辺環境変化の検討	69
	1) 調査地点における堆積層の累重状況と土地開発について	69
	i) 7層形成期	
	ii) 6層形成期	
	iii) 5層形成期	
	2) 周辺植生の変化	71
第2節	長原遺跡における尖頭器製作について	73
	1) はじめに	73
	2) NG89-19次調査地の石器遺物集中部について	73
	3) NG07-3次調査地出土の石器群	74
	4) NG07-3・89-19次調査地から出土した剥片の属性分析	74
	5) NG89-19次調査地の接合資料	77
	i) 尖頭器のブランクと調整剥片が接合する資料	
	ii) 調整剥片どうしの接合のみでブランクが集中部から搬出された資料	
	iii) ブランクに用いられた素材剥片	
	6) 長原遺跡89-19次調査地における尖頭器製作について	85
	7) NG07-3次調査地LC1201の性格について	87
第3節	水田遺構の検討	122
	1) はじめに	122
	2) 城山(その3)調査地とNG86-109・87-35次調査地の水田遺構	122
	i) 第1水田	
	ii) 第2水田	
	iii) 第3水田	
	iv) 第4水田	

3) NG07-3 次調査地の水田遺構	125
i) 第1期水田	
ii) 第2期水田	
iii) 第3a期水田	
iv) 第3b期水田	
4) まとめ	128
第IV章 まとめ	129
1) 縄文時代草創期の石器遺物集中部	129
2) 飛鳥～奈良時代の畠・水田遺構	130
引用・参考文献	132
あとがき・索引	
英文目次・要旨	

原色図版目次

- | | |
|-------------------|-------------------------------------|
| 1 奈良時代の水田(Ⅰ区：北から) | 2 尖頭器製作址出土の石器遺物
上：接合資料
下：調整剥片 |
|-------------------|-------------------------------------|

図版目次

- | | |
|---|--|
| 1 地層断面(一)
上：Ⅰ区 西壁断面(南東から)
中：Ⅰ区 西壁北端断面(東から)
下：Ⅰ区 西壁中央断面(東から) | 中：Ⅰ区 第6b層上面の第1期水田完掘状況(南から)
下：Ⅰ区 第6b層上面の第1期水田完掘状況(南東から) |
| 2 地層断面(二)
上：Ⅰ区 南壁断面(北西から)
中：Ⅰ区 東壁北端断面(西から)
下：Ⅰ区 東壁中央断面(南西から) | 9 飛鳥～奈良時代の遺構
上：Ⅰ区 第6b層上面の第2期水田完掘状況(南から)
中：Ⅰ区 第6b層上面の第2期水田完掘状況(北から)
下：Ⅰ区 第6b層上面の第2期水田完掘状況(北西から) |
| 3 地層断面(三)
上：Ⅱ区 南壁断面(北西から)
中：Ⅱ区 南壁西側断面(北東から)
下：Ⅱ区 南壁中央断面(北西から) | 10 奈良時代の遺構(一)
上：Ⅰ区 第6a2層上面の第3期水田完掘状況(北から)
中：Ⅰ区 第6a2層上面の第3期水田完掘状況(中央、北東から)
下：Ⅰ区 第6a2層上面の第3期水田完掘状況(南側、北東から) |
| 4 地層断面(四)
上：Ⅱ区 南壁西端断面(北から)
中：Ⅱ区 西壁断面(南東から)
下：Ⅱ区 東壁断面(南西から) | 11 奈良時代の遺構(二)
上：Ⅰ区 第6a2層上面の畦畔SR1010断面(西から)
中：Ⅰ区 第6a2層上面の畦畔SR1013断面(南から)
下：Ⅰ区 第6a2層上面の畦畔SR1011断面(西から) |
| 5 縄文～古墳時代の遺構
上：Ⅰ区 LC1201石器遺物出土状況(北から)
中：Ⅰ区 LC1201石器遺物出土状況(北東から)
下：Ⅰ区 SK1001完掘状況(東から) | 12 奈良時代の遺構(三)
上：Ⅱ区 第6a2層上面の第3期水田完掘状況(東から)
中：Ⅱ区 第6a2層上面の第3期水田完掘状況(東側、南東から)
下：Ⅱ区 第6a2層上面の第3期水田・踏込み跡(中央、南から) |
| 6 飛鳥時代の遺構(一)
上：Ⅱ区 第7層下面の遺構全景(検出状況：東から)
中：Ⅱ区 第7層下面の遺構全景(完掘状況：東から)
下：Ⅱ区 SD2021・2022ほか検出状況(南から) | 13 奈良時代の遺構(四)
上：Ⅱ区 第6a2層上面の畦畔SR2003断面 |
| 7 飛鳥時代の遺構(二)
上：Ⅱ区 SD2021・2022ほか完掘状況(南から)
中：Ⅱ区 SD2003・圓溝群検出状況(南から)
下：Ⅱ区 SD2003・圓溝群完掘状況(南から) | |
| 8 飛鳥時代の遺構(三)
上：Ⅰ区 第6b層上面の第1期水田完掘状況(北から) | |

- (北壁、南から)
- 中: II区 第6a2層上面の畦畔
SR2006・2007断面(南壁、北から)
- 下: II区 第6a2層上面の畦畔
SR2001断面(東壁、西から)
- 14 石器調査・深掘トレンチほか
- 上: I区 石器調査状況(南から)
- 中: II区 南壁中央深掘トレンチ断面
(北西から)
- 下: II区 南端部第5層下部出土曲物19
(西から)
- 15 出土遺物(一)

- 16 出土遺物(二)
- 17 I区 LC1201出土の石器遺物(一)
- 18 I区 LC1201出土の石器遺物(二)
- 19 I区 LC1201出土の石器遺物(三)
- 20 自然科学分析 5地点の試料および軟X線写真
(試料1～試料2上部)
- 21 自然科学分析 5地点の試料および軟X線写真
(試料2～試料3)
- 22 自然科学分析 6地点の試料および軟X線写真
- 23 自然科学分析 土壌薄片写真
- 24 自然科学分析 花粉化石
- 25 自然科学分析 植物珪酸体

挿 図 目 次

図1	長原遺跡の位置図	1
図2	大阪平野とその周辺の地形分類図	2
図3	調査地の位置図	2
図4	今回の調査地および周辺における既往の調査地 位置図	5
図5	調査区の位置図	6
図6	I区西壁断面図	11
図7	I区南壁断面図	12
図8	II区南壁断面図	13
図9	II区東壁・西壁断面図	14
図10	縄文～古墳時代の遺構分布図	17
図11	LC1201石器遺物平面・断面分布図	18
図12	微細石器遺物出土分布図	19
図13	主要石器遺物の分布図	19
図14	LC1201出土の石器遺物実測図(1)	21
図15	LC1201出土の石器遺物実測図(2)	22
図16	LC1201出土の接合資料実測図	23
図17	SK1001平面・断面図	25
図18	飛鳥時代の遺構分布図	26
図19	II区第7層下面の遺構平面図	27
図20	第7層下面の遺構群(II区東側)平面図	27
図21	第7層下面の遺構群(II区東側)断面図	28
図22	第7層下面の遺構群(II区中央)平面図	29
図23	第7層下面の遺構群(II区中央)断面図	29
図24	SX2002出土遺物実測図	30
図25	飛鳥時代後半の水田畦畔(第1期水田) 平面図	31

図26	第6b層上面の水田畦畔(I区第1期水田) 平面・断面図	32
図27	飛鳥時代後半の水田畦畔(第2期水田) 平面図	34
図28	第6b層上面の水田畦畔(I区第2期水田) 平面・断面図	35
図29	奈良時代前半の水田畦畔(第3期水田) 平面図	37
図30	I区第6a2層上面の水田畦畔(第3期水田) 平面図	38
図31	II区第6a2層上面の水田畦畔(第3期水田) 平面・断面図	39
図32	I区第6a2層上面の水田畦畔(第3期水田) 断面図	40
図33	I区第6a2層上面の水田畦畔水口部の 平面・断面図	41
図34	II区第6a2層上面の水田畦畔(第3期水田) 平面図	43
図35	II区第6a2層上面の水田畦畔平面・断面図(1)	44
図36	II区第6a2層上面の水田畦畔平面・断面図(2)	45
図37	2時期の水田面と踏込み跡平面図	46
図38	I区各層出土の遺物実測図	48
図39	II区各層出土の遺物実測図	49
図40	I区各層出土の石炭実測図	50
図41	第5層出土の木製品実測図	51
図42	調査地点の位置および層序の模式柱状図	52・53
図43	5地点の軟X線写真およびおもな構造	57

図44	6地点の軟X線写真・土壌薄片写真 およびおもな構造	59	図52	NG89-19次調査地の接合資料実測図(4)	81
図45	4地点5-8層-6-1層上部の土壌薄片写真	61	図53	NG89-19次調査地の接合資料実測図(5)	82
図46	花粉化石群集の層位分布図	65	図54	NG89-19次調査地の接合資料実測図(6)	83
図47	植物珪酸体群集の層位分布図	67	図55	NG89-19次調査地の接合資料実測図(7)	85
図48	剥片の長幅グラフ	74	図56	NG07-3次調査地における水田畦畔の変遷図	123
図49	NG89-19次調査地の接合資料実測図(1)	78	図57	城山(その3)調査地とNG07-3次調査地の 水田畦畔分布図	124
図50	NG89-19次調査地の接合資料実測図(2)	79	図58	長原遺跡と周辺の地籍図	126・127
図51	NG89-19次調査地の接合資料実測図(3)	80			

表 目 次

表1	長原遺跡の標準層序表(趙2003)	10	表20	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (5)	98
表2	NG07-3次調査地層序表	15	表21	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (6)	99
表3	花粉分析結果(1)	63	表22	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (7)	100
表4	花粉分析結果(2)	64	表23	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (8)	101
表5	植物珪酸体分析結果	66	表24	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (9)	102
表6	剥片の打面形態	75	表25	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (10)	103
表7	剥片背面の主な剥離方向	75	表26	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (11)	104
表8	剥片背面に残された礫面	76	表27	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (12)	105
表9	剥片のバルブと内湾の程度	76	表28	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (13)	106
表10	NG07-3次調査地LC1201出土剥片観察表 (1)	88	表29	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (14)	107
表11	NG07-3次調査地LC1201出土剥片観察表 (2)	89	表30	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (15)	108
表12	NG07-3次調査地LC1201出土剥片観察表 (3)	90	表31	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (16)	109
表13	NG07-3次調査地LC1201出土剥片観察表 (4)	91	表32	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (17)	110
表14	NG07-3次調査地LC1201出土剥片観察表 (5)	92	表33	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (18)	111
表15	NG07-3次調査地LC1201出土剥片観察表 (6)	93	表34	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
表16	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (1)	94			
表17	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (2)	95			
表18	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (3)	96			
表19	NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表 (4)	97			

(19)	112
表35 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(20)	113
表36 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(21)	114
表37 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(22)	115
表38 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(23)	116
表39 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	

(24)	117
表40 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(25)	118
表41 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(26)	119
表42 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(27)	120
表43 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表	
(28)	121

写 真 目 次

写真1 水田遺構の検出	7
-------------------	---

写真2 石器調査のようす	7
--------------------	---

第I章 長原遺跡の調査概要

第1節 遺跡の立地と歴史的景観

長原遺跡は大阪市平野区長吉長原(図1)とその一帯に所在する旧石器時代から江戸時代にかけて形成された大規模な複合遺跡である。埋蔵文化財包蔵地として認められている遺跡範囲は東西・南北とも約2 kmに及び、羽曳野丘陵から北側へ延びた河内台地の北端部(瓜破台地ともいう)の東側とその北東に広がる沖積地一帯が該当する(図2)。この周辺の旧大和川流域には多くの遺跡が展開しており、長原遺跡はこれらの中でも南端に位置する。遺跡の周囲には大阪市瓜破遺跡・喜連東遺跡、八尾市亀井遺跡・木の本遺跡・八尾南遺跡など、数多くの遺跡が存在している(図3)。

長原遺跡は、1973年に大阪市営地下鉄谷町線延長工事に伴う試掘調査で数基の古墳が発見されたことを契機とし、以後30年以上継続して発掘調査が行われている。現在、遺跡は8つの地区に区分され、それぞれ東北・東・東南・北・中央・南・西・西南地区と呼称されている(図3)。

長原遺跡では長期にわたる継続的な発掘調査の結果、層位学的発掘成果に基づいた遺跡の標準層序[趙哲清2001]が確立され、この標準層序と各調査地の地層を対照しながら発掘調査を実施しており、旧石器時代から現代までの地形環境の変遷とそれに係わる人間の営為が遺跡全体で解明されてきた。その成果はこれまでに刊行されてきた長原遺跡の発掘調査報告書などに反映されている。

長原遺跡における人間の活動痕跡は後期旧石器時代にまで遡ることができる。これまでの調査で東南・東北地区においてサヌカイト製石器遺物の集中部を伴う石器製作址が見つかった。特に東南地区では、NG90-62次調査地において、約28,000年前に降下した始良Tn火山灰(地域名称は平安神宮火山灰)の降灰層準下位で台形石器やナイフ様石器を伴う後期旧石器時代初頭の石器群が認められた[大阪市文化財協会2008]。現在、この石器群は大阪平野では年代の確かな石器群としては最古とみられている。東北地区では、NG97-12次調査地において、三瓶浮布火山灰(地域名称は阪手火山灰)の降灰層準下位でかつ始良Tn火山灰降灰層準上位の地層から、最終氷期最寒冷期の頃とみられる石器群が見つかった。この石器群は後期旧石器時代後半に近畿地方で特徴的な瀬戸内技法に加え、石刃技法によって製作されたナイフ形石器を伴っていた[大阪市文化財協会2000]。

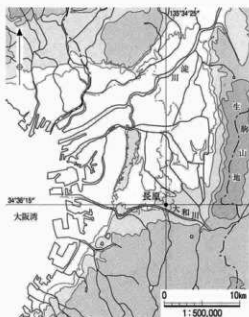


図1 長原遺跡の位置図

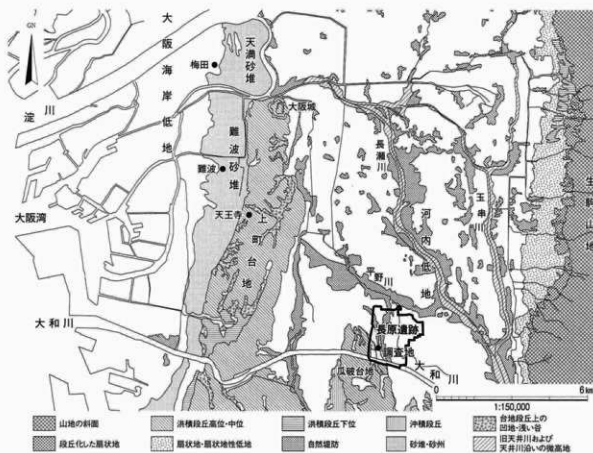


図2 大阪平野とその周辺の地形分類図(土地条件図[建設省国土地理院1983]を基に一部加筆して作成)

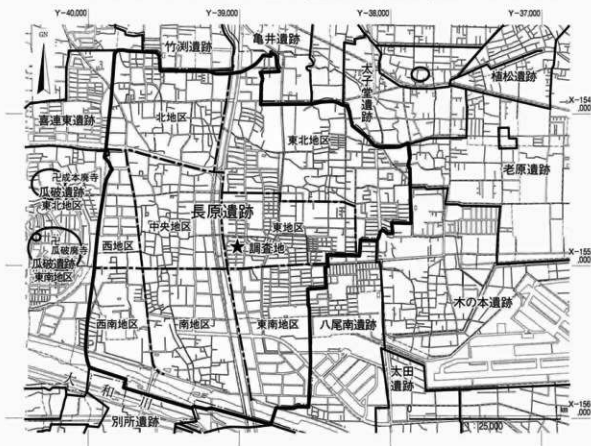


図3 調査地の位置図

このほか、後期旧石器時代以前の人類痕跡の探求も行われている。長原遺跡では沖積層の堆積が薄い台地部を中心に、低位段丘構成層下部から中位段丘構成層上部の地層において、部分的ではあるが平面調査を実施しており、これまでに複数の調査地でナウマンゾウやオオツノジカなどの大型絶滅動物の足跡化石調査が行われ、西地区では、NG96-76次調査地で長原17B層からナウマンゾウの臼歯のラメラ片が出土している。

縄文時代では、NG89-19次調査地で見つかった草創期の尖頭器製作址をはじめとして、草創期から晩期にかけての土器や石器が各地区で見つかっている。東北地区では、NG99-41次調査地において、建物跡の可能性のある遺構から大阪市内で最古の縄文早期(約8,500年前)の土器が出土した[大阪市文化財協会2002]。一方、東南地区のNG81-10・82-6次調査地では、晩期末の建物跡や墓から初痕が残る長原式土器と棺に転用された弥生土器がともに見つかり、縄文文化と弥生文化を担う集団が共時的に存在・交流していたことが確認された[大阪市文化財協会1983]。

弥生時代になると、水稲農耕の導入に伴う本格的な土地開発の開始を認めることができる。調査地各所において中期前葉の水田跡、中期後葉の方形周溝墓、後期の堅穴建物などが発見されており、各時期の遺構・遺物が本遺跡東側の沖積平野部を中心に広範囲に展開する。中期には集落は沖積平野の自然堤防上に集中するが、後期になると分散していく傾向が認められ、大阪湾沿岸域に分布する他の弥生時代集落と共通した動態をたどることが明らかにされている。

古墳時代前期末～後期前半には、中央・南地区に当たる台地の東縁一帯を中心に多数の古墳が築かれる。長原古墳群としてこれまでに確認された213基[寺井誠2006]のうち、大半は一辺が15m以下の方墳で、豊富な形象埴輪をもつことを特徴としており、長原遺跡の南方に展開する古市古墳群との関連が指摘されている。5世紀中葉になると東・東南地区に中心的な集落が出現する。初期須恵器や韓式系土器が多く出土することから、渡来系集団が集落の形成に係わっていたようである。5世紀後葉以降では集落の中心は東・東南地区から西・中央地区へ移動し、台地側において比較的大型の掘立柱建物主体となった集落遺構が多数見つかっている。

飛鳥・奈良時代には台地上にも灌漑用の水路が整備され、広い範囲で水田開発が進められるようになる。この大規模な開発事業の拠点と考えられる大型掘立柱建物群が、中央・西地区の「馬池谷」周辺と、西南地区から瓜破遺跡南東部の一帯で見つかっている。また近年の調査では、東北地区でも奈良時代後半の溝ほかから銅製の鉋尾の金具や銭貨、墨書・墨画土器などの官衙の様相を示す遺物が出土している[大阪市文化財協会2003・2004]。しかし、奈良時代末～平安時代初めの大規模洪水による氾濫(長原遺跡標準層序のNG5A層)によって、100年以上維持された長原遺跡の水田は壊滅的な被害を受けた。

その後、平安時代後半には遺跡全体に方格地割(条里)が施行され、それに沿って再び遺跡の全域で田畑が整備されている。この条里地割は後世も継続・踏襲され、都市開発が激化する昭和30年代まで残されていた。一方、屋敷地も条里地割の規制を受けて配置されていく。集落は平安時代では散村形態を取っていたが、鎌倉時代～室町時代に入ると集村形態へ変化していったことが明らかにされている[植木久1982]。

(細川)

第2節 長原遺跡東地区における既往の調査

今回の調査地が位置する長原遺跡東地区(図4)では、これまでの発掘調査によって以下のような成果が得られている。以下時代ごとに概観しておく。

後期旧石器時代では、NG00-11調査地においてナイフ形石器を伴う石器製作址が見つかった。微細な碎片を含むサヌカイト製石器遺物が約400点出土した。

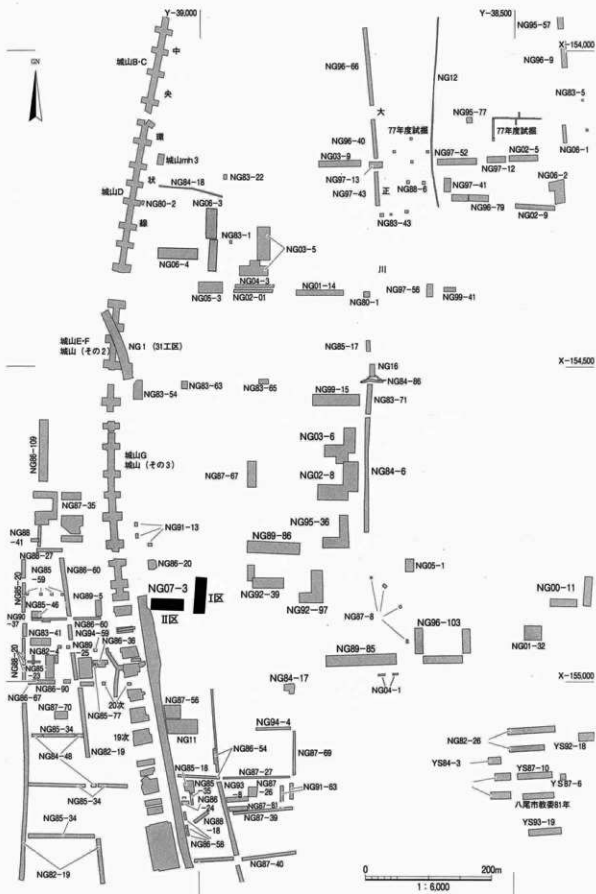
縄文時代では、NG89-85・96-103次調査地などの低地や谷部において自然流路に削り残された狭い場所で石鏃や楔形石器などを含むサヌカイト製遺物が包含層から多数見つかった。自然流路からは中～後期の縄文土器も出土した。ただし、建物跡などの明確な遺構の確認には至っておらず、原位置を留めた遺物分布はまばらである。

弥生時代には、東地区西側の自然堤防上に位置するNG92-39・95-36次調査地において中期前半～後期にかけての集落跡が見つかった。NG92-39次調査地ではサヌカイト原石を持ち込み、石器を製作した建物跡も確認されている。ここから西へ約200m離れた近畿自動車道建設に伴う調査においても同時期の建物跡が見つかり、この時期には集落の規模が広範囲に及んでいた可能性が指摘されている。南北に長いNG84-6次調査地が位置する自然堤防と沖積平野との境界付近からは、後期から古墳時代初頭の方形周溝墓が見つかった。低地部では中・後期の溝も認められる。

古墳時代には、前期の遺構分布は希薄であるが、中期に入ると自然堤防上や沖積平野部で大規模な集落が出現する。NG95-36・02-8・03-6次調査地の集落跡からは多数の初期須恵器や韓式系土器が出土している。後期になると、遺構の密度はふたたび希薄となり、沖積平野部で水田跡やビットが確認される程度である。

古代では、畦畔を伴う水田跡、あるいは耕作に係わる溝が東地区一帯で見つかった。沖積平野や低地では灌漑用の溝が多数巡らされるようになり、大規模な土地開発が行われたことがわかる。水田は当初、自然地形に沿って細かく畦畔が配置されているが、徐々に一筆の面積が広がっていく状況がNG94-4次調査地などで確認されている。この時期の水田の大部分は、奈良時代末～平安時代初めの洪水砂(長原遺跡標準層序の長原5A層)で覆われている。

中世になると一帯はふたたび大規模な洪水砂(長原遺跡標準層序の長原4A層)で覆われるが、中世前半の水田が東地区全体で確認されている。この水田は前代のものとは違い、条里に倣って配置されており、畦畔はほぼ正方位で築かれ、水田一筆ごとの面積も前代より大きくなっている。平安～鎌倉時代の掘立柱建物などの居住に係わる遺構は、台地の東縁部にあたるNG84-17・94-4次調査地などで確認されている。また、中世から近世には、坪境の溝と考えられる幅約3mほどの正方位を取る溝が、NG89-85・89-86・92-39次調査地などの複数の地点で確認されている。(絹川)



第3節 調査に至る経緯と経過

NG07-3次調査地は平野区長吉長原東2丁目に所在する。調査地の一帯は高度経済成長期における都市人口の増加に伴って建設された鉄筋コンクリート造りの市営住宅が建ち並ぶ地域であるが、近年、これらの集合住宅棟の老朽化に伴い、新たに高層住宅への建替えが順次計画・施工されている。前述のように、周辺地では発掘調査において旧石器時代から古代にかけて多数の遺構や遺物が検出されていることから、大阪市教育委員会では市都市整備局との協議により市営住宅の建替え工事に先行して発掘調査を実施してきた。本調査も長吉長原東住宅の建替えが決定したため、建設工事に先立って住宅棟部分に該当する場所を発掘調査することになった。

住宅棟の建設予定地はL字状に配置された東西2箇所である(図5)。東側の南北に長い区画をⅠ区(728㎡)、西側の東西に長い区画をⅡ区(643㎡)として設定し、排土置き場を場内で確保できたため、2つの調査区を並行させて調査を実施することとした。調査面積は両調査区あわせて1,371㎡である。

発掘調査の着手に至るまでには、市教育委員会・市都市整備局及び大阪市文化財協会の間で適宜協議と打ち合わせを行い、調査に先立って近隣住民には発掘調査の予定期間などの連絡と周知を行った。こうした事前協議と事務調整を完了した後、2007年11月9日から準備工に取りかかった。12月5日にⅠ区およびⅡ区の重機掘削を開始した。本調査地は、長原遺跡東・東北地区にある弥生～古墳時代の集落と墓域、中央・南地区にある長原古墳群の密集域の中間に位置しており、これまで調査が十分に及んでいない場所であった。したがって、本調査では弥生～古墳時代の集落遺構、西側に隣接する城山(その3)調査区(城山遺跡)[大阪文化財センター1986b]で見つかった飛鳥～奈良時代の水田遺構、

さらに低位段丘面の東縁に位置することから旧石器～縄文時代の遺構・遺物の検出・確認を重点的な調査目的とした。こうした古代以前の複数時期の遺構面の存在が予想されたため、掘削深度は地表面下1.5mにおいてⅠ・Ⅱ区ともに分厚い堆積が確認された平安時代の洪水砂層である第5(長原5A)層までとした。それ以下の地層については、人力で層ごとに掘削しながら適宜遺構面の精査と遺構検出、実測・写真撮影などの記録作業を行った。その過程で、第6層において検出した方格子地割による水田遺構の全景写真撮影を寿福滋氏に委託し、2008年1月11日に撮影を行っ



図5 調査区の位置図

た。1月18日には基準点測量と水田遺構の空中写真測量を実施し、標高値と世界座標系に基づく座標値を得た。その他、水田遺構に関係する地層の花粉分析などを目的として(株)バリノ・サーヴェイに自然科学分析を委託し、3月18日にサンプリング作業を実施した。さらにこの時に採取した試料をもとに堆積物の微構造分析を追加委託した。これらの分析結果は第Ⅱ章で報告する。3月7日からⅡ区で、3月10日からはⅠ区でそれぞれ石器調査を開始した。その結果、Ⅰ区において縄文時代草創期とみられる石器製作址1箇所を検出した。その後、3月22日にはⅡ区におけるすべての記録作業を完了し、重機による埋戻しに着手した。一方、石器製作址が見つかったⅠ区では、3月25日にすべての記録作業を終了して埋戻しに着手した。その後、場内整地を経て、3月31日には現地におけるすべての作業を完了した。(絹川)



写真1 水田遺構の検出



写真2 石器調査のようす

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 調査地の層序

1) 層序(図6～9、表1・2、図版1～4)

調査地の高さはTP+10m前後で、一帯は市営住宅の建設時に大規模な造成を受けて平坦地となっていた。

調査区において観察できた地層は以下のとおりである。なお、各層の時期は出土遺物ならびに周辺地における調査結果を合わせて援用している。最終的には表1に示した長原遺跡の標準層序[趙哲済 2001・2003]との対比により判定した。

第0層：市営住宅建設時の盛土で、層厚は70～90cmであった。長原0層である。

第1層：オリーブ黒色(7.5Y3/1)の細粒砂質シルトの作土層で、層厚は約15cmであった。Ⅰ・Ⅱ区の全域で認められた。造成前の旧表土に当る。現代の作土で長原1層である。

第2層：オリーブ灰色(2.5GY5/1)の細礫混り細粒砂質シルトの作土層で、層厚は10cm程度であった。Ⅰ・Ⅱ区の全域で認められた。酸化鉄の帯状斑紋が顕著に認められる地層である。本層には国産陶磁器の細片が包含されていた。長原2層である。

第3層：灰オリーブ色(7.5Y5/2)の細礫混り細粒砂質シルトの作土層で、層厚は10cm程度であった。Ⅰ・Ⅱ区の全域で認められる地層で、長原3層に対応する。

第4層もⅠ・Ⅱ区の全域で認められた作土層で、a・b層に細分することができた。砂質が優勢であった第3層までの上位層とは異なり、第4a層には粘土分が多く含まれていた。上位層とは層界も明瞭であった。さらに第4a・4b層はそれぞれ2層に細分できた。

第4a1層：暗オリーブ色(5Y4/3)の細粒砂を含む粘土質シルトの作土層で、層厚は10cm程度であった。Ⅰ・Ⅱ区の全域で認められた。酸化鉄の帯状斑紋とマンガン粒が顕著に認められ、厚く堆積する場所では砂質が優勢な状況が見られた。長原4A層に対比される。

第4a2層：暗オリーブ色(5Y4/4)の細礫混り粘土質シルトの作土層で、層厚は10cm程度であった。Ⅰ区では北半部に広く分布し、Ⅱ区では西端付近において断続的かつ部分的な堆積が認められた。酸化鉄の帯状斑紋が顕著に認められ、もとは水成層であったとみられ、Ⅱ区ではラミナが断片化・変形して残っていた。長原4A層に対応する。

第4b1層：黄褐色(2.5Y5/4)の中粒砂質シルトまたはシルト質中粒砂の作土層で、層厚は5～10cmであった。全体にやや暗色を帯び、上位層との層界は明瞭であるが、下部では砂質が強まる状況が見られた。調査区の全域に堆積している。長原4B層に対応する。Ⅱ区の西壁において、本層から掘込ま

表1 長原遺跡の標準層序表(緒2003)

[illegible]

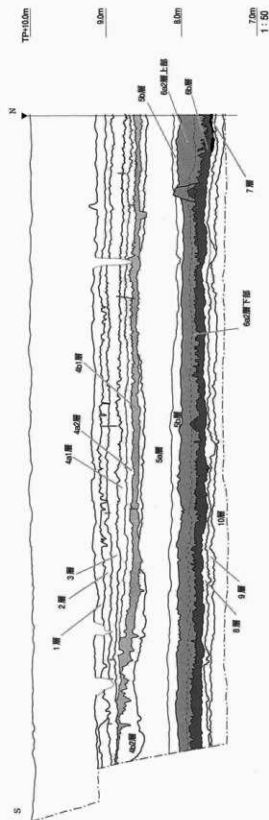
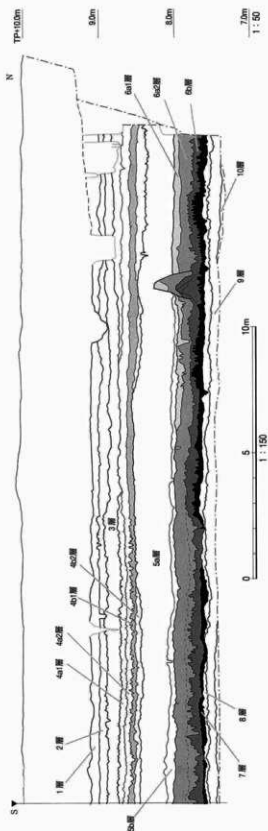


图6 I区西横断面图

第Ⅱ章 調査の結果

れた溝を断面で確認した。溝の方向は南西-北東方向とみられるが、建物基礎の攪乱が著しかったため、平面精査と観察を十分に行うことができなかった。形状・規模などは不明である。

第4b2層：灰オリーブ色(7.5Y6/2)の極細粒砂質シルトまたはシルト質細粒砂の作土層で、層厚は10~20cmであった。Ⅰ区はほぼ全域、Ⅱ区では南西部に分布していた。本層はⅡ区では一部でラミナが認められており、もとは水成層であったことがわかる。上・下位層との層界は明瞭である。長原4C層に対応する。

第5層は粗粒砂と細礫が優勢な氾濫堆積層で、調査区の全域で認められた。細粒砂から粗粒砂~細礫へと上方粗粒化する洪水時の堆積構造を少なくとも2単位認めることができた。上位を第5a層、下位を第5b層とする。それぞれ長原5A・5B層に対応するものと思われる。

第5a層：灰白色(5Y7/1.5)の砂礫層で、層厚は40~50cmであった。

第5b層：オリーブ灰色(2.5GY6/1)の細粒砂層で、層厚は10~15cmであった。

第6層は灰色~オリーブ黒色の砂質シルトまたはシルト質粘土からなる作土層で、本調査地では複数時期の水田遺構が重複して認めることができた。第6a・6b層に分かれ、第6a層はさらに第6a1・6a2層に細分される。長原6層に対応する。

第6a1層：灰色(7.5Y5/1)の細粒~粗粒砂を含む粘土質シルトの作土層であるが、Ⅰ区北部、Ⅱ区西北部の一部では、人為による擾乱が少なく、細粒砂からなる水成層がそのまま残されていた。層厚

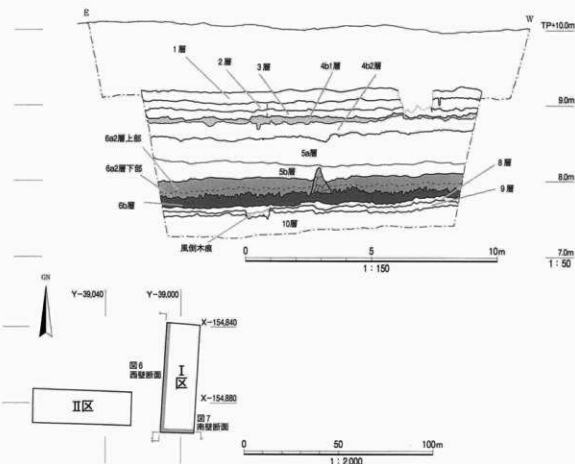


図7 Ⅰ区南壁断面図

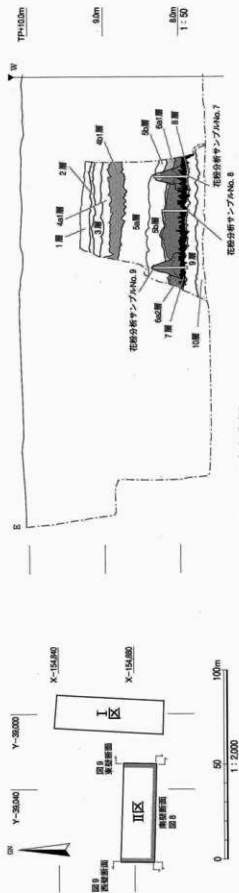
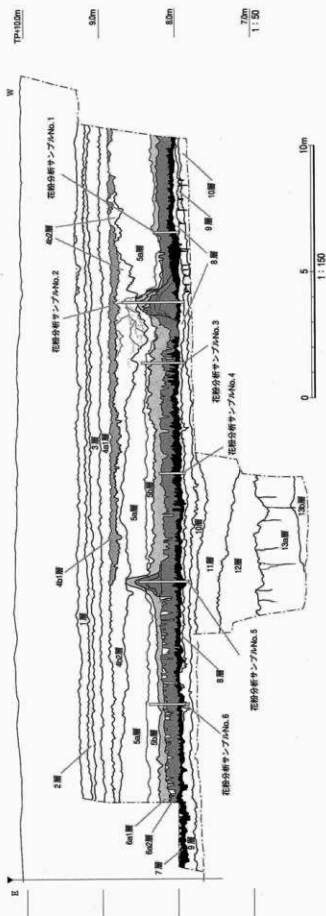


図8 II区南横断面図

は平均で5~10cmであり、Ⅰ区北端部では厚く約20cmほどであった。作土として利用された場所でも全体的に淘汰が不良で、部分的ではあるが、不規則に変形・断絶したラミナを断面で観察できる。長原6Ai層に対応する。部分的に遺存していたが、本層の上面で第3b期水田を検出した(第Ⅱ章第4節で詳説する)。

第6a2層: 灰色(7.5Y5/1)のシルト質粘土または粘土の作土層で、層厚は平均で10~20cm、Ⅰ区では南半部では厚く約30cmであった。Ⅰ・Ⅱ区の全域に分布する作土層であり、第6a1層の堆積が認められなかった場所では本層の上面が第5層に直接覆われていた。本層の上面でも方格地割の水田畦畔が良好な状態で検出された。第6a1層で検出した水田面も本層上面で認められた水田面がそのまま踏襲されたものである。Ⅰ区南半部では第6a2層が厚く堆積していたが、本層下部は暗色が強まり、全体に灰色と暗灰色粘土がマール様に攪拌され混合した状況が認められた。水田利用が長期に及んだ結果であろう。本層は長原6Bi層に対応するが、検出された水田畦畔の大部分はそのまま第6a1層の堆積後も復旧され継続利用されたようである。

第6b層: オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土または粘土の作土層で、層厚は10~15cm程度であった。Ⅰ・Ⅱ区の全域で認められた。特にⅡ区では上面の凹凸が著しく断面が典型的な火炎構造(flame structure)を形成していた。人為的擾乱のみならず地震による影響を受けたとみられる。Ⅰ区では本層上面において方向の異なる2時期の水田畦畔の痕跡を検出した。長原6Bi層に対応する。

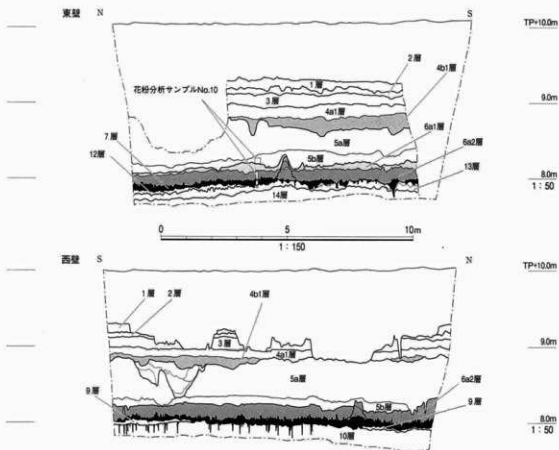


図9 Ⅱ区東壁・西壁断面図

表2 NG07-3 次調査地層序表

NG07-3 調査地	層 相	層厚 (cm)	特 徴	遺 構	遺 物	時 代	長原遺跡 標準層序
第0層	造成土	70~90	現代盛土			近現代	長原0層
第1層	オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 細粒砂質シルト	15	作土				長原1層
第2層	オリーブ灰色 (2.5Y5/1) 細粒砂を含む細粒砂質シルト	10	作土		国産陶磁器	江戸	長原2層
第3層	灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 細粒砂を含む細粒砂質シルト	10	作土			鎌倉～ 室町	長原3層
第4a1層	暗オリーブ色 (5Y4/3) 細粒砂を含む粘土質シルト	10	作土			鎌倉	長原4a層
第4a2層	暗オリーブ色 (5Y4/4) 細粒砂を含む粘土質シルト	10	作土				長原4a層
第4b1層	黄褐色 (2.5Y5/4) 中粒砂質シルト・シルト質中粒砂	5~10	作土			平安～ 鎌倉	長原4b層
第4b2層	灰オリーブ色 (7.5Y6/2) 極細粒砂質シルト・シルト質細粒砂	10~20	水成				長原4c層
第5a層	灰白色 (5Y7/1.4) 砂礫	40~50	水成				長原5a層
第5b層	オリーブ灰色 (2.5Y6/1) 細粒砂	10~15	水成		土師器・ 須恵器・曲物	奈良	長原5b層
第6a1層	灰色 (7.5Y5/1) 細粒～粗粒砂を含む粘土質シルト	5~10	作土	→水田跡			長原6a1層
第6a2層	灰色 (7.5Y5/1) シルト質粘土または粘土	10~20	作土				長原6b1層
第6b層	オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト質粘土・粘土	10~15	作土	→水田跡 (第1・2層)		飛鳥	長原6b1層
第7層	黒褐色 (2.5Y3/1) シルト質粘土	5~10	作土		土師器・須恵器・ 埴輪・瓦葺式土器		長原7a層
第8層	灰色 (5Y4/1) 粘土質シルト	5	古土層	→溝・竈・ 土壇・小穴	石簡・銅片	→縄文 中期	長原12層
第9層	灰色 (5Y5/1) 粘土質シルト	10~15		→石器遺物 集中部LC1291			長原13層
第10層	黄灰色 (2.5Y5/1) シルト質粘土	10~20					長原14層
第11層	灰色 (5Y5/1) 粘土	30~40				旧石器	長原14～ 長原15層
第12層	緑灰色 (7.5GY5/1) シルト質粘土	30~50					
第13層	緑灰色 (5GY5/1) シルト質粘土	40~70					

第7層：黒褐色(2.5Y3/1)のシルト質粘土の作土層で、層厚は5～10cmであった。耕作されているが、上層の水田作土ほど地層は撹拌されていない。本層では弥生時代～飛鳥時代の土器が包含されていた。最も新しい土器は飛鳥Ⅱ後半段階のものである。Ⅱ区では本層下面で鋤溝、溝、土壇などを検出した。長原7A層に対応する。

第8層：灰色(5Y4/1)の粘土質シルトの古土層で、層厚は5cm程度であった。上位層とは層界が極めて明瞭で、局所的には上位層によって大きく削平されていた。また、Ⅰ区の南半、Ⅱ区の一部では第7層以上の上位層による削平が著しいため本層が認められなかったところもあった。

一方、下位層である第9層との層界は不明瞭であり、断面においては厚さ数cm程度の漸移帯となっていた。

第8層は長原12層に対応するが、下部の状況は長原遺跡東南地区でみられる長原12～13層漸移帯に相当する。Ⅰ区南端では、この漸移帯から尖頭器製作に関係する石器遺物集中部を1箇所検出した。

第9層：灰色(5Y5/1)の粘土質シルト層で、層厚は10～15cm程度であった。上位層との層界は不明瞭で、上部には漸移帯が形成されていた。Ⅰ・Ⅱ区ともに広く分布していた。長原13層に対比される。Ⅱ区では、不明瞭ではあるが下部に乾痕が認められる所があった。

第10層：黄灰色(2.5Y5/1)のシルト質粘土層で、層厚は10～20cmであった。長原14層に相当する。

第11～14層は、Ⅱ区において部分的に深掘りを行い確認した地層である。長原14～15層に相当するものとみられる。

第11層 灰色(5Y5/1)の粘土層で、層厚は30～40cmであった。

第12層 緑灰色(7.5GY5/1)のシルト質粘土層で、層厚は30～50cmであった。

第Ⅱ章 調査の結果

第13層 緑灰色(5G5/1)のシルト質粘土層で、層厚は40～70cmであった。非常によくしまった地層である。

本調査地の地層と長原遺跡標準層序と対比させたのが表2である。第1～4層はいずれも作土層で、1層が近現代、第2層が近世、第3～4層が室町・鎌倉時代の堆積物である。第5層は厚い洪水砂であるが、これは長原遺跡一帯に広く見られる奈良時代末～平安時代初頭に堆積した長原5層である。続く第6a層は飛鳥時代末～奈良時代、第6b層は飛鳥時代後半の堆積物とみられる。第7層は飛鳥時代前半で、Ⅱ区では下位層と不整合面を形成していた。第8層は縄文時代中期以前の地層、第9層は後期旧石器時代の地層である。後述する尖頭器製作址は第8層下部から第9層上部にかけて形成された漸移帯から検出された。縄文時代草創期のものとみられる。第9層は沖積層下部と低位段丘構成層最上部に相当すると考えられ、第10層以下は低位段丘構成層上部および下部と考えられる。(絹川)

第2節 縄文～古墳時代の遺構と遺物

1) 縄文時代の遺構と遺物(図10～16、原色図版2、図版5・14・17～19)

i) 石器遺物集中部と出土層準

I区南端においてサヌカイト製剥片などで構成される石器遺物集中部LC1201(以下、石器遺物集中部を省略)を検出した(図10・図版5・14)。石器遺物の出土層準は第8層と9層の漸移帯で、長原遺跡東南地区で顕著にみられたNG12-13層漸移帯に相当する。石器群の内容から縄文時代草創期に該当するとみられる。

本調査地は河内台地の東縁部に当たる場所で、I区では低位段丘構成層である第9層(長原標準層序の長原13層)が上位層による削平を免れて比較的良好に堆積していた。一方、II区では多くの場所で上位層の第7層の段階の耕作によって第8層が大きく削平されており、削平が第9層の上部にまで及んでいた所もあった。そのため、縄文時代以前の遺構・遺物はほとんど出土していない。

第8層下部から第9層上部にかけて発達した漸移帯は、第8層で形成された古土壌を起源とするもので層厚は5cm程度であった。古土壌は第9層堆積後にその上部が土壌化して下方への風化や擾乱によって形成されたものである。上位層とは明瞭な層界をもつが、下位の第9層(長原13層)とは漸移的な関係にある

ii) 石器調査の方法について

I・II区においては、第8層を除いた段階で旧石器包含の有無を確認するために石器探査のための調査(以下石器調査とする)を行った。I区ではほぼ全域、II区では西半部を中心に実施した。

石器調査に当り調査区内を1m区画のグリッドで管理した。各グリッドの呼称は原点からのXY軸

の距離(m)で示すこととした。すなわち、I区の南西に設置した原点を基点に南北がY軸(南→北方向)、東西がX軸(西→東方向)となる。例えば、X3Y10区は、グリッド北東の基点が原点から東へ3m、北へ10mということになる。

発掘用具は草刈鎌(手ガリ)を用い、第9層(長原13層)まで任意分層発掘を行った。最初に市松状にグリッドを選別して掘下げを

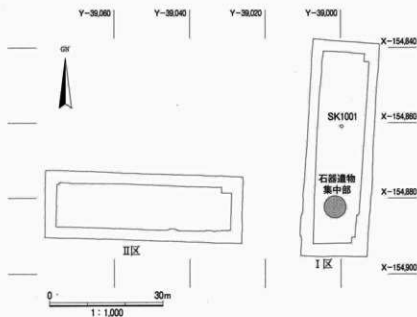


図10 縄文～古墳時代の遺構分布図

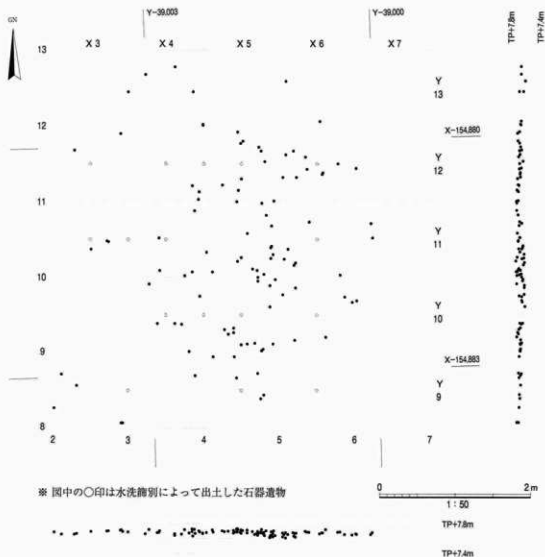


図11 LC1201石器遺物平面・断面分布図

行い、石器遺物が出土した時点でそのエリア(3m×3mの範囲)の発掘土はすべて回収した。さらに石器遺物が出土した場合、その回収範囲を適宜広げていった。こうして掘下げの過程で石器遺物集中部の全域の発掘排土を回収することができた。

出土した遺物は平面・垂直位置を記録するとともに、デジタルカメラで石器遺物1点ごとに出土状態を撮影・記録した。

発掘時に回収した土壌は、1m区画のグリッド名と出土層準を記録し、調査現場において水洗・篩別作業を行った。篩別作業には1mmの篩を用いた。

2) 石器遺物集中部LC1201

i) 石器遺物組成

I区の南端で見つかったLC1201は南北5m、東西5mの範囲にやや散漫に石器遺物が分布する(図11)。出土層準は第8層下部と第9層上部の間に形成された漸移帯で、長原標準層序のNG12-13層

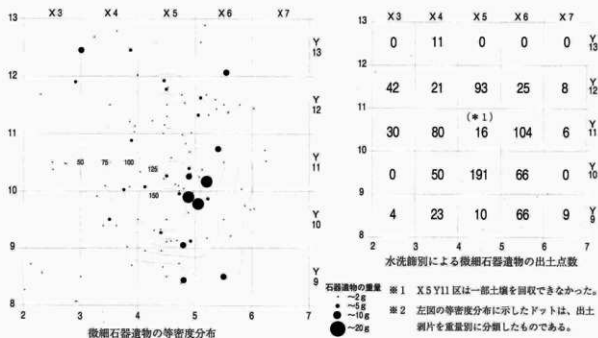


図12 微細石器遺物出土分布図

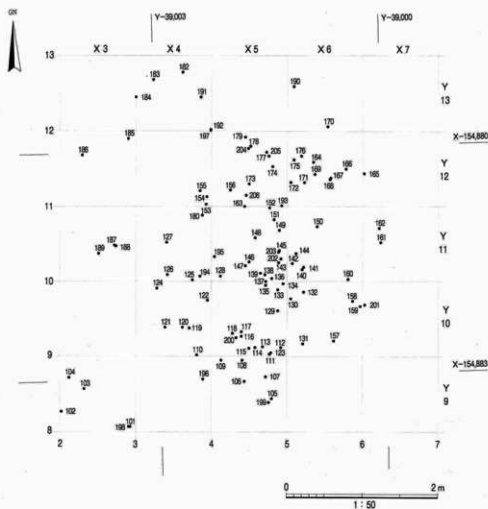


図13 主要石器遺物の分布図

漸移帯に相当する。出土した石器遺物はすべてサヌカイト製である。

石器遺物組成は、剥片176点(うち出土位置を記録したもの97点、水洗・篩別作業により捕集されたもの79点)、砕片899点(単純最大長が1 cm未満のもの。うち水洗・篩別作業により捕集されたもの891点)で、ツールに当る石器、石核は1点も出土しなかった。また、出土した剥片の中で細部調整痕或使用痕とみられる微細剥離痕をもつものも認められなかった。剥片の総点数が200点弱であること、剥片・砕片のみで構成され、石核や石器が認められないことから、LC1201はごく短期間に形成された集中部とみられる。

ii) 微細石器遺物の分布(図12・13)

砕片などの微細石器遺物を確実に捕集するため、LC1201の全域で発掘土を回収し、水洗・篩別作業を行った。捕集された微細石器遺物(砕片として分類)は合計891点であった。グリッド毎の出土点数は図12のとおりである。また、グリッド毎の出土点数をもとに微細石器遺物の等密度図を作成した(註1)。X5Y10区を中心に微細石器遺物の密集部があることがわかる。微細石器遺物の分布はX5Y10区を中心に東西3 m、南北4 mほどの範囲に広がる。微細遺物の密集部は、LC1201のやや南側に偏った場所にあたるが、この関係は微細石器遺物の密集部の位置が製作者の座位と密接に関わっているからである。と同時に、こうした微細石器遺物の密集部が集中部の中に認められることは、LC1201が水流などによる二次的な移動や堆積後の大きな擾乱をあまり受けておらず、ほぼ原位置を保っていることを示している。

iii) 出土剥片(図14・15、原色図版2、図版18・19)

出土した剥片のうち主要なものは図14・15に示した。LC1201では剥片しか出土しなかったものの、その剥片は特徴的なものであった。剥片の多くは長幅比が1:1前後のもので、長さ・幅ともに3 cm以内のものが大半を占める。剥片の背面(表面)構成も打面(基部)方向からの剥離痕が複数認められるものが多い(図14: 07AC109・110・144・146・186、図15: 07AC143・150・170・203・282など)。背面に残された剥離痕はいずれも小さなものが多く、小剥離が打面側から連続して行われ、その過程で各剥片も剥離されたものと思われる。したがって、これらは製品素材として利用される目的的な剥片ではない。また、図14と15で示したように剥片の大きさに一定の規則性が窺える。剥片の打面形態は点状や線状打面のものが多い(図14: 07AC110・121・131・146・165・186・194・274、図15: 07AC203など)点状・線状打面のもので一定量を占め、大きさも小型でサイズが揃うものが多いことは、やはりこれらが目的的な剥片ではなく、その大半が石器製作時に生じる調整剥片であることを示している。

さらにLC1201から出土した剥片を特徴づけるのは、打面を薄く大きく取込んだ口唇状打面をもつ剥片(図14: 07AC129・172・179、図15: 07AC105・150・282など)や剥片の縦断面が主剥離面(裏面)側へ内湾するもの(図14: 07AC116・121・129・131・144・146・158・186・194・262、図15: 07AC282など)が少なくないことである。口唇状打面は、両面を調整する石器の器厚を薄く仕上げるために縁辺から施される調整剥離の際に生じることが多い。また、剥片の縦断面が主剥離面側に内湾する場合も石器表面を広く調整剥離する際に生じることが多い。

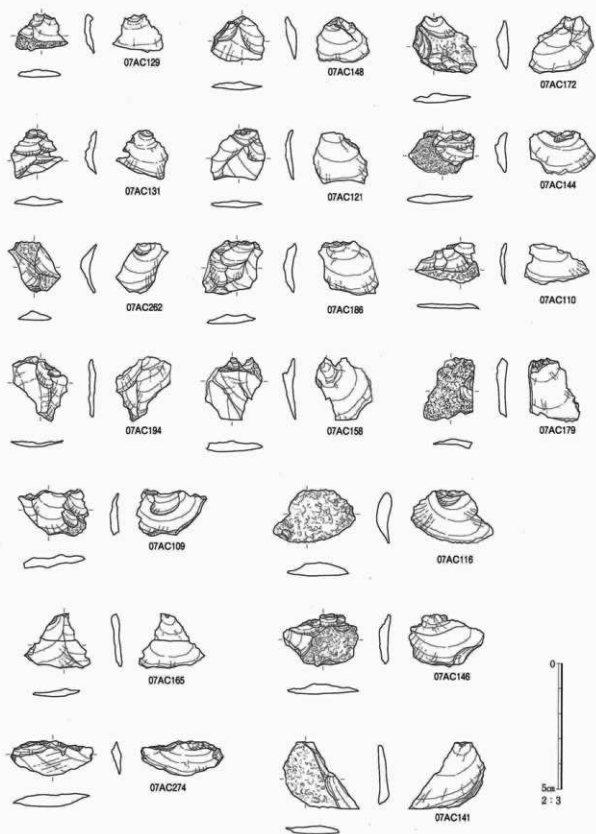


図14 LC1201出土の石器遺物実測図(1)

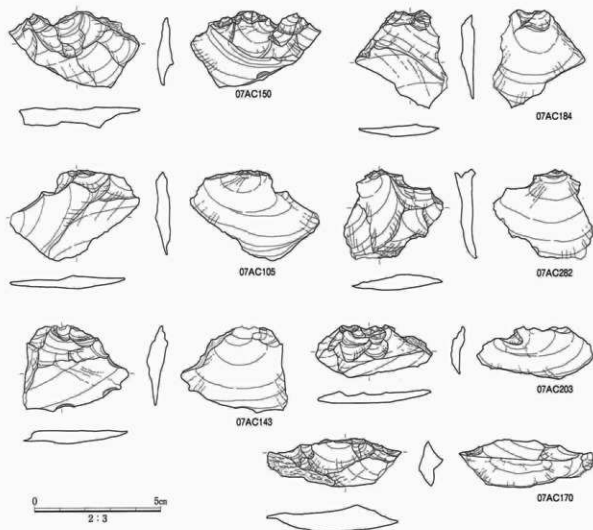


図15 LC1201出土の石器遺物実測図(2)

以上のように、LC1201から出土した剥片の大半が石器製作時に生じる調整剥片であり、それらの技術形態が示す特徴は、尖頭器のような両面調整を製作する際に生じる調整剥片に認められるものである。

iv) 接合資料(図16、原色図版2、図版17)

接合資料は図16で示した6組のみが認められた。小型の調整剥片を主体としており、石核や石器そのものは持ち出されているので、全体的にみて接合状況は低調である。以下各接合資料について述べておく。なお接合番号は当協会が用いる整理記号で示す。

07JAC1：2点の剥片07AC112・113で構成される接合資料である。両方とも同じ打点から剥離されていることから、剥離時の同時割れとみられる。112が線状打面、113が点状打面である。112の背面には打面側から同じ方向の細かな剥離痕が複数残されている。112の背面右側縁と113の背面左側縁に礫面が一部残る。剥片の縦断面が主剥離面側に大きく内湾していることや打面形態や背面の剥離面構成の特徴から、典型的な尖頭器の調整剥片であることがわかる。

07JAC2：4点の剥片07AC130・140・185・222で構成される接合資料である。222の背面には大

きく礫面を残す。222・130・185の背面には打面側に細かな剥離痕が多数認められる。また、各剥片の打面位置がほぼ横一線に並ぶことから、尖頭器の側縁を連続的に調整した際に生じた剥片とみられる。剥片が礫面を大きく残し、やや厚みがあることから、尖頭器製作の中でも初期工程の調整剥片で、おそらくブランク(原形)の調整加工を行った際に生じたものであろう。

07JAC 3 : 2点の剥片07AC133・167で構成される接合資料である。やや厚めの剥片で、背面は多方向からの剥離痕で構成されており、主剥離面の打面側にも調整剥離痕が認められる。剥片が分厚いことから、本資料も初期工程の調整剥片とみられる。ブランクの調整加工に伴う調整剥片と考えられる。

07JAC 4 : 1点の剥片が折れ面で接合する。07AC134・180で構成される。線状打面で、背面には

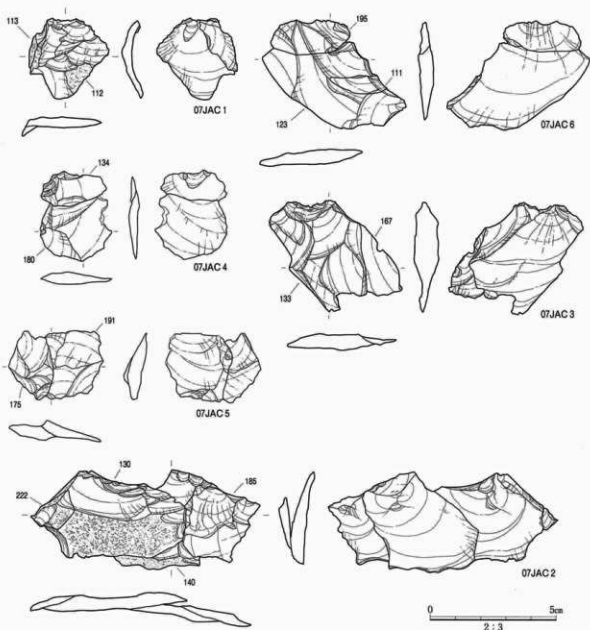


図16 LC1201出土の接合資料実測図

素材面とみられるポジティブな剥離面が認められる。背面に素材面を残し打面側には小剥離痕が連続していることから、本資料も尖頭器製作の初期工程で剥離された調整剥片であろう。

07JAC5：2点の剥片07AC175・191で構成される接合資料である。やや厚めの剥片で、打面も残されていない。同時割れにより生じた剥片の一部が接合した可能性もある。本資料もブランクの調整加工時に剥離されたものとみられる。

07JAC6：1点の剥片が折れ面で接合する。07AC111・123・195の3点で構成される。LC1201の中では大形の剥片である。打面は線状打面で、背面は多方向からの剥離痕で構成されている。末端はヒンジ・フラクチャーを起こしていることから、分厚い素材から剥離されたものとみられる。おそらく本資料もブランクの調整加工時に剥離された剥片であろう。

v) 石器遺物集中部LC1201の性格

以上のことから、LC1201から出土した剥片は、そのほとんどが両面調整の尖頭器を製作した際に生じた調整剥片であると考えられる。また、接合資料07JAC2・3・6などの大形剥片が存在することから、この集中部では尖頭器の製作段階においても石器の仕上げといった最終段階ではなく、ブランク(原形)の加工段階であると考えられる。この集中部で製作された尖頭器(ただし未成品)は他所へ持ち出されたものとみられる。

剥片の点数や分布密度からみると、ここで行われた作業は部分的で一時的なものであったと考えられる。微細石器遺物密集部の規模が小規模であることから、製作者1名がごく短時間でいった作業によって形成された集中部と推定される。

長原遺跡においてLC1201と同様の尖頭器を製作した石器群が出土した地点として東南地区のNG89-19次調査地を挙げるができる。ここでは高密度にサヌカイト製造物が分布する石器遺物集中部LC1203(以下、石器遺物集中部を省略)が検出されており、両面調整尖頭器のブランクも出土している。尖頭器を製作した集中部としては、今回発見されたLC1201は、NG89-19次調査例に続き長原遺跡では2つめの事例となる。しかし、両者とも尖頭器を製作した石器遺物集中部であるが、規模や内容においてそのあり方は対照的である。両者の詳細な比較は第Ⅲ章で述べることとしたい。

3) 古墳時代の遺構と遺物(図10・17、図版5)

I区中央においてSK1001を検出した(図10)。SK1001は直径約0.8m、深さ0.54mの円形の土坑である(図17)。埋土は黒褐色シルト質粘土で、下部には第9層以下の地山の粘土ブロックを含んでいた。掘込み面は第7層下部であったとみられるが、埋土は第7層より黒色が強いシルト質粘土で、長原7B層がベースになっている。また、底面が平らであり、地山面を大きく掘込んでいることから、土坑ではなく井戸であった可能性もある。遺物は出土しなかったが、本調査地では弥生時代の遺物があり認められないことから、古墳時代の遺構と判断しておく。

(絹川)

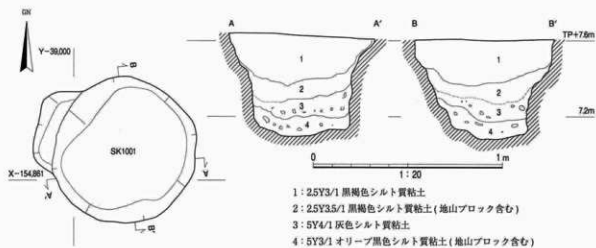


図17 SK1001平面・断面図

註

- (1) 等密度図の作成はGolden Software社製Surfer 7を使用した。等密度線は、ソフトウェアにプログラムされた等高線生成アルゴリズムのうち最も汎用性の高いKriging法により自動的に作成させたものである。

第3節 飛鳥時代の遺構と遺物

1) 飛鳥時代の畠作関連遺構(図18~23、図版6・7)

i) 第7層下面の遺構(Ⅱ区)

Ⅱ区において第7層下面で飛鳥時代の遺構を検出した(図18~23、図版6・7)。ただし、Ⅰ区では認められなかった。Ⅱ区では第7層は黒褐色シルト質粘土の作土層であり、耕起による削平が下位層である第8・9層まで達している場所が認められた。遺構はすべて第7層中から掘込まれたもので、埋土も第7層とは同じである。遺構は第7層を除去した後、第8層(削平が進んだ場所では第9層)上面を精査した段階で検出した。

第7層は長原遺跡標準層序の長原7A層に相当する。後述するが、本層下面で検出した遺構からは飛鳥Ⅰの土器1(図24、図版15)が出土している。

遺構はⅡ区の中央以東で検出された。小穴、溝、鋤溝、土壌・不整形な落込み(以下土壌に含め、不整形土壌と表記する)などである。大半が畠作に関係するものとみられ、遺物はほとんど出土しなかった。

ii) Ⅱ区東側の遺構(図19~21、図版6・7)

Ⅱ区東側で検出した遺構には、小穴、溝、不整形土壌などがある。SP2007~2010・2012・2013・2016・2018~2020は直径0.3~0.6mほどの小穴で、深さも0.1m前後と浅いものが大半である。掘形の上部は後の耕作によって削平されている。小穴には規則的な配置は認められなかったので柱穴である可能性は低い。埋土は黒褐色~オリーブ黒色シルト質粘土で第7層が母材となっている。これらの小穴からは遺物は出土しなかった。

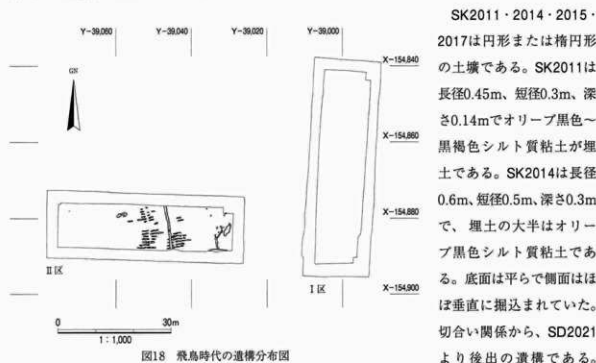


図18 飛鳥時代の遺構分布図

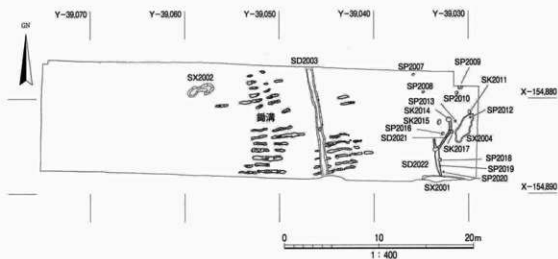


図19 II区第7層下面の遺構平面図

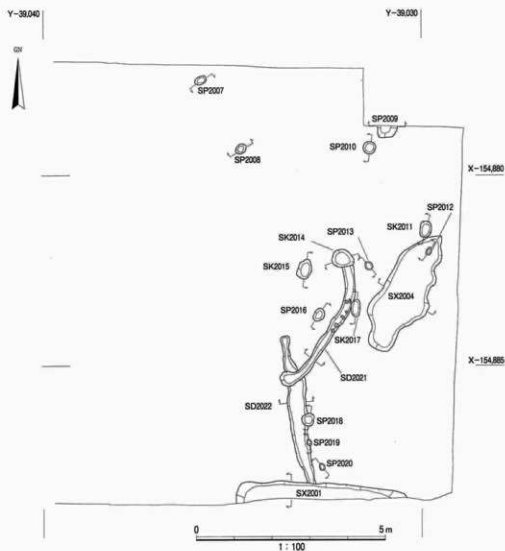


図20 第7層下面の遺構群(II区東側)平面図

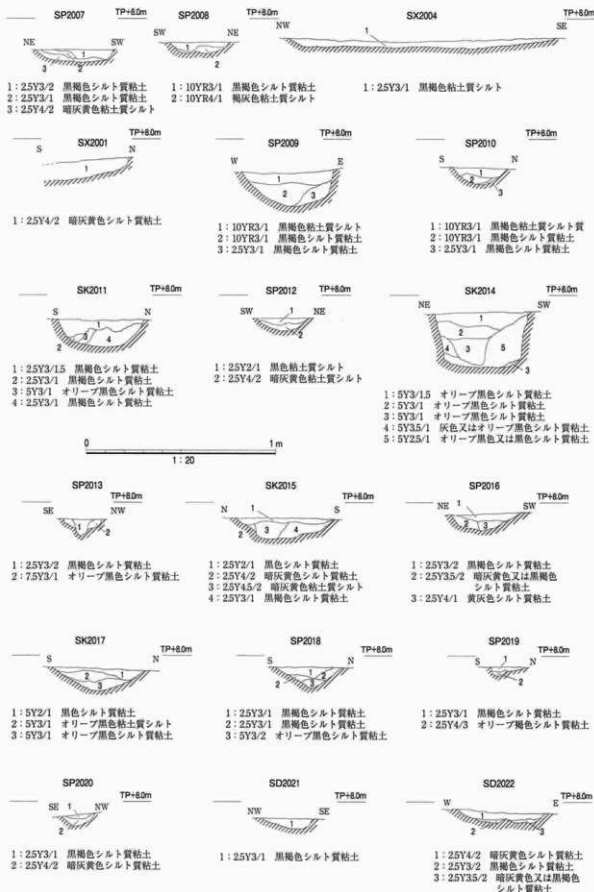


図21 第7層下面の遺構群(Ⅱ区東側)断面図

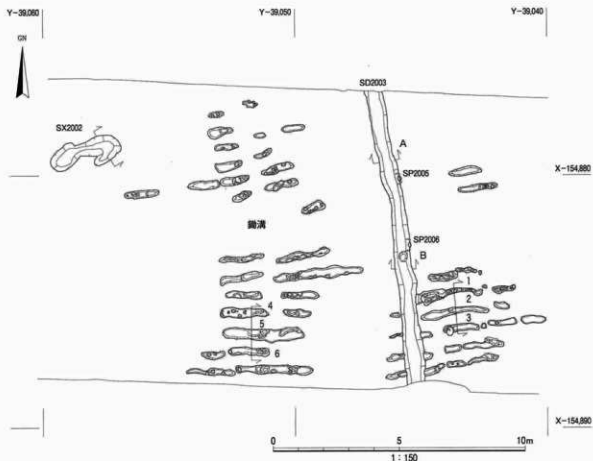


図22 第7層下面の遺構群(Ⅱ区中央)平面図

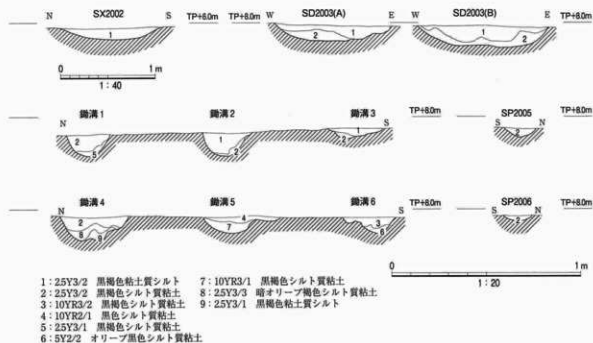


図23 第7層下面の遺構群(Ⅱ区中央)断面図

SK2015は長径0.5m、短径0.4m、深さ0.11mで、埋土は黒褐色または暗灰黄色シルト質粘土～粘土質シルトである。SK2017は長径0.45m、短径0.25m、深さ0.12mで、埋土は黒色～オリーブ黒色シルト質粘土である。いずれの土壌からも遺物は出土しなかった。

SD2021・2022はともに南北方向の溝で、大部分は後の耕作によって底以外は削平されていた。遺構の切合い関係から、SD2022が古く、SD2021が新しい。SD2022は南北方向の溝である。幅0.5m、深さ0.05m前後と浅く、調査区の南側に長さ4m程度が残っていた。SD2021は東側へ張出すように弧状に延びる溝で、北東～南西方向の4m程度が残存する。幅0.25、深さ0.05m以下のごく浅い溝である。堅穴建物の周壁溝の可能性はあるが、周囲には柱穴らしきものは見つかっていない。

SX2001は調査区の南端で検出された大型土壌で、大部分は建物基礎による攪乱によって失われていた。おそらく方形の土壌であったとみられる。東西4.5m、南北0.5m以上である。埋土には第9層以下の地山の偽礫が含まれていた。大部分が攪乱のため、遺構の掘込み面を明確にできなかった。粘土採り穴の可能性があり、第7層下面遺構より後世の遺構かもしれない。SX2004は不整形土壌である。北東～南西方向が3.4m、北西～南東方向が1.2m、深さは0.05mとごく浅い。遺構の性格は不明である。

iii) Ⅱ区中央の遺構と遺物(図19・22～24、図版7・15)

Ⅱ区中央では南北方向の溝、東西方向の鋤溝、小穴、不整形土壌などを検出した。

SD2003は南北方向の溝である。ほぼ磁北方向に延びる溝で、幅0.5～0.7m、深さ0.08～0.11mである。埋土は黒褐色シルト質粘土で砂はほとんど含まれていなかった。この溝は後述する鋤溝と切合っており、鋤溝より後出のものである。溝の掘込みは比較的しっかりしており、磁北方向へ直線的に延び、幅もほぼ均等である。灌漑用の水路であるとともに、何らかの区画ために計画的に設けられた溝であったとみられる。

鋤溝群はSD2003に直交して東西方向に形成されたもので、SD2003に切られていた。幅0.2～0.4mで長さ1～3mほどの鋤溝が、0.4mほどの間隔で6、7条の単位で平面的にまとまって検出された。埋土は第7層を母材とする黒褐色シルト質粘土が主体である。鋤溝内からは弥生土器、土師器、須恵器細片がわずかに出土したのみである。

SX2002は調査区の中央西寄りで検出した不整形な土壌である。東西2.8m、南北0.5～1.0m、深さ0.1mである。埋土は黒褐色粘土質シルトである。SX2002内からは土師器鉢C1が出土した(図24、図

版15)。1/4弱が残存する。口縁部が内湾するタイプで、口縁部径は18cm前後である。外面は上半にヘラミガキ、下半にヘラケズリが施され、内面は1段の放射状暗文が施されている。飛鳥Ⅰの中でも新しい段階(7世紀前半)のものと思われる。

その他、SP2005・2006が検出された。直径0.15m程度の円形の小穴で、深さは5cm程度とごく浅い。遺物は認められなかった。

iv) 第7層下面の遺構の性格

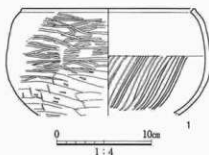


図24 SX2002出土遺物実測図

第7層下面の遺構は、Ⅱ区のみで認められた。調査地一帯における地山面の地形は、Ⅱ区からⅠ区方向、すなわち西南から東南方向に向かって緩やかに下降する傾斜面となっている。Ⅱ区は台地の東縁部にあたり、地山面に当る第9層以下の低位段丘構成層も地表から2mほどの深さで認められた。Ⅱ区ではほぼ全域で地山面の上面が削平されており、第9層以下の堆積もほぼ水平である。こうした状況を考えて、Ⅱ区は斜面地ではなく本来は台地縁辺部の平坦面であったとみられる。鋤溝の存在からこの場所では畠作が行われていた。また、全体の遺物量は少ないが、SX2002から出土した土師器鉢は飛鳥Ⅰの後半段階のものと考えられ、7世紀前半と考えられる。このことは、後述する水田遺構との関係で重要な意味をもつ。すなわち、本調査地においては、長原7A層の段階、7世紀前半頃は、より台地に近いⅡ区ではまだ水田の開発が始まっていなかったことを示している。西側に隣接する城山(その3)調査区[大阪文化財センター1986b]や高廻り古墳群の周辺のNG86-109・87-35次調査地[大阪市文化財協会1992]の一帯では、6世紀末から7世紀前半にかけて徐々に水田開発が始まっており、本調査地のⅡ区でみられる同時期の畠作の存在はこうした状況と矛盾しない。後述する飛鳥時代後半の水田開発はより大規模なものであり、本調査地でもごく短期間に水田へと土地利用が変化する。7世紀中葉にこの地域の土地開発に大きな画期があったことを強く示唆させる。

2) 飛鳥時代後半の水田遺構

i) 第1期水田(図25・26、図版8)

本調査地の西側には、飛鳥～奈良時代の水田畦畔が良好な状態で残されていた城山(その3)調査地が位置しており、ここでは4期にわたる第1～第4水田が検出されている[大阪文化財センター1986b]。本調査地でも第6a1～第7層において複数時期の水田面が認められた。これらについては後述するが、さらに第6a層はa・bに分けることができるので、本調査地は第7層(長原7A層)も含めると合計5枚の耕作面が認められたことになる。このうち本調査で検出した畦畔を伴う最も古い水田遺構が第6b層の第1期水田である。以下、その概要を述べる。

第6b層(長原6B層)上面で検出された第1期水田は第6b層を土作としており、遺構として水田畦畔の基部を確認した。Ⅰ区のみで検出され、Ⅱ区ではこの時期の水田は認められなかった。上位層の耕作によって

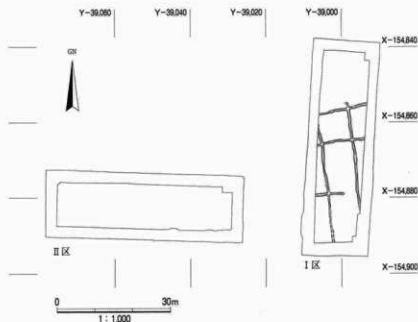


図25 飛鳥時代後半の水田畦畔(第1期水田)平面図

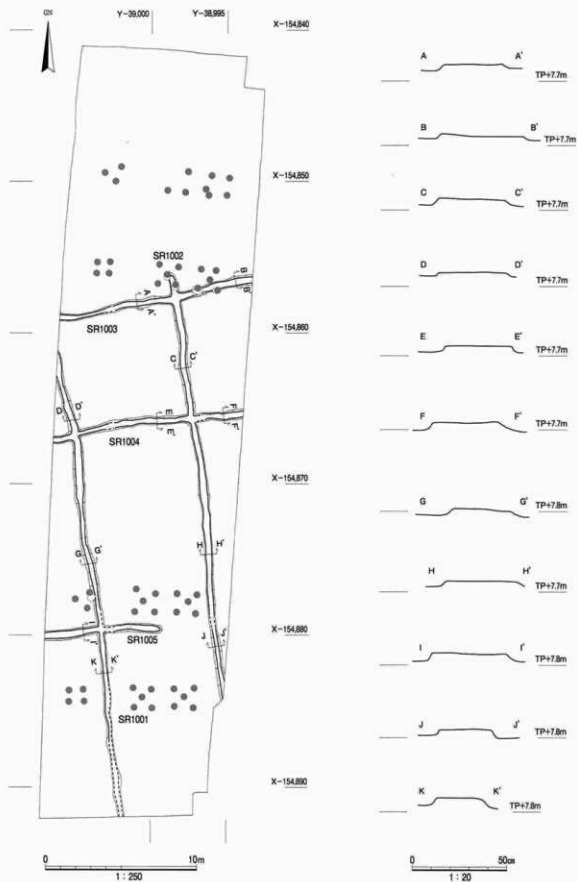


图26 第6b層上面の水田畦畔(I区第1期水田)平面・断面図

畦畔痕跡を含めてすべて削平されたものとみられる。

I区において認められた第6b層水田の畦畔(第1期)も直上層が第6a2層の作土層であったため、本来の水田面は削平されており、床土に相当する第6b層と削平を免れた畦畔基部のみが遺存した状態であった。ところで、第6b層の上面では方向の異なる畦畔が確認され2面の水田が存在することが判明した。後者の水田の畦畔は前者と同様、畦畔基部のみが残っていたが、いずれも第6b層(長原6B層)を母材に耕作を進め、水田作土としたものである。第6b層で検出した2方向の水田畦畔は、その重複部分の切合い関係から新旧関係を判定し、第1期・第2期水田と設定した。

第1期水田の遺構は、I区南半で検出された方格に区画された畦畔である。ほぼ磁北に合わせて南北方向に2条、東西方向に3条の畦畔が認められた。畦畔は第6b層が削り出されて黑色を呈する帯状の痕跡として平面的に認められた。第6b層を耕起しながら水田が形成されているが、その後も継続的に耕作が行われたため、本来の水田面は耕起・攪拌されてしまい、畦畔上部も削平を受けていた。したがって、畦畔は基部に当る0.05mほどがわずかな高まりとして検出されたのみである。SR1001・1002が南北方向の畦畔であり、方位は真北方向から西へ4°ほど振れている。それに直交する東西方向の畦畔としてSR1003~1005が認められた。北側は上位層の削平が大きく及んでいたためか、畦畔の遺存状況が悪く状況は不明である。いずれの畦畔も幅0.3~0.5m程度で、東西・南北の畦畔に大きさや形状の違いは認められなかった。検出面の標高は北側でTP+7.8m、南側でTP+7.9mと南側が若干高い。SR1005は東側の一部が途切れていたが、この部分が水口に当るのかどうかは痕跡のみであるため判断としない。南北畦畔の間隔が7.5~8.0m、3条の東西畦畔の間隔が7.5mと13.5mである。調査区内で水田の区画面積が分かるのは2面のみで、56.25㎡と108.00㎡であった。

第1期水田の時期は、畦畔の痕跡部分だけを検出したため、相伴遺物がなく直接時期を示す資料が欠いている。しかし、前述の台地側に当るII区において、第7層下面の遺構として確認された鋤溝やSD2003がI区の第1期水田の畦畔と同じ磁北方向に延びる溝で、これらの区画が同じ方位原則に基づいていることから、II区の遺構とI区の第1期水田は時期的には近接していると推定することができる。II区の畠作関連遺構は第7層中から掘込まれた遺構で、SX2002から飛鳥Iの後半段階の遺物が出土しており、遺構群の時期は7世紀前半頃と判断される。第7層は長原標準層序の長原7Aii層の暗色帯に当る。I区の第1期水田はこの上位層である第6b層を床土として畦畔を作り出したものである。西側に接する城山(その3)地区やNG86-109・87-35次調査地では、NG7Aii層を耕作した第1水田[積山洋1992]が検出されており、出土遺物もII区遺構群と同時期である。したがって、本調査地I区の第1期水田は西側の調査地で見つかった第1水田に後続する時期ではあるが、第1水田の時期に近接したものと推定しうる。

本調査地I区で検出された第1期水田の畦畔の特徴は、正方位ではなく、磁北方向に畦畔が方格に区画されていることである。この段階以降に水田の区画は大きく変わることから、第1期水田は一帯の水田開発が本格化する初期段階に位置づけることができる。その年代はこれまでの周辺地の調査成果を踏まえると7世紀中葉~後葉と考えられる。

ii) 第2期水田(図27・28、図版9)

第1期水田と同じ第6b層において、第1期水田の畦畔と平面的に重なった状態で検出された。第6b層が削込まれたことにより失われた畦畔の基部のみが遺存していた。第1期畦畔と重複した遺構の切合い部分から第1期水田より後出するものと判断した。第2期水田もⅠ区のみで認められ、Ⅱ区ではこの層準で畦畔は検出できなかった。

第2期水田は、第1期水田とは異なり、正方位を示す水田畦畔が設置されていた。SR1006・1007の2条の南北畦畔とSR1008～1010の3条の東西畦畔で構成される。このうち、最も北側にあるSR1010は畦畔の幅が広く高さがある大畦畔である。南北畦畔が幅0.4～0.6m、東西畦畔はSR1008・1009が幅0.3～0.8m、大畦畔であるSR1010が幅1.0～1.4mであった。大畦畔SR1010は後述する第6a1層水田の畦畔としてそのまま利用されている。その他の畦畔も基本的に第6a1層水田へとそのまま引き継がれている。一方、東西畦畔については、SR1010以外は付替えられており、南北方向の畦畔は5.5m間隔で、1町の1/20であった。東西方向の畦畔はSR1008・1009間が28.5m、SR1009と大畦畔SR1010間が4.5mであるが、この間の畦畔は付替えが繰り返されたことが推定され、本来の畦畔間隔を反映していないかもしれない。南北畦畔のうち東側のSR1007は、南側では遺存状況が悪く、以南の延伸を確認できなかったが、上位層で検出した第6a1層水田では、この位置に畦畔が残されていたことから、第2期水田(第6b層)の段階においても、本来、SR1007は南へ継続していたものと思われる。

第2期水田は南北畦畔とSR1010の大畦畔を基本区画として、その区画内を水利状況に応じて付替えていたものとみられるが、水口などの導水施設は確認できなかった。

第2期水田も第1期水田と同様、第6b層(長原6B層)が削込まれて畦畔の基部のみが遺存したもので、共存遺物がないため直接時期を判断する材料を欠いている。しかし、本調査地の西側に位置す

る城山(その3)調査地、NG86-109・87-35次調査地では、第1水田に続いて出現した第2水田が検出されており、この段階には正方位の畦畔が登場している。本調査地において、第2期水田に続いて第6a1層水田でも基本的に第2期水田の区画が踏襲されている。大畦畔や1町の1/20間隔といった方格子割を意識した南北畦畔の存在から、第2期水田の段階には

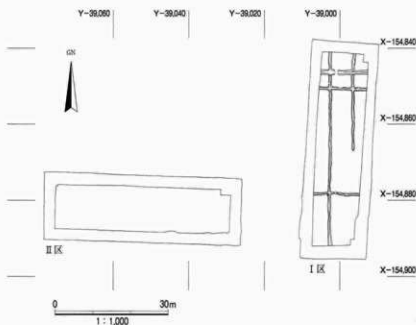


図27 飛鳥時代後半の水田畦畔(第2期水田)平面図

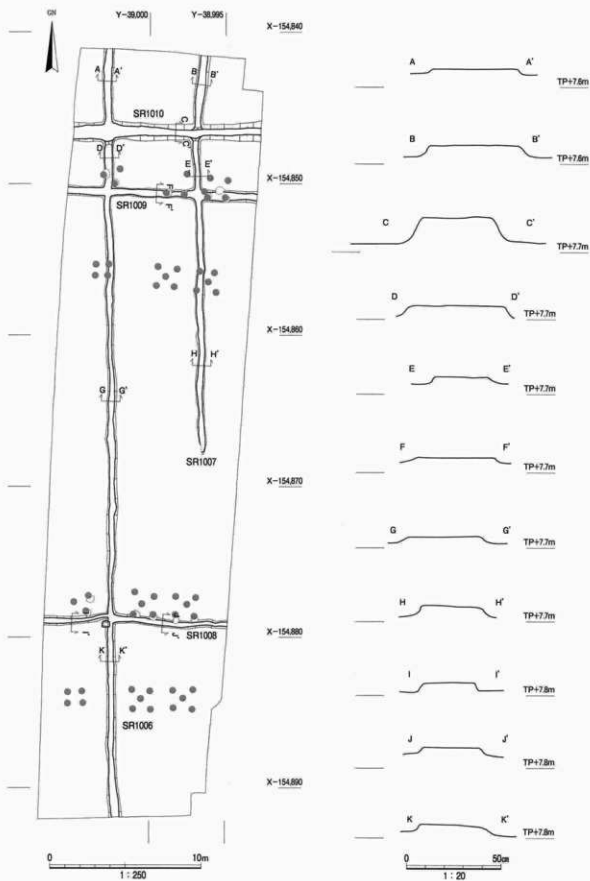


図28 第6b層上面の水田畦畔(1区第2期水田)平面・断面図

第Ⅱ章 調査の結果

計画的な地割が施行されていた可能性がある。

第2期水田は、城山(その3)調査地やNG86-109・87-35次調査地で検出された第2水田[積山洋1992]にはほぼ対応するものと考えておきたい。第2水田では、この水田を覆ったNG6Bii層から7世紀末頃の遺物が出土していることから、第2期水田もこの時期のものと判断しておきたい。(絹川)

第4節 奈良時代の水田遺構

1) 第3期水田の概要(図29～37、巻首図版、原色図版1、図版10～13)

I・II区のそれぞれ全域において、第5層(長原5層)の厚い洪水砂に覆われ、良好な遺存状態の水田を既述したように第6a2層(一部では第6a1層が水田面に残されていた)で検出した。本書ではこれを第3期水田と呼ぶ。第3期水田を埋めた第5層は、細粒～粗粒砂で構成されるラミナのシリーズを1つのサイクルとする堆積構造が少なくとも2回認められ、第5a・5b層に細分した。第5層の年代は、長原標準層序との対比から奈良時代末～平安時代初頭頃と考えられる。したがって、当然ながら第3期水田にもこの年代を当てはめることができるが、第3期水田の畦畔には砂質シルトを盛り上げて補修を行った形跡が認められた。また、II区の数筆の水田区画においては、一度洪水砂が堆積した後、その洪水砂を排除することなく、そのまま作土として利用していた状況が確認できた。この場合、1筆の同一水田区画内において、同じ畦畔を利用した2面の耕作面が存在したことになる(図37)。さらに、上位の耕作面は砂が多く含まれていることに加え、下位耕作面と比較しても踏みみや耕起による土壌の攪拌といった耕作痕跡が乏しいものであった。早々に耕作を放棄して休耕田とした可能性も考えられた。

こうしたことから、第3期水田は、第5層(長原5層)の堆積以前に明らかに洪水を被っており、その後、全面的な復旧と補修を受けたのち、再び第5層の大規模な水害に見舞われて、完全に放棄されたものと考えられる。この第5層以前の洪水痕跡は、長原6Aii層の水成層に対応するものとみられる。

第3期水田の作土は第6a2層(長原標準層序の第6Bi層)を母材に耕作されたものであるが、第3期水田は、8世紀前半に大きな洪水被害(長原6Aii層の洪水砂)を受けながらも復旧を行い、連続的に耕作が続けられたものとみられる。

以上のことから、この長原6Aii層の段階の洪水を境として、古期を第3a期水田、新期を第3b期水田としておく。I・II区で検出した水田畦畔には、砂を多く含んだ嵩上げ部分が認められるものがあるが、第3a・3b期水田では、両者に区画の違いは認められず、第3a期に形成された水田畦畔が、洪水を経てもそのまま復旧さ

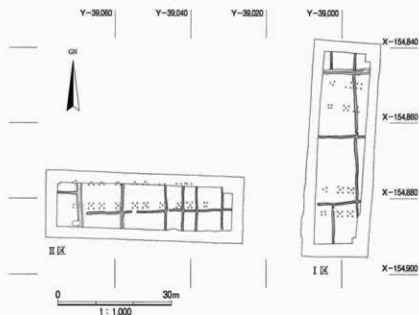


図29 奈良時代前半の水田畦畔(第3期水田)平面図

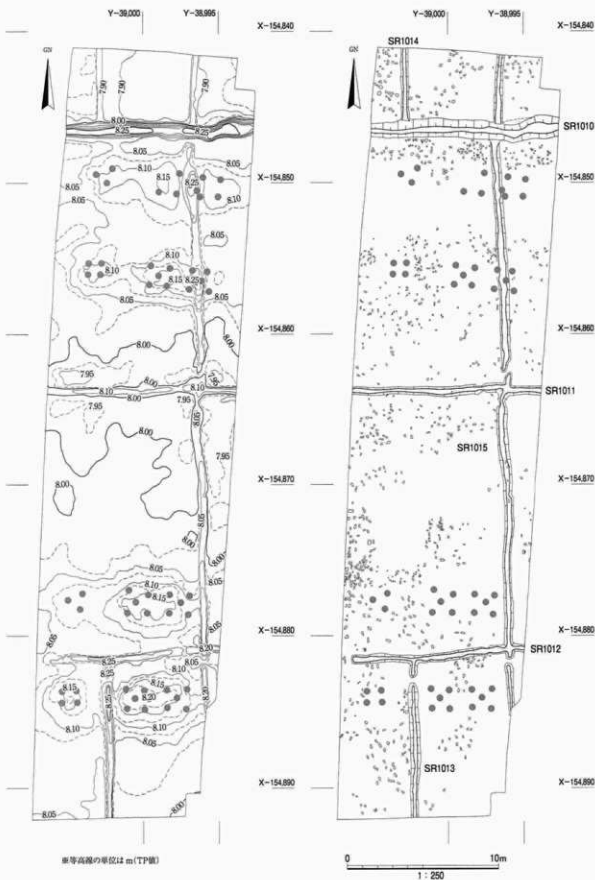
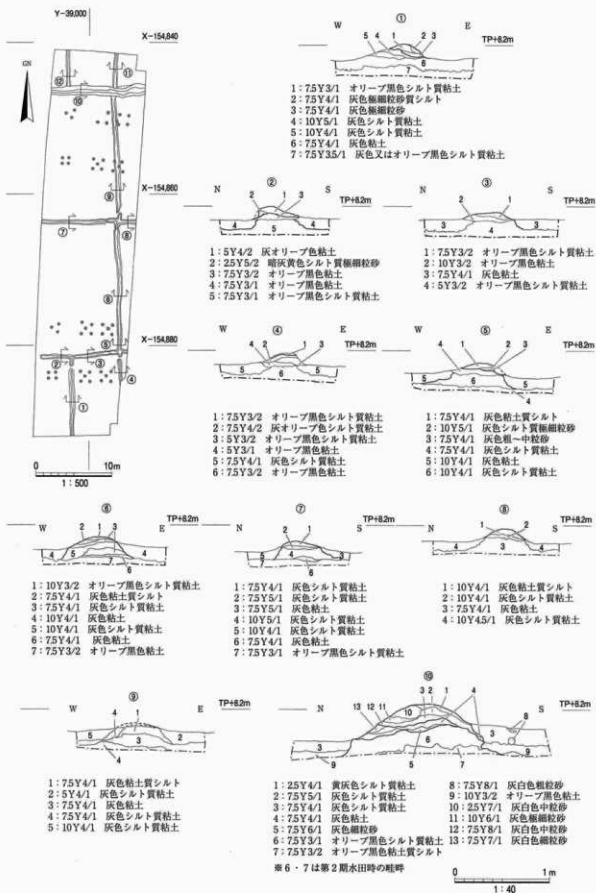


図30 I区第6a2層上面の水田畦畔(第3期水田)平面図



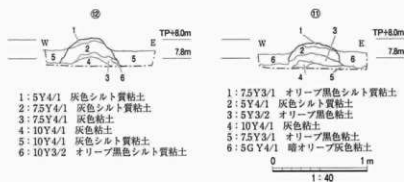


図32 I区第6a2層上面の水田畦畔(第3期水田)断面図

田[積山洋1992]にそれぞれ対応するものと考えておきたい。

2) I 区の第3期水田(図30~33、原色図版1、図版10・11)

図30は第5層の厚い洪水砂に覆われていたI区の水田面である。畦畔の方向は正方位である。南北方向の畦畔を3条、東西方向の畦畔を3条検出した。そのうち最も北側の東西方向の畦畔は坪境とみられる大畦畔で、第2期水田から位置が踏襲された畦畔である。検出した水田面の標高は、市営住宅建設時の基礎杭の周りが打設の際の擾乱・隆起で乱れているが、ほぼTP+8m前後とみられる。ただし、大畦畔であるSR1010を境に南北で地形面に段差があり、この畦畔北側の水田面は南側より0.1mほど低くなっている。SR1010のような幅広く高く盛り上げられた大畦畔は、本調査地のように斜面地であった場所を坪単位で平らにしやすいするため、畦畔を大きくかつ高くすることで地形面の段差を解消させる役割もあったものと思われる。

南北方向の畦畔の間隔は、SR1013・1015とSR1014・1015が6.3m、東西方向の畦畔では、SR1010・1011間とSR1011・1012間がともに17.5~18.0mであった。南北間はおよそ0.15m間隔で規則性を認めることができた。また、南北方向の畦畔のうち、SR1013・1014の間が途切れているが、第2期水田の段階では存在しており、時代が下るにつれて水田区画を大きくしたことを示している。

I区では畦畔区画が調査区内で完結したものがないため、1筆当りの水田面積を正確に復元することはできないが、上記のSR1011とSR1015で区画される水田は、東西幅が0.1m以上であると推定されることから、1筆当たり200m弱の面積があったとみられる。

第3期水田は、基本的に第6aii層を母材に作土化され、水田が形成されたもので、おもに灰色~オリーブ黒色の粘土またはシルト質粘土を積上げて畦畔を形成していた(図31・32、図版11)。また、畦畔が交差する部分の断面を観察したところ、それぞれ東西方向の畦畔が先に作られ、南北方向の畦畔がそれに取り付く状況を認めることができた(図33)。こうしたことから、I区の水田の畦畔設置については、東西方向の畦畔が優先に施行されたものとみられる。

東西方向の大畦畔であるSR1010は第2期水田以降、位置が踏襲された畦畔であるが、断面観察によっておもにシルト質粘土を盛り上げて畦畔を補修していたことが判明した(図31⑩、図版11)。一方、水田面を覆う洪水砂は長原標準層序の長原6Aii層とみられる。特にI区の北端部分では、この長原6Aii層の段階の洪水痕跡とみられる砂を多く含んだ作土を部分的に認めることができた。

れて第3b期水田の畦畔として継続利用されたようである。

次項で詳しく述べるが、第3a・3b期水田は、城山(その3)調査地やNG86-109・87-35次調査地で検出された第3水田・第4水

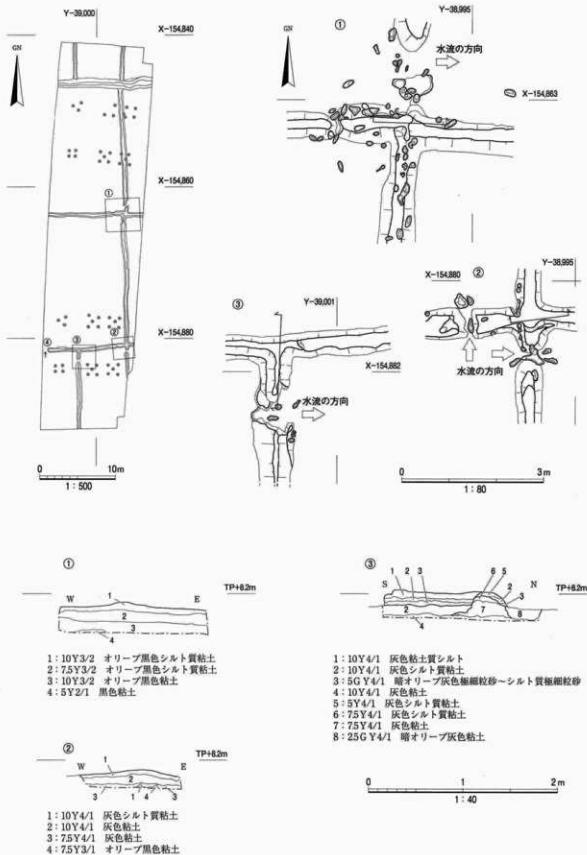


図33 I区第6a2層上面の水田畦畔水口部の平面・断面図

その他、Ⅰ区においては4箇所で水口を確認することができた(図33)。水口部分は第5層の粗粒砂を除去して精査をした後、細粒砂のラミナが放射状に広がる状況を平面的に観察したところ、水口①が西から東方向、水口②が南から北方向と西から東方向、③が西から東方向、水口④が南から北方向へ水流があったことを確認した。したがって、取水については西側の台地側から低所の東側へ、さらに南側から北側の低所に向けて行われていたものと思われる。

第3期水田は、大畦畔SR1010の断面構造から、第2期水田以降、正方位でほぼ同じ区画の水田が継続して営まれていたことがわかる。さらに長原6Aii層の段階の洪水を経て、その後も同じ畦畔が継続利用された。この洪水砂の痕跡は北端部分で明確に認められたが、それ以外は明瞭ではなかったため、南半部はもともと洪水の影響が少なかったのかもしれない。いずれにせよ、Ⅰ区においては第3a・3b期において同じ水田が継続して利用されたと理解しておく。

周辺の調査地との関係では、第3a期水田は、[積山洋1992]の第3水田、第3b期水田は第4水田に対応する。すなわち、第3a期水田が8世紀初頭頃、第3b期水田が8世紀前半頃の水田で、Ⅰ区において水田は両期にわたり継続して利用されたものと判断される。

3)Ⅱ区の第3期水田(図29・34～37、巻首図版、図版12・13)

Ⅰ区と同様、第5層(長原5層)の洪水砂に埋もれ、良好な状態で検出された水田である。畦畔の方向は正方位である。東西方向の畦畔は2条で、調査区のほぼ中央をⅠ区方向に延びたSR2001と北西端で認められたSR2002、南北方向の畦畔はSR2003～2008の6条を検出した。SR2001はⅠ区のSR1012と連結しており、SR2003は南北方向の大畦畔である。現存条里との関係では、本調査地一帯は現存条里の痕跡が分かりにくい、南北方向のSR2003の位置は、現存条里の南北方向の坪境とほぼ一致している。Ⅱ区の第3期水田の標高は、Ⅰ区と同じように市営住宅の建設時に打設された基礎杭の影響で隆起した部分があるが、全体的にTP+8.2m前後とほぼ水平である。

畦畔の幅はSR2003が幅1.3～1.4m、高さ0.5mで、それ以外のSR2004～2008が幅0.3～0.8m、高さ0.15～0.2mで、南北方向の畦畔の間隔は、西から11.4m、11.2m、4.7m、3.5m、6.8mである。調査区内で完結した区画の畦畔は1筆もないが、東西ラインはそれぞれ5m以上の間隔があったと思われる。残存値で計測すると、最も小さな区画の水田が1筆で最低で20m弱、最も大きな区画では最低60m程度となる。

水口とみられる取水施設は3箇所で認められた(図36A～C)。いずれも東西方向の畦畔に設けられたもので、砂粒の堆積状況から水流は南から北方向であったことが分かった。畦畔の断面をみるといずれも下部は灰色粘土をベースとしたもので、一部は上位になるに従い細粒～粗粒砂が混ったシルト質粘土を積み上げていた。こうした畦畔は、特に西半で多く認められた。こうした状況は、Ⅰ区で説明したように、この水田が一度洪水による被害を受けた後、復旧されたことを意味する。この洪水は、前述したように長原6Aii層の段階のものとみられることから、Ⅱ区においても第3期水田は、洪水を受ける前に形成された第3a期水田と洪水を被った後に復旧された第3b期水田に分けることができる。第3a期と第3b期水田は、洪水被害という事件を挟ませるものの、復旧を経てほぼ同じ位置に畦畔が

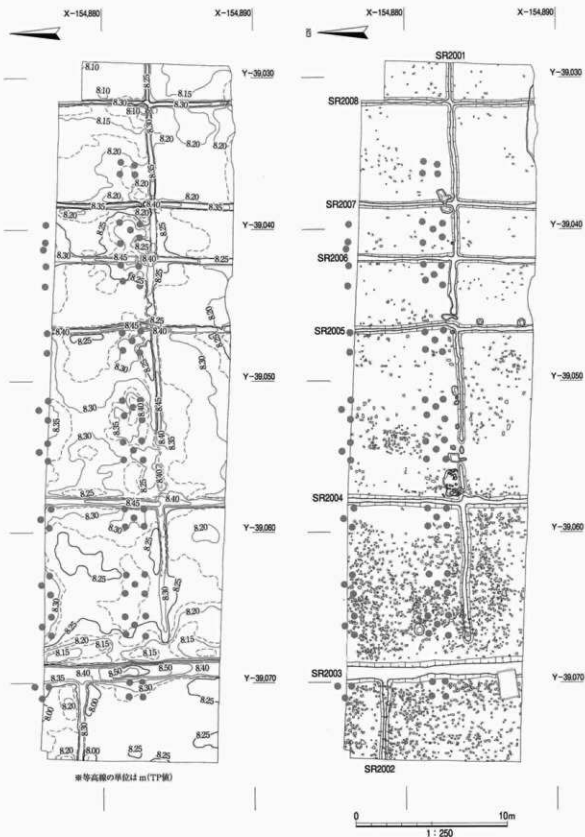


図34 II区第6a2層上面の水田畦畔(第3期水田)平面図

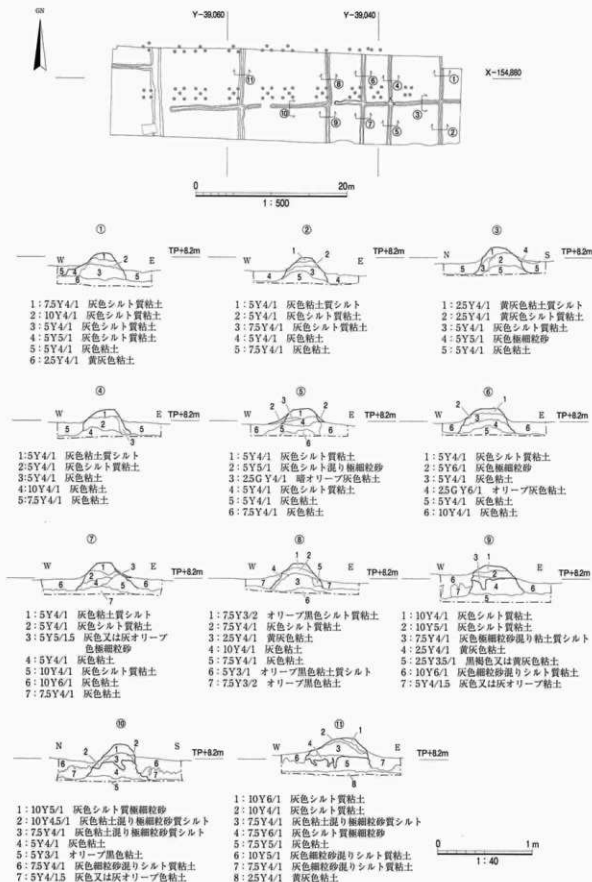


図35 II区第6a2層上面の水田畦畔平面・断面図(1)

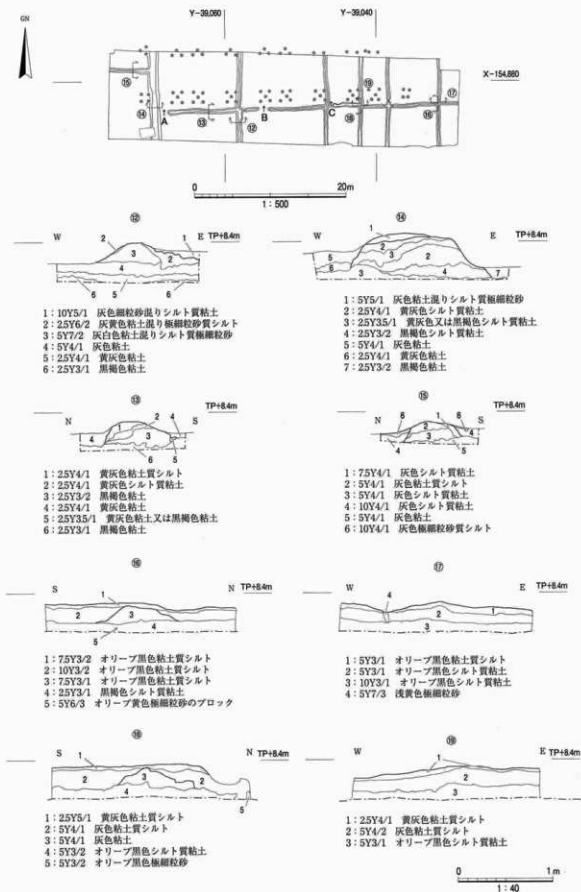
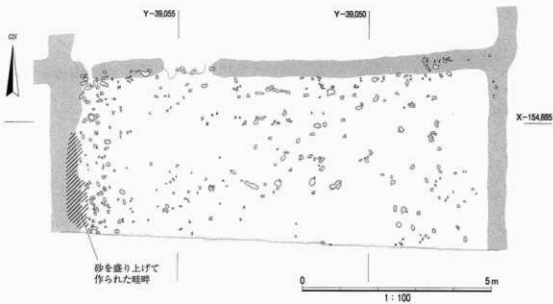
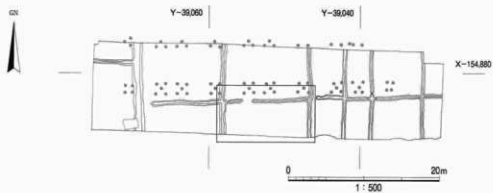
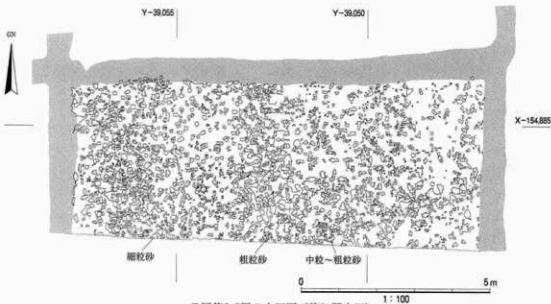


図36 II区第6a2層上面の水田畦畔平面・断面図(2)



Ⅱ区第6a1層の水田面（第3b期水田）



Ⅱ区第6a2層の水田面（第3a期水田）

図37 2 時期の水田面と踏込み跡平面図

営まれている。

こうした同じ水田が洪水を挟んで2時期にわたり利用され続けた状況がさらに明確に理解できるのがⅡ区中央で確認された水田面である(図37、図版12)。この水田面では、砂質が多い水田面(第6a1層が作土の水田：第3b期水田)が認められたが、この10cmほど下位から全面がヒトやウシなどの踏み込みで覆われた水田面(第6a2層が作土の水田：第3a期水田)が残されていた。同じ畦畔を利用した水田であり、下位の耕作面の踏み込みには細粒～粗粒砂で充填されたヒトやウシなどの偶蹄目の踏み込みが形成されていたが、こうした砂が充填した踏み込み跡は、水田表面に踏み込みの凹凸が残された時期(季節)に洪水があったことを示している。その後、砂を取り除き、あるいは砂で周囲の畦畔の嵩上げをしながら作土を作り直し、上位の耕作面が形成されたと見なすことができる。さらに上位の水田面を見ると、作土は砂質が多く含まれたシルト質粘土で淘汰も不良である。上面の踏み込みも少ない。洪水以降、耕作を積極的に継続した状況がみられない。あるいは、水田面を嵩上げしたため、安定した取水が難しくなったのかもしれない。耕作放棄または休耕田となった可能性がある。こうした状況から、この洪水による水田復旧においては、一部では地味が悪くなった易田になり、「片荒らし」のような休耕田とされたり、耕作が放棄されたことも考慮しておく必要がある。

4) 第3期水田の年代

以上のようにⅠ・Ⅱ区において第5層(長原5層)に埋没した第3期水田を検出することができた。この水田は、最初に第6a2層を作土とした水田として設置された。この段階を第3a期水田とする。本調査地の西側に接する城山(その3)調査地やNG86-109・87-35次調査地で検出された第3水田[積山洋1992]に対応するものである。後章で述べるが、Ⅰ区において検出したSR1010の東西方向の畦畔は1町毎に配置された坪境の畦畔となっている。第3水田は8世紀初頭頃の年代が推定されているが、この段階には本調査地では正方位の方格地割による水田が出現していることになる。

その後、この場所をⅠ区の北半とⅡ区を中心に洪水被害にみまわれたようである。この洪水は長原6Aii層の段階のもので、本調査地では砂で補修された畦畔やⅡ区西側で確認した上下2層の作土層にその証拠を求めることができる。この段階の水田を第3b期水田とすることは前述した通りである。この水田の廃絶は、第5層(長原5層)の堆積を契機とする。これまでの調査結果を踏まえると長原5層を堆積させた洪水は8世紀末頃と考えられている。こうしたことから、本調査地では、第3期水田は8世紀前半を中心に継続して存続したと推定される。周辺調査との関係から[積山洋1992]の分期に従うなら、長原6Aii層の洪水を境として、それ以前の第3a期水田は城山(その3)調査地とその周辺地の第3水田に当り、第3b期水田は第4水田に対応するものと判断される。

(絹川)

第5節 各層出土の遺物

本調査地では古代より水田が連綿と営まれ、奈良時代以降は頻繁に洪水に見舞われるような場所であったため、竪穴建物や掘立柱建物といった集落跡を示す遺構などは認められなかった。したがって、出土する遺物も少なく、大半は土器細片で遺構に伴って出土した遺物もごく僅かであった。本調査地で最も多くの遺物を包含していたのは第5層(長原5層)の洪水砂層であった。以下、ここでは各層から出土した遺構に伴わない遺物のうち、図示可能なものについて述べておく(図38~41)。

i) 各層出土の遺物(図38・39、図版15・16)

図38はI区の各層から出土した遺物である。

2は須恵器の付付長頸壺の底部である。第4b層から出土した。底径は8.8cmで、高台は外側に大きく張り出し、内外面とも自然釉がかかっている。8世紀初頭前後のものと考えられる。3は須恵器杯Bで、第5層最下部から出土した。底径は10cm前後とみられる。平城宮土器Ⅲ段階のものであろう。4は土師器の片口鉢で第6a層から出土した。口縁部の片口の張出しは浅いが、内外面とも丁寧にナデ

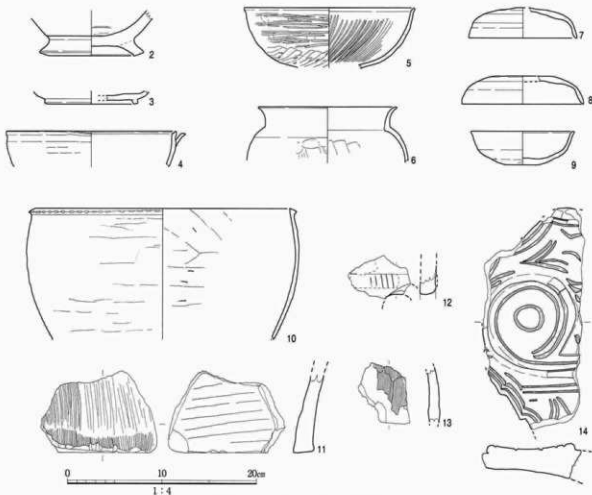


図38 I区各層出土の遺物実測図

調整されている。7世紀後半のものとみられる。5～9はいずれも第7層上部から出土した。5は土師器杯Cである。全体の1/4程度が残存するのみで、復元した口径は17.8cmである。内面に1段の放射状暗文が施され、外面上半には横方向のヘラミガキ、下半はヘラケズリが施されている。飛鳥Ⅱに属する。6は土師器甕で口縁部が1/4程度のみ残存する。胎土は精良で、口

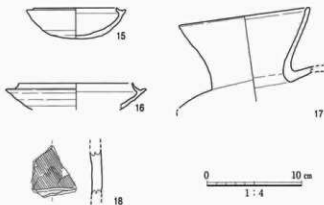


図39 II区各層出土の遺物実測図

縁部は直立した後短く開く。丁寧なナデ調整が施されているが、胴部上半には粗いユビオサエが残る。7世紀前半に属するものであろう。7・8は須恵器杯蓋である。7・8ともにTK209型式に属するものである。9は土師器杯Cである。器厚が薄く、口縁端部は丁寧なナデ調整でわずかに外反させている。飛鳥Ⅰの後半段階のものであろう。11～14は埴輪である。11・12・14は第5層下部、13は第7層下部から出土した。11～13は円筒埴輪である。いずれも小片で直径を復元できるものは11のみであった。11は底部が1/4程度残存する。直径30cm程度の小型品とみられる。やや外反しており、外面は一次調整にタテハケを施したのみである。12は胴部の細片で、タガとスカシ孔の一部が認められる。タガは大部分が接合部分で剥落している。13も胴部の細片で、外面の一次調整はタテハケである。14は靱形埴輪の飾り板部分である。正面左側面の底部に近い位置であろう。円形文様部分は粘土板を貼り付けた円形の突帯となっており、直弧文状の線刻が施されている。本調査地の西方には高廻り古墳群が位置しており、出土した埴輪も同時期のものであろう。5世紀前半のものとみられる。10は縄文晩期終末の長原式土器で器形は深鉢である。第7層下部から出土した。口縁部上端には貼付け突帯があり、O字形の刻目が浅く施されている。胎土中に暗褐色で、1～2mm大の角閃石・長石粒を多く含む。胴部上半から口縁部にかけてわずかに内湾する。

図39はⅡ区の各層から出土した遺物である。

15・16は須恵器杯身である。いずれも第7層から出土した。15はTK217型式、16はTK209型式である。17は須恵器平瓶である。第5層下部から出土した。口縁部のみ残存する。口径は13.6cmで大型である。7世紀後半のものであろう。18は円筒埴輪の細片である。第5層下部から出土した。外面の一次調整はタテハケを施し、下部にタガ部分に施されたユビナデも認められる。

出土数はわずかであるが、Ⅰ・Ⅱ区の各層から出土した土器を概観すると、第5層では平城宮土器Ⅲ以降、第7層上部～第6b層では飛鳥Ⅱ以降、7層では上部から飛鳥Ⅰ・Ⅱの土器、下部から5世紀前半の円筒埴輪片が出土しており、長原標準層序の長原5層、長原6A・6B層、長原7A～7B層には対応する。

ii) 各層出土の石器(図40、図版16)

第8層下部の漸移帯(長原標準層序のNG12-13層漸移帯に相当する)で検出した石器遺物集中部は第三章第2節で詳細を述べる。ここでは各層から出土した石器について説明をする。本調査地におい

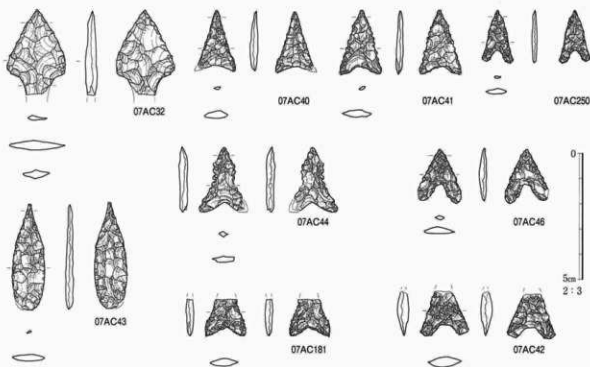


図40 I区各層出土の石鏃実測図

て出土した石器はサヌカイト製石鏃のみである(図40)。すべてI区から出土した。なお、石鏃の各部位の呼称については[管榮太郎1995]の用例にしたがうこととし、石器の図示番号も当協会が用いる石器整理番号でそのまま表記する。

07AC32は凸基有茎式石鏃である。第7層下部から出土した。作用部と基部の境目が大きく逆刺状に張出した幅広の形態である。表裏両面とも薄形かつ深形の細部調整を丁寧に施している。とくに両側縁から切先にかけて細かな細部調整を連続的に施して仕上げている。基部を欠損する。切先角 62° 、長さ3.34cm、幅2.28cm、厚さ0.38cm、重量2.6gである。弥生時代の石鏃である。

07AC40～44・46は第7層下部から第8層にかけて出土した。07AC43は第7層下部出土で弥生時代の石鏃、それ以外は第8層出土で縄文時代中期以前の石鏃とみられる。

07AC43は凸基無茎式石鏃である。細長い柳葉形に調整され、基部は円基に仕上げられている。表裏両面とも薄形かつ深形の細部調整が丁寧に施されている。基部を新欠のためわずかに損じている。切先角 32° 、長さ4.18cm、幅1.26cm、厚さ0.24cm、重量1.4gである。

07AC40は細長の凹基無茎式石鏃である。作用部の両側縁は直線的に調整されている。基部の挟りが浅く、逆刺の先端は尖るように調整されている。細部調整は表裏両面とも細かく丁寧に施されている。切先角は 37° である。逆刺の片方を新欠のためわずかに損じている。長さ2.39cm、幅1.46cm、厚さ0.3cm、重量0.6gである。

07AC41は凹基無茎式石鏃である。作用部の両側縁は直線的に調整されている。基部の挟りは浅く、逆刺をやや尖らせるように仕上げている。表裏両面の細部調整は粗めで大まかなものであるが、両側縁が鋸歯縁状の調整が連続して施されている。切先角 38° 、長さ2.54cm、幅1.65cm、厚さ0.26cm、重量0.8gである。

07AC42は凹基無茎式石鐏である。作用部上半を新欠により折損しているが、両側縁とも直線的に調整されたものとみられる。基部の挟りはやや浅く幅広であり、逆刺の先端も平らに仕上げられている。表裏両面とも均様に丁寧な細部調整が施されている。長さ1.74cm、幅1.86cm、厚さ0.42cm、重量1.0gである。

07AC44は凹基無茎式石鐏である。作用部の両側縁は緩やかなS字を呈している。基部の挟りがやや浅く緩やかな逆刺が作り出されている。また、作用部は両側縁とも鋸歯縁状に仕上げられている。切先角44°、長さ2.59cm、幅1.26cm、厚さ0.32cm、重量1.0gである。

07AC46は幅広の凹基無茎式石鐏である。作用部の両側縁は直線的に調整されている。基部の挟りは深く、逆刺は丸みをもたせるように仕上げられている。表裏両面とも丁寧な細部調整が施されており、さらに両側縁は鋸歯縁状の調整を連続して施している。逆刺の片側をわずかに欠いている。切先角53°、長さ2.08cm、幅1.69cm、厚さ0.22cm、重量0.7gである。

07AC181・250はNG12-13層に相当する第8層下部から出土した。この層ではLC1201が検出されているが、07AC181は集中部からはずれた場所から出土し、07AC250は発掘土の水洗・篩別時に回収したものの、他の篩別資料と比べても若干風化が浅いことから、集中部に伴わない遺物として分類した。縄文時代早～前期の石鐏とみられる。

07AC181は凹基無茎式石鐏である。作用部上半を折損しているが、本来は両側縁が緩やかなS字を呈していたものとみられる。基部の挟りはやや直線的で、逆刺先端も尖るように仕上げられている。側縁には細かく鋸歯縁状の細部調整が施されている。長さ1.46cm、幅1.58cm、厚さ0.32cm、重量0.7gである。

07AC250は細長の凹基無茎式石鐏である。作用部の両側縁は直線的に調整されている。深く挟りを入れて逆刺を作り出しているが、逆刺の先端は平らに整えられている。表裏両面とも細かく丁寧な細部調整で仕上げられている。切先角は37°、長さ2.02cm、幅1.22cm、厚さ0.19cm、重量0.3gである。

iii) II区出土の木製品(図41、図版16)

II区において第5層下部から方形の曲物19が出土した。曲物は側板のみで底板は出土していない。幅3cmほどのヒノキの薄板を二重に巻き付けて小口側の両辺中央部に半円状の挟りを入れて結合部としている。結合には櫛皮などを用いたとみられるが、出土時には遺存していなかった。側板には巻付けた痕跡が認められる。

(緒川)

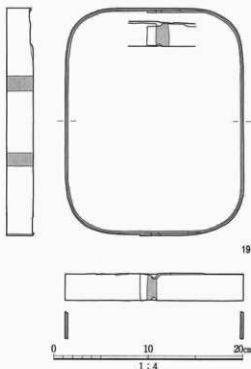


図41 第5層出土の木製品実測図

第6節 堆積層解析と微化石分析

1) はじめに

今回の長原遺跡(NG07-3)調査区では、調査区が位置する台地縁辺部における条里地割の施工過程を考える上で重要な7・8世紀の水田跡が検出されている。また、隣接する調査区では先行条里を伴う6世紀の水田が検出されている。そこで、今回の分析調査では、調査区における古代の土地利用状況に関する情報を得ることを目的として、調査区内に累重する堆積層について肉眼および軟X線写真・土壌薄片によりメソ・ミクروسケールによる観察記載を行い、堆積環境の変遷に基づく、水田遺構の形成過程について検討する。また、6世紀および7・8世紀の作土について、空間的に花粉・植物珪酸体分析を実施し、当時の水田の様態や、調査区周辺の古植生について検討する。

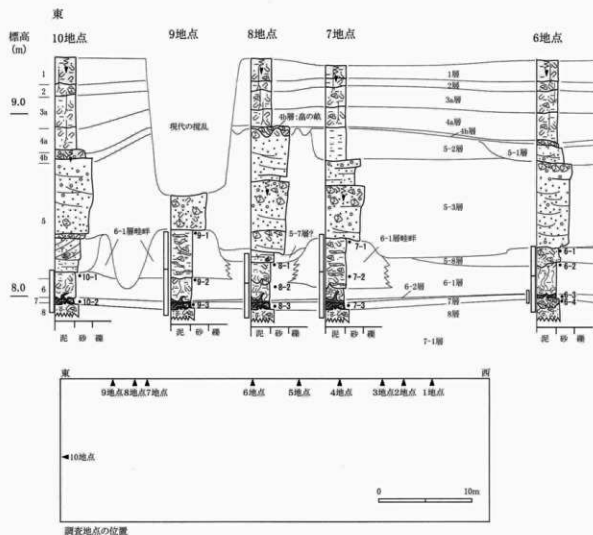


図42 調査地点の位置および層序の模式柱状図

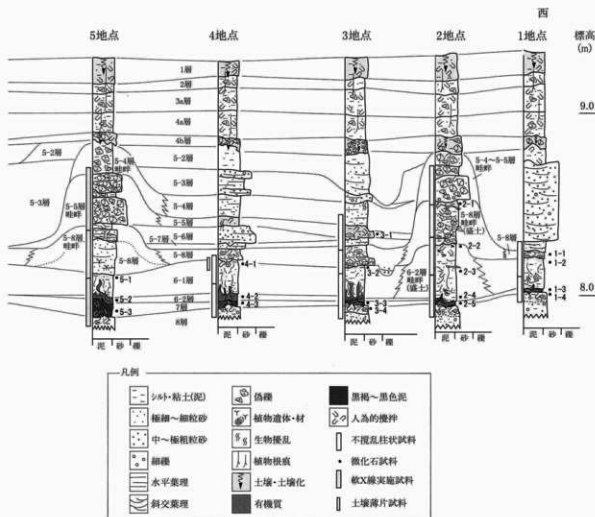
2) 資料採取地点の詳細層序

i) 資料採取地点の堆積層の累重状況

資料採取地点の位置および、堆積層の累重状況を模式柱状図として図42に示す。資料採取地点の堆積層は、上位より、大きく8層準に区分される。上位より1層～8層の層名を付す。このうち、1～4層については調査区全域で確認される堆積層であり、第Ⅱ章の層名を踏襲することにする。以下に各堆積層の層相について記載する。この際、発掘調査成果に基づいて、長原遺跡の標準層序[趙2001]との対応関係を示す。

1層：塊状をなす腐植に富むオリブ褐色を呈する泥質細粒～極細粒砂からなる。人為的に攪拌されており、初生の堆積構造は確認されない。長原遺跡標準層序のNG 1層に対比される。近・現代の作土である。

2層：ぶい黄褐色を呈する、塊状をなす細礫・粘土の偽礫が混る泥質細粒砂からなる。人為的擾乱が及んでおり、初生の堆積構造は認められない。本層からは近世の遺物が出土する。本層準は、層



相および出土遺物の時代性から、長原遺跡標準層序のNG2層に対比される。

3層：にぶい黄褐色を呈し、細礫・粘土の偽礫が混る塊状をなす泥質細粒砂～細粒砂質泥からなる。本層準は、層相および出土遺物の時代性から、長原遺跡標準層序のNG3層に対比される。

4a層：灰オリーブ色を呈し、塊状をなす、粘土偽礫混り細粒砂質泥からなる。層相および室町時代の遺物が出土することなどから、長原標準層序のNG4a層に対比される。

4b層：灰褐色を呈する、泥質細粒砂や泥質中粒砂の偽礫を含む土壌からなる。偽礫の大きさは、上部に向かって小さくなる。また、形状も亜角状から亜円状と丸くなり、間隙密度が高くなる。また、調査区東部の断面では、4b層において土砂取りの溝、上面で畠の畝が確認される。これらのことから、4b層は畠の作土であることが推定される。本層は、層相および出土遺物から、長原遺跡の標準層序のNG4B層に対比される。時代は平安～鎌倉時代と推定される。

5層：本層は粗粒碎屑物を主体とする氾濫堆積物からなり、堆積層の層相および人為的擾乱状況より5-1層～5-8層に細分される。長原遺跡標準層序のNG5～6層に対比される可能性がある。

5-1層は5-2層上面の浅い凹地内に舌状に流入したトラフ型斜交葉理をなす粗粒～細粒砂からなる氾濫堆積物である。最上部は4b層の人為的攪乱により不明瞭となっているものの、地層の外形は上下に凸レンズ状をなしている。上方、側方に級化することを合わせ考えると、5-1層は堤防決壊堆積物 (crevasse-splay deposit) と判断される。

5-2層も細礫～粗粒砂からなる砂礫から細粒砂質泥からなり、側方に細粒化する、堤防決壊堆積物である。

5-3層：5地点の大畦畔より東部の凹地を充填する砂礫～砂質泥からなり、最下部は下位堆積物である5-4～7層を侵食している。この凹地の形成は、後述するように5-7層形成期であり、充填堆積物なかには土壌化ないし人為的に各攪拌された層準を挟在する。充填後の調査区はほぼ平坦地化しているが、それ以前は5地点より東側の領域は低平地が広がっていたことが窺える。なお、5地点より西側に累重する側方級化する砂・礫層も東側の充填堆積物上部と同層準であることから、ここでは5-3層としている。なお、これらの堆積物堆積ユニットで判断すると堤防決壊堆積物の特徴を示している。

5-4層：西から東へ細粒化する泥質砂～砂質泥からなる。上部は人為的攪拌ないし削剥されており、畝状の高まりが確認される。本層の堆積物を利用して、5地点・2地点の畦畔が補強されている。

5-5層：5地点より西側に分布する人為的に攪拌された泥質砂～砂質泥からなり、畦畔と同時期に土壌化した水田作土である。なお、本層準形成期ないしそれ以前には5地点・2地点の畦畔が泥質砂と砂・礫の偽礫を利用して再構築されている。畦畔を構成する堆積物は、5地点東側の凹地部分の粗粒碎屑物を利用している。

5-6層：外形が上下に凸レンズ状をなし、舌状に堆積する側方級化する粗粒碎屑物からなる、堤防決壊堆積物と判断される。

5-7層：5-8層を覆う逆級化成層をなす泥質砂～砂質泥からなる氾濫堆積物である。

5-8層：調査区全域に分布する6層を整合的に覆う粒砂質泥～泥質砂からなる氾濫堆積物である。本層堆積物を利用して5地点に最初の段階の畦畔が構築されている。初生の堆積構造は畦畔以外の場

所で著しく変形している。5地点の畦畔部分では、植物遺体の葉理を挟む浅いトラフ型斜交葉理をなす細粒砂層(5-8層)の上位に別の場所の5層堆積物を盛土している。また、畦畔以外の場所では人為的に擾乱されている。これらの堆積層の層相については、軟X線写真の項で詳述する。

6層：細粒砂が混る有機質泥～細粒砂泥からなる。全体的に著しく変形しており、初生の堆積構造が不明瞭となっている。変形以前に挟んでいた数層準の細粒砂の葉理が破壊され流線に沿って再配置している。基本的には上方に向かって粗粒化傾向にあり、下部ほど有機質に富む層相をなす。ここでは有機質に富む層準を6-2層、その上位を6-1層に細分する。6-2層は有機質砂質泥からなり、下位層準の作土である7層を覆うが、調査区全域に分布するのではなく、7層上面の起伏の低い領域に堆積している。高い領域は6-2層には分布しない。6-1層はとぎれた砂の葉理を数層準に挟む砂質堆積物からなり、上部ほど砂がちになる。この6層形成期にも畦畔が構築されている。6-2層形成期後半から6-1層形成期にかけて、2地点に6-2層を利用した畦畔が構築されている。また、6-1層形成期にも9地点・7地点において、氾濫堆積物を利用して畦畔が構築されている。これら畦畔を構成する堆積物も著しく変形している。6層の形成年代は、発掘調査成果に基づく、7～8世紀頃と推定されている。また、層相および時代性から、長原遺跡標準層序のNG6層に対比される可能性がある。

7層：下位の8層の細礫、粗粒砂、偽礫、炭化物片が混る著しく擾乱された黒色泥からなる。本層も流動変形している。混在する偽礫の大きさは1～0.5cm程度であり、亜角状をなすもののほか、変形しているものが多く認められる。7層の形成年代は、出土遺物から7世紀頃と推定される。また、層相および時代性から、長原遺跡標準層序のNG7層に対比される可能性がある。

8層：灰色を呈する砂・細礫混り泥質細粒砂～細粒砂質泥からなり、最上部は7層形成期の人為的擾乱により、著しく乱れている。亜角状の偽礫が多数認められ、その間隙を上位の7層により充填されている。また、上記した7層が厚く堆積する地点では、8層上部は7層中に引きづられたように変形している。本層は台地を構成する堆積物であり、7層とは不整合の関係にある。調査地域の既往の発掘調査成果から、長原遺跡標準層序のNG12層に対比されている。

ii) 分析層準

分析試料は、各調査地点の断面より不擾乱柱状試料として採取した。採取試料は室内にて再度観察し、調査目的を考慮しながら分析層準を検討した(図42)。

3) 分析方法

i) 軟X線写真撮影観察

不擾乱柱状試料について、厚さ1cmまで板状に成形し、浸潤状態のまま、管電圧50kvp、電流3mA、照射時間270秒のX線強度条件において軟X線写真撮影を実施した。撮影は元興寺文化財研究所の協力を得た。なお、軟X線写真の記載は、堆積物について[宮田雄一郎ほか1990]、土壌について[佐藤幸一1990a・b]、[森也寸志ほか1992]、[成岡市1993]などを参考とする。以下に各地点の堆積層の構造について記載する。

ii) 土壌薄片作製鑑定

土壌薄片作製試料は、80℃で1日間乾燥した後、樹脂(ベトロボキシおよびシアノボンド)で固化を行い、片面の研磨を実施した。固化および研磨済み試料は、スーパーセメダインにより研磨面をスライドガラスに接着する。その後、反対側の面について厚さ70 μ m程度まで研磨を行い、カナダバルサムによりカバーガラスを接着した。土壌薄片の記載は、[久馬一剛・八木久義訳監修1989]を参考とする。

iii) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9：濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、産出するすべての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の産出率は、木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子が総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出してある。

iv) 植物珪酸体分析

分析試料の乾燥重量を秤量した後、過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に一定量を計り取り滴下・乾燥させた後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身運動細胞に由来した植物珪酸体(以下、運動細胞珪酸体と呼ぶ)を、[近藤謙三2004]の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、堆積物1g当りの植物珪酸体含量の一覧表として示す。その際、100個/g以下は「<100」で表示する。各種類の含量密度は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各種類の植物珪酸体含量とその層位の変化から稲作の形態や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的变化を図示する。

4) 軟X線写真観察・薄片作製鑑定結果(図43～45、図版20～23)

各地点の試料写真・軟X写真・薄片写真とおもな構造のトレース図を図43～45に示す。X線写真は、明るい部分がより高い密度の物質(ここではおもにシルトと砂・礫、酸化鉄や炭酸鉄)からなり、暗い部分が低密度の物質(水分の多い粘土、細粒のシルト、植物性の炭片、植物遺体、孔隙など)からなる。

以下に調査地点の堆積構造の特徴について記載する。

i) 5地点(6-1層畦畔)(図43、図版20・21)

本地点では、台地の構成層である8層から5-5層形成期に構築された畦畔を構成堆積物までの軟X線写真撮影を実施した(図43)。

試料下部の8層は著しく擾乱されており、角状～亜角状の偽礫に分離している。7層との境界は明瞭であり、7層下部には8層から分離した偽礫が認められる。

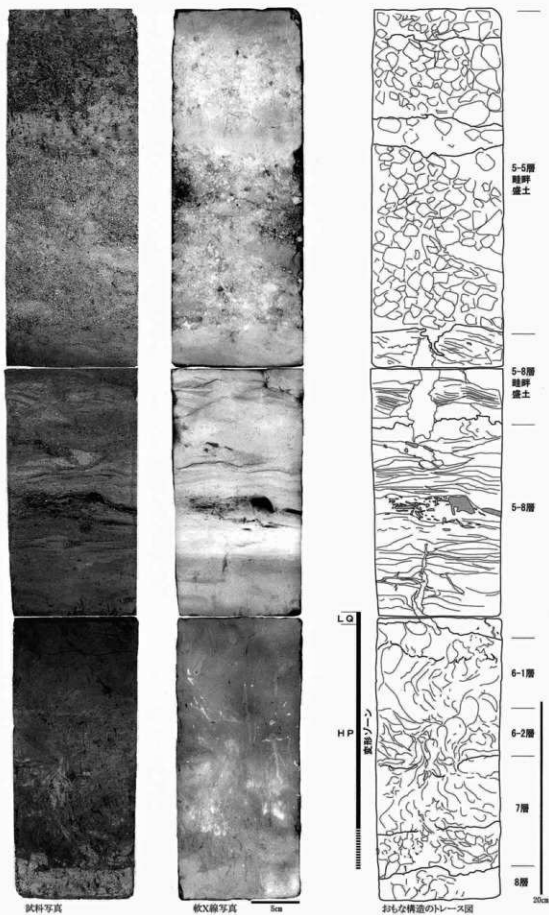


図43 5地点の軟X線写真およびおもな構造

7層は細礫、粗粒砂、偽礫、炭化物片が混る黒色泥からなる。8層由来の亜角状の偽礫が多数確認される。本層は流線状ないし火焰状に著しく変形している。8層に由来する亜角状の偽礫もこの流線状の変形に沿って、再配置もしくは変形している状況が窺える(写真右側の明るい部分)。

6層は、有機質砂混り泥～細粒砂混り泥からなる。7層から連続する流線状の変形により初生の堆積構造は不明瞭となっている。

5～8層は畦畔の芯をなす堆積物であり、浅い緩い斜交葉理をなす、植物遺体を挟むする上方粗粒化する極細粒砂～中粒砂からなる。下位層準で確認されていた変形構造は本層準では確認されない。また、本層上部は直上の5～8層と同質の初生の堆積構造を残す7 cm程度の極細粒砂～中粒砂からなる偽礫の盛土の影響により、堆積構造が乱れている。調査地点周囲に堆積した5～8層堆積物を盛土として利用しているものと判断される。最上部は泥質堆積物からなり、塊状をなす。

この5～8層の上位には、5～5層形成期の盛土が累重する。砂質泥と細礫・泥混りの中粒砂～粗粒砂が交互に盛土されている状況が窺える。

軟X線写真で確認された7層から6層にかけての人為層に認められた二次的に付加された変形構造は、[Matsuda J.2000]により定義されている、水底下の堆積物で見られる地震動による変形構造に対応するものである。[Matsuda J.2000]・[松田順一郎1999]によると、1回の地震動によって変形した堆積物の垂直範囲を変形ゾーンと呼び、水底に堆積した泥質堆積物(上部ほど水分を多く含むとともに、厚密を受けていないため流動性に富む。より下位では粘性・可塑性に富み、最下部では剛性が高まる性質をもつ)に認められる1つの変形ゾーンは、上から順に(1)水と堆積物が乱流によって混り合い、ほとんど塊状を呈する液層の流動変形ユニット(liquidized deformation unit)、(2)上部で、変形に際して引きずり上げられた下位層の羽毛状、火焰状(ただしフレーム構造とは別種)の流線パターンや細粒の中礫サイズ以細のブロックの散乱、下部に下向きに凸な形に変形した葉理から構成されるロード構造をなす含水塑性変形ユニット(hydroplastic deformation unit)、(3)下向きのフィッシャーや微小断層が見られる脆性変形ユニット(brittle deformation unit)、から構成されるとされる。また、これらの垂直的な変形ユニットの配列が重複した変形ゾーンの識別に役立ち、ユニット(1)の上位にユニット(3)あるいは(2)が認められれば、より新しい地震イベントが推定できるとされる。

今回確認された変形構造は、ユニット(2)(1)に相当するもので、1回の地震イベントにより形成されたものと判断される。また、地震イベントの年代は、変形ゾーン上端直上および直下の堆積物の年代によって決まるとされる[Matsuda J.2000]。今回の変形ゾーンの上限は、5～8層形成期であり、出土遺物から7～8世紀頃と推定される。本時期の記録地震は、[宇佐見龍夫1996]による集成を見ると、734年(天平6年4月7日)に畿内での被害が報告されている震央・規模が不明な地震や、827年(天長4年7月12日)に京都の被害が報告されている地震がある。これらの記録地震に該当する可能性もあるが、特定には至らず、今後の地震痕跡情報の蓄積をもって再評価する必要がある。

ii) 6地点(図44、図版22・23)

本地点では5～8層から8層にかけての軟X線写真撮影を行い、下位の8層上部～6～1層にかけて土壌薄片作製した(図44)。軟X線写真を見ると、5地点で確認された7層から6層にかけての一連の変

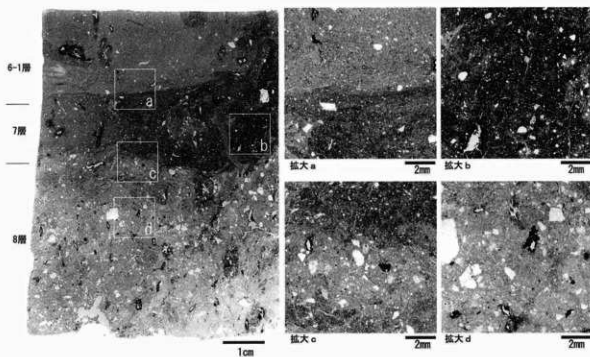
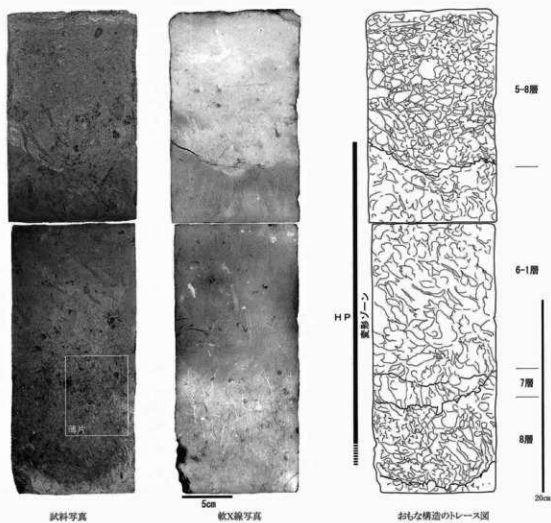


図44 6地点の軟X線写真・土壌薄片写真およびおもな構造

形構造とは同様の構造が確認される。下位堆積物が流線状ないし火焰状に変形しており、流線に沿って下位堆積物が引きずりあげられている状況が窺える。下記する5-8層では変形構造は確認されないことから、5地点と同一の地震動による変形であることが推定される。また、6-1層最上部では作土の可能性のある擾乱されている層準が右側に滑っている状況が確認される。これは下記する5-8層形成期の人為的擾乱に伴い、圧力が加わったところから水平方向に粘塑性変形したものと判断される。

本地点の5-8層は、5地点とは異なり著しく擾乱されている。5-8層下部は部分的に葉理構造が認められるものの、下方への凸な応力により、寸断され偽礫状を呈している。上部は砂質泥ないし泥質砂からなる不規則に配置する偽礫からなる。これらのことから、本地点の5-8層は人為的擾乱が及んでいることが推定される。先述したように5-8層は本来5地点で確認されたように葉理をなす泥質砂～砂からなるが、畦畔以外の地点では本地点と同様に著しく擾乱されている。この状況から、5-8層の堆積後には、耕作地造成に伴う人為的擾乱が及び、畦畔が存在しなかった5地点において、堆積した5-8層の上に、周囲の5-8層堆積物を盛土として畦畔を整備し、その周辺の5-8層は作土として利用したことが推定される。

図44下部に示した薄片では、8層上部から6-1層までの累重状況が確認される。8層上部は不規則に配置する偽礫からなり、その間隙を7層堆積物により充填されている(拡大c)。その下位は直線状の間隙が存在する。

7層から6-1層は軟X線写真で確認されたように流動変形している状況が確認される。この変形により、7層では下位層準の8層に由来する偽礫が流線状の構造に沿って再配置している。また、全体写真左側では6-1層が下方に流動し、その圧力により7層が右側上方に粘塑性変形している状況が確認される。拡大aでは6-1層の下方に凸な変形、7層の側方への変形が確認される。また、拡大bでは垂直方向に7層が引きずりあげられている状況が確認される。このように7層の本来の構造は、変形により不明瞭となっているが、次のような特徴が確認される。拡大bを見ると、7層は、粒度組成は不均質であり、微細な炭化物片、微細な8層由来の偽礫、1mm以下の団粒などが確認される。また、間隙はほとんど認められず、本来、壁状構造をなしていたことが示唆される。

以上の特徴から、7層は人為的に攪拌されていることが窺える。発掘調査では7層は水田作土の可能性が指摘されており、同調的である。現世水田作土の構造については、[森也寸志ほか1992・2000]や[斉藤1971]に記載がある。それらによると、作土の構造は壁状構造をなし、畑地に比べ間隙・孔隙量がかなり少なく、芯土には垂直方向の根成孔隙が卓越する。代掻き後にはベッド、団粒は極少ないが、造成、耕耘、落水後の乾燥・生物擾乱などで生じたクロッド、団粒が残ることもある。作土中には多数の炭片、芯土中の孔隙には粘土被膜が確認される。また、落水後の作土では、壁状構造とともに、主として40～50 μ m大の粘土ブロックが分布し、作土表層約1.5cmより下位で細粒の粒子からなる単粒状構造が局所的に生じることが確認されている。このような現世水田作土の特徴は、上述の7層の構造と類似する点が多いことから、7層は水田作土であった可能性が高い。

7層を覆う6-1層は変形しているものの、7層とは異なり粒度組成が均一で変形以前は初生の堆積構造を残す堆積物であったことが示唆され、7層を覆った氾濫堆積物と判断される。

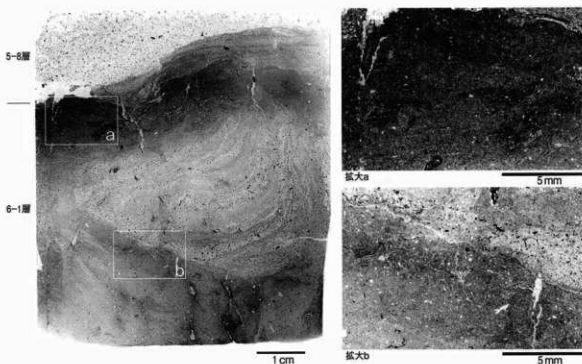


図45 4地点5-8層～6-1層上部の土壤薄片写真

iii) 4地点(図45、図版23)

本地点では、肉眼観察で作土と判断された6-1層上部とそれを覆う5-8層にかけて薄片を作成した(図45)。薄片全体写真を見ると、2つの異なる成因による変形構造が確認される。

1つは上記した5地点・6地点で確認されている7層から6層にかけての一連の地震動による変形である。薄片全体写真では、6-1層下方から上部にかけて連続する火焰状の変形構造が確認される。写真中央に認められる極細粒～細粒砂の偽礫は、この変形に伴い、下位層率から流線に沿って引きずり上げられたと判断されるもので、偽礫の葉理も変形している。

もう1つの変形は、6地点で確認された5-8層形成時の人為的擾乱による変形である。薄片全体写真では、5-8層左側が下に凸な変形を示し、その変形によって直下の6-1層最上部が写真右側に粘塑性変形している状況が確認される。

このように6-1層上部は2つの変形の影響を受けているため、本来の構造を把握することが難しい。ただし、拡大写真a・bに示したように、上部の堆積物中には2～5 mm程度の偽礫や微細な炭化物片が不規則に配置している状況が確認される。このような構造は人為的擾乱による可能性があり、本層率が作土であるとする現地調査所見とも矛盾するものではない。

5) 花粉化石の層位別産状(表3・4、図46、図版24)

8層上部から5-5層にかけての花粉化石群集を表3・4、図46に示す。産出する花粉化石は、保存状態の良い個体や悪い個体が混在するが、概ね良好である。花粉化石群集は8層と7層の境界で層位的に変化する。

8層の花粉化石群集は、1地点・3地点と6地点で多少異なる。1地点・3地点では木本花粉が高

率を占め、各分類群では温帯性針葉樹に由来すると判断されるモミ属・ツガ属・スギ属・マツ属(複維管束亜属含む)、常緑広葉樹のアカガシ亜属が多産する。このほか、コナラ亜属などを伴う。草本花粉はイネ科・ヨモギ属が産出するが種類構成は単調である。6地点の花粉化石群集は、下記する7層の群集と1地点・3地点の8層の群集の中間的な組成を示している。これは、6地点の分析層率が1・3地点に比較して7層の混入が顕著であることと関係しており、中間的な群集組成になったと判断される。

7層の作土では、草本花粉の占める割合が高くなり、木本・草本がほぼ同等の割合を占めるようになる。産出分類群数も草本花粉を中心に増加する。草本花粉の分類群では、イネ科の増加が顕著であり、多産するようになる。このほかガマ属・サジオモダカ属・オモダカ属・イボクサ属・ミズアオイ・ミズニラ属といった水生植物の分類群も普遍的に産出する。また、これらとは逆の生態性を示す、道端や畠などに生育する種を含むオオバコ属・カラスノゴマ属・オナモミ属なども地点によってわずかであるが産出する。また、6-2層-5-5層の花粉化石群集は、7層と基本的に同様の産状を示している。5-5層の畦畔盛土からはスイレン属が産出している。

6) 植物珪酸体の産状について(表5、図47、図版25)

結果を表5、図47に示す。各試料からは植物珪酸体が産出するものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められるものが含まれる。植物珪酸体群集の産状は、層位的に多少変化する。また、同一層位であっても地点によって多少異なる。

8層: いずれの地点もネザサ節を含むタケ亜科の含量密度が高い。栽培植物のイネ属は6地点から産出するが、1・3地点では全く産出しない。これは6地点の分析層率が1・3地点に比較して7層形成期の擾乱が顕著であったことに起因するもので、上位層からの落込みと判断される。なお、多産したタケ亜科は、他のイネ科植物に比較して風化に強く、生産量が多いことから、他の種類よりも残留しやすく[近藤 鍊三1982、杉山真二・藤原宏志1986]、実際の植生よりも過大評価されている可能性がある。

7層: 植物珪酸体含量密度は地点によって異なり、7層の層厚が厚く堆積する地点で高くなる傾向がある。いずれの地点もネザサ節を含むタケ亜科の含量密度が高い。栽培植物のイネ属由来の珪酸体は8・9地点以外の地点から産出する。イネ属機動細胞珪酸体の含量密度は、ほとんどの地点で1,500~2,000個/gであるが、6・7地点では6,200~3,700個/gと高密度を示す。このほかススキ属を含むウシクサ族、ヨシ属などを伴うが、これらの種類も地点によって多少の差異がある。

以上の7層における地点間差異は、局地的な植生の違いを反映している可能性もあるが、むしろ植物珪酸体の堆積物中への取り込まれ方や保存状態といったタフオノミーの違いに起因する可能性が高い。植物珪酸体はシルト以下の粒子と挙動をともにする。そのため、水田作土におけるイネ属の産状は耕作地の微地形およびそれを構成する堆積物の粒度組成や一筆単位の水田面積の違いと関連することが確認されている[外山秀一2002]。また、植物珪酸体はpH値の高い場所や、乾湿を繰り返す場所では風化しやすく[江口誠一1994・1996]、その溶解性も種類によって違いがある[近藤鍊三・佐瀬

表3 花粉分析結果(1)

分類群	1種点										2種点										3種点										4種点										5種点										6種点										7種点										8種点										9種点										10種点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
本名花柄	3	3	4	5	1	1	1	3	10	16	19	18	41	22	13	21	17	17	27	20	9	20	35	12	9	16	11	17	10	14	22	33	17	19	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

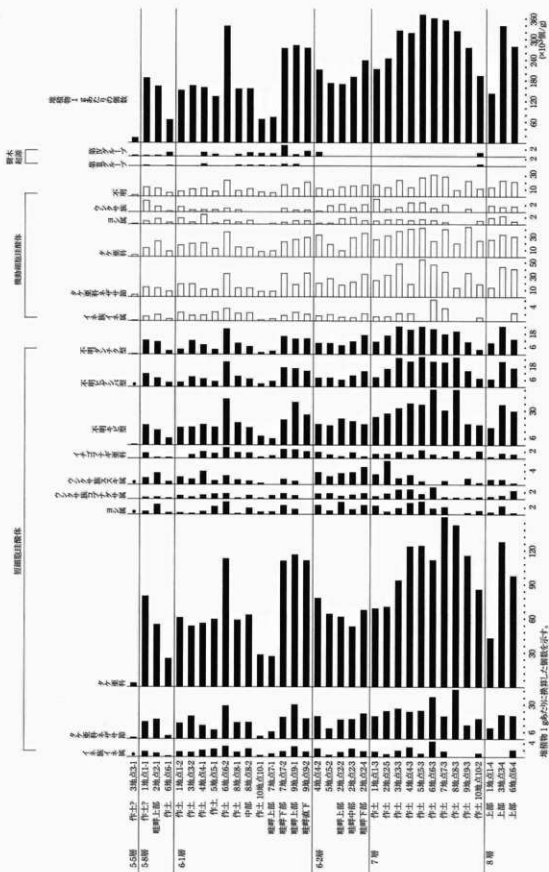


図47 植物珪酸体群集の層位分布図

1986]。今回の7層の産状についても、層相を踏まえると、いずれの影響も関係しており、低所では植物珪酸体が集積、残留しやすい状況にあった可能性が高い。

6-2層：植物珪酸体含量密度は7層に比較して少なくなる。栽培植物のイネ属は分析地点すべてから産出する。その含量密度はいずれの地点も類似し、7層に比較してやや低い。このように6-2層では7層のような地点間差異は認められない。6-2層は氾濫堆積物からなることから、堆積時に平均化されている可能性が高い。

6-1層：植物珪酸体含量密度は、作土層準について見ると、6-2層よりもさらに低くなる。栽培植物のイネ属はいずれの地点からも産出し、地点間で多少の差異を示す。また、6-1層形成期に構築された畦畔構成堆積物では含量密度が概して高い。9地点の畦畔盛土直下の堆積物では盛土と同様な産状を示すことから、盛土直前には植物珪酸体が集積しやすい状況にあり、その堆積物を利用していることが関係しているものと判断される。また、畦畔上部の産状は7地点と9地点で異なるが、これも盛土の由来に関係する可能性がある。なお、本層準では樹木起源の植物珪酸体が産出する地点が多いことも特徴として認識される。

5-8層：植物珪酸体含量密度は地点間で異なる。いずれの地点も人為的擾乱が及んだ層相を示すが、粒度組成は6地点が砂がちであったことから、堆積層形成期の挙動と関係している可能性がある。いずれの地点からも栽培植物のイネ属由来の珪酸体が産出する。その含量密度は機動細胞珪酸体で600～1500個/gである。

5-5層：植物珪酸体含量密度は上記してきた層準に比較して、著しく低い。栽培植物のイネ属は産出するものの機動細胞珪酸体で100個/g程度と少ない。本層の層相は、人為的攪拌が及んでいるものの、5-8層・6-1層・7層の作土とは異なり、大きな垂角状をなす偽礫が多く認められるなど作土として長期にわたり利用されたものではなく、栽培種のイネ属なども堆積時に取り込まれているものに由来する可能性がある。そのため、調査地点における稲作が行われていたことを積極的に支持するものではない。

(バリノ・サーヴェイ株式会社本裕也・斎藤崇人)

第Ⅲ章 遺構と遺物の検討

第1節 古代の調査区および周辺環境変化の検討

1) 調査地点における堆積層の累重状況と土地開発について

ここでは既述してきた分析結果を複合的に捉えることにより、調査区内における環境変遷について検討する。

i) 7層形成期

調査区が位置する台地において、人間活動の痕跡が確認されるのは7層形成期の飛鳥時代である。台地を構成する8層の上位に作土が造成される時期である。8層は発掘調査時の所見から縄文時代前期に形成された長原標準層序NG12層に対比される可能性がある。NG12層は、NG12A層・NG12B層に細分されるが、いずれも土壌化層準が上部に形成されている。残存する8層上部には土壌化層準は確認されていないが、これは7層形成期の人為的攪拌に伴い剝離されていることに起因する。8層と7層の層界は凹凸があるものの、比較的明瞭な層界をなす地点が多い。8層最上部に残存する偽礫も5-8層形成期直前の地震動により変形しているものも認められるが、亜角状をなすものが多い。下記するように7層は水を媒介として人為的に攪拌された水田作土である。この水田作土の造成が導水とともに形成されたとすれば、8層から7層にかけて含水状態での変形を示す構造が形成されても良いはずである。この点および7層中には微細な炭化物片が混入することを合わせ考えると、調査区内に導水する前に8層上部において、植生の伐採や整地といった人為的地表攪乱後、導水され水田が形成された可能性や、その後の田起こしと代掻きにより形成された可能性が考えられる。

7層の黒褐～黒色を呈する砂・偽礫混り泥は、5-8層形成期直前の地震動により変形しているものの、軟X線写真・土壌薄片の観察結果から、粒度組成が不均一で、微小な団粒、炭化物片、8層由来の大小の偽礫などが混入、壁状構造をなすことが確認された。このような構造は現世の水田作土の構造と類似しており、7層が台地上での水田開発に伴い形成された作土であることを示している。

7層からは、栽培植物のイネ属に由来する植物珪酸体が産出した。その含量密度は地点によりバラツキが認められたものの、ほとんどの地点で機動細胞珪酸体で1,500~2,000個/g、多い地点で6,200~3,700個/gを示した。稲作が行われた水田跡の土壌では、イネ属の機動細胞珪酸体が5,000個/g程度検出されることが多く、安定した水田稲作が行われたことを推定する目安となっている[杉山2000]。今回の結果は、この目安となる含量より少ない地点が多いが、多い地点も認められる。遺跡の植物珪酸体分析事例では、畦畔などが検出されている遺構検出面からほとんどイネ属珪酸体が検出されなかった事例[バリノ・サーヴェイ2001・2002]や、水田による稲作が行われたと判断される層準を覆う自然堆積層や隣接する遺構埋土からイネ属珪酸体が大量に検出された事例[バリノ・サーヴェイ

1996a・辻康男ほか2004]なども存在する。これらのことと、上記したように7層が台地上での初期段階の水田作土に相当することを踏まえると、イネ属植物珪酸体は調査区内での稲作に伴うものであることが推定される。また、7層の花粉化石群集はイネ科を主とした草本花粉が多産することから、7層形成期の調査地点が開けた場所であったことが窺える。草本花粉には、小型の水生植物であるサジオモダカ属・オモダカ属・イボクサ属・ミズアオイ属・ミズニラ属、道端や畠などに生育する種を含むオオバコ属・カラスノゴマ属・オナモミ属などが認められた。このうち水生植物の種類は当時の水田雑草として生育しており、オオバコ属などは畦畔などの比較的高燥な場所に生育していたものと思われる。

ii) 6層形成期

6層は、7層の水田作土を覆う、上方粗粒化する細粒砂が混り有機質泥～細粒砂混り泥からなる。本層は地震動の変形により堆積・土壌構造が不明瞭となっているが、概ね次のような堆積環境であったことが推定される。

下部の6-2層形成期は、氾濫によって供給された泥を主体とする浮遊物質が静水域で沈降する河川の後背湿地のような堆積環境であったと推定される。6-1層形成期も基本的には6-2層と同様な堆積環境にあったが、本層形成期には氾濫堆積物の流入が増加する。これら6層中には植物遺体がほとんど認められないことや、塊状をなすことから、土壌発達する時期を挟んでいたことが推定される。

このように6層形成期は調査区内の堆積環境が変化し、何らかの理由による地下水位の上昇が起こり、氾濫堆積物が流入するようになり、累積性の土壌が形成される堆積環境へ変化したことが推定される。形成年代は、出土遺物から飛鳥～奈良時代と推定される。なお、6-2層形成期は調査区の低い領域が水没した可能性があり、7層で行われていた水田耕作が一時的にせよ放棄された可能性がある。

6-2層形成期後半から6-1層形成期初期には、調査区西部(2地点)において、6-2層の有機質泥を盛土した畦畔が構築される。また、6-1層形成期にも調査区東側(9地点・7地点など)に6-1層をブロック状に切り出した盛土からなる畦畔が構築されている。4地点の6-1層最上部は、土壌薄片観察の結果、水田作土に類似する構造が確認され、水田作土に相当する可能性が推定される。また、6-2層および6-1層の植物珪酸体分析の結果、いずれの調査地点からも栽培植物のイネ属由来の植物珪酸体が産出した。イネ属の含量密度は、植物珪酸体含量密度が低くなっているに関わらず、7層と同等の密度を示した。これらのことを複合的に捉えと、6層形成期は地下水位の上昇により水田耕作が放棄される時期を挟するものの、基本的には耕作地としての土地利用が継続していたことが推定される。ただし、6層は畦畔構成堆積物も含め、6層形成直後に発生した地震により著しく変形しているため、作土の累重状況や畦畔がどのようなタイミングで構築されているかなどの詳細は不明である。

iii) 5層形成期

6層形成後も調査区一帯の地下水位は上昇傾向にあり、5層の粗粒な氾濫堆積物が流入する氾濫原へと変化する。この氾濫堆積物は堆積層の層相および人為的擾乱状況より5-1層～5-8層に細分される。形成時期は、出土遺物から8世紀頃である。

最下部の堆積ユニットである5-8層は、植物遺体片を挟む斜交葉理をなす細粒～中粒砂からなる。この5-8層が堆積する直前に上記した7層・6層を变形させた地震が発生していることが軟X線写真から確認された。7・6層で確認された变形構造は、水底下の堆積物で確認される变形構造であることから、5-8層形成期の調査区は地下水位が高く、水没していたことが推定される。

5-8層堆積後、調査区中央部(5地点)において、5-8層を芯土とし、その上位に周囲に堆積した5-8層から切り出したブロック土を盛土して畦畔が構築されている。6層形成期に調査区西部(2地点)に構築された畦畔の上位にも同様の方法で畦畔が再構築されている。この2列の畦畔の間の領域の5-8層は、上面での人間活動による下方への圧力により葉理構造が破壊され、下に凸な变形構造をなすブロック土が形成されており、上部は著しく攪拌されている。一方、5地点の東側の5-8層は層全体が著しく攪拌されている。これらの人為的攪拌層単からは、6層よりやや少ないものの栽培植物のイネ属が産出する。これらのことから、5-8層の氾濫堆積物の流入後も調査区内は耕作地としての土地利用が継続していたことが推定される。また、5-8層における人間による堆積物の削剥は5地点より西側で顕著であり、その影響により5地点の畦畔東側の領域は、5-7層以降の氾濫堆積物が主体部が流入する場所へと変化する。意図的にこのような土地条件を構築した可能性もあるが、今後の事例の蓄積をもって検討する必要がある。

5-7層形成期以降の調査区は、4b層形成期まで堤防決壊堆積物が頻繁に流入する堆積場に変化する。この堆積期間にも調査区中央部と西部の畦畔は、調査区に堆積した氾濫堆積物などを用いて数回補強されている。このような同じ畦畔を再構築していく状況は、条里地割の施工過程を考える上で興味深い結果といえる。なお、4b層形成期には破堤堆積物の流入も収まり、平坦地化し、堆積している氾濫堆積物を攪拌して畝を構築していたことが確認される。

2) 周辺植生の変化

花粉化石群集は、8層上部から7層を境として層的に変化した。8層の花粉化石群集は、木本花粉が卓越し、その中でツガ属・モミ属・スギ属・マツ属などの温帯性針葉樹と常緑広葉樹のアカガシ亜属が多産する特徴を示している。8層は、縄文時代前期に形成された長原遺跡標準層序NG12層に対比される可能性がある。8層上部は7層の人為的擾乱の影響を受けており、7層由来の花粉化石が混入している可能性もあるが、7層で層的に変化することから、その影響は小さく8層形成期の植生を概ね反映しているものと判断して検討する。

河内平野周辺の扇状地から山麓部では、縄文時代中期前半から中頃に開析流路が形成される。この開析流路は侵食・堆積を繰り返しており、多量の土砂を流出している。このような地形変化と連動して植生も変化し、開析流路河岸は離水し植生擾乱の影響が弱まり、常緑広葉樹林の成立領域へと変化した。一方、開析谷からの土砂流出の増大による扇状地の発達、その背後の地滑り地などを生育適地とする温帯針葉樹が分布拡大し、本時期が旧地形の変化と陸域の拡大が多様な植生を成立させる時期であったことが推定されている[辻本裕也2007]。今回の8層の花粉化石群集でも温帯性針葉樹や常緑広葉樹が多産しており、同調的な変化として認識できる。ただし、長原遺跡における既往の調査で確

認められている縄文時代前期～中期の花粉化石群集、例えば[渡辺正巳2001など]と比較すると、今回の調査地点で温帯性針葉樹の産出率が高いことが窺える。このような地点間での花粉化石の産状の差異は、局所的な植生やタフノミーの違いに起因する可能性がある。今後、各地点の堆積層の成因や地形発達過程を踏まえた評価を行うことにより検証できるものと思われる。

飛鳥時代の水田作土である7層では、木本花粉が減少し、草本花粉が増加する。草本花粉は木本花粉と比較して、より局地的な植生を反映することが知られている。このことから、7層における花粉化石群集の変化は、調査区ないしその近辺における耕作地造成に伴う草地の領域の拡大を反映していることが推定される。一方、木本花粉組成を見ると、8層と比較してスギ属が多産することが確認される。木本花粉組成は地点間でのバラツキが小さいことから、遠距離飛来した平均化された化石群集と判断される。すなわち、調査地点より離れた場所の植生を反映していることになる。調査区周辺には針葉樹のマツ属やスギ属、常緑広葉樹のアカガシ亜属などが、それぞれの生態性の応じた場所で分布していたものと思われる。また、長原遺跡では、古墳時代以降にスギ属の花粉が増加傾向を示すことから、同調的な変化として認識できるが、NG99-41次調査区の花粉分析結果[渡辺正巳2002]など、古代の層準でも常緑広葉樹のアカガシ亜属が40%前後と多産する地点も認められる。このように本時期の花粉化石群集も地点間で異なっており、上記したような局所的な植生やタフノミーの違いに起因する可能性がある。

7世紀～8世紀に形成された6層および5層下部の花粉化石群集は、5層下部でマツ属花粉がやや増加している地点もあるが、基本的には7層と類似している。したがって、周辺植生は飛鳥時代から奈良時代を通じて、大きく変化しなかったことが推定される。

(辻本)

第2節 長原遺跡における尖頭器製作について

1) はじめに

今回の調査では、I区南端において剥片176点(うち出土位置を記録したもの97点、水洗・篩別作業により捕集されたもの79点)、碎片899点(単純最大長が1cm未満のもの。うち水洗・篩別作業により捕集されたもの891点)からなるLC1201を検出した。この集中部は石器類を含まず、剥片のみで構成されており、分布範囲も径5m程度で集中部としては小規模なものであった。石器遺物が出土した集中部の範囲については、発掘時の排土を1mグリッド毎に回収して水洗・篩別作業を行い、微細石器遺物を捕集した。その結果、範囲内からは899点の微細石器遺物を捕集することができた。

集中部から出土した剥片は、貝殻様の形状を呈する剥片が多く、線状・点状・口唇状打面であるものが目立った。こうした形態は両面調整尖頭器の製作時に生じる調整剥片の特徴を備えたものであった。集中部の時期は推定であるが、LC1201が長原遺跡標準層序の長原12-13層漸移帯に相当する地層から検出されたことや尖頭器製作という内容からみて、縄文時代草創期～早期前半と判断した。

長原遺跡ではこれまでの調査において、NG89-19次調査地で両面調整尖頭器を製作した石器遺物集中部が見つかっている。この調査地で検出されたLC1203からは、尖頭器製作の際に生じた調整剥片だけではなく、尖頭器のブランク(原形)も出土している。今回の調査地と同様に、尖頭器製作の遺構であることと長原12-13層から検出されたことから縄文時代草創期の所産と判断された。以下にその概要を述べる。

2) NG89-19次調査地の石器遺物集中部について

NG89-19次調査地は平野区長吉川辺3丁目10に所在する。発掘調査は1989年～1990年にかけて実施された。長原遺跡標準層序の長原12-13層内において、今回報告を行ったNG07-3次調査地と同様、尖頭器の製作址とみられる石器遺物集中部1箇所が見つかった[大阪市文化財協会1996]。LC1203からは1,081点の石器遺物が出土した。石器遺物は多量の剥片・碎片とともに尖頭器のブランク(原形)である石核、叩き石などで組成される。叩き石の2点がチャートと砂岩製で、それ以外の使用石材はすべてサヌカイトであった。既述したように、所属時期は尖頭器製作に関わる石器群であることから縄文時代草創期と推定されている。

LC1203において出土位置が記録された石器遺物は1,081点であったが、これ以外にも、発掘時の排土を回収して土壌の水洗・篩別作業を行うことで多数の微細石器遺物が捕集されている。排土が回収されたのは石器遺物集中部の全域をカバーした20㎡(4m×5m)で、この範囲から出土した微細石器遺物の総点数は3,909点であった。このうち、最も微細石器遺物が集中していたのは石器遺物集中部の遺物分布域の中心から少し西寄りの部分で、U8区と呼ばれる1m×1mの小グリッドからであった。ここからは1,614点と全体の半数に近い微細石器遺物が捕集されている。

NG89-19次調査地のLC1203から出土した石器遺物は、ほぼすべてが尖頭器製作に関わるものと

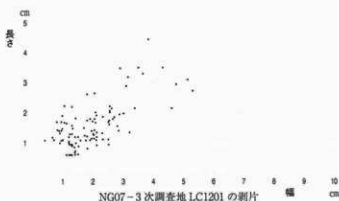
判断してよい。ただし、尖頭器の完成品は1点も出土しておらず、ブランク(原形: 原報告では石核と分類している)とその製作時に生じた調整剥片で構成される。

NG89-19次調査から出土した石器群は、学術的にも非常に重要な縄文時代草創期の尖頭器製作址であるが、原報告時に紙幅の都合で主要接合資料の実測図を掲載できなかった。そこで、今回、NG07-3次調査地から出土した石器群の性格を明らかにするため、両調査地の比較検討が必要となったため、本稿において改めて必要な資料の提示を行うこととした。なお、石器遺物の出土状況など、その他の発掘情報については原報告を参考にされたい。

3) NG07-3次調査地出土の石器群

今回報告の対象としているNG07-3次調査地では、規模は小さいものの、剥片の特徴から尖頭器製作を行ったLC1201が見つかった。長原遺跡ではNG89-19次調査地に続き2例目であった。LC1201からは尖頭器やそのブランク自体は見つかっていないが、出土した剥片のほとんどが尖頭器の調整剥片とみなしうる。そこで、まず両者の剥片群を比較することとした。これによって、NG07-3次調査地のLC1201から出土した剥片類が尖頭器の製作工程の中でどの段階に生じたのかを明らかにできると思われるからである。

LC1201は、長原12-13層に相当する地層で検出された。集中部の規模は南北約5m、東西約4.5mであった。ごく短期間のうちに残された一括性の高い資料である。このうち剥片176点(うち出土位置を記録したもの97点、水洗・篩別作業により捕集されたもの79点)を分析の対象とする。比較対象となるNG89-19次調査地の石器群については、前述のとおりである。



4) NG07-3・89-19次調査地から出土した剥片の属性分析

剥片の大きさ: まず両調査地から出土した剥片について、その大きさを比較する。図48はNG07-3次調査地(LC1201)およびNG89-19次調査地(LC1203)から出土した剥片の長幅グラフである。NG07-3次調査地の剥片は、長幅3cmを境に2つのグループに分かれる。大半

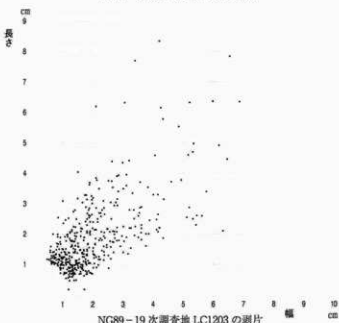


図48 剥片の長幅グラフ

は長幅とも3 cm以内の大きさの剥片で、それ以上の大きさの剥片は少なく、剥片の形状も長幅比1:1前後とならず横長剥片の割合が多い。一方、NG89-19次調査地の剥片は、やはり大半が3 cm以内のものが多く、NG07-3次調査地とは異なって長幅3~5 cm程度の大きさの剥片も多い。また、これらの剥片は長幅比1:1前後のものが大半であるが、それ以下の大きさの剥片と比べると横長剥片のグループと幅広い短形剥片のグループにまとまる傾向がある。後者のグループはNG07-3次調査地では認められないものである。剥片の大きさからみて、尖頭器製作が積極的に行われた痕跡のあるNG89-19次調査地に対し、NG07-3次調査地でも、ほぼ同じ大きさの剥片がまとまって認められる。したがって、NG07-3次調査地のLC1201では、NG89-19次調査地とほぼ同じ段階の尖頭器製作工程が実施されていたことが窺える。

打面形態：次に両調査の剥片に残された打面形態について比較する(表6)。NG07-3次調査地では176点、NG89-19次調査地では737点を観察対象とした。打面形態は①礫面打面、②単剥離面打面、③複剥離面打面、④口唇状打面、⑤点状打面、⑥線状打面、⑦粉碎打面(剥離時)に分類した。詳細は表6に示したとおりである。尖頭器製作については、工程の進行に伴って④~⑥の打面形態のものが多くなる。特に口唇状打面は、尖頭器のような両面調整を製作する過程で生じやすい打面形態である。NG07-3次調査地とNG89-19次調査地を比較すると、両者に大きな違いは認められない。ただし、NG89-19次調査地では、礫面打面と単剥離面打面の比率が多くなることから、NG07-3次調査地と比べて、より前半の段階の作業工程も行われたことを示している。

背面の剥離面構成：剥片の背面に残された主要な剥離痕(素材面のような古い剥離面は除く)について、その方向をⅠ~Ⅳの4方向に分類して類型化を行った(表7)。Ⅰは基部(打面)方向からの剥離痕、Ⅱは右側縁方向からの剥離痕、Ⅲは末端方向からの剥離痕、Ⅳは左側縁方向からの剥離痕が背面上に残されていることを示す。詳細は表7に示したとおりである。両者とも当然ながら最も多いのはⅠ方向の基部(打面)側からの剥離であった。背面の剥離面構成を比較する限り、両調査地の剥片に有意な違いは認められず、尖頭器製作においてはほぼ同様の作業を行っていたことがわかる。

表6 剥片の打面形態

打面形態	NG07-3次調査地		NG89-19次調査地	
	点数	%	点数	%
礫面打面	5	4.0%	54	10.3%
単剥離面打面	10	8.1%	64	12.2%
複剥離面打面	4	3.2%	33	6.3%
口唇状打面	17	13.7%	54	10.3%
点状打面	22	17.7%	90	17.1%
線状打面	58	46.8%	204	38.8%
粉碎打面	8	6.5%	27	5.1%
小計	124	100.0%	526	100.0%
形態不明	52	29.5%	211	28.6%
総計	176	100.0%	737	100.0%

表7 剥片背面の主な剥離方向

主な剥離方向				NG07-3次調査地		NG89-19次調査地	
Ⅰ-基部 基面側	Ⅱ-右側縁 右側縁側	Ⅲ-末端 末端側	Ⅳ-左側縁 左側縁側	点数	%	点数	%
○				96	59.6%	454	77.9%
○ ○				20	12.4%	74	12.7%
○ ○ ○				1	0.6%	8	1.4%
○ ○		○		6	3.7%	21	3.6%
○ ○ ○ ○				0	0.0%	2	0.3%
○		○		4	2.8%	24	4.1%
○		○ ○		1	0.6%	8	1.4%
○			○	12	7.5%	35	6.0%
	○			9	5.6%	42	7.2%
	○ ○			0	0.0%	4	0.7%
	○ ○ ○			0	0.0%	2	0.3%
	○	○		6	3.7%	14	2.4%
		○		3	1.9%	11	1.9%
		○ ○		1	0.6%	2	0.3%
		○		2	1.2%	25	4.3%
小計				161	100.0%	583	100.0%
不明・その他				15	8.5%	20	3.3%
総計				176	100.0%	603	100.0%

表8 剥片背面に残された礫面

礫面の残存位置				NG07-3次調査地		NG89-19次調査地	
I 基底部	II 右側縁	III 左側縁	IV 左側縁	点数	%	点数	%
○				3	5.7%	49	35.5%
○	○			2	3.8%	3	2.2%
○	○			1	1.9%	2	1.4%
○	○	○	○	15	28.3%	17	12.3%
○		○		2	3.8%	0	0.0%
○		○	○	2	3.8%	2	1.4%
○			○	2	3.8%	3	2.2%
	○			6	11.3%	26	18.8%
	○	○		2	3.8%	2	1.4%
	○	○	○	1	1.9%	3	2.2%
	○		○	1	1.9%	1	0.7%
		○		11	20.8%	10	7.2%
		○	○	2	3.8%	2	1.4%
			○	3	5.7%	18	13.0%
総 計				53	100.0%	138	100.0%
背面に占める礫面の比率				NG07-3次調査地		NG89-19次調査地	
な し				123	69.9%	592	81.1%
25%未満				17	9.7%	67	9.2%
25%以上50%未満				11	6.3%	35	4.8%
50%以上75%未満				6	3.4%	12	1.6%
75%以上				3	1.7%	3	0.4%
全面・ほぼ全面				16	9.1%	21	2.9%
総 計				176	100.0%	730	100.0%

表9 剥片のバルブと内湾の程度

バルブの発達度合い	NG07-3次調査地		NG89-19次調査地	
	点数	%	点数	%
(発達せず)	148	84.1%	643	87.8%
(発達)	4	2.3%	22	3.0%
(発達強)	0	0.0%	2	0.3%
(不明)	24	13.6%	65	8.9%
合 計	176	100.0%	732	100.0%
主剥離面の内湾度合い	NG07-3次調査地		NG89-19次調査地	
	点数	%	点数	%
(内湾なし)	146	83.0%	593	81.0%
(内湾あり)	22	12.5%	103	14.1%
(大きく内湾)	8	4.5%	36	4.9%
総 計	176	100.0%	732	100.0%

以上のように、NG07-3・89-19次調査地の2つの剥片群を比較したが、両者の比較を通してNG07-3次調査地のLC1201では尖頭器製作の中でもより後段階の作業が実施された可能性が高い。大型剥片が少なく、礫面の付着した剥片もそれほど多くないことから、NG07-3次調査地のLC1201では、他所よりブランクを持ち込んで調整剥離を行い、加工した石器(完成品かどうか不明)をふたた

背面における礫面の付着と比率：次に剥片の背面にどれだけの礫面が残されているかを検討しておく(表8)。尖頭器の製作工程の中でも、初期段階の場合は剥片の背面に礫面が残される比率が高くなることが予測されるからである。背面のうち礫面が残された位置については、前述の剥離面構成で分類したI～IV方向(I：基底部、II：右側縁、III：末端側、IV：左側縁)で示す。詳細は表8に示したとおりである。NG89-19次調査地では礫面打面の小型の剥片が多いため、基底部に礫面を残す剥片の比率が高くなっている。礫面を直接打撃するような初期工程に関係する剥片の比率は、NG89-19次調査地が高いことがわかる。NG07-3次調査地の剥片は礫面が大きく残された剥片も多いが、持ち込まれたブランクの形状による。NG07-3次調査地に持ち込まれたブランクは、加工頻度が低いものであったかもしれない。いずれにせよ、NG07-3次調査地のLC1201では、尖頭器の最終的な仕上げ工程ではなく、ブランクの整形作業を中心とした作業工程が行われたことを示唆させる。

バルブの発達度合いと主剥離面の内湾度合い：尖頭器の調整剥片である場合、打撃もより慎重となり、ソフト・ハンマーの利用頻度も高まることが予測される。したがって、剥片においてはバルブが大きく膨らむことは少ないものと思われる。さらに、両面調整体を加工する特性上、レンズ状となるように薄く剥離を繰り返していくため、剥片の主剥離面側が内湾するものが多い。こうした調整剥片に特徴的な属性について、両調査地の剥片を比較してみた(表9)。詳細は表9の通りである。両者ともバルブが発達しない剥片が多数を占め、内湾する剥片も一定量認められることから、両遺跡で尖頭器のブランクとなる両面調整体の加工が行われていたことは明確であるといえよう。

び他所へ持ち出したものとみられる。

次項では尖頭器製作の実態がどのようなものかを示すため、NG89-19次調査地から出土した接合資料に注目したい。この検討を経て、NG07-3次調査地のLC1201で行われた作業工程の詳細を明らかにしたい。

5) NG89-19次調査地の接合資料

次に尖頭器の製作工程を復元し、その詳細を比較するため、NG89-19次調査地から出土した接合資料を検討する。これらの資料は、ほぼすべてが尖頭器本体の製作工程に関わるものである。尖頭器のブランク(原形)と調整剥片が接合したもの、あるいは調整剥片のみの接合でブランクがないものという2つのパターンが接合資料には認められる。完成した尖頭器本体はLC1203では出土していないが、これまでに周囲の調査地からは有茎尖頭器が複数出土している。ただし、NG89-19次調査地で製作された尖頭器は、有茎尖頭器の可能性もあるが、ブランクの形状、大きさ、厚さなどから木業形尖頭器であった可能性が高い。以下にNG89-19次調査地で出土した主要な接合資料について実測図を示し、製作工程に着目して概要を述べておく。

i) 尖頭器のブランクと調整剥片が接合する資料

89JBB1は、ブランク(原報告では両面調整石器:遺物点数1点)に調整剥片どうし(遺物点数28点)が接合した資料である(図49)。接合状態で長さ13.89cm、幅8.41cm、厚さ3.57cm、重量359.20g、ブランク単体では長さ12.15cm、幅6.89cm、厚3.57cm、重量268.90gである。本資料で特筆されることは、ブランクである89BE203がLC1203ではなく、42mほど離れたNG89-23次調査地から出土したことである。この2つの調査地間で接合した本資料は、LC1203で尖頭器の調整加工を行い、半成品のブランクの状態で他所に持ち出されたことを直接示す重要な資料である。

本資料は大型の分厚い剥片を素材としており、原礫を輪切りにするように剥離したもので、背面全体が礫面である。断面はD字状を呈する。接合した調整剥片は礫面側を剥離したものが多く、長軸方向に直交するように両側縁の表裏両面から調整剥離が行われている。礫面側の調整剥離はやや斜度のある深形の剥離が施され、もとの素材剥片の主剥離面側は薄形かつ深形の調整剥離が施されている。調整剥離の大半は側縁からのもので長軸方向に沿った剥離はほとんど認められない。持ち出されたブランクは、礫面が大きく残され、厚さもあるが、断面がレンズ状になるように調整加工されており、形状も左右対称な長楕円形に仕上げられている。LC1203から出土した接合資料の中では、最も大きく重量がある資料であるが、この集中部で調整剥離が進行して、89BE203がブランクとして他の場所へ持ち出される段階では、この集中部で製作された他のブランクまたは素材剥片とほぼ同じくらいの大きさに整形されている。したがって、89BE203のブランクは、尖頭器製作工程における半成品(中間製作物)のあり方を示したものと見える。尖頭器製作においては、一度に素材剥片から完成品まで製作を進めるのではなく、ある程度ブランクを量産しておき、その後仕上げる工程を行うという方法が一般的であった可能性がある。

89JBB37は2つに大きく分割されたブランク(原報告では石核:遺物点数2点)と調整剥片(遺物点

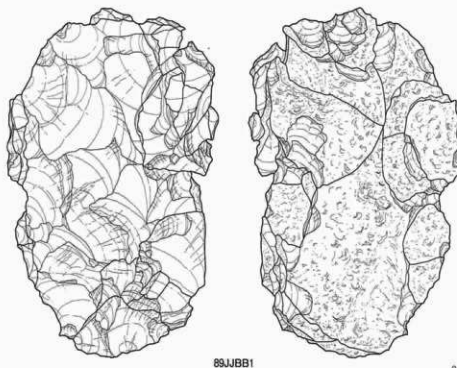
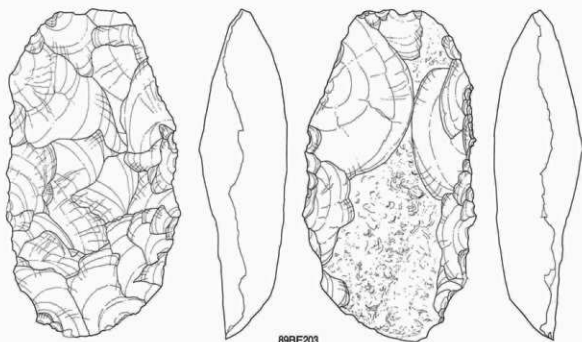


図49 NG89-19次調査地の接合資料実測図(1)

数21点)が接合した資料である(図50)。接合状態での大きさは長さ10.76cm、幅7.82cm、厚さ2.47cm、重さ161.80gである。分厚い板状剥片を素材としており、製作目的であったブランクは最終的に割れてしまい、廃棄されたようである。調整剥離の失敗した例といえる。ブランクの大きさは長さ10.61cm、幅7.05cm、厚さ1.98cm、重量141.00gである。

ブランクの素材が分厚い板状の剥片であるため、周縁部には薄く平坦な調整剥離を加えて器厚の均等化を試みている。特に剥片の分厚い部分に集中して調整剥離が施されている。周縁からやや浅形で

薄形の平坦な調整剥離を加えることで、断面形状を整えて次段階の調整加工を容易にしようと意図したものと思われる。こうして連続して実施された調整剥離の後、長軸方向に直交する側縁から大きく深い侵形の調整剥離を試みたもののブランクが二分割されるようなオーバー・ショットとなってしまったようである。なお、この段階までは調整剥離はほぼ片面のみで実施されている。また、いったんブランクが二分割された後も基部側の素材を利用して調整剥離が加えられているが、ふたたびオーバー・ショットにより分割されてしまい、ブランクは放棄されている。

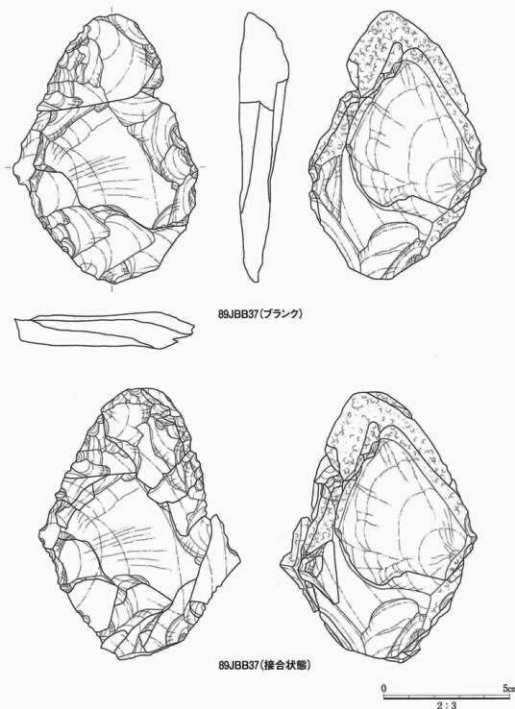


図50 NG89-19次調査地の接合資料実測図(2)

89JBB62は片面に大きく礫面を残す調整剥片どうし(遺物点数9点)とブランク(原報告では石核:遺物点数1点)で構成される接合資料である(図51)。分厚く断面がD字状となった剥片がブランクの素材となっている。長さ9.97cm、幅6.82cm、厚さ2.51cm、重量140.90gである。

最初に素材剥片の主剥離面側に長軸方向に沿うように幅広く縦長の大型剥片が剥離されている。この後、長軸に直交する左右の側縁から、平坦な素材剥片の主剥離面側に薄形の調整剥離が施されている。礫面で覆われた背面側にも側縁から剥離が加えられているが、こちらは部分的なもので終わっている。ブランクは剥離事故による割れこそなかったものの、もとの素材剥片の形状がいびつで調整剥離による修正が困難と判断されたのか、それ以上の調整加工は行われていない。ブランクの大きさは長さ9.97cm、幅6.23cm、厚さ2.31cmで、長さが10cm程度であることは他のブランクと共通している。

ii)調整剥片どうしの接合のみでブランクが集中部から搬出された資料

89JBB24は調整剥片どうし(遺物点数30点)が接合した資料である(図52)。長さ10.1cm、幅5.4cm、厚さ2.2cm、重量73.40gである。調整剥片のみで構成され、中身のブランクはLC1203の外に持ち出されたようである。連続して剥離された調整剥片のうちブランクの片面側に当る部分が接合した資料

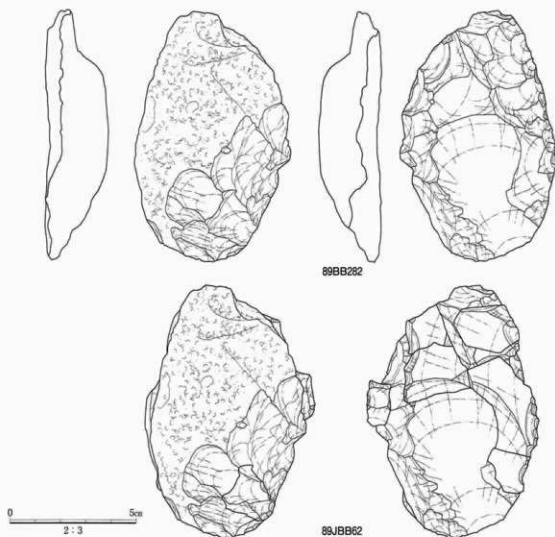


図51 NG89-19次調査地の接合資料実測図(3)

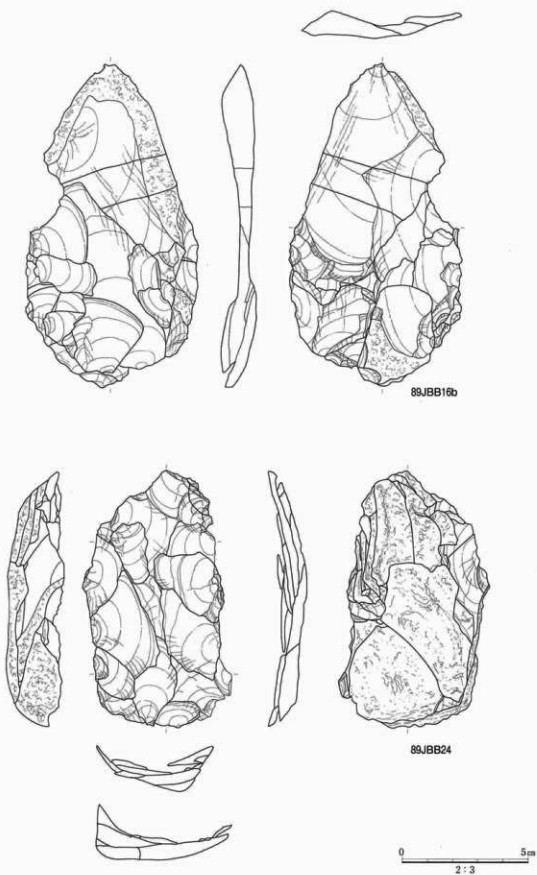


図52 NG89-19次調査地の接合資料実測図(4)

である。持ち出されたブランクの大きさは長さ10cm、幅5cmほどであったものとみられる。

ブランクの素材は、背面全体が礫面で覆われた分厚い剥片であったとみられる。おもに長軸に直交する左右の側縁からそれぞれ連続的に調整剥離が施されているが、左右交互あるいは表裏交互というように打面と作業面を入れ替えていく方法ではなく、側縁に沿って打点をずらしながら複数回の単位で調整剥離を連続させている。この作業単位を基本として全体の調整加工を進行させており、調整剥離は器幅の1/2を超えて侵形となるものが多い。また、側縁だけでなく長軸方向に沿った調整剥離が加えられており、その際、偶発的ではあるが、石刃様の縦長の剥片も剥離されている。LC1203から出土した他の接合資料においても、長軸方向に沿った深形の剥離痕や縦長の調整剥片を認めることができる。こうした石刃状剥片を剥離していく過程は、器厚を減じて均等で薄いレンズ状の尖頭器を製作するためには必要な製作工程であった可能性がある。

89JBB16bは調整剥片どうし(全資料は遺物点数28点で構成される)が接合した資料である(図52)。長さ12.78cm、幅6.89cm、厚さ1.51cm、重量202.10g(総重量:実測図はいくつかの剥片をはずしている状態)である。原礫を輪切りにした分厚い剥片を素材としている。ブランクはLC1203内から見つかっていないので、最終的には持ち出されたものと思われる。ただし、良好な状態のブランクであっ

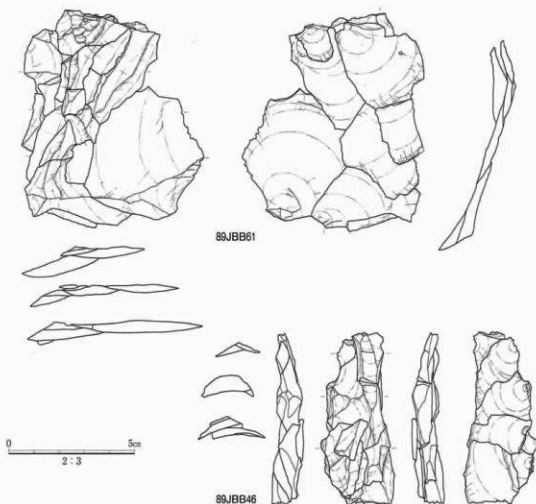


図53 NG89-19次調査地の接合資料実測図(5)

たとは思えない。

最初に長軸方向に直交するように側縁から調整加工を施して器形の調整を試みているが、うまく調整ができなかったようである。その後、先端側から縦長の大きな剥片を剥離している。これは他の接合資料でも見られるように、ブランクの器厚を減じ、断面が菱形ではなくレンズ状となるように意図した剥離である。しかし、この後、ブランクを大きく整形して大幅な再加工を試みている。このため、ブランクの器長は当初の2/3以下になっている。さらに今度は長軸方向の基部側から石刃様の調整剥片が剥離されている。これも最初の長軸方向の縦長の剥片剥離と同様の目的であったとみられる。次に調整剥離は側縁側から施されている。この接合資料のブランク本体は集中部内では見つかっていないため、最終的な形態は不明である。

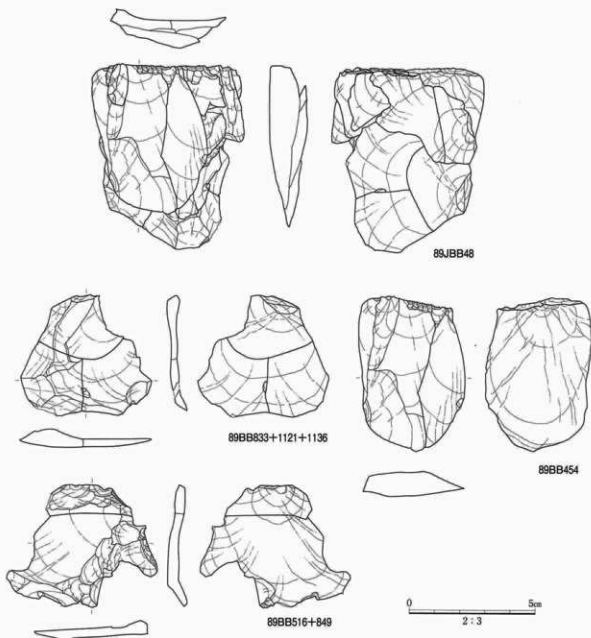


図54 NG89-19次調査地の接合資料実測図(6)

89JBB61は剥片どうし(遺物点数16点)が接合した資料である(図53)。長さ7.18cm、幅8.63cm、厚さ1.04cm、重さ45.00gである。この接合資料のブランクもLC1203内に残されていなかった。接合面は素材となった大型剥片の主剥離面側で、長軸に対し直交方向の両側縁から剥離された調整剥片どうしが接合したものと思われる。対向する両端の幅が7.5cm前後で、ブランクの器幅もそれより少し小さいものだったと推測される。器幅の1/2を超える侵形の調整剥離が施され、薄く幅広の調整剥片が連続して剥離されている。

89JBB46は調整剥片どうし(遺物点数8点)が接合した資料である(図53)。長さ7.18cm、幅2.92cm、厚さ1.25cm、重さ14.10gである。この接合資料に対応するブランクはLC1203内では見つかっていない。背面側にも腹面と同じ方向の剥離痕が残されていることからブランクの側縁へ調整剥離を施した際に生じた剥片と判断できる。ブランクの形状は不明であるが、幅が7cm以上あることから、やはり他の事例と同様、長さは10cm程度であった可能性が高い。

89JBB48は剥片どうし(遺物点数14点)が接合した資料である。長さ7.35cm、幅6.02cm、厚さ1.45cm、重さ71.60gである。初期段階の調整剥片が接合したもので、最初に幅広で縦長の剥片が連続して剥離されている(図54)。図示した89BB454である。この後、打撃位置を側方へ90°転位して調整剥離が継続して行われている。89BB516+849と89BB833+1121+1136の2点の剥片は、前述した幅広かつ縦長の剥片群とは異なり、口唇状打面で主剥離面が内湾したものであり、典型的な尖頭器の調整剥片である。したがって、前者の剥離はこれまでの事例からみて、ブランクの長軸方向から器厚を減ずるために行われた初期段階の調整剥離で、後者の剥離はブランクの長軸に直交させるように側縁から行われた調整剥離ということになる。

iii) ブランクに用いられた素材剥片

そのほか、LC1203からは尖頭器のブランク製作に利用された素材剥片の形状を残す資料が出土している。

89JBB16a(全資料は遺物点数10点で構成される)は背面に礫面を残した分厚い横長剥片である(図55)。原礫の分割剥離の初期段階で得られたものである。長さ8.45cm、幅11.13cm、厚さ2.50cm、重さ111.80g(総重量:実測図はいくつかの剥片をはずしている)である。この素材剥片は打面部が大きく肥厚し、内湾していたことから、打面部側に複数回の剥離を加えてバルブの除去を行っている。主剥離面側をほぼ平坦にする目的であったとみられる。この後、主剥離面側の周縁から背面の礫面を剥ぎ取る調整剥離が行われたが、この際に剥離に失敗して剥片本体を分割してしまったようである。LC1203から出土した他の接合資料で確認されたブランクと大きさがほぼ共通しており、尖頭器製作の初期工程を知る上でも重要な資料である。

このほか、ブランクに用いられる素材剥片の可能性のあるものとして89BB662がある(図55)。長さ6.45cm、幅7.78cm、厚さ1.95cm、重さ94.50gである。ほかのブランクと比較して小振りであったため、結局、ブランクの素材として用いられることはなかったとみられるが、全体の形状や剥離方法が89JBB16aと共通しており、ブランク用の素材を取得するための作業工程で剥離された剥片の1つであろう。

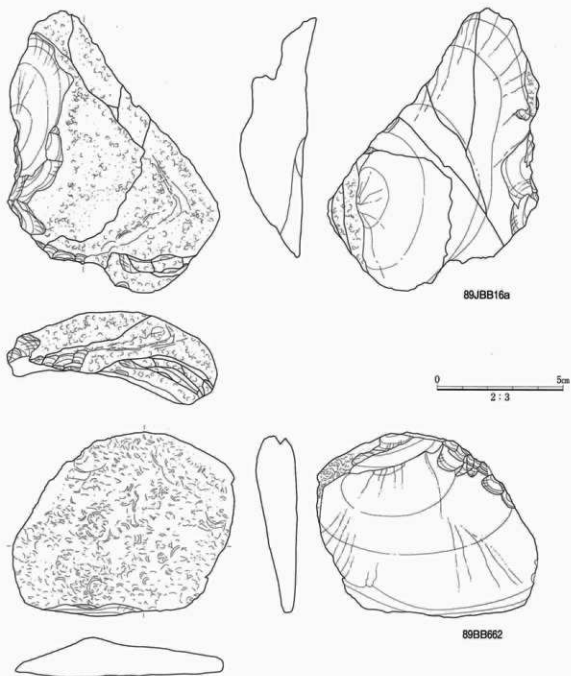


図55 NG89-19次調査地の接合資料実測図(7)

6) 長原遺跡89-19次調査地における尖頭器製作について

NG89-19次調査地のLC1203から出土した接合資料が示す尖頭器製作は以下のように復元される。

①原礫と初期工程：接合資料のあり方からみて、尖頭器製作に用いられたサヌカイト礫の大きさは、直径20～30cm程度の円礫・亜円礫であったと推測される。しかし、LC1203では多数の尖頭器のブランクを製作した痕跡が認められるのに対し、サヌカイト礫を分割した残核が見あたらないことから、サヌカイトの原礫を直接LC1203に持ち込んだのではなく、原礫の分割作業は他の場所で行い、ブランク製作に利用可能な素材剥片を選択して持ち込んだ可能性が高い。ごく初期の工程である原礫の分

削作業は原産地により近い場所で行われたと考えられる。二上山北麓の原産地遺跡群では、縄文・弥生時代の尖頭器やその未成品が多数認められることから、原礫の分割作業もサヌカイト原産地に近いこれらの遺跡で行われることが多かったとみられる。一方で、今回提示した長原遺跡の事例が示すように、尖頭器のブランク製作が原産地だけでなく、より消費地に近い遺跡でも行われていたことは明らかである。NG89-19次調査地には接合資料の内容からみて、少なくとも20点程度の尖頭器の素材となる大型剥片が持ち込まれていたと推定される。

②ブランクの製作工程：尖頭器のブランクの大きさは、実際にLC1203やそこから42m離れた場所から出土した89BE203などの事例を参考にすると、長さ10～13cm、幅5～7cm、厚さ2～4cm程度になる。ブランクの片面側に礫面が大きく残されているものが目立つが、これは礫面がもつ本来の湾曲が尖頭器の断面形をレンズ状に整える上で利用しやすく、こうした形状の剥片が好んで利用されたからであろう。

ところで、1つ注目すべき作業工程がある。ブランクの調整剥離に当たっては、長軸方向に直交する側縁からの調整剥離が中心となるが、それに先行するかたちで長軸方向に沿うように縦長の剥片が剥離される場合が多々見られることである。目的は器厚を減ずるためであり、長軸方向へ薄形かつ深形の剥離が施されるため、石刃様の剥片が剥離される場合もある。従来の資料報告や研究では、ほとんど注目されてこなかった作業工程である。

③完成した尖頭器：ブランクの大きさからみて、最終的な製品(完成品)は木葉形尖頭器であった可能性が高い。LC1203で製作されたブランクの89BE203が出土したNG89-23次調査地では、近接して有茎尖頭器が出土しており、当初は有茎尖頭器の製作と深く結び付いた石器群と考えていた。しかし、今回、新たな資料とともに比較検討を加えた結果、NG89-19次調査地のLC1203から出土したブランクから推定される完成品は有茎尖頭器よりも厚みのある大～中型の尖頭器とみられる。縄文時代草創期から早期前半には、木葉形尖頭器は有茎尖頭器とともに出土する事例も多いことから、NG89-23次調査地で認められたブランクと有茎尖頭器の近接した出土関係を、木葉形尖頭器のブランクと有茎尖頭器の共伴と捉え直すことが可能である。NG89-19次調査地で製作されたブランクは木葉形尖頭器製作を目的としたものと判断しておきたい。ちなみに、NG89-19次調査地で認められたブランクとはほぼ同じブランクが出土した遺跡として、兵庫県淡路市まるやま遺跡[兵庫県教育委員会1998・2002]、同丹波市国領遺跡[兵庫県教育委員会1991]などがある。これらの遺跡では有茎尖頭器とともに木葉形尖頭器(あるいはその未成品)が共伴している。また、まるやま遺跡では御子柴系とみられる打製石斧も出土しており、縄文時代草創期でもより古い時期とみられる。その他、大阪平野の各所で出土している当該期の木葉形尖頭器もNG89-19次調査地出土のブランクと対応する大きさのものが散見される。

④複合的な石器製作：その他にも注目しておく作業工程がある。89JBB48の事例のように、尖頭器製作の初期工程において、幅広かつ縦長でやや厚みのある剥片が剥離されているが、こうした剥片が他の石器の素材として利用されるべく意図的に剥離されていた可能性がある。NG89-19次調査地では出土していないが、縄文時代草創期から早期前半にかけて有茎尖頭器や木葉形尖頭器とともに先刃

形搔器や円形搔器が共伴する事例が知られている。先に示したまやま遺跡例や大阪府東大阪市神並遺跡[東大阪市文化財協会1987]などでは多数の搔器が出土している。しかし、これらの石器の素材となった剥片を剥離した石核の存在はほとんど知られていない。今回、NG89-19次調査地で確認された幅広かつ縦長の剥片はこうした搔器類の素材剥片と特徴が共通している。長軸方向に沿って剥離される縦長かつ幅広の剥片剥離が、搔器の素材剥片として供給されることを前提に、いわゆる「埋め込み工法(embedded strategy)」[Binford, L.R. 1979]として尖頭器の製作工程に当初から組み込まれていたといえる。尖頭器と同じ両面調整石器の製作段階で他の剥片石器の素材供給が組み込まれている事例として、旧石器時代末の湧別技法による細石刃製作工程が挙げられる。この両面調整体が製作される初期工程では、幅広かつ縦長の剥片を利用して荒屋型彫器や搔器類が製作されることが知られている[櫻井美枝1992]。今回の検討によって、こうした複数の石器器種の複合作が縄文時代草創期から早期前半にかけての尖頭器製作にも引き続き存在していた可能性を指摘することができる。

7) NG07-3次調査地LC1201の性格について

以上のように長原遺跡では尖頭器製作に必要な石材を二上山北麓一帯で調達し、多くは素材剥片の状態を持ち込んだ可能性が高いことが明らかとなった。素材剥片からまず尖頭器のブランクが製作されるが、その初期の過程で生産される幅広で縦長の剥片は、長原遺跡では確認できなかったが、搔器類の素材として利用可能なものであった。NG89-19次調査地のLC1203では、尖頭器のブランクとともにこうした素材剥片も選択され搬出されたとみられる。一方、NG89-19次調査では、盛んにブランクの製作は行われたようであるが、尖頭器を完成品として仕上げる工程までは行われなかった。おそらく持ち出されたブランクは、必要に応じて他の場所で細部調整加工を施してさらなる仕上げ作業(プレ・フォームである半成品または完成品)を行ったものと思われる。そうした作業場の1つがNG07-3次調査地のLC1201である。この集中部の規模は小さく、遺物組成も調整剥片のみに限られることから、ごく短期間の滞在でブランクの調整加工を行い、加工を進めた尖頭器(未成品か完成品かどうかは判断できない)を再び持ち出したものと思われる。また、LC1201で再加工された尖頭器のブランクはせいぜい数個体程度であったとみられる。

NG07-3次とNG89-19次調査地の比較検討によって、縄文時代草創期(または早期前半段階)の尖頭器製作の実態が明らかとなった。ブランクの多量生産を行う一方で、必要に応じて消費地遺跡で仕上げ加工を進めていくあり方は、効率的な石器生産のかたちを示している。なお、今後の課題として、ブランクのデポ(貯蔵遺構)の探求や尖頭器の完成品の消費過程の解明がある。長原遺跡で見つかった今回の資料を比較検討した成果を活用しながらこの課題を明らかにしていく必要があろう。

(絹川)

表10 NG07-3 次調査地LC1201出土土片観察表(1)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	部分 抽出	地層 位置 (断面番号)	遺構	3座標 (基準点地)	Y座標 (基準点地)	標高	器種	石材	割片 分類	検出 番号	長さ (cm) *印欠損	幅 (cm) *印欠損
07AC	47	1区	07T11		0012-13	LC1201	—	—	—	割片	ササユイト	平削		1.29	* 0.75 *
07AC	101	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154893.724	-39003.781	7.720	割片	ササユイト	平削		0.7	* 1.3 *
07AC	102	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154893.698	-39004.660	7.690	割片	ササユイト	横削面削		1.47	* 0.98
07AC	103	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154893.597	-39004.356	7.670	割片	ササユイト	平削		0.85	* 1.12
07AC	104	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154893.651	-39004.352	7.660	割片	ササユイト	横削面削		1.25	* 1.72
07AC	105	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154893.610	-39001.881	7.686	割片	ササユイト	横削面削		2.45	* 4.75
07AC	106	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154893.569	-39002.234	7.692	割片	ササユイト	横削面削		2	* 1.63
07AC	107	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154893.518	-39001.953	7.698	割片	ササユイト	横削面削		1.33	* 2.3 *
07AC	108	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154892.888	-39002.256	7.689	割片	ササユイト	横削面削		0.82	* 1.81
07AC	109	1区	07T09		0012-13	LC1201	-154892.880	-39002.538	7.690	割片	ササユイト	横削面削		1.95	* 2.67
07AC	110	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.801	-39002.854	7.676	割片	ササユイト	横削面削		1.62	* 2.53
07AC	111	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.724	-39002.881	7.678	割片	ササユイト	平削		2.03	* 1.31 *
07AC	115	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.731	-39002.161	7.672	割片	ササユイト	平削		1.2	* 0.78 *
07AC	116	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.568	-39002.256	7.711	割片	ササユイト	横削面削		2.15	* 3.38
07AC	117	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.508	-39002.355	7.675	割片	ササユイト	横削面削		1.63	* 1.64 *
07AC	118	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.525	-39002.375	7.695	割片	ササユイト	平削		1.21	* 1.63 *
07AC	119	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.438	-39002.943	7.681	割片	ササユイト	平削		—	— — —
07AC	120	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.425	-39003.003	7.644	割片	ササユイト	横削面削		1.15	* 2.03
07AC	121	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.419	-39003.282	7.681	割片	ササユイト	横削面削		2.62	* 2.08
07AC	122	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.075	-39002.092	7.691	割片	ササユイト	平削		—	— — —
07AC	124	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154891.896	-39002.387	7.724	割片	ササユイト	横削面削		1.43	* 0.82
07AC	125	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.799	-39002.884	7.722	割片	ササユイト	横削面削		1.87	* 2.32
07AC	128	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.720	-39003.212	7.706	割片	ササユイト	平削		単純最大長(短)1, 6cm未満	
07AC	127	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.290	-39003.209	7.685	割片	ササユイト	横削面削		1.27	* 2.02
07AC	129	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.760	-39002.913	7.717	割片	ササユイト	平削		1.61	* 3.62
07AC	129	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.243	-39001.767	7.614	割片	ササユイト	横削面削		4.43	* 2.04
07AC	131	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.492	-39001.430	7.671	割片	ササユイト	横削面削		1.72	* 1.98
07AC	132	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.953	-39001.419	7.823	割片	ササユイト	平削		1.85	* 2.95
07AC	133	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154891.898	-39001.918	7.846	割片	ササユイト	平削		1.21	* 3.2 *
07AC	136	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.810	-39001.934	7.683	割片	ササユイト	横削面削		1.73	* 2.53
07AC	137	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.808	-39001.919	7.680	割片	ササユイト	横削面削		1.32	* 1.8
07AC	138	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.756	-39001.922	7.675	割片	ササユイト	横削面削		1.25	* 2.12
07AC	139	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.736	-39001.862	7.696	割片	ササユイト	平削		0.95	* 1.22
07AC	141	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.873	-39001.410	7.821	割片	ササユイト	平削		2.62	* 3.05 *
07AC	142	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.819	-39001.338	7.855	割片	ササユイト	横削面削		1.2	* 2.12
07AC	143	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.603	-39001.738	7.829	割片	ササユイト	横削面削		3.5	* 4.3
07AC	144	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.490	-39001.504	7.857	割片	ササユイト	横削面削		1.9	* 2.65
07AC	145	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.444	-39001.723	7.841	割片	ササユイト	横削面削		0.93	* 2.51
07AC	146	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.582	-39002.127	7.718	割片	ササユイト	平削		1.98	* 3
07AC	147	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.630	-39002.179	7.736	割片	ササユイト	平削		1.87	* 1.97
07AC	148	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.264	-39002.038	7.716	割片	ササユイト	横削面削		1.8	* 2.05
07AC	149	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.174	-39001.715	7.680	割片	ササユイト	横削面削		1.61	* 2.84
07AC	150	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.138	-39001.214	7.686	割片	ササユイト	横削面削		3.1	* 5.12
07AC	151	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.602	-39001.781	7.707	割片	ササユイト	平削		1.2	* 1.5
07AC	152	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154890.870	-39001.836	7.724	割片	ササユイト	平削		1.82	* 2.3 *
07AC	153	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.795	-39002.874	8.707	割片	ササユイト	横削面削		1.1	* 1.3 *
07AC	154	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.696	-39002.661	7.704	割片	ササユイト	横削面削		1.32	* 0.9
07AC	155	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.613	-39002.749	7.695	割片	ササユイト	平削		1.22	* 2.36 *
07AC	156	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.610	-39002.349	7.706	割片	ササユイト	横削面削		2.09	* 1.08
07AC	157	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.064	-39001.639	7.723	割片	ササユイト	平削		1.22	* 1.9
07AC	158	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.142	-39006.773	7.656	割片	ササユイト	横削面削		2.65	* 2.05 *
07AC	159	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154892.215	-39006.675	7.650	割片	ササユイト	横削面削		1.58	* 1.3 *
07AC	160	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.850	-39006.825	7.690	割片	ササユイト	平削		1.52	* 1.88
07AC	161	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.373	-39006.389	7.881	割片	ササユイト	平削		1.65	* 2.75 *
07AC	162	1区	07T11		0012-13	LC1201	-154891.183	-39006.395	7.656	割片	ササユイト	横削面削		1.68	* 1.83 *
07AC	163	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.949	-39002.165	7.729	割片	ササユイト	平削		2.25	* 2.23 *
07AC	164	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.277	-39001.238	7.700	割片	ササユイト	平削		0.95	* 1.90
07AC	165	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.447	-39006.873	7.665	割片	ササユイト	横削面削		2.15	* 2.61
07AC	166	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.380	-39006.911	7.686	割片	ササユイト	横削面削		2.97	* 3.55
07AC	168	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.514	-39001.025	7.680	割片	ササユイト	平削		0.95	* 1.28
07AC	169	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.438	-39001.223	7.690	割片	ササユイト	平削		0.93	* 2.12
07AC	170	1区	07T10		0012-13	LC1201	-154879.913	-39001.638	7.665	割片	ササユイト	横削面削		2.73	* 8.29
07AC	171	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.544	-39001.366	7.675	割片	ササユイト	横削面削		0.82	* 1.31
07AC	172	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.538	-39001.546	7.677	割片	ササユイト	横削面削		2.32	* 2.55
07AC	173	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.542	-39002.097	7.715	割片	ササユイト	横削面削		1.4	* 1.95
07AC	174	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.321	-39001.789	7.641	割片	ササユイト	横削面削		1.86	* 1.05
07AC	176	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.193	-39001.396	7.681	割片	ササユイト	平削		0.9	* 1.72 *
07AC	177	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.180	-39001.828	7.689	割片	ササユイト	横削面削		0.95	* 1.3
07AC	178	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154890.043	-39002.062	7.709	割片	ササユイト	横削面削		1.86	* 2.7 *
07AC	179	1区	07T12		0012-13	LC1201	-154879.921	-39002.128	7.699	割片	ササユイト	横削面削		2.4	* 2.3
07AC	182	1区	07T13		0012-13	LC1201	-154879.037	-39002.932	7.665	割片	ササユイト	平削		2.14	* 2.65 *
07AC	183	1区	07T13		0012-13	LC1201	-154879.125	-39003.325	7.665	割片	ササユイト	平削		1.22	* 3.15
07AC	184	1区	07T13		0012-13	LC1201	-154879.248	-39003.562	7.690	割片	ササユイト	平削		3.3	* 3.65 *

表11 NG07-3 次調査地LC1201出土割片観察表(2)

厚さ (mm) 印欠部	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置				背面の 割痕の 方向				断面の 残存位置				磨の 表面 比率	打面 形態	左端 形態	バルブ の状態	内面 の有無	図 番 号	写真 図版	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV								
1.7	0.20		部分残存												なし	不明	不明	不明	なし				
0.909	0.16		部分残存												なし	不明	不明	不明	なし				
0.278	0.3	完整													なし	点状	フェザー	磨滅せず	磨				
0.199	0.2		部分残存												なし	不明	不明	不明	なし				
0.191	0.40	完整													全面	線状	ステップ	磨滅せず	あり				
0.423	0.79	完整													なし	口唇状	ヒンジ部	磨滅せず	なし	15	18		
0.358	1.10		基部割												75%以上	不明	フェザー	不明	なし				
0.249	0.70	ほぼ完整	左側縁												なし	点状	アーチ	磨滅せず	あり				
0.381	0.5	完整													なし	線面	フェザー	磨滅せず	なし				
0.334	1.8	完整													なし	粉砂	ステップ	磨滅せず	なし	14	19		
0.149	0.7	完整													なし	線状	フェザー	磨滅せず	なし	14	19		
0.192	0.4		部分残存												なし	不明	フェザー	不明	なし				
0.272	0.40		部分残存												25%未満	不明	不明	不明	なし				
0.552	2.90	完整														全面	粉砂	フェザー	磨滅せず	磨	14	19	
0.304	0.80		右側縁													全面	線状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.14	0.2		部分残存												なし	不明	不明	不明	なし				
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.31	0.6	完整													25%未満	線状	アーチ	磨滅	なし				
0.258	1.1	完整													なし	線状	ステップ	磨滅せず	あり	14	19		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.274	0.3	完整													なし	点状	フェザー	磨滅せず	なし				
0.618	2.40	完整													なし	80%以上	口唇状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.184	0.5	ほぼ完整	左端割													25%未満	線状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.449	2.20		両端												なし	不明	不明	不明	なし				
0.289	0.70	完整														25%未満	口唇状	フェザー	磨滅せず	あり	14	19	
0.296	1.00	完整														25%未満	点状	フェザー	磨滅せず	磨	14	19	
0.549	3.00		基部割													全面	不明	ステップ	磨滅せず	なし			
0.497	2.40		両端													80%以上	不明	ステップ	磨滅	なし			
0.428	1.60	完整														なし	線状	ステップ	磨滅せず	なし			
0.386	0.5	ほぼ完整	左端割													なし	平皿	アーチ	磨滅せず	なし			
0.186	0.70	完整														なし	線状	ヒンジ部	磨滅せず	なし			
0.134	0.3	完整														75%以上	線状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.417	2.70		部分残存													全面	不明	不明	不明	なし	14	19	
0.358	0.7	完整														25%以上	口唇状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.404	8.00	ほぼ完整	基部割													25%未満	線面	フェザー	磨滅せず	なし	15	18	
0.421	1.70	完整														80%以上	平皿	フェザー	磨滅せず	あり	14	19	
0.308	0.7	ほぼ完整	基部割													25%未満	点状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.416	2.3	完整														80%以上	点状	ステップ	磨滅せず	あり	14	19	
0.148	0.5		左端割													なし	点状	不明	磨滅せず	なし			
0.394	1.1	完整														なし	平皿	フェザー	磨滅せず	なし	14	19	
0.3	1.00	完整														なし	点状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.71	8.9	完整														25%以上	口唇状	ステップ	磨滅せず	なし	15	18	
0.22	0.4	完整														25%以上	点状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.159	0.6		部分残存													なし	粉砂	フェザー	磨滅せず	なし			
0.271	0.3		右側縁													なし	粉砂	フェザー	磨滅せず	なし			
0.237	0.30	完整														25%未満	線状	ステップ	磨滅せず	なし			
0.451	1.2		部分残存													なし	線状	不明	磨滅せず	なし			
0.125	0.3		左端割													なし	線状	不明	磨滅せず	あり			
0.225	0.4		基部割													なし	不明	フェザー	磨滅せず	なし			
0.284	1.6	ほぼ完整	左側縁													25%未満	線面	フェザー	磨滅せず	あり	14	19	
0.182	0.3	ほぼ完整	左側縁													なし	口唇状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.162	0.6		両端													なし	不明	不明	磨滅せず	なし			
0.295	1.6		部分残存														80%以上	不明	ヒンジ部	磨滅せず	なし		
0.311	1		右側縁													なし	口唇状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.165	0.90		部分残存													なし	不明	全面	フェザー	磨滅せず	なし		
0.331	0.55		部分残存													なし	点状	ヒンジ部	磨滅せず	なし	14	19	
0.23	1	完整														なし	点状	ヒンジ部	磨滅せず	なし			
0.149	0.85	完整														25%未満	線状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.232	0.5	完整														なし	点状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.229	0.50	完整														なし	口唇状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.996	7.3	完整														25%未満	線面	ヒンジ部	磨滅	なし	15	18	
0.183	0.20	完整														なし	口唇状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.449	2	ほぼ完整	両端													25%以上	平皿	フェザー	磨滅せず	あり	14	19	
0.387	0.90	ほぼ完整	左端割													全面	粉砂	フェザー	磨滅せず	あり			
0.298	0.4	完整														なし	線状	フェザー	磨滅せず	あり			
0.284	0.3		部分残存													なし	不明	ステップ	磨滅せず	なし			
0.186	0.20	完整														全面	線状	フェザー	磨滅せず	なし			
0.281	1.3	ほぼ完整	右側縁													なし	粉砂	フェザー	磨滅せず	なし			
0.354	2.40		右側縁													75%以上	口唇状	ステップ	磨滅せず	あり	14	19	
0.191	1.00		部分残存													なし	不明	フェザー	磨滅せず	なし			
0.258	0.7		基部割													25%以上	不明	フェザー	磨滅せず	なし			
0.486	5	ほぼ完整	右側縁													なし	粉砂	フェザー	磨滅せず	なし	15	18	

表12 NG07-3 次調査地LC1201出土土割片観察表(3)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	面分 抽出	地層 (土割片観察地)	遺物	X座標 (北東緯度)	Y座標 (北東経度)	標高	器種	石材	割片 分類	検合 番号	長さ (cm) +0次値	幅 (cm) +0次値	
07AC	186	1区	X3112		NG12-13 LC1201	—	-54866.097	-39004.294	2.660	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	2.02	2.53 *	
07AC	187	1区	X3111		NG12-13 LC1201	—	-54861.309	-39003.800	2.703	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.75	1.6	
07AC	188	1区	X3111		NG12-13 LC1201	—	-54861.320	-39003.800	2.706	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.25 *	1.9	
07AC	189	1区	X3111		NG12-13 LC1201	—	-54861.413	-39004.113	2.697	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.65 *	1.5 *	
07AC	190	1区	X3113		NG12-13 LC1201	—	-54876.270	-39001.400	2.61	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.82	1.95 *	
07AC	192	1区	X3113		NG12-13 LC1201	—	-54876.807	-39002.080	2.675	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.68 *	1.72 *	
07AC	193	1区	X3112		NG12-13 LC1201	—	-54860.945	-39001.670	2.706	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.96	0.96 *	
07AC	194	1区	X3111		NG12-13 LC1201	—	-54861.702	-39002.783	2.731	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	2.02	1.8	
07AC	196	1区	X319		NG12-13 LC1201	—	-54863.123	-39002.783	2.671	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	3.3	2	
07AC	197	1区	X3113		NG12-13 LC1201	—	-54876.817	-39002.080	2.668	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.72 *	1.92	
07AC	198	1区	X319		NG12-13 LC1201	—	-54863.724	-39003.761	2.698	磨片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
07AC	199	1区	X319		NG12-13 LC1201	—	-54863.400	-39001.923	2.680	磨片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
07AC	200	1区	X3110		NG12-13 LC1201	—	-54862.586	-39002.327	2.701	磨片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
07AC	201	1区	X3110		NG12-13 LC1201	—	-54862.197	-39000.615	2.657	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.92	2.11	
07AC	202	1区	X3111		NG12-13 LC1201	—	-54861.504	-39001.706	2.625	磨片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
07AC	203	1区	X3111		NG12-13 LC1201	—	-54861.463	-39001.734	2.645	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	2.15	4.6	*
07AC	204	1区	X3112		NG12-13 LC1201	—	-54860.072	-39002.093	2.687	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.56	2.9	
07AC	205	1区	X3112		NG12-13 LC1201	—	-54860.129	-39001.854	2.674	磨片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
07AC	206	1区	X3112		NG12-13 LC1201	—	-54860.691	-39002.141	2.722	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.82 *	1.7 *	*
07AC	207	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.283	-39004.119	—	磨片	ヤマトイロ	石片状割片	—	1.32 *	0.63	
07AC	208	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.283	-39004.119	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.1 *	0.75	*
07AC	209	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.283	-39004.090	—	磨片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
07AC	210	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.283	-39004.119	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.1 *	0.78	
07AC	211	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.9	0.99	*
07AC	212	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.9	1.08	
07AC	213	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.327	-39002.649	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.41	0.95	
07AC	214	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.327	-39002.649	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1	1.43	
07AC	215	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.327	-39002.649	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.93 *	1.02	
07AC	216	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.327	-39002.649	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.08	1.58	
07AC	217	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.341	-39002.103	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.32 *	1.12	
07AC	218	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.342	-39002.091	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.7 *	0.89	*
07AC	219	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.342	-39002.091	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.33 *	1.06	*
07AC	220	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.342	-39002.091	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.63	1.49	*
07AC	221	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.371	-39001.150	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.08 *	1.2	
07AC	223	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.371	-39001.150	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.18	0.65	
07AC	224	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.48	1.32	
07AC	225	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.15	1.95	
07AC	226	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.92	1.42	
07AC	227	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	3.4	0.88	
07AC	228	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.86	1.38	
07AC	229	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.39	1.23	
07AC	230	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.65	1.12	
07AC	231	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.6	1.12	
07AC	232	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.42 *	1.12	*
07AC	233	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.5	1.02	*
07AC	234	1区	X319	○	NG12-13 LC1201	—	-54863.297	-39003.679	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.02 *	0.7	*
07AC	235	1区	X319	○	NG12-13 LC1201	—	-54863.341	-39002.179	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.68	2.08	
07AC	236	1区	X319	○	NG12-13 LC1201	—	-54863.341	-39002.179	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.09	0.4	
07AC	237	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.327	-39002.090	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.01	0.52	*
07AC	238	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.342	-39002.091	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.61 *	1.4	
07AC	239	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.298	-39003.620	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.89	1.82	
07AC	240	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.342	-39002.091	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.05	2.21	*
07AC	241	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.341	-39002.106	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.12	2.5	
07AC	242	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.341	-39002.106	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.95 *	1.2 *	
07AC	243	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.341	-39002.106	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.71 *	1.2 *	
07AC	244	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.371	-39001.121	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.73	1.41	
07AC	245	1区	不明	○	NG12-13 LC1201	—	—	—	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.21 *	1.23	*
07AC	246	1区	不明	○	NG12-13 LC1201	—	—	—	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.15	2.53	
07AC	247	1区	不明	○	NG12-13 LC1201	—	—	—	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.62	1.5	
07AC	248	1区	不明	○	NG12-13 LC1201	—	—	—	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.58	1.59	
07AC	249	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.312	-39003.120	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.95	1.19	*
07AC	251	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.84 *	2	
07AC	252	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.2	1.4 *	
07AC	253	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.7	1.09	*
07AC	254	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.4 *	1	
07AC	255	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1	0.9	
07AC	256	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.312	-39003.149	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.1	0.7	
07AC	257	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.312	-39003.120	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.6	1.2	
07AC	258	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.312	-39003.120	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.45 *	1.5 *	*
07AC	259	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.312	-39003.120	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	0.6	1.25	
07AC	260	1区	X3111	○	NG12-13 LC1201	—	-54861.312	-39003.120	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.1	1	
07AC	261	1区	X3112	○	NG12-13 LC1201	—	-54860.313	-39003.090	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	1.2 *	1.3	
07AC	262	1区	X3110	○	NG12-13 LC1201	—	-54862.341	-39002.106	—	磨片	ヤマトイロ	磨片	—	2.2	1.3	

表13 NG07-3 次調査地LC1201出土土剥片観察表(4)

厚さ (cm) *厚次順	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	継ぎ の位置				背面の 剥離の 方向				表面の 残存位置				剥の 表面 比率	打面 形状	剥離 形状	パルプ の状態	内側の 有無	調査 番号	写真 添付	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV								
0.25	1.80	18ば完形	左側縁													なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし	14	19	
0.257	0.9	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.255	0.40	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.255	0.60	部分残存														全面	不明	不明	不明	なし			
0.216	0.9	左側縁														なし	点状	ステップ	発達せず	なし			
0.209	0.8	部分残存														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.202	0.1	13ば完形	左側縁													なし	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.187	0.9	18ば完形	基部断													なし	縁状	フェザー	発達せず	あり	14	19	
0.202	0.6	完形														全面	縁状	フェザー	発達せず	あり			
0.275	0.3	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.14未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
0.14未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
0.233	0.70	完形														なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし			
0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
0.466	3.8	18ば完形	左側縁													なし	縁状	フェザー	発達せず	なし	15	18	
0.066	2.20	完形														25%以上	縁面	ステップ	発達	なし			
0.14未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
0.24	0.7	部分残存														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.118	0.1	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.254	0.2	部分残存														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.14未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
0.217	0.20	両端														なし	不明	不明	不明	なし			
0.237	2.90	13ば完形	右側縁													25%未満	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.121	0.10	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.131	0.20	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.212	0.20	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.116	0.1未満	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.171	0.20	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.277	0.1	両端														なし	不明	不明	不明	発達せず	なし		
0.079	0.10	部分残存														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.195	0.20	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし			
0.260	0.40	左側縁														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.229	0.40	両端														なし	不明	不明	不明	発達せず	なし		
0.209	0.10	完形														なし	平皿	フェザー	発達せず	なし			
0.230	0.40	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.1	0.20	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.325	0.8	完形														なし	平皿	フェザー	発達せず	なし			
0.266	0.2	完形														なし	平皿	フェザー	発達せず	なし			
0.163	0.1	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.124	0.1	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.205	0.5	完形														25%未満	平皿	フェザー	発達せず	なし			
0.122	0	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.181	0.1未満	部分残存														全面	不明	不明	不明	なし			
0.101	0.1未満	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし			
0.110	0.1	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし			
0.271	0.80	完形														全面	縁状	フェザー	発達せず	あり			
0.144	0.1未満	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.172	0.1未満	左側縁														25%以上	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.183	0.1未満	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.175	0.10	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.145	0.4	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし			
0.217	0.3	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.091	0.1未満	部分残存														全面	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.26	0.1	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし			
0.11	0.1未満	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.281	0.40	部分残存														25%以上	不明	不明	不明	なし			
0.40	1.90	完形														なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし			
0.202	0.20	完形														なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし			
0.204	0.30	完形														なし	点状	ステップ	発達せず	なし			
0.21	0.20	18ば完形	右側縁													25%未満	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.173	0.20	基部断														なし	不明	フェザー	不明	なし			
0.249	0.4	完形														なし	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.108	0.20	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.134	0.20	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.171	0.10	完形														なし	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.274	0.20	完形														なし	平皿	フェザー	発達せず	なし			
0.185	0.1未満	完形														なし	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.135	0.1未満	両端														なし	不明	不明	不明	なし			
0.193	0.10	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.294	0.3	完形														なし	縁状	フェザー	発達せず	なし			
0.411	0.70	基部断														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.41	1.20	完形														25%以上	縁状	フェザー	発達せず	なし	14	19	

表14 NG07-3 次調査地LC1201出土剥片観察表(5)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	露分 抽出	地層 名と遺物 層別表示	遺物	X座標 (3次元測法)	Y座標 (3次元測法)	標高	器種	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) *0.1未満	幅 (cm) *0.1未満
07AC	263	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.341	-39002.150	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	2	0.9 *
07AC	264	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.341	-39002.150	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	1.25	* 0.6 *
07AC	265	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.341	-39002.150	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	1.9	1 *
07AC	266	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.341	-39002.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.7	0.85
07AC	267	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.341	-39002.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	0.6	1.3
07AC	268	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.341	-39002.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1	1.2 *
07AC	269	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.341	-39002.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	0.9	1.2 *
07AC	270	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154880.342	-39002.091	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.8	1.9
07AC	271	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154880.342	-39002.091	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.2	1.2
07AC	272	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154880.342	-39002.091	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.05	1.2
07AC	273	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.1	2.1
07AC	274	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.35	3.2
07AC	275	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.8	1.7
07AC	276	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.1	1.9
07AC	277	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	0.6 *	1.7 *
07AC	278	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	右方向剥片	—	1.7	0.8
07AC	279	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	1	* 1.6
07AC	280	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	0.9 *	1.3
07AC	281	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	0.9 *	1.3 *
07AC	282	1区	SV9	○	SG12-13	LC1201	-154883.370	-39001.180	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	3.5 *	3.5
07AC	283	1区	SV11	○	SG12-13	LC1201	-154881.371	-39001.121	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	0.4 *	1.65 *
07AC	284	1区	SV11	○	SG12-13	LC1201	-154881.371	-39001.121	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.7	2.5
07AC	285	1区	SV11	○	SG12-13	LC1201	-154881.371	-39001.121	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1	1.7 *
07AC	286	1区	SV11	○	SG12-13	LC1201	-154881.371	-39001.121	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	0.9	1.3
07AC	287	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154880.372	-39001.091	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.2	1.5
07AC	288	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154880.372	-39001.091	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	—	1.3	1.3
07AC	112	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.734	-39001.741	7.499	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 1	2.19	3.18
07AC	113	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.717	-39001.981	7.487	剥片	ヤマトイロ	右方向剥片	07JAC 1	0.23	* 1.05
07AC	130	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.088	-39001.092	7.424	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 2	2.43	* 6.45
07AC	140	1区	SV11	○	SG12-13	LC1201	-154881.702	-39001.431	7.434	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 2	4.44	* 3.83
07AC	183	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154878.885	-39003.878	7.715	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 2	2.89	3.09
07AC	222	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.371	-39001.150	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 2	1.49	1.76
07AC	120	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154881.963	-39001.758	7.422	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 3	2.49	* 4.88
07AC	167	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154880.494	-39001.915	7.478	剥片	ヤマトイロ	不明	07JAC 3	0.96	* 3.09 *
07AC	131	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154881.885	-39001.686	7.641	剥片	ヤマトイロ	不明	07JAC 4	1.21	* 2.87 *
07AC	180	1区	SV11	○	SG12-13	LC1201	-154880.944	-39002.729	7.720	剥片	ヤマトイロ	—	07JAC 4	2.46	* 2.76 *
07AC	14-剥片A	1区	—	—	SG12-13	LC1201	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 4	3.48	2.89 *
07AC	170	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154880.240	-39001.497	7.681	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 5	2.47	* 1.74 *
07AC	191	1区	SV13	○	SG12-13	LC1201	-154879.374	-39002.702	7.651	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 5	2.58	2.52 *
07AC	111	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.819	-39001.894	7.680	剥片	ヤマトイロ	不明	07JAC 6	0.75	* 2.3 *
07AC	123	1区	SV10	○	SG12-13	LC1201	-154882.800	-39001.873	7.671	剥片	ヤマトイロ	不明	07JAC 6	3.08	* 5.95 *
07AC	185	1区	SV12	○	SG12-13	LC1201	-154881.498	-39002.585	7.682	剥片	ヤマトイロ	—	07JAC 6	1.21	* 3.12 *
07AC	10-剥片A	1区	—	—	SG12-13	LC1201	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	07JAC 6	3.89	* 5.71

表15 NG07-3次調査地LC1201出土剥片観察表(6)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	破欠 の位置				背面の 剥離 の方向				破面の 残存位置				破面 の比率	打面 形状	剥離 形状	パルプ の状況	内側の 有無	図 番 号	写 真 尺 寸	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV								
0.167	0.30		左側縁													なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.200	0.20		右側縁													全面	点状	不明	発達せず	なし			
0.148	0.30		左側縁													なし	線状	フェザー	発達せず	あり			
0.204	0.40	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.205	0.20	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.18	0.30	ほぼ完整	左側縁													なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.122	0.1		左側縁													なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.413	1.00	完整														ほぼ全面	線面	フェザー	発達せず	なし			
0.138	0.20	完整														なし	口唇状	フェザー	発達せず	あり			
0.133	0.10	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.268	0.60	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.378	1.5	完整														なし	線状	ヒンジ部	発達せず	なし	14	18	
0.128	0.30	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.207	0.4	完整														なし	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.231	0.30	部分残存														全面	不明	フェザー	不明	なし			
0.249	0.30	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.126	0.20	基部縁														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.214	0.20	基部縁														なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.18	0.20	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし			
0.603	6.60	ほぼ完整	基部縁													25%以上	口唇状	フェザー	発達せず	あり	15	18	
0.344	0.20	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし			
0.189	1.00	完整														なし	点状	フェザー	発達せず	なし			
0.134	0.20	右側縁														なし	線状	ヒンジ部	発達せず	なし			
0.184	0.20	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.235	0.30	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	あり			
0.228	0.30	完整														なし	線状	フェザー	発達せず	あり			
0.39	3.3	完整														25%未満	線状	フェザー	発達せず	なし	16	17	
0.317	0.6	ほぼ完整	基部縁													25%未満	点状	フェザー	発達せず	あり	16	17	
0.76	15.20	基部縁														25%以上	不明	フェザー	発達せず	なし	16	17	
0.76	11.40	完整														25%未満	口唇状	アーチ	発達せず	あり	16	17	
0.52	4.60	完整														なし	平坦	ヒンジ部	発達せず	なし	16	17	
0.42	0.90	完整														25%以上	線面	フェザー	発達せず	なし	16	17	
1.00	13.90	基部縁														なし	線面	ヒンジ部	発達せず	なし	16	17	
0.24	0.90	部分残存														なし	不明	不明	不明	なし	16	17	
0.43	1.40	24-26片Aを参照のこと														なし	不明	不明	不明	なし	16	17	124+180組合
0.53	3.20	24-26片Aを参照のこと														なし	不明	不明	不明	なし	16	17	124+180組合
0.53	4.60	ほぼ完整	右側縁													なし	線状	フェザー	発達せず	なし	16	17	
0.49	2.70	部分残存														なし	不明	フェザー	不明	なし	16	17	
0.605	3.80	左側縁														なし	線状	アーチ	発達せず	なし	16	17	
0.18	0.1	部分のみ														なし	不明	ヒンジ部	不明	なし	16	17	
0.519	8.18	24-26片Aを参照のこと														なし	線面	ヒンジ部	発達せず	なし	16	17	123+185組合
0.31	1.7	24-26片Aを参照のこと														なし	線面	ヒンジ部	発達せず	なし	16	17	123+185組合
0.5	9.80	基部縁														なし	線状	ヒンジ部	発達せず	なし	16	17	123+185組合

表16 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(1)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	標高 抽出	地層 位置関係	遺構	3層標 (0.5m間隔) 北-南 (m)	1層標 (0.5m間隔) 南-北 (m)	標高	層様	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) ×幅×厚	幅 (cm) ×厚×高	
9900	130	19C	U-1		SG120a	LC1203	4,130	2,670	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.21	1.0 *	
9900	132	19C	U-2		SG120a	LC1203	3,960	3,330	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.88	1.3	
9900	133	19C	U-2		SG120a	LC1203	3,200	2,610	—	剥片	ヤマトイロ	中形		1.66	* 2.6 *	
9900	134	19C	U-2		SG120a	LC1203	2,950	3,050	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.02	1.6 *	
9900	136	19C	U-2		SG120a	LC1203	2,930	2,610	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.30	1.1 *	
9900	137	19C	U-4		SG120a	LC1203	1,600	2,750	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.57	1.2 *	
9900	138	19C	U-4		SG120a	LC1203	1,470	2,650	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.49	1.6	
9900	139	19C	U-5		SG120a	LC1203	0,530	2,590	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.71	1.4	
9900	140	19C	U-7		SG120a	LC1203	3,980	1,630	—	剥片	ヤマトイロ	中形		1.11	* 1.6	
9900	141	19C	U-7		SG120a	LC1203	3,090	1,510	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.01	1.3	
9900	143	19C	U-7		SG120a	LC1203	2,870	1,710	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.39 *	1.2 *	
9900	147	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,550	2,170	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.56	* 0.9 *	
9900	150	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,460	1,700	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.91 *	1.3 *	
9900	151	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,520	1,580	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	153	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,180	1,630	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		2.4
9900	154	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,120	1,790	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	155	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,290	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	156	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,970	2,390	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.90	1.6	
9900	157	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,650	1,690	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	158	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,590	1,870	—	剥片	ヤマトイロ	中形		1.19	* 2.0	
9900	159	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,670	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	0.50m未満		
9900	160	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,660	2,160	—	剥片	ヤマトイロ	中形		1.27	* 1.8	
9900	163	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,410	2,090	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	164	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,370	1,810	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	165	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,280	1,250	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	166	19C	U-9		SG120a	LC1203	200	1,870	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.90	* 1.7	
9900	168	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,000	2,030	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	175	19C	U-7		SG120a	LC1203	3,980	2,490	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.91	* 1.3	
9900	176	19C	U-7		SG120a	LC1203	3,110	2,430	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		2.22	2.8	
9900	181	19C	U-3		SG120a	LC1203	2,490	2,790	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.11	1.7	
9900	183	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,710	2,080	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.21	* 0.8	
9900	184	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,430	1,790	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	185	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,520	2,330	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.12	* 0.7	
9900	188	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,180	2,250	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.99	1.3	
9900	190	19C	U-8		SG120a	LC1203	1,960	2,190	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	191	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,660	2,010	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.77	* 1.3 *	
9900	193	19C	U-8		SG120a	LC1203	1,690	1,550	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.27	* 0.7	
9900	195	19C	U-8		SG120a	LC1203	0,930	1,550	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.18	0.9	
9900	196	19C	U-9		SG120a	LC1203	0,870	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	197	19C	U-9		SG120a	LC1203	0,810	2,090	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.34	1.1	
9900	198	19C	U-6		SG120a	LC1203	4,080	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		2.69	1.8	
9900	200	19C	U-7		SG120a	LC1203	3,000	1,860	—	剥片	ヤマトイロ	中形		1.30	* 1.6 *	
9900	201	19C	U-7		SG120a	LC1203	3,230	2,310	—	剥片	ヤマトイロ	右角剥片		1.19	* 0.8	
9900	203	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,780	1,640	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.69	1.6	
9900	205	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,600	1,900	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	0.50m未満		
9900	206	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,310	1,660	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	0.50m未満		
9900	207	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,160	1,810	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	208	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,380	2,070	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	209	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,690	2,300	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	210	19C	U-6		SG120a	LC1203	1,920	1,820	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	211	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,490	1,980	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.49	1.4	
9900	212	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,620	1,640	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		2.88	0.2	
9900	214	19C	U-3		SG120a	LC1203	2,620	2,850	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.96	* 1.1 *	
9900	215	19C	U-3		SG120a	LC1203	2,390	2,980	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.92	1.1	
9900	218	19C	U-3		SG120a	LC1203	2,230	2,610	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.08	1.6	
9900	219	19C	U-3		SG120a	LC1203	2,030	2,060	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	220	19C	U-7		SG120a	LC1203	2,790	1,600	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	222	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,130	1,980	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	223	19C	U-12		LC1203	3,250	1,310	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.44	1.4	2.4	
9900	225	19C	U-14		SG120a	LC1203	1,810	1,150	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	226	19C	U-14		SG120a	LC1203	1,820	1,490	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.51	0.8	
9900	227	19C	U-14		LC1203	1,070	0,890	—	剥片	ヤマトイロ	中形	短形剥片		1.44	* 2.0	
9900	230	19C	U-13		LC1203	2,530	1,110	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.68	1.2		
9900	231	19C	U-13		LC1203	2,230	1,050	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.90	1.7		
9900	232	19C	U-13		SG12-13	LC1203	2,150	0,730	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	0.50m未満		
9900	236	19C	U-8		SG120a	LC1203	2,550	1,920	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	237	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,370	1,570	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.74	1.3	
9900	239	19C	U-14		SG120a	LC1203	1,330	1,250	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	1.50m未満		
9900	241	19C	U-14		LC1203	1,630	0,820	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.87	* 1.0 *		
9900	242	19C	U-3		SG120a	LC1203	1,930	2,550	—	剥片	ヤマトイロ	中形		1.00	* 0.8 *	
9900	243	19C	U-13		SG12-13	LC1203	2,230	1,860	—	剥片	ヤマトイロ	中形	単純最大長 (or 幅)	0.50m未満		
9900	244	19C	U-3		SG120a	LC1203	2,820	3,210	—	剥片	ヤマトイロ	中形		1.03	* 1.0 *	
9900	245	19C	U-3		SG120a	LC1203	2,440	3,610	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.30	0.7	
9900	247	19C	U-9		SG120a	LC1203	1,380	1,890	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.51	* 0.7	
9900	249	19C	U-13		LC1203	2,590	2,420	—	剥片	ヤマトイロ	中形		0.74	* 1.1		
9900	250	19C	U-13		LC1203	2,580	1,070	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		1.00	0.9		
9900	252	19C	U-7		SG120a	LC1203	2,840	1,760	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片		0.91	2.11	

表17 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(2)

厚さ (cm) *破片品	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置	背面の 刻線痕 の方向				端面の 残存位置				磨削 の 表面 比率	打面 形状	左端 形状	パルプ の形状	内面 の有無	備 考
					I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.22	0.20		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.2	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.32	1.80		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.39	0.50	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.11	0.10		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.08	0.1g未満	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.22	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.21	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.15	0.20		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.21	0.50	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.11	0.1g未満		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.20	0.10		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.8	0.20		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.16	0.50	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.20																		
0.12	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.23	0.20		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.10																		
0.21	0.20		部分のみ											なし	不明	不明	不明	なし
0.20																		
0.1g未満																		
0.1g未満																		
0.2	0.20		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.21	0.20		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.41	2.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.21	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.12	0.10		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.12	0.10		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.10																		
0.11	0.10	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.10																		
0.10	0.20		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.11	0.20		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.11	0.10	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.22	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.48	1.80	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.2	0.50		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.17	0.10		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.43	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.1g未満																		
0.1g未満																		
0.1g未満																		
0.10																		
0.1g未満																		
0.27	0.10	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.75	0.40	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.10	0.10		部分のみ											なし	不明	不明	不明	なし
0.27	0.50	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.12	0.10	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.1g未満																		
0.1g未満																		
0.21	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.49	0.40	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.43	0.90	ほぼ完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.16	0.10	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.21	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.10																		
0.11	0.10							○						なし	不明	不明	不明	なし
0.10																		
0.2	0.20		部分のみ											なし	不明	不明	不明	なし
0.11	0.10		部分のみ					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.1g未満																		
0.17	0.20	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.12	0.10		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.12	0.1g未満		左端部					○						なし	不明	不明	不明	なし
0.11	0.10	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし
0.20	0.50	完形						○						なし	不明	不明	不明	なし

表18 NG89-19次調査地LC1203出土割片等観察表(3)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ フ 文	割片 抽出	片 数	X線像 (0.5mm厚) 北-南 (mm)	Y線像 (0.5mm厚) 東-西 (mm)	標高	器種	石材	割片 分類	接合 番号	長さ (mm) 40分尺	幅 (mm) 40分尺
9898	254	13C	U-7	NG120a	LC1203	2,870	1,540	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		0.66	1.3
9899	256	13C	U-12	NG120a	LC1203	3,070	1,310	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9900	257	13C	U-12	NG120a	LC1203	2,820	1,290	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		1.00	1.25
9901	259	13C	U-12	NG120a	LC1203	2,840	0,830	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	0.5a未満	
9902	260	13C	U-13	NG12-13	LC1203	2,660	1,260	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9903	262	13C	U-13	NG12-13	LC1203	2,590	0,910	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9904	263	13C	U-13	NG120a	LC1203	1,870	1,220	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		0.50	1.4
9905	264	13C	U-13	LC1203	2,310	1,480	—	—	割片	ヤマトイロ	不明		0.49	1.5
9906	266	13C	U-12	LC1203	3,380	1,240	—	—	割片	ヤマトイロ	不明		1.54	0.9
9907	267	13C	U-12	LC1203	3,490	1,160	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.15	1.0
9908	269	13C	U-12	LC1203	3,110	1,140	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		3.14	1.90
9909	270	13C	U-8	NG120a	LC1203	2,510	2,470	—	割片	ヤマトイロ	不明		1.22	1.8
9910	271	13C	U-8	NG120a	LC1203	2,380	2,030	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.15	0.9
9911	272	13C	U-8	NG120a	LC1203	1,770	1,550	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		0.58	1.3
9912	273	13C	U-13	NG12-13	LC1203	2,070	1,430	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	0.5a未満	
9913	274	13C	U-8	NG120a	LC1203	1,910	1,700	—	割片	ヤマトイロ	不明		0.54	1.3
9914	275	13C	U-8	NG120a	LC1203	1,840	1,700	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9915	276	13C	U-12	LC1203	2,810	1,130	—	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		0.91	1.0
9916	277	13C	U-13	NG12-13	LC1203	2,430	0,820	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9917	280	13C	U-18	LC1203	2,370	0,090	—	—	割片	ヤマトイロ	不明		0.91	1.2
9918	281	13C	U-18	LC1203	1,410	0,330	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.53	1.4
9919	283	13C	U-22	LC1203	2,600	-0,870	—	—	割片	ヤマトイロ	不明		0.93	1.5
9920	284	13C	U-24	NG12-13	LC1203	1,650	-0,590	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9921	285	13C	U-12	LC1203	2,900	0,020	—	—	割片	ヤマトイロ	不明		0.71	1.1
9922	286	13C	U-13	LC1203	2,440	1,350	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		3.95	2.1
9923	287	13C	U-13	NG12-13	LC1203	2,080	1,240	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9924	290	13C	U-12	NG120a	LC1203	2,850	1,430	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9925	291	13C	U-7	NG120a	LC1203	3,180	1,800	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		1.43	1.1
9926	292	13C	U-7	NG120a	LC1203	3,260	1,790	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9927	293	13C	U-8	NG120a	LC1203	1,990	1,310	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	0.5a未満	
9928	294	13C	U-8	NG120a	LC1203	1,970	1,500	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9929	295	13C	U-13	NG12-13	LC1203	—	—	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	0.5a未満	
9930	296	13C	U-13	LC1203	2,010	1,350	—	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		1.48	1.6
9931	301	13C	U-14	LC1203	1,610	1,050	—	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		1.42	2.4
9932	304	13C	U-14	LC1203	1,610	1,280	—	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		1.49	1.6
9933	305	13C	U-3	NG12-13	LC1203	2,000	2,750	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9934	306	13C	U-3	NG12-13	LC1203	2,260	2,810	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9935	307	13C	U-3	NG12-13	LC1203	2,660	2,630	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9936	308	13C	U-3	NG12-13	LC1203	2,890	2,850	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9937	309	13C	U-3	NG12-13	LC1203	3,010	2,850	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9938	310	13C	U-2	NG12-13	LC1203	2,940	2,630	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.92	1.0
9939	311	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,550	2,350	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	0.5a未満	
9940	312	13C	U-7	NG12-13	LC1203	3,030	2,410	—	割片	ヤマトイロ	右方割片		1.09	0.5
9941	313	13C	U-7	NG12-13	LC1203	3,140	2,470	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9942	317	13C	U-9	NG12-13	LC1203	1,690	1,530	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.07	0.7
9943	319	13C	U-9	NG12-13	LC1203	1,670	1,710	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9944	320	13C	U-9	NG12-13	LC1203	1,490	1,920	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9945	321	13C	U-9	NG12-13	LC1203	1,350	1,900	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9946	322	13C	U-9	NG12-13	LC1203	1,710	1,890	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.78	1.1
9947	324	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,840	2,310	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.01	0.8
9948	326	13C	U-9	NG12-13	LC1203	1,980	2,300	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.28	0.9
9949	328	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,140	2,330	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9950	329	13C	U-14	LC1203	1,120	0,900	—	—	割片	ヤマトイロ	不明		1.09	0.5
9951	330	13C	U-3	NG12-13	LC1203	2,670	2,570	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.42	0.8
9952	331	13C	U-15	LC1203	0,650	1,470	—	—	割片	ヤマトイロ	不明		1.10	0.2
9953	333	13C	U-13	LC1203	2,110	1,410	—	—	割片	ヤマトイロ	右方割片		1.92	0.8
9954	335	13C	U-7	NG12-13	LC1203	3,000	1,610	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9955	337	13C	U-6	NG12-13	LC1203	2,070	1,830	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.19	1.3
9956	338	13C	U-8	NG12-13	LC1203	1,790	1,490	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9957	340	13C	U-13	NG12-13	LC1203	2,630	1,320	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9958	346	13C	U-13	NG12-13	LC1203	1,980	1,350	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9959	347	13C	U-13	NG12-13	LC1203	1,920	1,420	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9960	348	13C	U-8	NG12-13	LC1203	1,870	1,570	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.21	1.0
9961	349	13C	U-6	NG12-13	LC1203	2,990	1,630	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9962	350	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,950	1,710	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9963	353	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,280	2,680	—	割片	ヤマトイロ	不明		1.06	0.5
9964	355	13C	U-6	NG12-13	LC1203	2,100	2,070	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.09	1.0
9965	356	13C	U-8	NG12-13	LC1203	1,850	1,140	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		1.18	1.5
9966	358	13C	U-6	NG12-13	LC1203	2,300	2,190	—	割片	ヤマトイロ	横長割片		0.89	2.5
9967	359	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,510	2,270	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9968	360	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,830	2,370	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	0.5a未満	
9969	362	13C	U-6	NG12-13	LC1203	2,890	2,220	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9970	363	13C	U-6	NG12-13	LC1203	2,650	2,180	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	
9971	365	13C	U-9	NG12-13	LC1203	1,290	1,880	—	割片	ヤマトイロ	短形割片		1.77	1.3
9972	368	13C	U-8	NG12-13	LC1203	2,710	2,140	—	割片	ヤマトイロ	右方割片		2.55	0.8
9969	369	13C	U-13	NG12-13	LC1203	2,030	1,290	—	割片	ヤマトイロ	横長割片	単縦最大長 (mm)	1.0a未満	

表19 NG89-19次調查地LC1203出土刮片等觀察表(4)

厚さ (㎜) ※印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠の位置				背骨の 前後屈 の方向				腰筋の 残存位置				腰の 表面 比率	打込 状態	左腰 筋部	バルブ の位置	内傷の有無	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.14	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.12	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.25	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	20%未満	健全	スナップ	発達せず	なし	—	
0.2	0.10	基部断	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	なし	平頭	フェザー	発達せず	なし	—	
0.12	0.10	基部断	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	不整	フェザー	発達せず	なし	—	
0.23	0.10	完形	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	発達せず	あり	—	
0.54	2.30	ほぼ完形	基部断	—	—	—	—	○	○	○	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし	—	
0.19	0.30	基部断	○	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	なし	平頭	スナップ	発達せず	なし	—	
0.19	0.30	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	スナップ	発達せず	なし	—	
0.99	0.10	散在のみ	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	なし	平頭	平頭	平頭	平頭	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.11	0.10	—	基部	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	なし	平頭	平頭	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.16	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.12	0.30	散在のみ	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	全断	平頭	平頭	発達せず	なし	—		
0.27	0.40	完形	—	—	—	—	—	—	—	20%以上	健全	健全	フェザー	20%以上	健全	フェザー	発達せず	あり	—		
0.23	0.30	基部断	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	平頭	口唇状	発達せず	なし	—	
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.15	0.1g未満	散在のみ	—	—	—	—	—	○	—	○	—	—	—	—	20%未満	平頭	平頭	発達せず	なし	—	
0.48	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	あり	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.14	0.10	欠損部	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	健全	平頭	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.13	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	なし	—	
0.53	1.00	ほぼ完形	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	あり	—	
0.12	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	健全	スナップ	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.09	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	あり	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.06	0.1g未満	基部断	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	平頭	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.21	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.21	0.40	ほぼ完形	基部断	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	発達せず	なし	—	
0.21	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	発達せず	なし	—	
0.26	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.18	0.10	打点部欠け	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	平頭	フェザー	発達せず	なし	—	
0.18	0.20	基部断	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	平頭	フェザー	発達せず	なし	—	
0.27	0.10	散在のみ	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	平頭	平頭	平頭	平頭	—	
0.1	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	健全	スナップ	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.12	0.40	完形	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.19	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1.13	0.10	打点部欠け	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	全断	平頭	フェザー	発達せず	なし	—		
0.2	0.20	基部断	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	平頭	フェザー	発達せず	なし	—	
0.2	0.40	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	健全	スナップ	発達せず	なし	—	
0.19	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	発達せず	あり	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.09	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	健全	フェザー	発達せず	あり	—	
0.26	0.80	基部断	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	なし	平頭	フェザー	発達せず	なし	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

表20 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(5)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	剥片 抽出	地層 相対的 位置関係	遺構	X座標 (10m単位) 北-西 (m)	Y座標 (10m単位) 東-西 (m)	標高	器種	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) ※付欠損	幅 (cm) ※付欠損	
8900	370	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,420	1,350	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	372	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,370	2,390	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.30	0.9
8900	375	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,490	2,270	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片	0.89	1.2
8900	376	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,430	2,360	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.19	1.0
8900	378	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,330	2,100	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	380	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,560	1,980	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片	0.19	1.3
8900	381	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,560	1,870	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.90	1.9
8900	382	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,680	1,790	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.11	0.6
8900	383	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,430	1,690	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	2.18	1.4
8900	384	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,230	2,080	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片	0.48	1.2
8900	385	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,990	1,990	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.39	1.2
8900	386	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,540	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	石片剥片	1.21	0.6
8900	387	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,150	1,800	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片	0.19	1.7
8900	389	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,790	1,730	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.91	1.3
8900	391	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,990	1,720	—	剥片	ヤマトイロ	中規	0.41	1.2
8900	390	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,230	2,370	—	剥片	ヤマトイロ	中規	0.36	1.2
8900	396	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,970	2,130	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	1.19	0.5
8900	398	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,340	2,050	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	403	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,270	1,730	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片	0.81	1.3
8900	407	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,550	1,480	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	410	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,410	1,390	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	411	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,440	1,110	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	412	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,150	1,060	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	413	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,360	0,770	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	415	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	1,920	0,510	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	417	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	1,820	1,090	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.20	0.7
8900	418	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,110	1,270	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	419	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,110	1,390	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.19	0.9
8900	421	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,110	1,370	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	422	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	1,970	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	423	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	1,780	1,360	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	424	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,810	1,580	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	426	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,160	1,830	—	剥片	ヤマトイロ	中規	1.31	1.1
8900	427	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,130	1,600	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片	1.39	1.6
8900	428	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,160	1,650	—	剥片	ヤマトイロ	中規	0.80	1.1
8900	429	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,580	1,730	—	剥片	ヤマトイロ	石片剥片	1.29	0.6
8900	432	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,510	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.05	0.8
8900	435	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,140	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片	0.69	1.2
8900	434	ⅢC	—				N612	LC1203	18,330	—	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	2.11	2.4
8900	435	ⅢC	—				N612-13	LC1203	25,400	-2,150	—	剥片	ヤマトイロ	中規	1.20	0.7
8900	436	ⅢC	—				N612	LC1203	27,480	-6,600	—	剥片	ヤマトイロ	—	—	—
8900	437	ⅢC	—				N612-13	LC1203	31,200	-2,750	—	剥片	ヤマトイロ	石片剥片	2.19	0.9
8900	438	ⅢC	—				N612-10	LC1203	31,800	-2,000	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	1.07	2.3
8900	439	ⅢC	—				N612-10	LC1203	33,800	2,300	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	0.34	4.2
8900	440	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	1,790	1,030	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	443	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,080	1,770	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	445	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,590	2,220	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	446	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,740	2,490	—	剥片	ヤマトイロ	中規	2.27	0.9
8900	447	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,240	1,840	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	448	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,300	0,810	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	1.18	0.9
8900	450	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,940	1,790	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	2.19	1.1
8900	453	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,670	1,090	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	0.80	1.4
8900	454	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,290	2,230	—	剥片	ヤマトイロ	中規	0.61	1.1
8900	456	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,300	2,240	—	剥片	ヤマトイロ	—	—	—
8900	459	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,630	2,480	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	0.99	1.3
8900	460	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,540	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	0.90	0.8
8900	461	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,170	1,960	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.28	1.2
8900	462	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,100	1,900	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	0.77	1.0
8900	463	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,280	1,840	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	464	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,790	1,870	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	465	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,880	1,610	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	467	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,300	0,810	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	468	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,740	0,730	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	469	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,740	2,460	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	470	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,630	2,340	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	471	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,630	2,340	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	473	ⅢC	E-7				N612-10	LC1203	3,060	1,380	—	剥片	ヤマトイロ	中規	0.50	1.1
8900	474	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,280	2,220	—	剥片	ヤマトイロ	石片剥片	1.70	0.6
8900	476	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,020	2,390	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	477	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	1,820	2,180	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 0.5cm未満	
8900	479	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,140	1,660	—	剥片	ヤマトイロ	短冊剥片	1.32	0.9
8900	480	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	1,780	0,870	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	481	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,000	0,790	—	剥片	ヤマトイロ	中規	0.97	1.4
8900	482	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,210	1,490	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	483	ⅢC	E-13				N612-13	LC1203	2,380	1,490	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	485	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,670	2,030	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	
8900	486	ⅢC	E-8				N612-10	LC1203	2,610	2,430	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅) 1.0cm未満	

表21 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(6)

[illegible]

表22 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(7)

調査 記号	遺物 番号	地区	グ リ ッド	剥 片 抽出	地 盤 目録番号 等	遺 構	Y座標 (Y座標北 正一側 (m))	X座標 (X座標東 正一側 (m))	標高	器 種	石 材	剥 片 分類	接合 番号	長さ (cm) ※0次側	幅 (cm) ※0次側
9900	487	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.060	2.290	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.63	1.4
9900	489	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.070	2.210	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.38	1.6
9900	490	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.080	2.270	—	剥片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
9900	491	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.730	2.320	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	493	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.730	2.100	—	剥片	ヤマトイロ	石片剥片	—	—	1.71	0.6
9900	496	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.060	2.000	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.08	0.8
9900	499	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.070	1.900	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	501	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.070	1.870	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	0.88	0.2
9900	503	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.030	1.790	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	0.5cm未満	—	—
9900	504	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.060	1.680	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	505	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.080	1.920	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	0.5cm未満	—	—
9900	507	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.930	1.770	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	2.08	2.8
9900	508	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.210	1.600	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	509	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.140	1.610	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	513	IXC	U-13	NC1203	2.720	1.280	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	—	1.12	1.0
9900	517	IXC	U-13	NC12-13	LC1203	2.210	1.470	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	519	IXC	U-13	NC1203	2.190	1.430	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	—	1.01	2.8
9900	520	IXC	U-13	NC12-13	LC1203	2.220	1.510	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	521	IXC	U-7	NC12-13	LC1203	2.010	1.100	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	0.89	0.6
9900	523	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.040	2.230	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	—	—
9900	524	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.960	2.110	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.61	1.3
9900	525	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.930	2.000	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.61	1.3
9900	526	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.750	1.930	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.03	1.4
9900	527	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.930	1.750	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.06	1.8
9900	529	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.830	2.040	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.18	0.7
9900	530	IXC	U-13	NC12-13	LC1203	2.000	1.350	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	531	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.490	1.910	—	叩き石	剥片	—	—	—	0.54	13.5
9900	532	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.040	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	0.5cm未満	—	—
9900	533	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.040	2.010	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.76	0.6
9900	534	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.190	2.210	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	535	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.180	1.940	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	2.91	3.8
9900	538	IXC	U-13	NC1203	2.030	1.450	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	—	3.40	2.0
9900	544	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.460	2.110	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	0.5cm未満	—	—
9900	545	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.930	2.280	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	549	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.820	1.530	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	550	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.000	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	1.14	0.3
9900	551	IXC	U-13	NC12-13	LC1203	2.040	1.010	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	553	IXC	U-13	NC12-13	LC1203	1.950	0.990	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	1.38	0.8
9900	554	IXC	U-13	NC12-13	LC1203	1.900	0.910	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	555	IXC	U-13	NC12-13	LC1203	1.900	0.820	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	559	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.730	1.710	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.17	2.2
9900	561	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.740	1.660	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	2.33	1.1
9900	564	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.060	1.850	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	2.25	1.0
9900	567	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.210	1.660	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.95	1.1
9900	568	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.460	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	572	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.510	1.550	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	573	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.060	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	575	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.700	1.640	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.89	0.9
9900	576	IXC	U-7	NC12-13	LC1203	2.720	1.930	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.83	1.5
9900	577	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.720	1.740	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	1.06	1.3
9900	578	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.720	1.780	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.90	1.2
9900	579	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.720	1.790	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.40	2.3
9900	580	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.560	1.930	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.07	1.1
9900	583	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.000	2.000	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.57	2.8
9900	584	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.930	2.040	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.95	1.3
9900	585	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.660	2.040	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.00	1.4
9900	586	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.660	2.040	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.14	1.4
9900	588	IXC	U-7	NC12-13	LC1203	2.660	2.110	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	1.18	1.1
9900	589	IXC	U-13	NC1203	2.390	1.280	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	—	0.92	1.6
9900	592	IXC	U-13	NC1203	2.370	0.880	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	—	3.29	1.7
9900	595	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.430	1.730	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	597	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.000	1.800	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	598	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.780	2.390	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	0.99	1.8
9900	599	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.810	1.930	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.04	1.0
9900	600	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	1.960	2.540	—	剥片	ヤマトイロ	石片剥片	—	—	1.17	0.8
9900	601	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.660	2.010	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.12	1.0
9900	602	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.070	2.010	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.42	1.1
9900	603	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.040	1.820	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.98	1.1
9900	604	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.090	1.770	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.40	1.1
9900	605	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.120	1.680	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	606	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.170	2.140	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	0.94	0.9
9900	609	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.240	1.880	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	612	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.300	2.320	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (ser 幅)	1.0cm未満	—	—
9900	613	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.290	2.090	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	1.26	0.4
9900	614	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.210	2.080	—	剥片	ヤマトイロ	石片剥片	—	—	1.11	0.4
9900	615	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.390	2.140	—	剥片	ヤマトイロ	不明	—	—	—	—
9900	616	IXC	U-8	NC12-13	LC1203	2.380	2.330	—	剥片	ヤマトイロ	横紋剥片	—	—	1.47	0.6

表23 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(8)

厚さ (cm) の目安	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠の 位置				背面の 剥離痕 の方向				裏面の 残存位置				裏の 表面 比率	打痕 状態	支那 形跡	バルブ の形跡	内面の 有無	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.2	0.50	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.25	0.60	完形						○	○							なし	以等状	フェザー	発達せず	なし	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	存在不明?
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.20	0.20	完形						○	○							なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.09	0.16	完形						○								なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.12	0.16	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.12	0.20	完形						○	○							なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.17	0.16	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.18	0.20	完形						○								なし	以等状	フェザー	発達せず	なし	
0.42	1.70	完形						○	○	○						なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.26	0.20	完形						○								なし	無痕	不明	発達せず	なし	
0.2	0.20	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.3	0.20	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.14	0.16	完形						○								なし	点状	フェザー	発達せず	なし	
0.12	0.20	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.18	0.30	完形						○				○				なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.17	0.20	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
4.56	800.00	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.2	0.20	完形						○	○							なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.45	2.40	完形						○				○				なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.21	1.20	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.23	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	なし	
0.26	0.20	完形						○								なし	不明	不明	不明	なし	
0.3	0.60	完形						○	○	○						なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.13	0.20	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.13	0.20	完形						○								なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.21	0.20	完形						○	○							なし	点状	フェザー	発達せず	なし	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	なし	
0.18	0.16	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.22	0.20	完形						○								なし	点状	不明	不明	不明	
0.13	0.16	完形						○				○	○	○		なし	不明	不明	不明	不明	
0.18	0.16	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.27	1.00	完形						○								なし	無痕	アーチ	発達せず	なし	
0.21	0.20	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.23	0.20	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.23	0.20	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.27	0.60	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.22	0.30	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.17	0.20	完形						○								なし	無痕	フェザー	発達せず	なし	
0.19	0.20	完形						○				○				なし	不明	不明	不明	不明	
0.06	3.10	完形						○	○							なし	点状	アーチ	発達せず	なし	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.39	0.60	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.14	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.07	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.20	0.20	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.15	0.20	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.24	0.60	完形						○	○							なし	不明	不明	不明	不明	
0.18	0.20	完形						○	○							なし	不明	不明	不明	不明	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.29	0.20	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.16	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.22	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.12	0.16	完形						○				○	○	○		なし	不明	不明	不明	不明	
0.12	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	
0.12	0.16	完形						○								なし	不明	不明	不明	不明	

表24 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(9)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	標 本 抽出	地 層 区分 番号	遺構	X座標 (10m単位) 北-南 (m)	Y座標 (10m単位) 東-西 (m)	標高	部類	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) ×幅	幅 (cm) ×厚み
9900	617	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.480	2.080	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.23	0.8
9900	618	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.580	2.200	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.02	1.1
9900	621	ⅢC	U-7	NG12-13	LC1203	2.870	0.350	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.21	0.4
9900	623	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.740	1.920	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.74	1.1
9900	624	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.630	1.750	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	630	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.640	0.910	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	631	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.230	1.960	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.71	1.4
9900	632	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.170	1.230	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.50	1.0
9900	633	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.250	1.200	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	634	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.270	1.340	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.38	0.9
9900	635	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.210	1.350	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	636	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.180	1.380	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	637	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.190	1.390	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.28	2.2
9900	638	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.560	1.380	—	剥片	ヤマトイロ	剥片			0.91	0.9
9900	640	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.100	1.220	—	剥片	ヤマトイロ	—			—	—
9900	641	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.120	1.470	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	643	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.310	0.650	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.03	1.4
9900	646	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.490	2.190	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.03	0.9
9900	647	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.500	1.950	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	648	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.340	1.480	—	剥片	ヤマトイロ	剥片			1.07	0.7
9900	649	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.420	1.480	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	650	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.430	1.460	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	651	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.460	1.380	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.78	0.9
9900	652	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.470	1.200	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.35	0.8
9900	655	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.670	0.230	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	657	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.630	1.720	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.76	1.4
9900	658	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.630	1.720	—	剥片	ヤマトイロ	剥片			0.73	0.9
9900	662	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.440	1.650	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			2.94	6.6
9900	664	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.310	1.870	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.52	0.9
9900	667	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.560	1.920	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.40	3.0
9900	669	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.440	1.810	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.93	0.7
9900	671	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.690	1.940	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.56	1.3
9900	672	ⅢC	U-7	NG12-13	LC1203	2.760	0.020	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.83	1.7
9900	673	ⅢC	U-7	NG12-13	LC1203	2.810	2.440	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.78	1.4
9900	677	ⅢC	U-7	NG12-13	LC1203	2.820	1.940	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.74	0.9
9900	678	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.440	2.220	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	679	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.370	2.240	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.02	1.0
9900	681	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.290	2.080	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.68	1.0
9900	682	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.230	2.080	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.87	1.4
9900	684	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.060	1.870	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.74	1.0
9900	685	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.420	1.460	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	689	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.820	1.980	—	剥片	ヤマトイロ	剥片			1.90	1.1
9900	691	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.720	1.770	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.72	1.1
9900	692	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.700	1.690	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.68	0.9
9900	693	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.690	1.610	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	694	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.730	1.650	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.98	1.0
9900	695	ⅢC	U-7	NG12-13	LC1203	2.780	1.600	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	696	ⅢC	U-7	NG12-13	LC1203	2.730	1.680	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.23	0.8
9900	699	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.870	1.560	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.44	0.7
9900	700	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.810	1.510	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	703	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.380	1.470	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	705	ⅢC	U-12	NG12-13	LC1203	2.780	1.550	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.42	1.8
9900	707	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.120	1.790	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.70	2.0
9900	708	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.230	1.940	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	710	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	1.860	1.430	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.08	1.1
9900	712	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.350	1.270	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	713	ⅢC	U-13	NG12-13	LC1203	2.480	1.360	—	剥片	ヤマトイロ	剥片			1.11	0.8
9900	716	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.310	1.320	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.08	1.1
9900	718	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.240	1.190	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.80	1.3
9900	720	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.320	1.880	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.73	1.2
9900	722	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.060	1.850	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.49	1.7
9900	723	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.030	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	724	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.130	1.710	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	725	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.070	1.630	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.90	1.6
9900	726	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.080	1.580	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	727	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.120	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.05	1.5
9900	728	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.140	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.80	1.2
9900	730	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.310	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.06	1.2
9900	733	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.300	1.650	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.54	0.9
9900	736	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.330	1.680	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	737	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.340	1.600	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			0.64	1.7
9900	738	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.370	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	739	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.320	1.840	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	740	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.350	1.860	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	741	ⅢC	U-9	NG12-13	LC1203	2.270	1.890	—	剥片	ヤマトイロ	板状剥片			1.18	0.5
9900	742	ⅢC	U-9	NG12-13	LC1203	2.320	2.100	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		
9900	744	ⅢC	U-8	NG12-13	LC1203	2.560	2.340	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (縦 幅)	0.5cm未満		

表25 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(10)

厚さ (cm) ×長	重量 (g)	外形 有無	欠損 有無	断欠の 位置				背面の 表層部 の方向				裏面の 残存位置				裏の 裏面 比率	打面 部態	左端 部態	バルブ の形状	内湾の 有無	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.13	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.27	0.40	定形														なし	磨削	フェザー	発達せず	あり	
0.18	0.10		表層部								○					なし	不明	フェザー	発達せず	あり	
0.09	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.31	0.30	定形														なし	磨削	スラップ	発達せず	なし	
0.31	0.30	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.13	0.10		表層部								○					なし	磨削	不明	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.37	0.60										○	○				なし	磨削	アーチ	発達せず	あり	
0.09	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	発達で不明?
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.24	0.30	定形									○					なし	打撃状	フェザー	発達せず	あり	
0.19	0.10		裏面のみ								○					なし	不明	不明	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.11	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.11	0.10		裏面部								○					なし	磨削	不明	発達せず	なし	
0.12	0.20	定形									○					なし	磨削	ヒンジ部	発達せず	なし	
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.19	0.40	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.1	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
1.64	94.00	定形											○	○	○	表面	磨削	ヒンジ部	発達	なし	
0.13	0.10		裏面部								○					なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.31	1.90	定形									○	○				なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.49	0.70		裏面部								○					なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.1	0.10	不定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.14	0.20	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.43	0.40	定形									○	○				なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.13	0.10		両端	○							○					なし	不明	不明	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.18	0.20	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.23	0.20	定形									○					なし	打撃状	ヒンジ部	発達せず	なし	
0.25	0.30	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.27	0.90		裏面のみ										○	○	○	表面	不明	スラップ	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.26	0.20	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.19	0.10	定形									○					なし	点状	スラップ	発達せず	なし	
0.16	0.20	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.16	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.08	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.25	0.20		裏面部								○					なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.18	0.20		裏面部								○					なし	磨削	不明	発達せず	なし	
0.23	0.20	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	あり	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.13	0.20	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.16	0.10		裏面部										○	○	○	表面	不明	フェザー	発達せず	あり	
0.23	0.20		裏面部								○					なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
0.11	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.18	0.20	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.16	0.40	定形									○					なし	打撃状	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.28	0.20		裏面部								○					なし	磨削	不明	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.14	0.20		裏面のみ								○					なし	不明	不明	不明	なし	
0.15	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
0.23	0.30	定形									○	○				なし	点状	フェザー	発達せず	なし	
0.14	0.20		両端								○					なし	不明	不明	不明	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.13	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.18	0.10	定形									○					なし	磨削	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

表26 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(11)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	剥片 抽出	地層 (地層番号)	遺構	X線透視 北-南 (mm)	X線透視 東-西 (mm)	標高	器種	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) 40倍尺	幅 (cm) 40倍尺
9988	745	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.860	2.370	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9989	746	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.860	2.360	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9990	747	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.860	2.320	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9991	749	IXC	U-8	—	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		—	—
9992	752	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.860	1.830	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.22	1.8
9993	753	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.860	1.880	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9994	754	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.440	1.810	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9995	755	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.930	1.940	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.42	1.9
9996	757	IXC	U-13	5612-13	LC1203	1.970	1.250	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9997	759	IXC	U-13	5612-13	LC1203	2.620	1.350	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9998	759	IXC	U-13	5612-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		—	—
9999	760	IXC	U-13	5612-13	LC1203	2.900	1.430	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.64	0.9 *
9999	760	IXC	U-13	5612-13	LC1203	2.380	1.320	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9999	764	IXC	U-13	5612-13	LC1203	2.340	1.240	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9999	767	IXC	U-13	5612-13	LC1203	2.260	1.060	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.07	1.1
9999	768	IXC	U-13	5612-13	LC1203	2.120	1.420	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9999	770	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.140	1.700	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.36	1.5
9999	772	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.120	1.800	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.36	1.1
9999	774	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.340	1.930	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9999	778	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.600	1.650	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.54	3.2
9999	780	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.680	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.05	1.5
9999	781	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.680	1.640	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		2.00	0.8
9999	784	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.630	1.700	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		3.17	0.5
9999	786	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.680	1.700	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.21	1.7
9999	787	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.680	1.710	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.88	1.4
9999	789	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.670	1.640	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		3.09	1.8
9999	790	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.600	1.780	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.82	3.4
9999	795	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.690	1.730	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.59	1.6
9999	796	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.690	1.700	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		2.47	1.1
9999	797	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.700	1.700	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.47	1.8
9999	799	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.680	1.790	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.98	1.7
9999	800	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.750	1.730	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9999	804	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.170	1.690	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9999	805	IXC	U-8	5612-13	LC1203	1.600	2.200	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.38	1.5
9999	807	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.310	1.680	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大片 (or 幅)	1.0cm未満		
9999	808	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.630	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.38	1.3
9999	809	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.470	1.830	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.74	2.7
9999	810	IXC	U-13	5612-13	LC1203	2.280	1.450	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.33	0.9
9999	812	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.610	1.530	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.36	1.3
9999	814	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.390	1.560	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.87	1.3
9999	815	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.630	1.700	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.23	0.7
9999	816	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.590	1.730	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.33	0.7
9999	818	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.650	1.820	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.13	0.6
9999	819	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.590	1.860	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.13	0.6
9999	820	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.600	1.940	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.12	0.7 *
9999	825	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.130	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.34	1.3 *
9999	826	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.130	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.15	0.8
9999	827	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.240	1.690	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.98	0.9
9999	828	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.490	1.970	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.96	3.4
9999	830	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.490	0.960	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.98	1.4
9999	832	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.610	2.220	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.96	1.1
9999	836	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.140	1.960	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.69	0.9
9999	837	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.220	1.970	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.74	1.3 *
9999	839	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.320	1.600	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.92	1.2
9999	841	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.630	1.720	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.03	0.8
9999	842	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.690	1.680	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.03	0.8
9999	843	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.570	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.42	0.7
9999	846	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.600	2.060	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.01	1.4
9999	848	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.600	2.140	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.01	1.4
9999	850	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.470	1.700	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.01	1.4
9999	854	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.140	1.660	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.01	1.4
9999	855	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.210	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.01	1.4
9999	856	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.200	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.18	0.8
9999	857	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.470	1.650	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.40	2.8
9999	858	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.590	1.800	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.14	0.8
9999	859	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.640	1.860	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.14	0.8
9999	860	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.830	1.830	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.14	0.8
9999	861	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.660	1.900	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		2.28	0.4 *
9999	862	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.640	1.970	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.20	0.5
9999	863	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.660	1.860	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.23	0.7
9999	866	IXC	U-7	5612-13	LC1203	2.850	1.830	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.05	0.8
9999	869	IXC	U-7	5612-13	LC1203	3.070	2.010	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.47	2.0
9999	870	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.360	1.740	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.47	2.0
9999	871	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.340	2.200	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.94	1.1 *
9999	874	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.230	2.040	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.71	1.6
9999	876	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.340	1.970	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		0.92	1.3
9999	877	IXC	U-8	5612-13	LC1203	2.190	1.890	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	ヤマトイロ		1.10	0.5 *

表27 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(12)

厚さ (cm) *切欠値	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	割欠 の位置				背面の 剥離表 の方向				腹面の 剥離表 の方向				腹の 表面 比率	打面 部数	裏面 部数	バルブ の状態	内側の 有無	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	痕跡で不明?
0.25	0.50	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.37	0.50	—	両端	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	平削	不明	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	痕跡で不明?
0.41	0.60	部分のみ	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.15	0.20	ほぼ完形	剥離面	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.2	0.50	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	痕	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.21	0.70	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	剥離せず	なし	
0.27	0.30	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	なし	平削	フェザー	剥離せず	なし	
0.19	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	よく剥離	あり	
0.13	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	剥離剥離	剥離	フェザー	剥離せず	あり	
0.11	0.30	—	剥離面	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	フェザー	剥離せず	なし	
0.13	0.20	—	剥離面	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	点状	不明	剥離せず	なし	
0.14	0.40	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
0.44	1.40	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	あり	
0.16	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
0.23	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	剥離せず	なし	
0.28	0.50	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	なし	
0.17	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.32	0.50	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.07	0.10	剥離面	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	フェザー	剥離せず	なし	
0.26	0.50	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
0.19	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.19	0.20	剥離面	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	フェザー	剥離せず	なし	
0.17	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.11	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.07	0.10	部分のみ	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	不明	剥離せず	なし	
0.11	0.20	部分のみ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	不明	不明	なし	
0.14	0.10	剥離面	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	不明	剥離せず	なし	
0.19	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
0.51	2.80	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	痕	
0.29	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	剥離せず	あり	
0.29	0.50	部分のみ	○	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	不明	剥離せず	なし	
0.21	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	平削	フェザー	剥離せず	あり	
0.14	0.10	部分のみ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	スチーフ	剥離せず	なし	
0.17	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	剥離せず	なし	
0.13	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.11	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.30	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.19	0.20	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	あり	
0.27	2.80	完形	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	剥離せず	痕	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.26	0.30	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	口唇状	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.3	0.30	部分のみ	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	不明	不明	なし	
0.1	0.10	剥離面	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	不明	剥離せず	なし	
0.17	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	なし	
0.13	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	点状	フェザー	剥離せず	なし	
0.21	0.50	剥離面	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	フェザー	剥離せず	なし	
—	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0.26	0.20	部分のみ	—	—	—	—	—	○	○	○	○	—	—	—	—	なし	剥離	不明	剥離せず	なし	
0.28	0.20	剥離面	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	不明	剥離せず	なし	
0.1	0.10	完形	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	剥離	フェザー	剥離せず	なし	
0.17	0.10	部分のみ	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	なし	不明	不明	不明	なし	

表28 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(13)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	標分 出	地 層 (地層番号 と地層名)	通 達	1度標 (1区画) 長さ (m)	2度標 (2区画) 長さ (m)	標 高	器 種	石 材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) ※付欠損	幅 (cm) ※付欠損
8898	879	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,170	1,840	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			0.83	1.3
8899	879	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,220	1,940	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			0.72	1.1
8900	882	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,380	1,710	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8901	883	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,360	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8902	884	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,480	1,720	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.10	0.9
8903	887	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,530	1,680	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			0.61	1.2
8904	890	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,660	1,770	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.19	0.9
8905	891	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,610	1,630	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8906	892	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,690	1,720	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8907	893	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,700	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.49	1.2
8908	894	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,560	1,640	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8909	896	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	3,110	1,650	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8910	897	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,200	2,420	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8911	898	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,230	2,280	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.59	1.5
8912	899	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,400	2,220	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8913	900	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,520	2,290	—	剥片	ヤマトイロ	右片剥片			1.45	0.5
8914	901	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,560	2,600	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8915	902	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,190	2,940	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8916	903	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,120	2,980	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8917	904	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	1,940	2,640	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8918	905	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,630	1,810	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			1.22	2.0
8919	907	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,450	1,850	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.52	1.0
8920	908	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,230	1,770	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.83	1.2
8921	909	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,230	1,710	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.22	1.3
8922	910	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,310	1,590	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8923	911	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,370	1,520	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8924	912	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,470	1,570	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.17	0.7
8925	914	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,450	1,450	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8926	917	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,300	1,400	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8927	918	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,200	1,410	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.49	0.8
8928	919	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,230	1,380	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8929	920	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,670	1,240	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			1.68	2.1
8930	922	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,380	1,200	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.22	1.9
8931	923	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,330	1,210	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8932	925	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,430	1,260	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8933	926	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,460	1,340	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.80	1.3
8934	928	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,870	1,890	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.15	0.8
8935	929	U-7	D-7	—	LC1203	2,770	1,970	—	剥片	ヤマトイロ	—			—	—
8936	930	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	3,120	2,640	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			1.24	1.3
8937	933	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,870	2,340	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.68	0.9
8938	936	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,990	2,460	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8939	938	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,910	2,350	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.01	0.6
8940	939	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,830	2,340	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.18	1.2
8941	940	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,880	2,280	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8942	942	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	3,090	2,190	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8943	944	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	3,010	2,130	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.02	0.7
8944	945	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,960	2,020	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			2.21	4.2
8945	949	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,730	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	不明			0.72	1.0
8946	950	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	3,020	1,990	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			1.13	1.2
8947	951	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,890	1,590	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8948	952	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,870	1,610	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8949	953	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,880	1,580	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8950	955	U-7	D-7	NG12-13	LC1203	2,770	1,940	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8951	956	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,600	2,580	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			1.06	1.5
8952	958	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,730	2,230	—	剥片	ヤマトイロ	右片剥片			1.40	0.7
8953	959	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,690	2,070	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			0.84	0.9
8954	962	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,690	1,960	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.25	1.1
8955	964	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,710	1,790	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8956	965	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,680	1,680	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.49	1.2
8957	967	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,380	1,540	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8958	968	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,310	1,510	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		0.5cm未満	
8959	971	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	1,960	1,630	—	剥片	ヤマトイロ	右片剥片			3.18	1.5
8960	972	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	1,850	1,620	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.09	0.9
8961	973	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	1,790	1,510	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8962	975	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	1,950	2,020	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.22	1.1
8963	978	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	1,980	1,450	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.42	0.8
8964	979	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,080	1,340	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8965	980	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,160	1,330	—	剥片	ヤマトイロ	右片剥片			2.01	0.7
8966	981	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,260	1,310	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			0.82	0.8
8967	982	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,230	1,370	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.01	1.2
8968	984	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,270	1,380	—	剥片	ヤマトイロ	不明			1.19	1.2
8969	985	U-13	D-13	NG12-13	LC1203	2,330	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	横長剥片			0.99	1.4
8970	987	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,360	1,680	—	剥片	ヤマトイロ	短形剥片			1.17	0.7
8971	988	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,580	1,520	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8972	989	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,490	1,720	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8973	991	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,470	1,900	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	
8974	992	U-8	D-8	NG12-13	LC1203	2,550	1,920	—	剥片	ヤマトイロ	剥片	単純最大長 (or 幅)		1.0cm未満	

表29 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(14)

厚さ (cm) ※1/10mm	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置				背面の 剥離痕 の方向				裏面の 残存位置				裏の 表面 比率	打面 形態	裏面 形態	バルブ の状態	内面の 有無	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.18	0.20	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.27	0.20	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	あり		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.18	0.20	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.20	0.20	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.1	0.10	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.16	0.10	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.18	0.10	完形													なし	点状	ミシジロ	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.15	0.10	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.25	0.50	完形													なし	点状	ミシジロ	残存せず	なし		
0.26	0.40	完形													剥離部	点状	フェザー	残存せず	あり		
0.19	0.10	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.19	0.20	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	あり		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.18	0.10	剥離のみ													なし	点状	点状	点状	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.24	0.20	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.26	0.50	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.15	0.20	剥離のみ													なし	点状	点状	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.2	0.20	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.14	0.10	剥離のみ													なし	剥離	点状	残存せず	なし		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	剥離で半割?	
0.27	0.50	完形													なし	点状	ミシジロ	残存せず	なし		
0.22	0.10	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.23	0.10	剥離のみ													なし	点状	点状	点状	なし		
0.14	0.20	剥離部													なし	剥離	点状	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.13	0.10	完形													なし	剥離	フェザー	残存せず	なし		
0.03	0.50	完形													剥離部	剥離	ミシジロ	残存せず	なし		
0.28	0.20	剥離部													剥離部	剥離	点状	残存せず	なし		
0.24	0.20	完形													なし	剥離	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.18	0.20	完形													なし	剥離	フェザー	残存せず	なし		
0.15	0.20	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.21	0.20	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.18	0.20	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	あり		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.19	0.10	完形													なし	剥離	フェザー	残存せず	なし		
	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.25	1.40	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.08	0.20	剥離	○												なし	点状	点状	点状	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.09	0.10	剥離													なし	点状	点状	残存せず	なし		
0.11	0.10	剥離部													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.15	0.30	完形													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.18	0.20	点状剥離れ													なし	点状	フェザー	残存せず	なし		
0.23	0.20	剥離のみ													なし	点状	点状	残存せず	なし		
0.13	0.20	剥離のみ													なし	剥離	フェザー	残存せず	なし		
0.28	0.20	完形													なし	剥離	フェザー	残存せず	なし		
0.18	0.10	剥離部													なし	剥離	フェザー	残存せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

表30 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(15)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ フ	剥片 抽出	地層 (19次調査 地層番号)	遺構	X厚標 (19次調査 地層番号) (m)	Y厚標 (19次調査 地層番号) (m)	標高	器種	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) ※19次調査	幅 (cm) ※19次調査
8908	994	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,620	1,990	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.97	4.3
8909	996	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,640	1,880	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.97	4.3
8910	999	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,600	1,960	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.5cm未満	
8911	1001	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,620	1,180	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09	0.7
8912	1002	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,620	2,370	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09	0.7
8913	1004	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,980	2,230	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8914	1006	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,980	1,830	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8915	1007	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,980	1,970	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.89	1.3
8916	1008	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,110	2,180	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8918	1009	IXC	U-12		LC1203	2,340	1,470	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.19	1.8	
8919	1010	IXC	U-12		LC1203	2,000	1,230	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.01	1.2	
8919	1012	IXC	U-13		LC1203	2,370	0,960	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.05	0.9	
8919	1014	IXC	U-13		LC1203	2,490	1,090	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.41	0.6	
8920	1015	IXC	U-13		LC1203	2,180	1,070	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.34	0.6	
8920	1016	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,120	1,140	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.99	1.3
8920	1017	IXC	U-13		NG12-13	LC1203	2,960	0,950	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1018	IXC	U-13		LC1203	2,180	0,890	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	2.53	1.2	
8920	1019	IXC	U-13		NG12-13	LC1203	2,330	1,280	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1021	IXC	U-13		NG12-13	LC1203	2,250	1,380	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1022	IXC	U-13		NG12-13	LC1203	2,360	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1024	IXC	U-13		NG12-13	LC1203	2,320	1,440	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1025	IXC	U-13		LC1203	2,340	1,470	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.27	0.7	
8920	1026	IXC	U-13		LC1203	2,360	1,460	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.42	0.6	
8920	1027	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,030	1,560	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.41	0.7
8920	1030	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,340	1,950	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.08	1.0
8920	1032	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,430	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.92	1.2
8920	1033	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,330	1,870	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.11	0.6
8920	1039	IXC	U-12		NG12-13	LC1203	2,980	1,470	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1044	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,360	1,810	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1046	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,320	1,720	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.71	1.6
8920	1048	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,930	1,710	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.77	1.4
8920	1047	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,060	1,680	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1050	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,660	1,390	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.19	1.4
8920	1051	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,570	1,660	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1052	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,450	1,640	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1053	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,380	1,600	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.79	1.2
8920	1054	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,570	1,530	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.33	2.0
8920	1056	IXC	U-13		NG12-13	LC1203	2,960	1,340	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1057	IXC	U-12		NG12-13	LC1203	2,980	1,220	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1058	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,910	1,530	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1061	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,980	2,400	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.84	1.6
8920	1064	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,480	1,990	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	2.05	1.9
8920	1065	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,310	2,040	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.5cm未満	
8920	1066	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,240	1,990	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1067	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	1,780	1,660	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.97	1.3
8920	1068	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	1,840	1,580	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1070	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	—	—
8920	1071	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,580	1,680	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1072	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,480	1,600	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1074	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,580	1,520	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1075	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,790	1,750	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1076	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,860	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.94	0.5
8920	1077	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,870	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.89	1.4
8920	1078	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,860	1,590	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.21	1.0
8920	1079	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,800	1,640	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.07	0.6
8920	1080	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,820	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.03	0.7
8920	1082	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	3,010	1,630	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1083	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,720	2,340	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1084	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,310	2,220	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.46	1.7
8920	1085	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,870	1,910	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	2.87	3.6
8920	1087	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,920	1,810	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.46	0.8
8920	1088	IXC	U-7		NG12-13	LC1203	2,960	1,610	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.46	0.8
8920	1091	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,720	1,870	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.5cm未満	
8920	1092	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,600	1,940	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1093	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,610	2,070	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1094	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,620	2,020	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.74	1.0
8920	1096	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	1,880	1,660	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	2.36	1.0
8920	1098	IXC	U-13		LC1203	2,080	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.85	1.4	
8920	1099	IXC	U-13		LC1203	2,050	0,930	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.62	1.4	
8920	1100	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,620	1,570	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.07	1.4
8920	1101	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,680	2,370	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.04	2.0
8920	1102	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	2,070	1,840	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.04	1.5
8920	1103	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	1,910	1,830	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	0.58	0.9
8920	1106	IXC	U-14		NG12-13	LC1203	1,790	1,580	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1109	IXC	U-8		NG12-13	LC1203	1,790	2,040	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1110	IXC	U-9		NG12-13	LC1203	1,700	2,480	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	
8920	1111	IXC	U-9		NG12-13	LC1203	1,720	2,330	—	剥片	ヤマトイロ	硝子	単純最大長 (er 幅)	1.09cm未満	

表31 NG89-19次調查地LC1203出土剥片等觀察表(16)

[illegible]

表32 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(17)

調査 記号	遺物 番号	地区	グ リ ド	剥片 抽出	地 層 相対年代	遺構	X座標 (北東角) 北-東 (m)	Y座標 (北東角) 北-東 (m)	標高	器種	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) ×幅×厚	幅 (cm) ×厚×重
9903	1112	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,490	2,100	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1113	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,480	1,910	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.79	★	1.2
9903	1114	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,490	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1119	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,440	1,410	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.42	★	1.3
9903	1126	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,510	1,530	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1117	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,370	1,520	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.87	★	1.4
9903	1118	15K	U-14	NG12-13	LC1203	1,540	1,120	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.85	★	0.9
9903	1122	15K	U-14	NG12-13	LC1203	1,610	0,710	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.5cm未満		
9903	1123	15K	U-14	NG12-13	LC1203	1,170	0,880	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.71	★	1.4
9903	1124	15K	U-10	NG12-13	LC1203	0,710	2,470	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.5cm未満		
9903	1126	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,010	1,450	—	砂岩	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.76	★	3.5
9903	1128	15K	U-14	NG12-13	LC1203	1,620	0,920	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1129	15K	U-14	LC1203	1,080	1,000	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.79	★	1.2	
9903	1130	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,430	1,710	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.22	★	1.0
9903	1131	15K	U-13	NG12-13	LC1203	2,000	1,290	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.03	★	0.8
9903	1132	15K	U-8	NG12-13	LC1203	1,480	1,490	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.70	★	1.3
9903	1133	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,540	1,610	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.24	★	1.0
9903	1134	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,710	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1135	15K	U-11	NG12-13	LC1203	4,200	0,320	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1137	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,220	1,070	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1138	15K	U-13	LC1203	2,130	1,370	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.00	★	1.0	
9903	1139	15K	U-7	NG12-13	LC1203	2,970	2,370	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.11	★	0.9
9903	1140	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,430	1,430	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.05	★	1.8
9903	1141	15K	U-8	NG12-13	LC1203	1,980	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.40	★	1.0
9903	1143	15K	U-14	NG12-13	LC1203	1,640	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1145	不明	—	—	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	—	—	—	—
9903	1146	15K	U-7	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.42	★	1.1
9903	1148	15K	U-9	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.93	★	1.0
9903	1150	15K	U-19	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1151	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.80	★	1.2
9903	1152	15K	U-9	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.92	★	1.3
9903	1153	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1154	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1155	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1156	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.0cm未満		
9903	1157	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.94	★	1.0
9903	1162	15K	U-6	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.97	★	0.8
9903	1165	15K	U-7	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.19	★	0.8
9903	1167	15K	U-6	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.11	★	1.4
9903	1169	15K	U-6	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.75	★	0.9
9903	1171	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.73	★	1.9
9903	1172	15K	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.12	★	1.0
9903	1173	15K	U-13	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.87	★	0.9
9903	1174	15K	U-13	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.90	★	1.0
9903	1175	15K	U-13	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.09	★	1.2
9903	1176	15K	U-14	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.89	★	1.2
9903	1177	15K	U-20	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.28	★	1.0
9903	1178	15K	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.09	★	1.3
9903	1179	15K	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.08	★	1.2
9903	225	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,410	1,570	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	3.50	★	3.0
9903	267	15K	U-13	NG12-13	LC1203	2,010	0,870	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.93	★	1.2
9903	729	15K	U-6	NG12-13	LC1203	2,220	1,790	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.93	★	1.4
9903	932	15K	U-7	NG12-13	LC1203	2,930	2,240	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.25	★	1.0
9903	558	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,240	1,930	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.76	★	2.5
9903	730	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,280	1,690	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.45	★	1.7
9903	761	15K	U-13	NG12-13	LC1203	2,280	1,790	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.70	★	1.6
9903	777	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,660	1,620	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.00	★	1.7
9903	880	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,280	1,630	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.10	★	6.3
9903	1164	15K	U-13	NG12-13	LC1203	1,610	1,470	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.00	★	2.6
9903	187	15K	U-6	NG12-13	LC1203	2,540	2,150	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.19	★	3.5
9903	497	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,700	1,440	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.25	★	0.9
9903	1043	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,560	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.04	★	1.1
9903	170	15K	U-5	NG12-13	LC1203	2,510	2,800	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.11	★	1.7
9903	217	15K	U-9	NG12-13	LC1203	2,670	2,270	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	2.05	★	1.2
9903	794	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,680	1,740	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.96	★	1.5
9903	332	15K	U-13	NG12-13	LC1203	2,490	1,310	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.60	★	2.9
9903	783	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,630	1,720	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.81	★	2.8
9903	1089	15K	U-12	NG12-13	LC1203	2,830	1,490	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.70	★	1.9
9903	161	15K	U-9	NG12-13	LC1203	1,890	2,310	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.52	★	1.4
9903	714	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,130	2,340	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.70	★	2.2
9903	1003	15K	U-7	NG12-13	LC1203	2,970	2,350	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.70	★	1.2
9903	374	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,370	2,310	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.10	★	1.4
9903	1090	15K	U-7	NG12-13	LC1203	2,760	2,000	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.59	★	2.3
9903	173	15K	U-1	NG12-13	LC1203	2,790	2,370	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	0.83	★	0.9
9903	1088	15K	U-13	NG12-13	LC1203	2,550	1,370	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	3.72	★	3.1
9903	871	15K	U-8	NG12-13	LC1203	2,530	1,690	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	3.10	★	1.1
9903	765	15K	U-13	NG12-13	LC1203	2,890	1,620	—	剥片	ヤマトイロ	砂岩	単純最大長 (ae 横)	1.25	★	1.9

表33 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(18)

[illegible]

表34 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(19)

調査 番号	遺物 番号	地区	グ ラ フ フ ィ ン グ	種 別 抽出	地 層 相 対 位置 番号	遺構	X座標 (北東) (m)	Y座標 (北東) (m)	標高	器種	石材	剥片 分類	接合 番号	長さ (cm) ※欠損	幅 (cm) ※欠損	
9990	922	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.630	2.180	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.40	1.1 *	
9990	126剥片A	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	3.72	4.6	
9990	174	15C	U-7	—	—	9212-13	LC1203	3.620	2.390	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	2.05	3.0	
9990	1085	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.360	1.390	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	2.17	2.5	
9990	584	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.570	0.900	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	3.05	1.9	
9990	626	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.620	1.620	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	2.55	6.9	
9990	1184	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.310	1.330	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.20	1.8 *	
9990	1169	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.69	1.0	
9990	853	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.560	1.850	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.12	1.2 *	
9990	1147	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.25	6.9 *	
9990	116剥片A	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.58	2.4	
9990	189	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	1.990	2.190	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.65	1.3	
9990	1167	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.670	2.270	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.59	6.9	
9990	2949	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.480	1.050	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.50	2.2 *	
9990	1079	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.490	1.610	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.54	2.9 *	
9990	114剥片A	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.81	2.0	
9990	506	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.270	1.780	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.51	1.2 *	
9990	1127	15C	U-14	—	—	9212-13	LC1203	1.000	0.800	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	0.15	0.8 *	
9990	114剥片A	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300	1.24	1.4	
9990	172	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	1.830	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	2.23	3.0
9990	180	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.390	2.210	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	2.10	2.7 *
9990	199	15C	U-6	—	—	9212-13	LC1203	3.870	1.720	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	2.77	4.5 *
9990	265	15C	U-12	—	—	9212-13	LC1203	3.300	1.440	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.40	2.7
9990	298	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	1.970	1.170	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	0.70	1.2 *
9990	314	15C	U-12	—	—	9212-13	LC1203	3.030	1.390	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	3.24	6.0
9990	310	15C	U-12	—	—	9212-13	LC1203	3.110	1.370	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	3.20	4.5
9990	324	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.990	1.110	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	0.79	7.1
9990	366	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.120	1.730	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	3.04	3.8 *
9990	405	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.650	1.630	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.45	1.8
9990	429	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	1.860	1.270	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.08	1.4 *
9990	540	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.650	2.200	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.55	1.7 *
9990	843	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.480	2.040	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.87	2.7
9990	548	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.270	2.110	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	3.65	1.9
9990	560	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.730	1.710	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	8.15	2.8
9990	570	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.450	1.830	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.30	1.3
9990	589	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.660	1.470	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	0.55	1.7
9990	610	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.260	1.710	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	4.25	2.7
9990	669	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.480	1.670	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	7.70	3.6
9990	665	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.600	1.890	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.85	1.5 *
9990	689	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.530	1.680	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	0.55	2.8
9990	702	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.540	1.480	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	0.70	1.6
9990	706	15C	U-12	—	—	9212-13	LC1203	2.770	1.410	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	4.70	5.5
9990	751	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.510	1.830	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	3.30	4.0
9990	791	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.650	1.780	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.30	2.5
9990	802	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.270	1.960	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.67	1.7 *
9990	822	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.570	2.090	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.05	1.9
9990	834	15C	U-20	—	—	9212-13	LC1203	0.360	0.300	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	0.55	1.6
9990	838	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.220	1.820	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	2.00	4.1
9990	844	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.490	1.950	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.54	2.5 *
9990	865	15C	U-7	—	—	9212-13	LC1203	2.790	1.570	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	2.88	4.2
9990	901	15C	U-7	—	—	9212-13	LC1203	3.380	2.200	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.21	4.2 *
9990	974	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.050	1.920	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	2.00	3.2 *
9990	1028	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	1.880	2.020	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.00	1.1
9990	1040	15C	U-12	—	—	9212-13	LC1203	3.090	1.460	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	0.80	1.8 *
9990	1158	15C	U-2	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.60	2.7
9990	1164	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.31	2.4
9990	116剥片A	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	8.24	4.7
9990	116剥片B	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	3.29	1.9
9990	116剥片C	15C	—	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.24	2.7
9990	145	15C	U-7	—	—	9212-13	LC1203	2.850	2.200	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.16	2.8
9990	278	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.130	0.670	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.90	1.4
9990	409	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.180	1.880	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.80	4.5
9990	414	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.410	0.550	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.08	1.2
9990	485	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.580	2.090	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	4.60	5.2
9990	514	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.670	1.150	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.15	2.1
9990	546	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.080	2.010	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	6.35	6.9
9990	562	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.100	2.130	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (A)	16	1.40	2.2
9990	627	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.640	1.590	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.25	6.9
9990	794	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.530	1.220	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.20	1.2
9990	719	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.610	1.990	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	0.80	1.5
9990	743	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.560	2.190	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.10	1.9
9990	775	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.480	1.840	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	4.80	5.5
9990	793	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.670	1.760	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.87	2.1
9990	867	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	2.580	1.870	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	2.60	5.5
9990	934	15C	U-7	—	—	9212-13	LC1203	2.890	2.320	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.80	1.5
9990	970	15C	U-13	—	—	9212-13	LC1203	2.590	1.150	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.25	1.7
9990	1170	15C	U-8	—	—	9212-13	LC1203	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	99J300 (B)	16	1.28	

表35 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(20)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	定形 有無	欠損 有無	新欠 の位置				背面の 剥離の 方向				裏面の 残存状況				磨の 面比 率	打面 磨	末端 磨	バルブ の形状	内面 の有無	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.29 *	0.90															なし	平磨	平磨	平磨	なし	
0.02	7.20	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (408+571接合)
0.20	2.90	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.44	2.10	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.73	3.70															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.18	0.90	ほぼ完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.20	1.10															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.13	0.20															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.22	0.90	J12-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (803+1147接合)
0.22	0.40	J12-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (803+1147接合)
0.25	0.90															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (803+1147接合)
0.13	0.20															なし	磨削	平磨	磨削せず	なし	
0.12	0.20															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.29	0.60	J14-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (1049+1073接合)
0.20	0.70	J14-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (1049+1073接合)
0.02		完形																			剥片折れ (1049+1073接合)
0.17	0.40	J14-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (1049+1073接合)
0.12	0.20	J14-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (1049+1073接合)
0.18	0.40															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (1049+1073接合)
0.37	0.20	ほぼ完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (1049+1073接合)
0.31	1.40	ほぼ完形														なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (1049+1073接合)
0.01 *	0.40	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (109+266+931接合)
0.20	0.70	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.13	0.10															なし	平磨	平磨	平磨	なし	
1.94	98.30	—	—													なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.60	6.70	—	—													なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
2.06	62.10	—	—													なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
1.09 *	18.70	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (109+266+931接合)
0.16	0.60															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.36 *	0.90	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (420+665+1040接合)
0.41	0.90	ほぼ完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.3	0.70	完形														なし	点状	スリッパ	磨削せず	なし	
0.44	2.60	完形														なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.9	0.90	—	—													なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.18	0.40															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.26	0.30	完形														なし	点状	スリッパ	磨削せず	なし	
0.73	7.90															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.6	13.20	完形														なし	点状	スリッパ	磨削せず	なし	
0.36	1.60	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (420+665+1040接合)
0.4	3.00	完形														なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.48	0.20	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.76	24.30	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.95	11.40	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.3	0.90	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.24	0.60															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.22	0.40	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
1.6	0.20	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (834+1158接合)
0.14	0.30															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.47	2.00															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.3	2.20	完形														なし	点状	スリッパ	磨削せず	なし	
0.93 *	31.90	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (109+266+931接合)
0.16	1.90															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.17	1.20															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.30 *	0.70	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (420+665+1040接合)
2.44	2.30	J16a-剥片Aを参照のこと																			剥片折れ (834+1158接合)
0.26	0.80	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
1.44	38.00	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (109+266+931接合)
0.30	2.80	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (420+665+1040接合)
0.25	2.50	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	剥片折れ (834+1158接合)
1.02	6.40	完形														なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.92	3.30	完形														なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.63	11.90															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.22	0.30															なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
1.47	28.10	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.4	2.00	ほぼ完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.60	22.60	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.19	0.60															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.2	0.20	ほぼ完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.24	0.30	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.2	0.30															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.41	1.40	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.9	20.40															なし	平磨	スリッパ	磨削せず	なし	
0.48	2.70	ほぼ完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.61	6.00	ほぼ完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.29	0.40	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.44	0.90	完形														なし	磨削	スリッパ	磨削せず	なし	
0.35	0.70															なし	平磨	スリッパ	平磨	なし	

表36 NG89-19次調査地LC1203出土割片等観察表(21)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ フ 印	図面 抽出	地層 相対年代	遺構	X座標 (公尺)※ 北-0m	Y座標 (公尺)※ 東-0m	標高	器種	石材	割片 分類	接合 番号	長さ (mm) ×幅	幅 (mm) ×厚	
9980	144	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,830	1,820	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	2.45	3.3 *
9980	177	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,910	2,190	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	3.40	3.6
9980	279	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,980	1,940	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	2.80	1.9
9980	484	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,400	1,910	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	2.18	2.1
9980	514	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,550	1,920	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	1.60	3.2
9980	486	ⅢC	U-13				5612-13	LC1203	2,470	0,730	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	2.35	1.3
9980	547	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,940	1,710	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	2.60	1.2
9980	620	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,770	2,300	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	0.72	0.9 *
9980	748	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,830	2,130	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	0.80	4.1 *
9980	1811	ⅢC	U-12				5612-13	LC1203	3,080	1,100	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	2.10	1.0
9980	J186(表)A	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,850	1,830	—	割片	ヤスガイト	99J20 18	2.45	3.9
9980	149	ⅢC	U-3				5612-13	LC1203	2,830	2,690	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	2.20	3.3
9980	300	ⅢC	U-14				5612-13	LC1203	1,390	0,910	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	0.72	1.2 *
9980	472	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,810	1,840	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	1.18	1.4
9980	482	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,790	2,050	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	1.40	1.4
9980	630	ⅢC	U-13				5612-13	LC1203	2,380	1,280	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	2.80	1.3
9980	879	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,620	1,970	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	2.10	1.6
9980	726	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,290	1,810	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	0.75	1.3
9980	750	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,840	1,820	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	1.80	1.3
9980	829	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,520	1,960	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	1.85	3.0
9980	1080	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,580	1,760	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	1.10	1.7 *
9980	1168	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	—	—	—	割片	ヤスガイト	99J20 19	0.65	1.3
9980	184	ⅢC	U-9				5612-13	LC1203	1,370	1,890	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	0.61	1.4 *
9980	207	ⅢC	U-13				5612-13	LC1203	2,070	1,350	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	2.30	2.6
9980	387	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	1,810	2,150	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	3.75	2.6
9980	430	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,410	1,910	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	1.70	2.4 *
9980	500	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,720	1,990	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	1.32	1.6 *
9980	542	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,820	2,040	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	2.17	3.3 *
9980	645	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,610	2,280	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	1.70	0.8
9980	875	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,350	2,040	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	1.90	0.9
9980	905	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,090	1,650	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	3.00	0.9 *
9980	1082	ⅢC	ⅢC				5612-13	LC1203	2,700	3,900	—	割片	ヤスガイト	99J20 20	2.41	1.9
9980	402	ⅢC	U-13				5612-13	LC1203	2,030	1,470	—	割片	ヤスガイト	99J20 21	0.95	1.0 *
9980	813	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,560	1,840	—	割片	ヤスガイト	99J20 21	2.08	2.6
9980	1059	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,880	1,980	—	割片	ヤスガイト	99J20 21	1.60	2.2 *
9980	1180	ⅢC	U-12				5612-13	LC1203	—	—	—	割片	ヤスガイト	99J20 21	1.70	1.3 *
9980	135	ⅢC	U-2				5612-13	LC1203	2,790	2,730	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	1.77	3.0
9980	171	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	1,960	1,910	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	0.70	1.4
9980	180	ⅢC	U-2				5612-13	LC1203	2,480	2,960	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	2.78	3.5
9980	234	ⅢC	U-18				5612-13	LC1203	1,790	1,390	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	1.94	2.4
9980	449	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,010	1,760	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	1.10	1.8
9980	530	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	1,130	1,750	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	3.35	3.3
9980	545	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,010	1,740	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	2.50	2.6
9980	1029	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,470	2,070	—	割片	ヤスガイト	99J20 (J21) 22	3.85	2.1
9980	668	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,690	1,940	—	割片	ヤスガイト	99J20 23	2.10	2.7
9980	806	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,160	1,830	—	割片	ヤスガイト	99J20 23	1.75	4.1 *
9980	983	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,830	2,040	—	割片	ヤスガイト	99J20 23	3.15	1.8
9980	1142	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,130	1,980	—	割片	ヤスガイト	99J20 23	2.25	1.6 *
9980	131	ⅢC	U-1				5612-13	LC1203	3,910	2,620	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.50	4.1 *
9980	182	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,270	1,530	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.74	1.4
9980	178	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,860	2,130	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.10	3.6
9980	204	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,830	1,730	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.90	1.6
9980	221	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,370	2,150	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.60	1.7
9980	233	ⅢC	U-14				5612-13	LC1203	1,210	1,150	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.65	4.2
9980	240	ⅢC	U-14				5612-13	LC1203	1,370	0,900	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.20	3.2
9980	255	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,800	1,540	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	7.70	3.9
9980	270	ⅢC	U-13				5612-13	LC1203	0,410	1,210	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	6.20	2.1
9980	325	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,270	2,220	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.10	6.3
9980	357	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	1,160	1,300	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.51	3.4
9980	373	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,220	2,280	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.28	4.1
9980	394	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,680	2,240	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	3.94	1.6
9980	399	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,870	2,190	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.90	2.2 *
9980	442	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,660	1,660	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.10	2.4 *
9980	527	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,660	1,750	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.90	3.4
9980	639	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,450	1,670	—	ヤスガイト	—	99J20 24	3.67	4.1 *
9980	660	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,580	1,910	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.90	3.1
9980	687	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,510	1,820	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.60	0.7
9980	773	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,830	2,020	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	3.58	6.0 *
9980	792	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,670	1,740	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.80	2.9
9980	872	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,660	2,020	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.50	4.1 *
9980	906	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,440	1,870	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.25	1.6
9980	1005	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,960	2,130	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.50	1.6
9980	1037	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,940	1,680	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	2.80	3.2
9980	1038	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	3,140	1,540	—	ヤスガイト	—	99J20 24	1.40	2.4
9980	1468	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	2,490	1,660	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.70	3.3 *
9980	1960	ⅢC	U-7				5612-13	LC1203	2,960	2,390	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	1.30	3.2 *
9980	1149	ⅢC	U-8				5612-13	LC1203	—	—	—	割片	ヤスガイト	99J20 24	0.70	1.8 *

表37 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(22)

厚さ (cm) ※切欠部	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新装 の位置				背面の 剥離痕 の方向				裏面の 残存位置				裏の 表面 比率	打面 跡部	左側 跡部	パルプ の状況	内面の 有無	備 考		
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV								
0.66	3.60	J18-剥片Aを参照のこと																					
1.1	15.70	完形													○	○	○	表面	平削	フェザー	磨蝕	なし	剥片折れ (144+748組合)
0.23	1.70	完形															235表面	磨蝕	ブレード	残存せず	あり		
0.2	1.00	完形															なし	点状	フェザー	残存せず	あり		
0.31	1.50	表面割															235以上	平削	フェザー	残存せず	あり		
0.3	1.00	表面割																235表面	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.13	0.40	表面割																なし	平削	フェザー	残存せず	あり	
0.13	4.20	部分のみ																なし	平削	平削	平削	なし	
0.2	6.10	J18-剥片Aを参照のこと																					
0.14	0.50	表面割	○															235以上	平削	フェザー	残存せず	あり	
0.66	3.70	完形																235以上	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.27	3.40	完形																235以上	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.11	4.10	部分のみ																なし	平削	スリッパ	平削	なし	
2.84	0.50	完形																235以上	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.17	0.30	完形																なし	点状	フェザー	残存せず	なし	
0.4	0.30	完形																なし	点状	フェザー	残存せず	なし	
0.73	2.20	ほぼ完形	○															235以上	磨蝕	ブレード	残存せず	なし	
0.33	0.20	完形																なし	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.66	1.10	完形																235以上	点状	フェザー	残存せず	なし	
0.25	0.20	表面割																235表面	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.59	4.20	部分のみ																なし	平削	フェザー	平削	なし	
0.33	0.50	完形																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.3	0.40	部分のみ																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.97	3.30	完形																235表面	点状	スリッパ	残存せず	なし	
0.34	3.20	完形																なし	磨蝕	スリッパ	残存せず	なし	
0.64	2.00	左側割																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.15	0.30	左側割																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.53	3.10	左側割																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.2	0.40	完形																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.53	0.40	完形																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.13	0.10	部分のみ																なし	平削	フェザー	平削	なし	
0.42	1.70	ほぼ完形	表面割															235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.17	0.10	左側割																なし	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.44	1.50	完形																なし	右側割	フェザー	残存せず	なし	
0.29	0.90	左側割																なし	平削	フェザー	残存せず	あり	
0.21	0.50	左側割																なし	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.17	0.90	完形																なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.22	0.20	完形																なし	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.68	4.30	完形																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	あり	
0.31	1.20	完形																なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.17	0.30	完形																なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.78	7.20	完形																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	あり	
0.36	2.90	完形																なし	磨蝕	フェザー	残存せず	あり	
0.84	4.20	完形																235以上	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.56	3.30	完形																235表面	磨蝕	スリッパ	残存せず	なし	
0.25	0.50	部分のみ	○															なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
1.01	4.30	完形																235以上	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.31	1.20	表面割																なし	磨蝕	フェザー	残存せず	あり	
0.23	1.50	表面割																235表面	右側割	平削	残存せず	あり	
0.13	0.70	完形																なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.25	0.80	表面割																235以上	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.24	0.30	完形																235以上	点状	フェザー	残存せず	あり	
0.18	0.30	完形																なし	点状	フェザー	残存せず	なし	
0.29	4.20	完形																なし	磨蝕	スリッパ	残存せず	あり	
0.79	3.90	ほぼ完形	表面割	○														235以上	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.28	0.70	表面割																235以上	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.28	3.00	完形																なし	磨蝕	スリッパ	残存せず	なし	
0.4	4.70	完形																235表面	磨蝕	フェザー	残存せず	あり	
0.38	3.30	完形																1425表面	点状	フェザー	残存せず	あり	
0.17	0.30	表面割																なし	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.32	4.60	完形																235表面	点状	フェザー	残存せず	あり	
0.22	1.10	ほぼ完形	左側割	○														なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.29	0.70	表面割																235表面	平削	フェザー	残存せず	なし	
0.3	1.90	完形																なし	右側割	フェザー	残存せず	なし	
0.66	12.00	J24-剥片Aを参照のこと																					
0.42	3.30	完形																235以上	磨蝕	フェザー	残存せず	あり	
0.16	0.10	表面割																○	235以上	磨蝕	平削	残存せず	なし
0.32	9.50	J24-剥片Aを参照のこと																					
0.29	1.30	完形																なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	
0.19	0.40	表面割																○	235以上	平削	フェザー	残存せず	なし
0.24	0.70	J24-剥片Bを参照のこと																					
0.28	0.90	完形																○	235以上	右側割	スリッパ	残存せず	なし
0.66	3.30	完形																235以上	磨蝕	フェザー	残存せず	あり	
0.27	1.50	J24-剥片Bを参照のこと																					
0.27	0.80	表面割																235表面	平削	平削	残存せず	なし	
0.47	1.10	左側割																235以上	右側割	フェザー	残存せず	なし	
0.13	0.20	ほぼ完形	表面割	○														なし	磨蝕	フェザー	残存せず	なし	

表38 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(23)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	発 見 場所	発 見 時期	遺 物 名	X線透 過写真 (10倍)	Y線透 過写真 (10倍)	標 高 (m)	種 類	石材	剥 片 分類	接 合 番 号	長さ (cm) ※短縮	幅 (cm) ※短縮	
8888	1166	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 24	1.10	2.0	
8888	124剥片A	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 24	6.36	6.0	
8888	124剥片B	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 24	2.87	2.4	
8888	167	U3C	U-9	NG12-13	LC1203	1.238	2.088	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 25	1.25	2.4	
8888	351	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.560	1.850	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 25	1.45	2.4 *	
8888	519	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.430	1.550	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 25	1.05	1.3 *	
8888	711	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.410	1.300	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 25	1.70	1.5	
8888	864	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	2.770	1.760	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 25	2.06	2.4	
8888	943	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	3.000	2.180	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 25	2.10	2.3 *	
8888	961	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.840	2.020	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 25	1.08	1.4 *	
8888	1130	U3C	U-3	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 25	1.60	2.4	
8888	511	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.080	1.530	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 26	1.17	2.2	
8888	653	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.400	1.710	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 26	0.90	2.4 *	
8888	762	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.270	1.580	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 26	2.05	2.0 *	
8888	948	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.460	1.280	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 26	0.94	1.2	
8888	853	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	3.070	2.340	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 27	1.85	1.9	
8888	1181	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 27	1.22	2.3 *	
8888	127剥片A	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 27	1.86	1.9	
8888	424	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.190	1.820	—	—	剥片	ヤマトイロ	石目剥片	89J28 28	2.38	2.8	
8888	835	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.440	1.960	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 28	1.80	2.1	
8888	149	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.090	2.080	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 28	0.78	1.9	
8888	494	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.600	2.070	—	—	剥片	ヤマトイロ	石目剥片	89J28 28	4.20	2.4 *	
8888	539	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.870	2.200	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 28	3.50	2.2	
8888	569	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.450	1.730	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 28	4.35	3.0	
8888	607	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.510	2.000	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 28	2.15	4.1	
8888	611	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.270	1.820	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 28	1.93	1.5	
8888	683	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.220	1.900	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 28	1.76	2.3 *	
8888	941	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	3.330	2.300	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 29	1.10	2.2	
8888	963	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.250	1.490	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 29	2.45	2.0	
8888	129剥片A	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 29	2.10	2.3	
8888	148	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.560	2.070	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 30	4.42	2.2	
8888	305	U3C	U-14	NG12-13	LC1203	1.460	1.120	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 30	3.54	3.9	
8888	594	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.430	1.730	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 30	1.19	2.6	
8888	251	U3C	U-9	NG12-13	LC1203	1.730	2.080	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 31	1.82	1.7	
8888	304	U3C	U-3	NG12-13	LC1203	2.870	2.090	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 31	1.34	1.8 *	
8888	690	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.870	2.130	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 31	1.05	1.2 *	
8888	318	U3C	U-9	NG12-13	LC1203	1.710	1.710	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	32	2.25	3.4
8888	344	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.330	2.200	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	32	3.30	4.2
8888	377	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.420	2.220	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 (J11)	32	2.30	1.0 *
8888	441	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.370	1.450	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	32	3.40	2.8
8888	494	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.480	2.070	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 (J11)	32	4.10	3.3
8888	696	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.410	1.740	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 (J11)	32	1.23	1.0
8888	698	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.610	1.890	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 (J11)	32	3.35	3.3
8888	786	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.660	1.490	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 (J11)	32	2.35	1.6
8888	1023	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	3.300	1.420	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 (J11)	32	1.94	1.6
8888	1036	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	1.810	1.490	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 (J11)	32	1.55	0.7 *
8888	1143	U3C	U-6	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 (J11)	32	1.15	1.1
8888	130剥片A	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	32	4.00	4.6
8888	229	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.730	0.830	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 (J11)	33	1.90	2.4
8888	342	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.430	1.450	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	33	2.90	3.6
8888	1041	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.050	1.640	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 (J11)	33	2.71	2.2 *
8888	133剥片A	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	33	2.78	4.9
8888	245	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	1.940	1.020	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 (J11)	34	2.45	2.2 *
8888	881	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.430	1.690	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 (J11)	34	2.19	1.9 *
8888	124剥片A	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	34	2.49	4.1
8888	238	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	2.940	1.920	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 (J11)	35	2.04	2.7
8888	1020	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.300	1.390	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 (J11)	35	0.85	0.1 *
8888	771	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.640	1.090	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 36	1.00	2.1 *	
8888	997	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	2.940	1.960	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 36	1.01	1.9 *	
8888	134剥片A	U3C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 36	1.96	2.3 *	
8888	261	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.490	1.470	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 37	1.90	2.1	
8888	239	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.610	2.130	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 37	3.91	2.8	
8888	416	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	1.790	0.790	—	—	剥片	ヤマトイロ	石目剥片	89J28 37	4.05	1.8	
8888	494	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.690	2.050	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 37	2.40	5.1	
8888	495	U3C	U-7	NG12-13	LC1203	2.790	2.250	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 37	1.35	3.2	
8888	497	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.640	2.050	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 37	0.95	2.0 *	
8888	515	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.630	1.930	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 37	4.32	5.2	
8888	574	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.760	1.300	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 37	6.78	5.1	
8888	618	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.710	1.820	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 37	0.80	1.9	
8888	625	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.660	1.630	—	—	剥片	ヤマトイロ	—	89J28 37	4.48	7.3	
8888	766	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.620	1.470	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 37	3.28	1.2	
8888	769	U3C	U-12	NG12-13	LC1203	2.880	1.490	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 37	2.90	1.8	
8888	782	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.600	1.720	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 37	2.50	1.5	
8888	820	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.710	1.900	—	—	剥片	ヤマトイロ	中割	89J28 37	0.85	1.0	
8888	847	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.660	2.090	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 37	1.88	2.6	
8888	852	U3C	U-8	NG12-13	LC1203	2.450	1.710	—	—	剥片	ヤマトイロ	横線剥片	89J28 37	1.45	2.6	
8888	951	U3C	U-13	NG12-13	LC1203	2.250	1.210	—	—	剥片	ヤマトイロ	短線剥片	89J28 37	1.42	6.9	

表39 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(24)

原稿 (cm) 印刷後	重量 (g)	定形 有無	欠損 有無	新装 の位置				背面的 装綴の 方向				装綴の 残存位置				表の 表面 比率	行装 部類	本装 部類	バルブ の装綴	内装の 有無	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.21	0.90		表装綴	○					○					○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.56	21.50	定形												○	装綴	フェザー	装綴せず	あり	紙片折れ(550+773)		
0.27	2.50	定形							○		○	○			230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし	紙片折れ(900+1030)	
0.19	0.50	定形							○	○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.16	0.70	表装綴							○	○					なし	不明	フェザー	不明	なし		
0.17	0.30	表装綴							○	○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.16	0.30	定形												○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.25	1.80	ほぼ定形	表装綴		○				○	○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.1	0.40	ほぼ定形	表装綴												なし	不明	フェザー	装綴せず	あり		
0.15	0.30	装綴のみ							○	○					なし	不明	不明	不明	なし		
0.19	0.60	定形							○	○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.17	0.50	定形							○	○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.82	15.20		表装綴										○	○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	あり		
1.17	16.40	表装綴													230未満	不明	フェザー	装綴せず	あり		
0.27	0.30	定形							○	○					230未満	不明	フェザー	装綴せず	あり		
0.22	0.70	J27-紙片Aを参照のこと													なし	不明	フェザー	不明	なし	紙片折れ(930+1161組合)	
0.68	0.10	J27-紙片Aを参照のこと													なし	不明	フェザー	不明	なし	紙片折れ(930+1161組合)	
0.22	0.90	定形							○	○					なし	不明	フェザー	装綴せず	あり	紙片折れ(930+1161組合)	
0.51	0.20	表装綴			○						○	○			なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.28	1.10	定形							○			○			なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.19	0.20	定形							○						なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
1.17	7.10	装綴のみ							○	○					なし	不明	不明	不明	なし		
0.81	0.60	定形							○	○					230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
1.81	16.90	定形							○					○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.35	3.00	定形							○						なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.17	0.50	定形							○	○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.5	1.40	J29-紙片Aを参照のこと													なし	不明	フェザー	装綴せず	なし	紙片折れ(603+941組合)	
0.2	0.30	J29-紙片Aを参照のこと													なし	不明	フェザー	装綴せず	なし	紙片折れ(603+941組合)	
0.59	0.70	定形									○	○			なし	不明	フェザー	装綴せず	なし	紙片折れ(603+941組合)	
0.3	1.90	定形													なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.86	7.80	ほぼ定形	表装綴		○								○		230未満	不明	ビンジ装	装綴せず	なし		
0.21	2.90		表装綴						○	○					なし	不明	ビンジ装	装綴せず	なし		
0.1	0.40	定形							○						なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.40	1.60	表装綴							○	○	○				なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.34	0.70	ほぼ定形	○装綴	○											なし	不明	アーチ	装綴せず	なし		
0.2	0.30	装綴のみ							○	○					なし	不明	不明	装綴せず	なし		
0.94	3.70	定形							○					○	なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.9	10.70	定形							○	○				○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.14	0.40	装綴のみ													なし	不明	不明	装綴せず	なし		
0.24	1.00	定形							○						なし	不明	キャップ	装綴せず	なし		
1.01	13.20	J32-紙片Aを参照のこと													なし	不明	不明	不明	なし	紙片折れ(644+699組合)	
0.16	0.30	両綴							○						なし	不明	不明	不明	なし		
0.86	16.10	J32-紙片Aを参照のこと													なし	不明	不明	不明	なし	紙片折れ(644+699組合)	
0.25	0.80	定形								○	○				なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.3	0.70	定形													○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし	
0.1	0.30	装綴のみ							○						なし	不明	不明	装綴せず	なし		
0.1	0.30	定形												○	なし	不明	不明	装綴せず	なし		
1.00		定形								○	○	○	○	○	100以上	不明	ビンジ装	両綴	なし	紙片折れ(644+699組合) 紙片折れ(220+1041組合)	
0.89	0.10	J33-紙片Aを参照のこと													○	230以上	不明	ビンジ装	不明	なし	
0.58	0.80	定形											○	○	○	不明	不明	フェザー	装綴せず	あり	
0.27	3.60	J33-紙片Aを参照のこと													○	230以上	不明	フェザー	不明	紙片折れ(220+1041組合)	
0.43	9.60	定形													○	230以上	不明	フェザー	装綴せず	あり	
0.58	2.90	J34-紙片Aを参照のこと														なし	不明	フェザー	装綴せず	なし	
0.95	1.80	J34-紙片Aを参照のこと														なし	不明	フェザー	装綴せず	なし	
0.57	4.70	定形												○	○	○	○	不明	不明	紙片折れ(345+981組合)	
0.32	1.90	定形												○	○	○	○	ほぼ定形	不明	なし	
0.13	0.60	装綴のみ												○	○	○	○	不明	不明	不明	
0.13	0.30	J36-紙片Aを参照のこと														なし	不明	不明	不明	なし	
0.1	0.30	J36-紙片Aを参照のこと														なし	不明	不明	不明	なし	
0.3	0.60	装綴のみ								○					なし	不明	不明	不明	不明	なし	
0.32	1.10	表装綴													○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし	
0.61	5.10	定形								○	○				230未満	不明	アーチ	装綴せず	なし		
0.8	3.20	定形													230以上	不明	フェザー	装綴せず	なし		
1.79	32.60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.18	0.60	定形								○		○			230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.32	0.60	装綴のみ								○					230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
1.01	30.60	定形								○					230以上	不明	キャップ	装綴せず	なし		
1.11	25.00	—	—							○	○	○			なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.48	0.30	定形													230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
1.35	22.60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.27	0.40	定形								○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
4.18	3.30	定形												○	230未満	不明	ビンジ装	装綴せず	なし		
0.58	1.90	定形								○					230以上	不明	フェザー	装綴せず	あり		
0.33	0.10	装綴のみ										○	○		230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
4.64	1.30	定形								○					なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		
2.61	0.70	定形								○				○	230未満	不明	フェザー	装綴せず	なし		
0.19	0.30	表装綴								○	○				なし	不明	フェザー	装綴せず	なし		

表40 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(25)

調査区	建造物番号	地区	グリッド	測図測出	地盤調査結果	用途	1階床 (柱基礎) 高さ (m)	2階床 (柱基礎) 高さ (m)	階高	部材	石材	天井 分類	接合 番号	長さ (m) ×幅 (m)	幅 (m) ×高さ (m)
9999	997	1区	U-5	9612-13	LC1203	2,930	2,970	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/27	1.41	3.8	—
9999	963	1区	U-9	9612-13	LC1203	2,730	2,970	—	既設	セメント系	木部	9999/37	1.69	0.7	—
9999	977	1区	U-13	9612-13	LC1203	1,960	1,420	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/37	0.50	1.8	—
9999	960	1区	U-9	9612-13	LC1203	2,670	2,100	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/27	1.10	0.9	—
9999	1031	1区	U-9	9612-13	LC1203	2,580	1,740	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/27	1.05	1.1	—
9999	1097	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,480	1,460	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/27	1.60	0.9	—
9999	380	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,450	0,960	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/28	3.05	2.0	—
9999	1013	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,450	0,960	—	既設	セメント系	石目板	9999/28	1.01	0.5	—
9999	316	1区	U-9	9612-13	LC1203	1,230	1,670	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/29	2.05	1.9	—
9999	063	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,040	1,970	—	既設	セメント系	木部	9999/29	1.80	2.2	—
9999	252	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,050	1,690	—	既設	セメント系	石目板	9999/40	1.60	0.6	—
9999	002	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,610	1,850	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/40	1.93	1.4	—
9999	903	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,000	1,890	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/40	2.50	2.2	—
9999	969	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,000	2,040	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/40	1.35	1.7	—
9999	1125	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,000	1,190	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/40	1.70	1.6	—
9999	208	1区	U-13	9612-13	LC1203	1,470	1,600	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/41	0.99	1.4	—
9999	298	1区	U-12	9612-13	LC1203	2,470	1,070	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/41	0.50	1.0	—
9999	431	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,580	1,850	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/41	2.30	1.8	—
9999	488	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,620	2,150	—	既設	セメント系	石目板	9999/41	3.10	1.0	—
9999	650	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,730	1,610	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/41	0.98	2.3	—
9999	473	1区	U-13	9612-13	LC1203	1,650	1,070	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/41	2.60	0.8	—
9999	776	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,050	1,640	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/41	2.30	2.4	—
9999	1080	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,780	2,180	—	既設	セメント系	石目板	9999/41	2.00	0.7	—
9999	541	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,040	2,040	—	既設	セメント系	木部	9999/42	1.10	1.1	—
9999	629	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,680	1,270	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/42	0.74	1.8	—
9999	142	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,270	1,520	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/43	1.80	1.7	—
9999	018	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,910	1,410	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/43	2.25	1.4	—
9999	371	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,920	2,410	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/43	1.09	1.1	—
9999	028	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,400	1,770	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/44	1.29	1.8	—
9999	552	1区	U-12	9612-13	LC1203	2,110	1,090	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/44	1.56	1.9	—
9999	642	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,990	1,580	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/44	2.58	2.7	—
9999	924	1区	U-12	9612-13	LC1203	2,370	1,520	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/44	2.70	2.2	—
9999	547	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,070	1,970	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/45	0.98	2.0	—
9999	082	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,290	0,980	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/45	2.80	2.3	—
9999	731	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,160	1,660	—	既設	セメント系	木部	9999/45	1.55	1.9	—
9999	240	1区	U-4	9612-13	LC1203	1,810	2,470	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/46	0.60	1.2	—
9999	327	1区	U-8	9612-13	LC1203	1,680	2,320	—	既設	セメント系	木部	9999/46	1.81	2.9	—
9999	738	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,660	1,830	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/46	0.90	2.4	—
9999	475	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,010	2,230	—	既設	セメント系	木部	9999/46	2.18	2.6	—
9999	386	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,430	1,730	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/46	2.18	2.5	—
9999	908	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,960	1,750	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/46	1.86	2.2	—
9999	907	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,470	2,390	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/46	1.42	2.0	—
9999	1410	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,010	1,970	—	既設	セメント系	木部	9999/46	0.80	1.6	—
9999	020	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,710	1,630	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/47	1.79	2.8	—
9999	1034	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,600	1,430	—	既設	セメント系	木部	9999/47	1.68	2.8	—
9999	182	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,010	2,770	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/48	2.30	2.0	—
9999	409	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,470	1,390	—	既設	セメント系	木部	9999/48	2.20	1.3	—
9999	454	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,410	2,040	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/48	0.15	4.3	—
9999	016	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,620	1,410	—	既設	セメント系	—	9999/48	0.42	3.4	—
9999	556	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,260	9,920	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/48	3.20	2.0	—
9999	604	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,070	2,050	—	既設	セメント系	木部	9999/48	1.75	2.3	—
9999	674	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,930	2,330	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/48	2.20	2.0	—
9999	823	1区	U-19	9612-13	LC1203	1,360	0,120	—	既設	セメント系	—	9999/48	2.61	3.4	—
9999	849	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,440	1,620	—	既設	セメント系	—	9999/48	3.98	6.2	—
9999	913	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,470	1,470	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	1.90	1.7	—
9999	927	1区	U-7	9612-13	LC1203	2,250	1,770	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	2.40	1.7	—
9999	090	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,390	1,450	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	2.40	3.9	—
9999	1121	1区	U-14	9612-13	LC1203	2,230	0,150	—	既設	セメント系	木部	9999/49	1.64	0.8	—
9999	1190	1区	U-8.4	9612-13	LC1203	1,030	0,370	—	既設	セメント系	—	9999/49	3.92	2.6	—
9999	J40開戸A	1区	—	9612-13	LC1203	—	—	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	4.50	6.2	—
9999	J40開戸B	1区	—	9612-13	LC1203	—	—	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	4.97	5.3	—
9999	192	1区	U-8	9612-13	LC1203	1,900	2,230	—	既設	セメント系	木部	9999/49	2.40	3.1	—
9999	224	1区	U-13	9612-13	LC1203	1,880	1,470	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	1.62	1.9	—
9999	566	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,170	1,700	—	既設	セメント系	—	9999/49	1.67	2.7	—
9999	628	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,720	1,470	—	既設	セメント系	木部	9999/49	0.75	0.9	—
9999	901	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,280	1,940	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	3.60	3.1	—
9999	945	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,060	2,010	—	既設	セメント系	木部	9999/49	0.84	1.3	—
9999	985	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,480	1,610	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	1.55	1.5	—
9999	978	1区	U-12	9612-13	LC1203	1,890	1,450	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	1.50	1.4	—
9999	1088	1区	U-8	9612-13	LC1203	1,920	1,540	—	既設	セメント系	—	9999/49	2.42	2.8	—
9999	J40開戸A	1区	—	9612-13	LC1203	—	—	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	3.41	2.8	—
9999	148	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,680	2,290	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/49	1.77	2.7	—
9999	885	1区	U-13	9612-13	LC1203	2,290	1,260	—	既設	セメント系	木部	9999/50	0.81	1.5	—
9999	688	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,260	2,090	—	既設	セメント系	—	9999/51	1.31	0.6	—
9999	682	1区	U-8	9612-13	LC1203	2,260	1,970	—	既設	セメント系	—	9999/51	0.97	2.1	—
9999	J40開戸A	1区	—	9612-13	LC1203	—	—	—	既設	セメント系	縦筋板	9999/51	1.97	3.1	—
9999	322	1区	U-9	9612-13	LC1203	2,810	2,250	—	既設	セメント系	木部	9999/52	0.70	1.9	—

表41 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(26)

厚さ (㎖) ×印は値	重量 (g)	外形 有無	欠損 有無	断面 の位置	背面の 表裏面 の方向				背面の 残存位置				裏の 裏面 位置	打痕 有無	左端 有無	バルブ の位置	内湾の 有無	備 考
					I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.64	2.60	定形											20%以上	表面	フェザー	製造	なし	
0.42	0.1g未満	定形	部分のみ										なし	不明	不明	製造	なし	
0.43	0.50	定形											20%以上	点状	フェザー	製造	なし	
0.24	0.20	定形	欠損部										なし	不明	不明	製造	なし	
0.23	0.20	定形											なし	線状	フェザー	製造	なし	
0.14	0.20	定形	欠損部										なし	不明	フェザー	製造	なし	
0.42	0.20	定形											なし	線状	フェザー	製造	なし	
0.21	0.20	定形											なし	不明	フェザー	不明	なし	
0.13	0.50	定形											なし	線状	スワップ	製造	なし	
0.14	0.70	部分のみ											なし	不明	不明	不明	なし	
0.16	0.20	定形											なし	点状	フェザー	製造	なし	
0.29	0.60	定形											なし	線状	フェザー	製造	なし	
0.49	2.10	定形											なし	線状	スワップ	製造	なし	
0.26	1.15	定形											なし	線状	フェザー	製造	なし	
0.39	0.90	定形											なし	不明	フェザー	製造	なし	
0.14	0.20	定形											なし	線状	アーチ	製造	なし	
0.16	0.20	定形	欠損部										なし	点状	不明	製造	なし	
0.37	1.40	定形											なし	点状	フェザー	製造	なし	
0.41	1.00	定形											なし	スワップ	製造	なし		
0.28	1.20	定形											なし	線状	アーチ	製造	なし	
0.71	15.60	定形											なし	線状	有線部	製造	なし	
0.73	7.50	定形											なし	不明	フェザー	製造	あり	
0.36	0.30	長方形											なし	不明	フェザー	製造	なし	
0.24	0.20	長方形											なし	不明	フェザー	製造	なし	
0.29	0.40	定形											なし	線状	アーチ	製造	なし	
0.29	0.80	定形											なし	線状	フェザー	製造	なし	
0.4	1.10	定形											なし	不明	スワップ	製造	なし	
0.15	0.20	定形											なし	点状	不明	製造	なし	
0.29	0.50	定形											なし	点状	スワップ	製造	なし	
0.2	0.70	定形											なし	線状	フェザー	製造	なし	
0.91	5.40	定形											なし	線状	フェザー	製造	あり	
0.49	2.50	定形											なし	線状	フェザー	製造	なし	
0.18	0.30	長方形											なし	不明	ヒンジ	製造	なし	
0.58	2.30	定形											なし	不明	ヒンジ	製造	なし	
0.23	0.40	部分のみ											なし	不明	フェザー	製造	なし	
0.22	0.60	定形											なし	線状	フェザー	製造	あり	
0.36	1.60	長方形											なし	点状	フェザー	製造	あり	
0.36	0.90	定形											なし	線状	フェザー	製造	あり	
0.66	5.10	定形											なし	線状	フェザー	製造	あり	
0.61	2.60	定形											なし	点状	フェザー	製造	あり	
0.26	1.20	定形											なし	線状	フェザー	製造	あり	
0.29	1.70	長方形											なし	不明	フェザー	製造	あり	
0.22	0.40	長方形											なし	不明	フェザー	製造	あり	
0.42	1.40	定形											なし	線状	スワップ	製造	なし	
0.21	0.90	両端											なし	不明	不明	製造	なし	
0.39	1.80	不明											20%未満	線状	スワップ	製造	なし	
0.28	1.00	打点部											なし	不明	不明	製造	なし	
1.27	34.80	定形											20%未満	線状	ヒンジ	製造	なし	
0.39	2.30	J48-剥片Aを参照のこと											なし	線状	スワップ	製造	なし	剥片割れ(536+809接合)
0.43	3.20	定形											なし	不明	不明	製造	なし	
0.22	0.90	長方形											なし	不明	フェザー	製造	なし	
0.25	1.20	定形											20%未満	線状	スワップ	製造	なし	
0.61	4.10	J48-剥片Aを参照のこと											なし	線状	スワップ	製造	なし	剥片割れ(823+1121+1136接合)
0.50	10.20	J48-剥片Aを参照のこと											なし	点状	スワップ	製造	なし	剥片割れ(516+809接合)
0.21	0.70	定形											なし	不明	不明	製造	なし	
0.43	2.50	定形											20%未満	線状	アーチ	製造	なし	
0.23	0.40	定形											なし	点状	フェザー	製造	なし	
0.32	3.20	J48-剥片Bを参照のこと											なし	不明	不明	製造	なし	剥片割れ(823+1121+1136接合)
0.71	5.30	J48-剥片Bを参照のこと											なし	不明	不明	製造	なし	剥片割れ(823+1121+1136接合)
0.61	12.60	定形											なし	線状	フェザー	製造	あり	剥片割れ(516+809接合)
0.71	12.60	定形											なし	不明	不明	製造	あり	剥片割れ(823+1121+1136接合)
0.44	2.50	長方形											20%以上	不明	フェザー	製造	なし	
0.28	0.60	不明											20%以上	不明	フェザー	製造	なし	
0.39	1.80	J48-剥片Aを参照のこと											なし	不明	不明	製造	なし	剥片割れ(566+1009接合)
0.11	0.15	両端											20%以上	不明	フェザー	製造	なし	
0.35	4.00	定形											20%以上	不明	フェザー	製造	あり	
0.22	0.70	長方形											20%以上	不明	フェザー	製造	なし	
0.23	0.60	不明											20%以上	不明	フェザー	製造	なし	
0.22	0.40	定形											20%未満	線状	フェザー	製造	なし	
0.43	2.60	J48-剥片Aを参照のこと											なし	不明	不明	製造	なし	剥片割れ(566+1009接合)
4.3	4.40	定形											20%以上	不明	ヒンジ	製造	なし	剥片割れ(566+1009接合)
0.29	1.60	定形											20%以上	不明	フェザー	製造	あり	
0.19	0.20	長方形											なし	不明	フェザー	製造	なし	
0.15	0.10	J51-剥片Aを参照のこと											なし	不明	不明	製造	なし	剥片割れ(666+663接合)
0.41	1.30	J51-剥片Aを参照のこと											なし	不明	不明	製造	なし	剥片割れ(666+663接合)
0.41	1.40	不明											なし	不明	不明	不明	なし	剥片割れ(666+663接合)
0.16	0.10	部分のみ											なし	不明	不明	不明	なし	

表42 NG89-19次調査地LC1203出土割片等観察表(27)

調査 記号	遺物 番号	地区	グリ ッド	図面 出力	地 層 名と地 層年代	遺構	X線透 視 像 の 取 得 有 無	Y線透 視 像 の 取 得 有 無	標高	器種	石材	割片 分類	接合 番号	長さ (cm) ※欠損	幅 (cm) ※欠損	
8900	1181	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 52	0.99	2.2	
8900	718	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,990	2,100	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 53	2.71	3.1	
8900	1120	E1C	E-14	NG12-13	LC1203	1,480	6,770	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 53	3.79	2.1	
8900	790	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,670	1,790	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 54	1.48	1.9	
8900	1149	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,470	1,910	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 54	1.69	1.2	
8900	J363割片A	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 54	1.68	2.1	
8900	779	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,630	1,680	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 55	1.72	2.9	
8900	811	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	2,560	1,490	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 55	2.29	2.6	
8900	817	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,620	1,750	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 55	2.68	1.8	
8900	J363割片A	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	石片割片	89J300 55	6.56	2.7	
8900	361	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,610	2,370	—	—	割片	ヤマトイロ	石片割片	89J300 56	2.36	2.7	
8900	847	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	3,010	1,710	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 56	2.41	2.0	
8900	229	E1C	E-12	NG12-13	LC1203	2,990	1,950	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 57	1.65	2.0	
8900	954	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	2,770	1,990	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 57	2.24	1.6	
8900	J37割片A	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 57	3.26	2.0	
8900	799	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,990	1,910	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 58	3.30	2.6	
8900	717	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,950	2,190	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 58	4.45	1.2	
8900	J363割片A	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 58	4.28	2.6	
8900	399	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,910	1,810	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 59	2.40	2.3	
8900	289	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,610	1,770	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 59	1.32	3.2	
8900	454	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,910	1,750	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 59	3.75	3.2	
8900	468	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	3,010	1,920	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 59	3.70	1.8	
8900	969	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,940	1,330	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 59	3.05	1.7	
8900	162	E1C	E-9	NG12-13	LC1203	1,890	2,470	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 60	2.20	1.6	
8900	245	E1C	E-12	NG12-13	LC1203	3,130	1,400	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 60	6.74	1.4	
8900	258	E1C	E-12	NG12-13	LC1203	3,030	6,960	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 60	2.63	1.9	
8900	303	E1C	E-14	NG12-13	LC1203	1,970	6,960	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 60	1.20	4.8	
8900	352	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,420	1,870	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 61	3.54	1.7	
8900	496	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,920	1,670	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	3.02	2.0	
8900	478	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,910	1,950	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	4.05	1.5	
8900	721	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,070	1,940	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	2.03	1.8	
8900	821	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,650	1,980	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	1.89	2.4	
8900	840	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,880	1,700	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 60	0.90	1.1	
8900	179	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	3,120	1,650	—	—	割片	ヤマトイロ	石片割片	89J300 61	6.32	3.1	
8900	216	E1C	E-9	NG12-13	LC1203	2,740	2,570	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 61	3.93	3.3	
8900	341	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	2,470	1,400	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 61	6.35	2.1	
8900	343	E1C	E-12	NG12-13	LC1203	3,070	1,470	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	1.91	1.8	
8900	496	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,660	2,520	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 61	2.07	4.8	
8900	981	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,890	2,430	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	3.43	4.8	
8900	461	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,950	1,670	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	3.71	3.6	
8900	791	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,540	1,520	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 61	1.62	1.8	
8900	756	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	1,900	1,060	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	2.42	1.6	
8900	851	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,480	1,700	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	3.90	4.8	
8900	873	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,340	2,040	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 61	1.92	3.0	
8900	686	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,520	1,590	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	1.25	1.0	
8900	915	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	2,610	1,420	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 61	1.31	2.1	
8900	916	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	2,350	1,490	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 61	6.63	2.0	
8900	986	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	2,230	1,390	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 61	1.94	3.0	
8900	1981	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	3,030	1,740	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 61	1.62	1.4	
8900	J361割片A	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	石片割片	89J300 61	4.59	4.1	
8900	J361割片B	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	石片割片	89J300 61	0.88	1.9	
8900	2113	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,990	1,570	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 62	2.40	2.0	
8900	282	E1C	E-19	NG12-13	LC1203	1,150	6,030	—	—	ブランク	ヤマトイロ	—	89J300 62	10.00	6.2	
8900	390	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,990	1,760	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 62	1.05	1.9	
8900	401	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,220	1,910	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 62	1.75	1.9	
8900	425	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	1,930	1,570	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 62	1.50	1.8	
8900	557	E1C	E-13	NG12-13	LC1203	2,260	9,920	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 62	1.78	2.0	
8900	734	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,230	1,890	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 62	2.19	1.8	
8900	946	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	2,960	2,000	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 62	2.19	4.1	
8900	1042	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,330	1,770	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 62	1.70	1.9	
8900	1118	E1C	E-14	NG12-13	LC1203	1,280	1,970	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 62	2.09	2.7	
8900	J362割片A	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 62	2.41	5.1	
8900	299	E1C	E-12	NG12-13	LC1203	2,960	1,570	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 63	3.88	2.1	
8900	512	E1C	E-12	NG12-13	LC1203	2,650	1,330	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 63	4.90	4.3	
8900	676	E1C	E-12	NG12-13	LC1203	3,060	9,960	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 63	6.93	6.9	
8900	699	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,990	2,000	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 62	2.55	5.1	
8900	906	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	2,910	1,610	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 63	3.00	1.5	
8900	J363割片A	E1C	—	NG12-13	LC1203	—	—	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 63	2.78	4.3	
8900	393	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,690	2,390	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 64	1.00	1.8	
8900	495	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,710	2,060	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 64	6.66	1.4	
8900	299	E1C	E-14	NG12-13	LC1203	1,430	6,870	—	—	割片	ヤマトイロ	平削	89J300 [J11]	65	3.87	2.7
8900	467	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,470	2,230	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 [J11]	65	2.70	2.3
8900	282	E1C	E-7	NG12-13	LC1203	2,780	1,800	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 66	3.15	4.3	
8900	392	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,210	1,810	—	—	割片	ヤマトイロ	—	89J300 66	1.60	1.9	
8900	889	E1C	E-8	NG12-13	LC1203	2,660	1,780	—	—	割片	ヤマトイロ	短形割片	89J300 66	2.90	1.2	
8900	1195	E1C	E-14	NG12-13	LC1203	1,720	1,470	—	—	割片	ヤマトイロ	横板割片	89J300 66	4.90	2.2	
8900	J3029	地区外	—	NG12-13	集中部外	—	—	—	—	ブランク	ヤマトイロ	—	89J300 [J11]	208	13.10	6.9

表43 NG89-19次調査地LC1203出土剥片等観察表(28)

厚さ (cm) *測定値	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置	背面の 剥離成 の方向	裏面の 残存位置	裏の 剥離 比率	打面 状態	左端 状態	右端 の状態	内側の 有無	備 考
0.36	0.80	完形	剥離のみ		○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	あり
0.48	0.20	完形			○			なし	平砥	平砥	なし	
0.22	1.70	完形			○	○		なし	磨粒	フェザー	剥離せず	あり
0.25	0.30	J14-剥片Aを参照のこと										
0.29	0.55	J14-剥片Aを参照のこと										
0.34	0.60	完形						なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.26 *	1.75	J15-剥片Aを参照のこと										
0.27 *	0.20	J15-剥片Aを参照のこと										
0.23 *	1.60	J15-剥片Aを参照のこと										
0.43	0.60	剥離片			○	○		なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.21	0.80	剥離片						なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.18	0.90	剥離片			○			なし	平砥	フェザー	剥離せず	あり
0.16	0.40	J17-剥片Aを参照のこと										
0.32	1.40	J17-剥片Aを参照のこと										
0.32	1.80	完形				○		なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.31	1.90	J18-剥片Aを参照のこと										
0.1	0.20	J18-剥片Aを参照のこと										
0.31	2.10	完形				○	○	なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.39	3.40	完形				○	○	なし	磨粒	フェザー	剥離	なし
0.29 *	1.50	剥離のみ						なし	磨粒	平砥	剥離	なし
0.42	0.90	剥離片				○	○	なし	平砥	平砥	剥離	なし
0.37 *	2.10	ほぼ完形			○		○	なし	点状	フェザー	剥離	なし
0.42	2.60	完形			○	○		なし	点状	フェザー	剥離	なし
0.68	1.10	完形			○		○	20%未満	磨粒	フェザー	剥離せず	あり
0.17	0.10	完形			○			なし	点状	フェザー	剥離せず	なし
0.4	1.40	完形			○			なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.19 *	0.20	剥離のみ			○	○		なし	平砥	平砥	剥離	なし
0.69 *	0.10	剥離のみ			○			なし	平砥	平砥	剥離	なし
0.46	2.60	完形				○	○	20%未満	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.44	0.30	完形			○		○	20%未満	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.53	1.50	完形			○		○	20%未満	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.65	1.60	完形			○	○	○	20%未満	磨粒	平砥	剥離せず	なし
0.08 *	0.1g未満	剥離のみ			○			なし	平砥	平砥	剥離	なし
0.34	0.30	完形			○	○		なし	平砥	ユツジ	剥離せず	なし
0.62	0.40	J11-剥片Aを参照のこと										
0.21	0.20	剥離のみ			○			なし	平砥	平砥	剥離	なし
0.12	0.60	J11-剥片Aを参照のこと										
0.3 *	0.40	J11-剥片Aを参照のこと										
0.68	13.20	完形			○		○	なし	平砥	フェザー	剥離せず	あり
0.55	8.10	完形			○	○		なし	点状	フェザー	剥離せず	あり
0.17	0.20	剥離のみ			○			なし	平砥	平砥	剥離	なし
0.31	1.40	完形			○			なし	平砥	ユツジ	剥離	なし
0.4	4.50	剥離片			○	○	○	なし	平砥	ユツジ	剥離せず	なし
0.19	1.00	J11-剥片Aを参照のこと										
0.14	0.20	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.22	0.50	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.14	0.20	剥離片			○			なし	磨粒	フェザー	剥離	なし
0.43	2.10	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	あり
0.3	0.40	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.62	7.00	完形			○	○		なし	磨粒	フェザー	剥離せず	あり
0.19	1.60	完形			○	○		なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.14	1.00	完形			○	○		なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.2	140.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.31	0.50	完形			○			なし	平砥	ユツジ	剥離せず	なし
0.12	0.40	剥離片			○	○		なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.31	0.60	J12-剥片Aを参照のこと										
0.29	1.60	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.49	1.40	完形			○			なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.36	2.70	J12-剥片Aを参照のこと										
0.35	1.20	剥離片					○	なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.44	2.30	完形				○	○	なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.41	2.30	完形				○	○	なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.49 *	2.10	J13-剥片Aを参照のこと										
0.52	9.00	J13-剥片Aを参照のこと										
0.51 *	0.14	J13-剥片Aを参照のこと										
0.87	8.00	完形				○	○	20%以上	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.56 *	0.30	J13-剥片Aを参照のこと										
0.5	11.00	ほぼ完形	剥離片		○	○	○	なし	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.29	0.30	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	あり
0.21	0.20	完形			○			なし	点状	フェザー	剥離せず	なし
0.26	8.00	ほぼ剥離片			○		○	20%未満	平砥	フェザー	剥離せず	なし
0.22	1.70	完形					○	なし	磨粒	フェザー	剥離せず	あり
0.49	5.90	完形			○	○	○	なし	磨粒	フェザー	剥離	あり
0.25	0.80	剥離片			○			なし	磨粒	平砥	剥離せず	なし
0.22	0.40	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
0.29	0.50	完形			○			なし	磨粒	フェザー	剥離せず	なし
2.84	208.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3節 水田遺構の検討

1)はじめに

NG07-3次調査地では、Ⅰ・Ⅱ区から1～3期(3期はa・bに細分)に及ぶ水田遺構を検出することができた。そのうち第1期水田以外の水田は、方格地割に基づき造営されていた。これらは長原遺跡標準層序のNG6A・6B層にかけて検出された遺構で、飛鳥時代から奈良時代にかけて造営・耕作されたものとみられる。本調査地の周辺では、既往の発掘調査において同時期の水田遺構が見つかった。なかでも本調査地の西側に接する近畿自動車道建設による城山(その3)発掘調査区の水田遺構は、南北に広い調査地の中で4時期にわたる水田遺構が検出されている[大阪文化財センター1986b]。また、NG86-79・86-109・87-2・87-35次調査地などでも城山(その3)調査地の水田遺構につながる方格地割により区画された水田畦畔が見つかった[大阪市文化財協会1992・2006]。ここでは本調査地と周辺で見つかった水田遺構を検討し、飛鳥～奈良時代の水田造営と変遷について検討したい。

2)城山(その3)調査地とNG86-109・87-35次調査地の水田遺構

城山(その3)調査地と周辺における水田遺構については[積山1992]が成果を総括しており、ここでもその考察に基づいて概要を述べておく(図57)。城山(その3)調査区を中心に見つかった水田遺構は第1水田～第4水田まで4つの時期に分けられている。最も古い水田遺構は第1水田である。各時期の水田の概要は以下の通りである。

i)第1水田

長原7Aii層を作土とする水田遺構である。上位層も水田作土であったため、耕作によりもとの畦畔が削平され、畦畔痕跡がわずかな高まりとして残ったものである。平面的には黒い帯状の遺構として認識されたものである。この時期の畦畔の多くは正方位に対して東へ振れている。城山(その3)調査地では大畦畔による区画や正方位の方格地割による畦畔が認められない。この時期は地形に合わせた小区画水田が営まれていたものとみられる。ただし、NG86-109・87-85次調査地の北区ではSR001-004のように一部で東西に正方位の水田畦畔も存在しており、東西畦畔のSR004は地割の基本区画となる大畦畔とみなしうる。

長原7Aii層からは7世紀中葉～後葉の土器が出土しており、第1水田の存続時期は7世紀後半と考えられている(出現については7世紀前半とみなされている)。また、第1水田の造営については、河内台地の尾根上に開削された旧東除川との関係も指摘されている[木原克司1982、黒田慶一1986、藤永正明1986、京嶋覚1990]。この人工流路の開削が台地部の水田開発を可能にしたと考えられている。

ii)第2水田

長原7Ai層を作土とする水田遺構である。NG86-109・87-85次調査地の北区では、水成層である長原6Bii層で覆われたSR009・010などの正方位の畦畔が認められることから、この段階に明確な正

方位畦畔が出現するようである。畦畔相互の距離が1町109～110mで換算すると1/2町、1/3町の単位になるものがあり、何らかの測地をして水田が造営されていたことを窺わせる。

この調査地の南区では水田を覆った水成層である長原6Bi層から7世紀末頃の遺物が出土しており、水田の廃絶もこの時期であると考えられている。

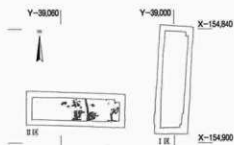
iii) 第3水田

長原6Bi層を作土とする水田で、長原6Ai層の洪水層に埋没した状態で検出された。城山(その3)調査地では南北約350mにわたり畦畔が検出されており、水田面が最も良好に残っていた(図57)。NG86-109・87-85次調査地など周辺で見つかった同時期の畦畔とも大畦畔を中心に連結するものもみられる。第3水田の段階には1町110～113mで正方位の方格区画が施行されていることが明らかとなっている。ただし、大畦畔内側の坪内の地割は正方位ではなく畦畔は斜めに振れている。こうしたことから、大畦畔を中心に「坪」単位までの方格地割が施行されるようにはなるものの、その内側の水田区画は方格地割の適用は部分的なものに留まったようである。また、長原遺跡の1帯で見られる現存の条里坪境とは東西ラインが南北方向に42～43mほどずれていることが明らかとなっている。

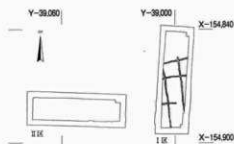
第3水田を覆う長原6Ai層の上面から掘込まれた土壌からは7世紀末～8世紀初頭の土器が出土している。したがって、第3水田の存続年代は、第2水田の廃絶後のごく短期間であったと考えられている。ただし、NG6Ai層の洪水砂が及ばなかった場所では引き続き第3水田が継続して存在したようである。

iv) 第4水田

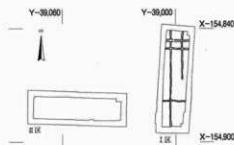
長原6Ai層を作土とする水田遺構である。この段階には大畦畔は基本的に東西・南北とも現存する条里地割の坪境に一致するようになる。ただし、方格地割がきちんと施行されている地区がある一方で、長原6Ai層の洪水砂が及ばなかった場所では第2・第3水田の畦畔がその



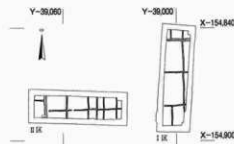
飛鳥時代前半の遺構



飛鳥時代後半の水田畦畔(第1期水田)



飛鳥時代末～奈良時代初期の水田畦畔(第2期水田)



奈良時代前半の水田畦畔(第3期水田)

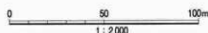


図56 NG07-3次調査地における水田畦畔の変遷図

第Ⅲ章 遺構と遺物の検討

まま利用され続けており、完全なかたちでの方格地割の施行には至らなかったようである。現存する条里地割との関係からみると、第4水田の段階はその原型が完成した段階と評価することができる。第4水田の年代は、上層の長原5層の最新の遺物が8世紀末～9世紀初頭であることから、この時期に廃絶したものとみられる。

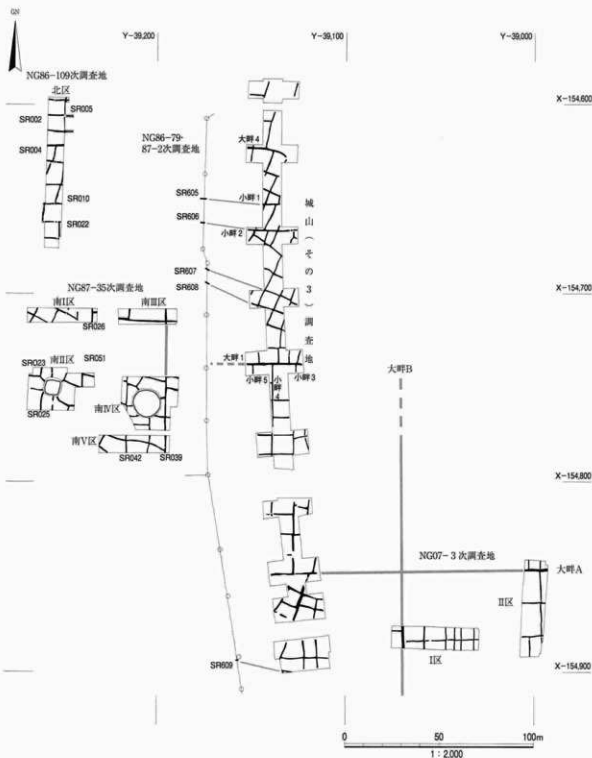


図57 城山(その3)調査地とNG07-3次調査地の水田畦畔分布図

3) NG07-3次調査地の水田遺構

NG07-3次調査では、大きく分けて第1期～第3期(ただし、第3期はa・b期に細分される)の4つの時期の水田遺構が確認された(図56)。各時期の水田遺構と前述の第1～第4水田との対応関係は以下の通りである。

i) 第1期水田

第1期水田はⅠ区で認められた最初の段階の水田遺構である。Ⅱ区では認められなかった。後世の耕作により削平を受けた可能性が高い。この水田遺構は第6b層上面で検出されたもので、畦畔の基台部だけが見つかったものである。Ⅰ区の南側のみで検出され、畦畔は正方位ではなく斜めに振れて設営されている。Ⅰ区ではこの地層からは遺物がほとんど出土していないが、Ⅱ区では下位の第7層下面において鋤溝や土壌、小穴、溝などの水田とは関係のない畠間連の遺構が見つかった。

Ⅱ区の第7層下面検出遺構からは7世紀中葉の遺物が出土していることから、Ⅰ区で検出された第1期水田はそれ以降に造営されたと判断できる。正方位の水田ではないことから、本調査地の第1期水田は、城山(その3)調査地とその周辺の「第1水田」[積山1992]に対応する水田であると考えられる。したがって、第1期水田の時期は7世紀後半とみなしうる。

ii) 第2期水田

第2期水田もⅠ区だけで検出され、Ⅱ区では認められなかった。この段階は正方位の水田畦畔が造営されている。第2期水田も第6b層上面で検出されたもので、畦畔の痕跡のみが見つかったものである。第1期水田と同一面で検出されたが、畦畔の切合い関係の観察によって、正方位である第2期水田の畦畔が後出のものと判断できた。また、南北方向の2本の畦畔の位置は、基本的に後に出現する第3期水田の畦畔と一致する。北端で見つかった東西方向の大畦畔SR1010(大畔A)も後の第3期水田の畦畔へ継続して利用されている。

この水田についても共伴する遺物がないため、周辺地の調査成果を援用するしかないが、正方位の方格地割で造営されていることから、本調査地の第2期水田は、城山(その3)調査地周辺の「第2水田」に対応する水田であると考えられる。したがって、第2期水田の時期を7世紀末～8世紀初頭と考えておきたい。

iii) 第3a期水田

第3a期水田は第6a2層を作土とする水田遺構で、Ⅰ・Ⅱ区において厚い洪水砂に埋没しており、良好な状態で確認された。正方位による方格地割に基づいて水田畦畔が設営されていた。Ⅰ区の北端では大畦畔SR1010(大畔A)とⅡ区の西端で南北方向の大畦畔SR2003(大畔B)がそれぞれ認められた。東西方向の大畔Aは、城山(その3)調査地において確認されている東西方向の大畔4、大畔1とは1町単位の位置関係にあり、大畔Aから北へは110mの間隔で東西ラインが大畔4、大畔1と一致する(図57)。城山(その3)調査地の大畔1、大畔4と本調査地Ⅰ区の大畔Aは、いずれも大畦畔であることから、東西方向の「坪境」の畦畔としての機能があったと考えられる。ただし、この東西ラインは現存条里とは42～43mほど南北位置がずれている。



Ⅱ区でも正方位で方格地割の畦畔が認められたが、南北方向の大畦畔SR2003(大畔B)は現存の条里地割に一致している(図58)。また、東西方向の畦畔SR2001は、東方向にⅠ区の畦畔SR1012へつながるものと思われる。

第3a期水田についてはもともと長原6Bi層を作土としているが、調査地全面では上層で長原7Aii層の洪水砂を認めることができなかった。しかし、大畔A・BやⅡ区の西側において長原7Aii層を起源とする砂層を盛り上げて畦畔を形成し、水田の復旧が試みられていることから、第3期は継続した水田の利用があったと考えられる。したがって、第3期の遺構は、城山(その3)調査地一帯の「第3水田」と「第4水田」の時期にかけて継続して存続した水田と考えておきたい。本調査地の第3期水田のうち、長原6Bi層を作土としている大部分の畦畔を第3a期、長原6Aii層の洪水砂を契機とする畦畔の復旧痕跡を第3b期として細分しておきたい。こうしたことから、第3期水田はおもに8世紀前半に存続した水田と考えられ、その出現は「第3水田」と同じ7世紀末頃と考えられる。

iv) 第3b期水田

前述したように、第3b期水田は大畔A・BとⅡ区の西側で部分的に認められたものである。これらの畦畔は長原6Aii層を起源とする洪水砂を盛り上げて畦畔の嵩上げをしている。また、Ⅱ区の一部の水田区画では長原6Ai層を起源とする水田面を確認した(図37)。その他の水田面は、基本的に第3a期の水田がそのまま復旧・維持されたものと思われる。第3期水田は長原5層の洪水砂で覆われている。したがって第3b期水田の最終的な廃絶時期は、8世紀末頃とみられる。

4) まとめ

以上のように、NG07-3次調査で検出された水田遺構は、本調査地の西側に隣接する城山(その3)調査地とその周辺に拡がる第1～第4水田に対応するものと思われる。特に良好な状態で見つかった第3期水田は、正方位の方格地割が施行されており、7世紀末～8世紀前半にかけて大規模な水田開発がこの地域で継続して行われていたことを示している。一方で、前代の水田畦畔が継続して維持・利用されている点も注目される。第3b期の水田に見られるように、洪水被害を被っても、大畦畔を中心にいち早く復旧作業に取り組んでいる状況は、この地域の水田経営に携わった集団の耕作地管理のあり方を考える上でも興味深い。平安時代以降に施行された現存条里と荘園制度下の耕作単位の変遷を探る上でも本調査地で検出された水田遺構は重要な資料となろう。

今回の発掘調査では城山調査地より東側の古代水田の変遷を明らかにすることができた。周辺には同時期の水田が残されている可能性が高く、今後もさらなる資料を蓄積していく必要がある。

(絹川)

第IV章 まとめ

今回の調査では、以下に示した2つの遺構が特筆される調査成果として挙げることができよう。それは、縄文時代草創期の石器遺物集中部を伴う石器製作址と飛鳥時代後半から奈良時代前半にかけての複数時期の水田畦畔であった。この2つの遺構の性格について再度触れることでまとめにかえたい。

1) 縄文時代草創期の石器遺物集中部

今回の調査では、I区南端において176点の石器遺物からなる集中部LC1201を検出した。この集中部は剥片のみで構成されており、直径5m程度で集中部としては小規模なものであった。調査の過程では、集中部の範囲について発掘排土を1mグリッド毎に回収して水洗・簡別作業を行い、微細石器遺物の回収を行った。その結果LC1201では、891点の微細石器遺物を捕集することができた。また、微細石器遺物の分布を検討したところ、特定の範囲に微細石器遺物が密集することが判明した。集中部内における微細石器遺物の密集部の把握は、石器製作を行った旧石器人の座位や作業内容を把握するうえで重要な情報となる。LC1201は集中部内の石器遺物分布と微細石器遺物の密集部のあり方から、ほぼ原位置が保たれ、後世の擾乱や水流による二次移動を被っていないものとみられる。

LC1201から出土した剥片類は、貝殻状や扇状の形状をする剥片が多く、線状・点状、口唇状打面をもつものがある程度認められた。こうした剥片は、両面尖頭器の製作時に生じる調整剥片の特徴を備えたものであった。LC1201の所属時期は、集中部が長原遺跡標準層序の長原12-13層漸移帯に相当する地層から検出されたことや尖頭器製作址という石器群の内容からみて、縄文時代草創期(ただし、尖頭器の存続期間を考慮するなら早期まで降る可能性も残る)と推定した。

長原遺跡では、これまでに尖頭器を製作したことが明らかな石器遺物集中部としてNG89-19次調査地で検出されたLC1203がある。ここでは両面調整尖頭器を製作する際に生じた調整剥片だけではなく、尖頭器のブランク(原形)が出土している。ブランクが持ち出されたNG89-23次調査地で有茎尖頭器が同一層序で出土していることから、NG07-3次調査地と同じように縄文時代草創期の遺構と判断された。

第三章第2節でNG07-3次・89-19次調査地から出土した2つの石器群について剥片と尖頭器ブランクの技術形態を比較検討した。その結果、NG07-3次調査地のLC1201はNG89-19次調査地のLC1203と同じ両面調整尖頭器が製作された集中部であることが明らかとなった。

長原遺跡では尖頭器製作に必要な石材を二上山北麓一帯で調達し、多くは素材剥片の状態で持ち込んだものと考えられる。素材剥片は最初に尖頭器のブランクへと加工される。今回の分析では、その工程で幅広で縦長の剥片が生産されることがわかった。長原遺跡では確認できなかったが、これらの縦長の剥片は搔器類の素材として利用可能なもので、搔器類は尖頭器石器群に共存する石器である。

NG89-19次調査地LC1203では、尖頭器のブランクとともにこうした素材剥片も生産され搬出された可能性が高い。一方、LC1203では、盛んにブランクの製作は行われたが、尖頭器を完成品として仕上げる工程までは行われなかった。おそらく持ち出されたブランクは、必要に応じて他の場所で調整加工を施して仕上げ作業を行ったものと思われる。そうした候補地の1つがNG07-3次調査地のLC1201である。この集中部の規模は小さく、石器遺物組成も剥片のみに限られることから、ごく短期間の滞在でブランクの調整加工を行い、尖頭器(なお未成品であったものと思われる)を再び持ち出したものと思われる。またLC1201で再加工された尖頭器のブランクはせいぜい1、2個体程度であったとみられる。

NG07-3次調査地で見つかったLC1201石器群の検討を通して縄文時代草創期(または早期前半段階)の尖頭器製作の実態を明らかにすることができた。ブランクの多量生産を行う一方で、必要に応じて別の消費地遺跡で仕上げ加工を進めていく作業方法は、より効率的な石器生産のかたちを示している。

なお、今後の課題として、尖頭器のデポ(貯蔵施設)の探求や完成した尖頭器の消費過程について明らかにしていく必要がある。

2) 飛鳥~奈良時代の畠・水田遺構

飛鳥時代の遺構として第7層下面検出遺構をⅡ区で確認した。検出した遺構は溝・鋤溝などで、この場所で畠作が行われていたことを示していた。SX2002から出土した土器から飛鳥Ⅰの後半段階のものともみられ、7世紀前半と考えられる。この畠遺構は後述する水田遺構との関係でも重要な意味をもつ。すなわち、7世紀前半頃では、台地に当るⅡ区付近は水田の開発がまだ始まっていなかったことを示している。調査地の西側に接する城山(その3)調査区や高麗り古墳群の周辺のNG86-109・87-35次調査地の一帯では、6世紀末から7世紀前半にかけて水田開発が始まっている。後述する飛鳥時代後半の水田開発はより大規模なものであり、本調査地でもごく短期間に水田へと土地利用が変貌することから、7世紀中葉にこの地域の土地開発に大きな画期があったことを強く示唆させる。

飛鳥時代後半の水田遺構として第1期水田をⅠ区において検出した。城山(その3)調査地とその周辺ではNG7Aii層を耕作した第1水田[横山洋1992]が検出されており、本調査地Ⅰ区の第1期水田も第1水田が周辺に展開する過程で造営されたものと判断される。

第2期水田は、城山(その3)調査地周辺で検出された第2水田に対応するものと考えられる。この段階には正方位の畦畔が出現している。本調査地では、第2期水田に続く第3期水田でも基本的に第2期水田の区画が踏襲されていることが確認された。大畦畔の存在や1町の1/20間隔の南北畦畔の存在から、この時期には計画的な地割が施行されていた可能性が高い。第2水田に対応することを前提にするなら、第2期水田の時期は7世紀末頃と推定される。

奈良時代の水田遺構として、Ⅰ・Ⅱ区のそれぞれ全域において、第5層(長原5層)の厚い洪水砂に覆われた水田遺構を検出した。これを第3期水田とした。第5層の年代は、長原標準層序との対比から奈良時代末頃と考えられる。したがって、第3期水田にもこの年代を当てはめることができるが、

第3期水田の畦畔には砂を盛り上げて水田面の補修を行った痕跡が認められた。また、Ⅱ区西側において一部の水田は2面の水田面が認められた。こうしたことから、第3期水田は、一度大規模な洪水被害を受けた後、復旧作業を行っていたことがわかった。この洪水は長原6Aii層に対応するものとみられる。第3期水田は、大きな洪水被害を受けながら、一定期間にわたり連続的に耕作が続けられたものとみられる。この洪水を境に、古期を第3a期水田、新期を第3b期水田とした。第3a・3b期水田では両者に区画の違いは認められず、ほぼ第3a期の水田が洪水を経てそのまま復旧して3b期水田として継続利用されたものとみられる。第3a期を[積山1992]の第3水田、第3b期水田を第4水田に対応させた。第3水田は8世紀初頭頃の年代が推定されているが、この段階には本調査地でも正方位の方格地割による水田が広がっていたようである。

以上のように、NG07-3次調査で検出された水田遺構は、西側に隣接する城山(その3)調査地一帯の第1~第4水田に対応するものと思われる。特に良好な状態で見つかった第3期水田は、正方位の方格地割が施行されており、この時期の水田開発が最も大規模なものであったことを物語っている。一方で、前代の水田畦畔が継続して維持・利用されている点も注目される。第3b期の水田に見られるように、洪水被害を被っても、基本区画である大畦畔を中心にいち早く復旧作業に取り組んでいる状況は、この地域の水田経営に携わった集団の耕作地管理のあり方を考えるうえでも興味深い。平安時代以降に施行された条里と荘園制度下の耕作単位の変遷を探るうえでも本調査地で検出された水田遺構は重要な資料となろう。

今回の長原遺跡(NG07-3)調査区の分析調査では、調査区が位置する台地上における条里地割の施工過程などを検討する資料を得ることを目的として、調査区内に累重する堆積層について自然科学分析調査を実施した。その結果、以下に示す点が明らかになった。

- (1) 飛鳥時代には調査区が位置する台地上では、人為的地表攪乱後、水田が形成された。
- (2) 飛鳥時代の水田からは栽培植物のイネ属の植物珪酸体が産出し、水田耕作を裏付けた。また、草本花粉が多産することから調査地点周辺が開けた場所であったことが推定された。産出した水生植物の花粉は水田雑草として生育していたものに由来する可能性が考えられた。
- (3) 飛鳥時代以降、調査区の地下水位は上昇傾向にあり、氾濫によって供給された泥を主体とする浮遊物質が静水域で沈降するような堆積場へ変化した。この期間には砂からなる氾濫堆積物が流入する時期や土壌発達する時期を挟んでいることが層相解析から推定されたが、地震動による変形のため、詳細な変化を捉えることができなかった。また、この期間中にも畦畔の構築状況や栽培植物のイネ属の産状などから、水田耕作がほぼ継続して行われていたことが推定された。
- (4) 8世紀以降も調査区の地下水位は上昇傾向にあり、堤防決壊堆積物などの氾濫堆積物が流入する場所へ変化した。この初期段階には、地震が発生していることが確認された。本時期および飛鳥時代に構築された畦畔は、調査区に流入した氾濫堆積物を利用して、同じ場所に再構築されていたことが確認された。
- (5) 飛鳥~奈良時代にかけて周辺植生は大きく変化せず、針葉樹のマツ属やスギ属、常緑広葉樹のアカガシ亜属などが、それぞれの生態性の応じた場所に生育していたことが推定された。(細川)

引用・参考文献

- 赤沢威・小田 静夫・山中一郎1980、『日本の旧石器』立風書房
- 植木久1982、『長原遺跡に見る平安～鎌倉時代集落・民家の特質』：大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』Ⅱ、pp.317～320
- 宇佐見龍夫1996、『新編日本被害地震総覧』[増補改訂版] 東京大学出版会、p.493
- 江浦洋1991、『条理制施行の諸段階とその背景～八尾市・東大阪市池島・樺万寺遺跡を中心に～』：『大阪文化財研究』創刊号 大阪文化財センター、pp.1～20
- 江口誠一1994、『沿岸域における植物珪酸体の分布 千葉県小櫃川河口域を例にして』：『植生誌研究』2、pp.19～27
- 1996、『沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値』：『ペトロジスト』40、pp.81～84
- 大阪市文化財協会1982a、『近畿財務局公務員宿舎建設に伴う長原遺跡発掘調査(NG82-26)略報』
- 1982b、『六反下水道管渠推進工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG82-48)略報』
- 1982c、『長原遺跡発掘調査報告』Ⅱ
- 1983、『長原遺跡発掘調査報告』Ⅲ
- 1984a、『長吉出戸下水管渠築造工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG84-6)略報』
- 1984b、『吉内に平氏による店舗付住宅建設工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG84-17)略報』
- 1987、『下水管渠築造工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG87-8)略報』
- 1988、『長吉中学校体育館増築に伴う長原遺跡発掘調査(NG87-67)略報』
- 1989、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅰ
- 1990a、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅱ
- 1990b、『長吉長原市営住宅建設に伴う長原遺跡発掘調査(NG89-85)略報』
- 1990c、『長原東市営住宅建設に伴う長原遺跡発掘調査(NG89-86)略報』
- 1991、『長原遺跡発掘調査報告』Ⅳ
- 1992、『長原遺跡発掘調査報告』Ⅴ
- 1993a、『長吉長原東市営住宅(第2期)建設工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG92-39)略報』
- 1993b、『長吉長原東市営住宅(第3期)建設工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG92-97)略報』
- 1994、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅶ
- 1996、『大阪市都市整備局による長吉長原東住宅建設工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG95-36)略報』
- 1997、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅸ
- 1999a、『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅱ
- 1999b、『長原遺跡発掘調査報告』Ⅶ
- 1999c、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』ⅩⅣ
- 2000、『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅲ
- 2001a、『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅳ
- 2001b、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅹ
- 2001c、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』ⅩⅥ
- 2002、『長原遺跡発掘調査報告』Ⅶ

- 2003、『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅵ
- 2004、『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅶ
- 2005、『長原遺跡発掘調査報告』ⅩⅡ
- 2006、『長原遺跡発掘調査報告』ⅩⅤ
- 2007、『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅹ
- 2008、『長原遺跡発掘調査報告』ⅩⅦ
- 大阪府教育委員会1980a、『東阪田遺跡～1979年度第1区の調査～』
- 1980b、『昭和54年度 はさみ山遺跡発掘調査概要』
- 1983a、『昭和57年度 はさみ山遺跡発掘調査概要』
- 1983b、『津堂遺跡発掘調査概要』
- 1991、『八尾南遺跡発掘調査概要』Ⅱ
- 大阪文化財センター1978、『長原』
- 1984a、『佐堂』(その2)～1 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 1984b、『巨摩・若江北』(その2)
- 1984c、『大堀城跡』
- 1986a、『城山』(その2)近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 1986b、『城山』(その3)
- 1986c、『亀井北』(その1)
- 1986d、『亀井北』(その3)
- 1987a、『久宝寺南』(その1)近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
- 1987b、『久宝寺南』(その2)
- 1991、『河内平野遺跡群の動態』Ⅱ 北遺跡群旧石器・縄文・弥生時代前期編
- 太田陽子・松島義章・森脇広1982,『日本における完新世海面変動に関する研究の現状と問題～Atlas of Holocene Sea-level Records in Japan を資料として～』:『第四紀研究』21, pp.133-143
- 小倉徹也2001,『長原遺跡で見つかった地震の痕跡』:『葦火』92号, pp.4-5
- 川崎地質株式会社1995,『西大井遺跡(93年度調査)における花粉・珪藻分析』:『(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書』1, pp.149-174
- 木原克司1982,『長原遺跡の水田跡をめぐる諸問題』:大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』Ⅱ, pp.287-316
- 絹川一徳2000,『第5節石器器種とその分布』:大阪市文化財協会編『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅲ, pp.150-179
- 2008,『長原遺跡における始良 Tn火山灰層下位の石器群について』:大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』ⅩⅦ, pp.73-91
- 久馬一剛・八木久義監修1989,『土壌薄片記載ハンドブック』 博友社, p.176
- 九州近世陶磁学会2000,『九州陶磁の編年』
- 京嶋覚1990,『水田遺構と古代の長原』:大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅱ, pp.294-306
- 1992,『古墳時代後半期における土師器の器種構成』:大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅲ, pp.187-201
- 1993,『古墳時代後半期の土器の変遷』:大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅴ, pp.269-276
- 京嶋覚・西畑佳恵・上野裕子1990,『水田遺構と古代の長原』:大阪市文化財協会編『葦火』24号

- 金田章裕1990、「国図の条里プランと荘園の条里プラン」：『日本史研究』第332号 日本史研究会、pp.1-35
- 黒田慶一1986、「長原(城山遺跡出土の)「富官家」黒書土器-長原古水田跡をめぐって-」：『ヒストリア』第111号 大阪歴史学会、pp.1-23
- 建設省国土地理院1983、「土地条件調査報告書(大阪平野)」
- 古代の土器研究会1992、「古代の土器1 都城の土器集成」I
1993、「古代の土器2 都城の土器集成」II
- 小山正忠・竹原秀雄1996、『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社
- 近藤鍊三1982、「Plant opal分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究」：『昭和56年度科学研究費(一般研究C)研究成果報告書』、p.32
2004、「植物ケイ酸体研究」：『ペドロジスト』48、pp.46-64
- 近藤鍊三・佐藤隆1986、「植物珪酸体分析、その特性と応用」：『第四紀研究』25、pp.31-64
- 近藤鍊三・ピアスン友子1981、「樹木葉のケイ酸体に関する研究(第2報)及子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について」：『帯広畜産大学研究報告』12、pp.217-229
- 櫻井久之1996、「5世紀の屋敷地のすがた」：『葦火』60号、pp.1-3
1998、「鳥足文タキメのある土器の一群」：『大阪市文化財協会研究紀要』創刊号、pp.21-32
- 櫻井美枝1992、「細石刃石器群の技術構造-山形県角二山遺跡の分析-」：加藤稔先生還暦記念会編『東北文化論のための先史学歴史学論集』、pp.441-462
- 佐藤幸一1990a、「八郎潟干拓地重粘土水田土の粗間隙の発達とその意義」：『農業土木学会誌』60、pp.25-30
1990b、「八郎潟干拓地における畑地と草地土壌の粗間隙の発達とその意義」：『農業土木学会誌』60、pp.287-292
- 佐藤隆1992、「第2節 平安時代における長原遺跡の動向」：大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』V、pp.102-114。
- 菅榮太郎1995、「石畿資料の型式および製作技法の編年的検討」：大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅵ、pp.367-388
- 杉山真二2000、「植物珪酸体(プラント・オパール)」：辻誠一郎編著『考古学と自然科学3-考古学と植物学-』同成社、pp.189-213
- 杉山真二・藤原宏志1986、「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-」：『考古学と自然科学』19、pp.69-84
- 鈴木秀典1982、「瓦器碗の編年」：大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』II、pp.278-282
- 鶴柄俊夫1989、「大阪府南部の瓦質土器生産(2)」：『中近世土器の基礎研究』V、pp.61-86
- 積山洋1992、「第1節 水田遺構の分析」：大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』V、pp.91-101
- 高橋工1999、「長原遺跡東北地区の基本層序」：大阪市文化財協会編『長原遺跡東北地区発掘調査報告』II、pp.7-16
- 竹岡俊樹1989、「遺跡研究の方法」：『石器研究法』言叢社、pp.34-164
- 田中清美1999、「SE703出土韓式系土器と土器の編年的位置づけ」：大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』Ⅶ、pp.101-106
- 田辺昭三1981、『須恵器大成』角川書店
- 田辺昭三1966、『陶邑古窯跡群』I 平安学園考古学クラブ
- 田辺昭三・原口正三・田中琢・佐原眞1962、大阪府教育委員会編『河内船橋遺跡出土遺物の研究』(2) 平安考古学ク

中近世土器研究会1995、『概説 中世の土器・陶磁器』真福社

趙哲達1995,「本書で用いる層位学的・堆積学的視点からの用語」：『大阪市文化財協会編「長原・瓜破遺跡発掘調査報告」Ⅷ、pp.41-44

2001,「第Ⅱ章 長原遺跡の地層」：『大阪市文化財協会編「長原・瓜破遺跡発掘調査報告」ⅩⅥ、pp.7-28

2003,「大阪平野のいたちと人類遺跡」：『大阪100万年の自然と人のくらしー普及講演会資料集ー』日本第四紀学会、pp.1-16

2006,「表2 長原遺跡の標準層序」：『大阪市文化財協会編「長原遺跡発掘調査報告」ⅩⅤ、p.5

塚田松雄1967,「過去一万二千年間 日本の植生変遷史Ⅰ」：『植物学雑誌』84、pp.323-336

辻美紀1999,「古墳時代中・後期の土器に関する一考察」：『大阪大学考古学研究室編「国家形成期の考古学ー大阪大学考古学研究室10周年記念論集ー」、pp.351-365

辻康男・辻本裕也・田中義文・馬場健司・松元美由紀2004,「付章 前田遺跡の自然科学分」：『前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書ー弥生前期水田跡の構造と水利動態ー』折戸市教育委員会、pp.1-40

辻本裕也2007,「1万年前の植生史ー大阪湾岸地域の考古遺跡における古植生調査を基にー」：『第22回植生史学会講演要旨集』

寺井誠2006,「長原古墳群集成」：『大阪市文化財協会編「長原遺跡発掘調査報告」ⅩⅤ、pp.273-286

寺沢薫・森井貞雄1989,「河内地域」：『弥生土器の様式と編年』木耳社

奈良国立文化財研究所1976,「平城宮発掘調査報告」Ⅶ 奈良国立文化財研究所第26冊

1993,「木器集成図録」近畿原始館

成岡市1993,「土壌祖間隙の形態とその測定法ー土壌の不均一性と物質移動の研究前線ー」：『日本土壌肥料科学雑誌』64-1、pp.90-97

バリノ・サーヴェイ1996a,「珪藻化石・植物化石・樹種による古環境復元」：『北島遺跡の耕作地と古環境ー寝屋川南部流域植付ポンプ場土木工事に伴う北島遺跡第1次発掘調査報告書ー』(財)東大阪市文化財協会、pp.71-130

2001,「亀里平塚遺跡の自然科学分析」：『亀里平塚遺跡ー主要地方道前橋・長寿線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、pp.343-353

2002,「横手南川・横手湯田遺跡の自然科学分析」：『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡北開東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第11集 第1分冊(本文編) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、pp.133-155

東大阪市文化財協会1987,「神並遺跡」Ⅱ

兵庫県教育委員会1991,「国領遺跡発掘調査報告書」

1998,「まるやま遺跡」

2002,「まるやま遺跡」Ⅱ

藤永正明1986,「水田について」：『大阪文化財センター編「城山」(その3)、pp.92-106

松田順一郎1999,「瓜生堂遺跡第45-2次発掘調査でみられた古地震痕跡」：『都市計画道路大阪環状山線建設に伴う瓜生堂遺跡第45次発掘調査概要報告』(財)東大阪市文化財協会、pp.233-242

松田順一郎・藤城泰2000,「鬼虎川遺跡北部の中・近世耕作地跡ー浄化槽埋設工事に伴う鬼虎川遺跡第43次発掘調査報告書ー』(財)東大阪市文化財協会、p.15

- Matsuda, J. - 2000, Seismic deformation structures of the post - 2300 a BP muddy sediments in Kawachi lowland plain, Osaka, Japan. *Sedimentary Geology*, 135, pp.99 - 116
- 松本百合子・久保和土1993, 「石器作りの家」: 『葦火』45号, pp. 4 - 7
- 三浦修1990, 「森林土壌の花粉分析 - 方法論的問題と森林群落の動態研究への適用」: 『植生史研究』5, pp. 3 - 18
- 三宅尚・中越信和1998, 「森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態」: 『植生史研究』6巻1号, pp.15 - 30
- 宮田雄一郎・山村恒夫・網谷淳・岩田孝夫・八幡雅之・結城智也・徳橋秀一1990, 「淡水生デルタの形成過程 - 琵琶湖愛知川河口部を例として - 2.地質構成と堆積相」: 『地質学雑誌』96, pp.839 - 858
- 森也寸志・滋賀摂子・岩間憲治・渡辺紹裕・丸山利輔1992, 「土地利用による土壌間隙構造の差異 - 軟X線による観察を中心として -」: 『土壌の物理性』No. 66, pp.19 - 27
- 八尾市文化財調査研究会1983, 「八尾市遺跡発掘調査概要報告」: 『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告2, pp.109 - 126
- 1984, 「八尾南遺跡(第3次調査)」: 『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要昭和59年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告5, pp.17 - 89
- 1985, 「八尾南遺跡(第4次調査)」: 『昭和59年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告7, pp.13 - 38
- 1987, 「八尾南遺跡(第6次調査)」: 『昭和61年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告14, pp.25 - 30
- 1988, 「八尾南遺跡(第7次調査)」: 『八尾市文化財調査研究会年報昭和62年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告16, pp.34 - 38
- 1990, 「八尾南遺跡(第16次調査)」: 『八尾市文化財調査研究会年報平成元年度』(財)八尾市文化財調査研究会報告28, pp.32 - 33
- 1993a, 「八尾南遺跡(第18次調査)」: 『平成4年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』, pp.40 - 41
- 1993b, 「八尾南遺跡(第7次調査)」: 『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』(財)八尾市文化財調査研究会報告41, pp.32 - 33
- 1994a, 「八尾南遺跡(第19次調査)」: 『平成4年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告43, pp.101 - 116
- 1994b, 「八尾南遺跡(第10次調査)」: 『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告1994年』, pp.83 - 117
- 1995, 「八尾南遺跡(第8次調査)第4章まとめ」: 『八尾南遺跡』(財)八尾市文化財調査研究会報告47, pp.116 - 130
- 渡辺正巳1995, 「花粉分析法」: 『考古資料分析法』84・85 ニュー・サイエンス社
- 2001, 「長原遺跡東北地区における花粉・珪藻分析」: 大阪市文化財協会編『長原遺跡東部地区発掘調査報告』IV, pp.79 - 88
- 2002, 「長原遺跡東北地区における花粉・珪藻・プラントオパール分析」: 大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』V, pp.87 - 96
- Binford, L. R. 1979, Organization and Formation Processes: Looking at Curated Technologies. *Journal of Anthropological Research* 35 (3), pp.255-273

あ　と　が　き

長原遺跡で発掘調査が始まってから約35年が過ぎようとしている。これまで当遺跡ではさまざまな時代の遺構と遺物が見つかり、その解明が進められてきた。今回は縄文時代草創期の石器製作址と飛鳥～奈良時代の水田跡の調査成果を報告した。縄文時代草創期の石器製作址は出土遺物の分析から尖頭器が製作されたことが明らかとなり、水田跡は考古学のみならず、自然科学分野の研究手法も用いながら追求することで、条里制度の導入過程における当遺跡の具体的な姿を浮かび上がらせることができた。いずれもこれまでに蓄積された研究成果を活用することで解明しえたといえる。

今後とも、今回報告された資料を広く一般に活用されるように努めていく所存であり、引き続き関係各位並びに市民の皆様にご協力とご支援を賜ようお願い申し上げます次第である。

(趙哲済)

索引は遺構・遺物に関する用語と地名・遺跡名などの固有名詞とに分割して収録した。

TK209型式	49	瀬戸内技法	1
TK217型式	49	銭貨	3
あ 始良Tn火山灰	1	尖頭器	3,15,16,22,24,73~77, 82,84~87,129,130
飛鳥Ⅰ	10,15,26,30,31,33,49, 130	そ 搔器	10,87,129
飛鳥Ⅱ	49	た 台形石器	1
荒屋型彫器	87	大畦畔	34,40,42,54,122,123,125 128,130,131
暗文	30	台付長頸壺	48
え 円筒埴輪	49	打製石斧	86
お 大畔	125,128	竪穴建物	3,48
凹基無茎式石鏃	50,51	鉋尾	3
か 間析流路	71	ち 調整剥片	20,22~24,73,74,76,77, 82,84,129
火炎構造	14	て 堤防決壊堆積物	54,71,131
化石	3,56,61,62,65,70~72	と 陶磁器	9,10,15
片口鉢	48	土壌薄片	52,55,56,58,70
花粉	7,52,56,61~65,70~72, 131	凸基無茎式石鏃	50
韓式系土器	3,4	粉形埴輪	49
く 楔形石器	4	な ナイフ様石器	1
け 形象埴輪	3	ナウマンゾウ	3,10
こ 口唇状打面	20,73,75,84,129	長原式土器	3,49
さ 阪手火山灰	1	ね 粘土採り穴	30
三瓶浮布火山灰	1	は 氾濫堆積物	54,55,60,68,70,71,131
し 地炭	10,58,61,69~71,131	ひ 平皿	49
条里地割	3,52,123,124,128, 131	ヒンジ・フラクチャー	24
植物珪酸体	52,56,62,66~70,131	ふ 深鉢	49
す 水田遺構	6,7,12,31,37,52,122, 125,128,130,131	ブランク	23,24,73,74,76~80,82~ 87,129,130
須恵器	3,4,10,30,48,49	へ 平安神宮火山灰	1,10
スカシ孔	49	平城宮土器Ⅲ	10,48,49
龜溝	26,27,29~31,33,125,130	ほ 方格地割	3,6,14,34,47,122~125, 128,131
せ 石核	10,73,74,77,80,87	墨書・墨画土器	3
石鏃	4,10,50,51	ま 曲物	51
接合資料	22~24,74,77~86	み 水口	41,42
石刃技法	1		

も	木製品	51
	木葉形尖頭器	77,86
や	弥生土器	3,30
ゆ	有茎式石鏃	50

〈地名・遺跡名など〉

う	馬池谷	3
	瓜破遺跡	1,3
か	亀井遺跡	1
	河内台地	1,17,122
	神並遺跡	87
き	木の本遺跡	1
	喜連東遺跡	1

	有茎尖頭器	77,86,129
	湧別技法	87
ら	ラミナ	9,12,14,37,42
り	両面調整尖頭器	24,73,129

こ	国領遺跡	86
し	城山(その3)	31,33,40,47,122~125, 128,130,131
た	高廻り古墳群	31,49,130
ふ	古市古墳群	3
ま	まるやま遺跡	86,87
や	八尾南遺跡	1

**Archaeological Report
of the
Nagahara Site
in Osaka, Japan**

Volume XVIII

A Report of an Excavation
Prior to the Development of
the Municipal Apartmenthouse

March 2009

Osaka City Cultural Properties Association

Notes

The following symbols are used to represent archaeological features, and others, in this text

SD: Ditch
SE: Well
SK: Pit
SP: Pit or Posthole
SR: Paddy field balk
SX: Other features
LC: Lithic concentration

CONTENTS

Foreword	
Explanatory notes	
Acknowledgement	
Chapter I Outline of investigations at the Nagahara Site	1
S.1 The Environment and Historical background of the Nagahara Site	1
S.2 Preceding Investigations in eastern sector of the Nagahara Site	4
S.3 Background and Progress of Research	6
Chapter II Investigation Results	9
S.1 Stratigraphy of the investigation area	9
1) Stratigraphy	9
S.2 Features and Artifacts of the Jomon to Kofun periods	17
1) Features and Artifacts of the Jomon period	17
2) Lithic Concentration LC1201	18
3) Features and Artifacts of the Kofun period	24
S.3 Features and Artifacts of the Asuka period	26
1) Agricultural fields and related features of the Asuka period	26
2) Paddy field of the latter Asuka period	31
S.4 Paddy field of the Nara period	37
1) Outline of the third stage of paddy field	37
2) The third stage of paddy field in the Excavation Area I	40
3) The third stage of paddy field in the Excavation Area II	42
4) Dating of the third stage of paddy field	47
S.5 Artifacts from each layer	48
S.6 Analysis of sedimentation layers and micro fossils	52
1) Introduction	52
2) Stratigraphy of the investigation area	53
3) Method of analysis	55
4) Soft X-ray analysis and observation of thin sections	56
5) Mode of occurrence of pollen fossils from each layer	61
6) Mode of occurrence of plant opal	62
Chapter III Examination of features and artifacts	69
S.1 Environment change of investigation site and surrounding area	69
1) Depositional process and sedimentary environments in investigation area NG07-3	69
2) Changes of natural vegetation in surrounding areas	71
S.2 Manufacturing of bifacial points in the Nagahara Site	73
1) Purpose of analysis	73
2) Outline of lithic concentration in the NG89-19 area	73

3) Outline of lithic artifacts from the NG07-3 area	74
4) Analysis on flakes from the NG89-19 and NG07-3 areas	74
5) Refitting lithic artifacts from the NG89-19 area	77
6) Manufacturing of bifacial points in the NG89-19 area	85
7) Distinctive feature of lithic concentration LC1201	87
S.3 Analysis of paddy fields	122
1) Outline of the third stage of paddy field	122
2) Paddy field discovered from investigation areas of Joyama, NG86-109 and NG87-35	122
3) Paddy field in NG07-3 area	125
4) Conclusion	128
Chapter IV Conclusions	129
References and Bibliography	132
Postscript and Index	
English Summary	
Reference Card	

ENGLISH SUMMARY

Introduction

This volume reports on the results of an excavation undertaken at the Nagahara site during fiscal 2007, from November to March 2008, prior to the development of a public housing project.

The Nagahara site is located in Hirano ward, in the southeast of Osaka city, in central Japan. It is complex site, bearing archaeological remains from the Late Palaeolithic through to the Pre-Modern period. This excavation area is the eastern sector of the Nagahara site, and geographically situated on the Kawachi alluvial plain surrounding the Uriwari upland.

Outline of Research results

This investigation unearthed the archaeological remains from the Incipient Jomon period to the Nara period. Most noteworthy results are the discovery of lithic concentration of bifacial point manufacturing in the Incipient Jomon period and paddy fields divided by grid pattern system from the Asuka to Nara period.

A lithic concentration of bifacial point manufacturing was excavated from the layer corresponded to the 12-13 transitional zone of the standard stratigraphy at the Nagahara site. All stone artifacts from this concentration were point flakes produced from Sanukite. Though the point itself was not found, it could be understood that leaf shaped point was produced at this concentration through comparisons with the stone artifact from NG89-19 investigation area. It is likely that the point was reshaped thinly into complete form and was carried to another site.

This investigation area, located in the east side of the Higashiyoke River built as man-made canal in Asuka period, was turned into paddy fields by premeditated land development during the Asuka period. Paddy fields divided with grid pattern system from the Asuka to Nara period were excavated in this investigation. It is possible to argue that the systematic division of paddy fields on grid pattern was carried out prior to Jori system. Until Heian period, this area was often suffered from floods by the Higashiyoke River system. After that, usage as paddy field had been continued until Pre-Modern period.

報告書抄錄

ふりがな	ながはらいせきはつくつちょうさほうこく18							
書名	長原遺跡発掘調査報告Ⅲ							
編著者名	絹川一徳・宮本康治・辻本裕也・斎藤崇人							
編集機関	財団法人 大阪市文化財協会							
所在地	〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 TEL.06-6943-6833							
発行年月日	西暦 2009年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路番号					
金野はら 長原遺跡	金野はら 大阪市平野区 長吉長原2丁目	27126	-	34° 36' 15"	135° 34' 25"	20071119 ～ 20080331	1,371㎡	大阪市営住宅建 設工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
長原遺跡	集落	縄文時代		石器遺物集中部		石鏃・剥片・長原式土器		
		古墳時代		土壌		円筒埴輪・形象埴輪		
		飛鳥時代		水田畦畔		土師器・須恵器		
		奈良時代		水田畦畔		土師器・須恵器・曲物		
要 約	本書は長原遺跡東地区において行われた発掘調査の調査成果を報告するものである。 発掘調査では、縄文時代草創期の石器遺物集中部と飛鳥～奈良時代にかけての遺構・遺物を検出した。 特に、縄文時代草創期とみられる石器遺物集中部は、出土した剥片の分析から両面調整尖頭器の半成品を加工した石器製作址であることが明らかとなった。尖頭器本体は出土しなかったが、この時期の石器遺物集中部としては長原遺跡では2例目の発見となる。 また、飛鳥～奈良時代にかけて、部分的な付け替えや修復を含めて4時期にわたる水田畦畔を検出した。条里制と同じような方格地割にもとづいて区画・施行された水田が、長原遺跡では奈良時代までに出現していることが改めて明らかとなった。当地域における土地開発と条里制の導入過程を研究するうえで有効な資料となる。							

原 色 図 版

原色図版一 奈良時代の水田（I区 北から）





接合資料



調整剥片

圖 版

I 区 西壁断面
(南東から)



I 区 西壁北端断面
(東から)



I 区 西壁中央断面
(東から)





I区 南壁断面
(北西から)



I区 東壁北端断面
(西から)



I区 東壁中央断面
(南西から)

Ⅱ区 南壁断面
(北西から)



Ⅱ区 南壁西側断面
(北東から)



Ⅱ区 南壁中央断面
(北西から)





Ⅱ区 南壁西端断面
(北から)



Ⅱ区 西壁断面
(南東から)



Ⅱ区 東壁断面
(南西から)

I区 LC1201
石器遺物出土状況
(北から)



I区 LC1201
石器遺物出土状況
(北東から)



I区 SK1001
完掘状況
(東から)





Ⅱ区 第7層下面の
遺構全景
(検出状況：東から)



Ⅱ区 第7層下面の
遺構全景
(完掘状況：東から)



Ⅱ区 SD2021・2022
ほか検出状況
(南から)

Ⅱ区 SD2021・2022
ほか完掘状況
(南から)



Ⅱ区 SD2003
・鋤溝群検出状況
(南から)



Ⅱ区 SD2003
・鋤溝群完掘状況
(南から)





I区 第6b層上面の
第1期水田完掘状況
(北から)



I区 第6b層上面の
第1期水田完掘状況
(南から)



I区 第6b層上面の
第1期水田完掘状況
(南東から)

I区 第6b層上面の
第2期水田完掘状況
(南から)



I区 第6b層上面の
第2期水田完掘状況
(北から)



I区 第6b層上面の
第2期水田完掘状況
(北西から)





I区 第6a2層上面の
第3期水田完掘状況
(北から)



I区 第6a2層上面の
第3期水田完掘状況
(中央、北東から)



I区 第6a2層上面の
第3期水田完掘状況
(南側、北東から)

I区 第6a2層上面の
畦畔SR1010断面
(西から)



I区 第6a2層上面の
畦畔SR1013断面
(南から)



I区 第6a2層上面の
畦畔SR1011断面
(西から)





Ⅱ区 第6a2層上面の
第3期水田完掘状況
(東から)



Ⅱ区 第6a2層上面の
第3期水田完掘状況
(東側、南東から)



Ⅱ区 第6a2層上面の
第3期水田・踏込み跡
(中央、南から)

Ⅱ区 第6a2層上面の
畦畔SR2003断面
(北壁、南から)



Ⅱ区 第6a2層上面の
畦畔SR2006・2007断面
(南壁、北から)



Ⅱ区 第6a2層上面の
畦畔SR2001断面
(東壁、西から)

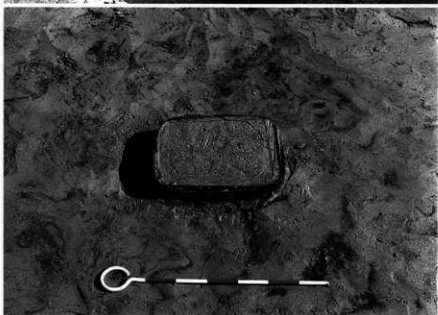




I区 石器調査状況
(南から)



II区 南壁中央
深掘トレンチ断面
(北西から)



II区 南端部第5層下部
出土曲物19
(西から)



I区：第7層(5・7・9・10)、第5層(14)、II区：SX2002(1)、第7層(15)、第5層(17)



18



11



12



13



19



07AC43



07AC32



07AC41



07AC43



07AC32



07AC41



07AC46



07AC44



07AC40



07AC46



07AC44



07AC40



07AC250



07AC181



07AC42



07AC250

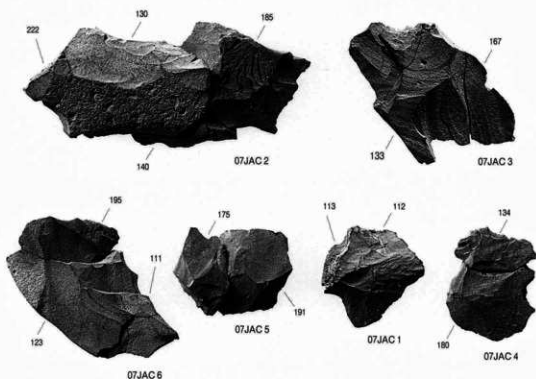


07AC181

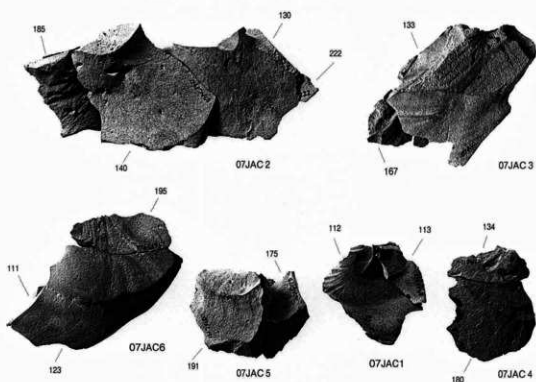


07AC42

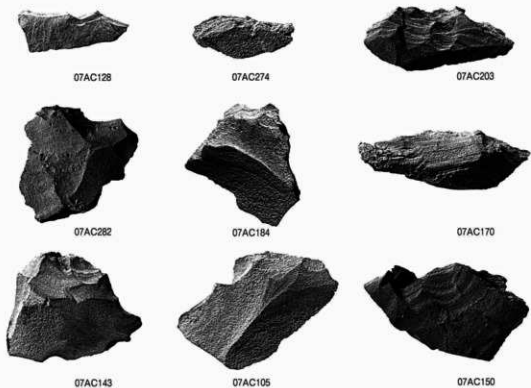
I区：第7層(13)、第5層(11・12)、II区：第5層(18・19)、I区出土の石鏃(左：表・右：裏)



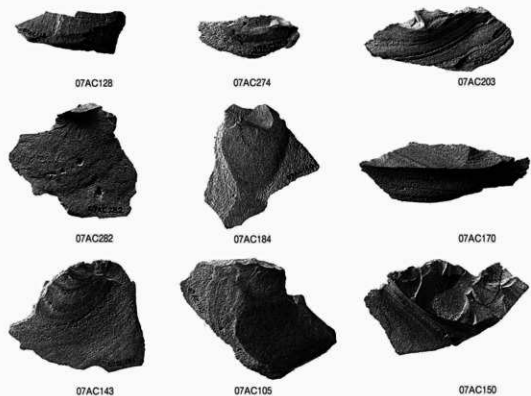
接合資料(表)



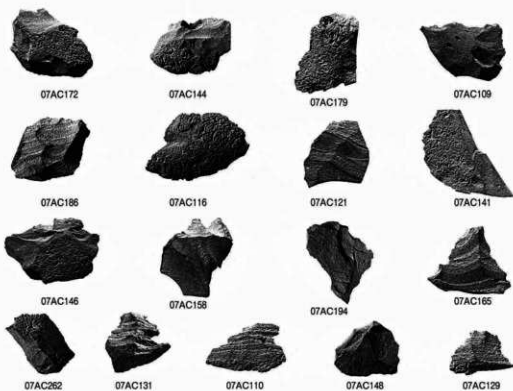
接合資料(裏)



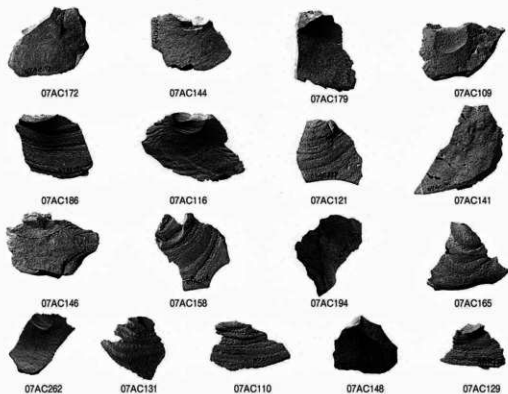
調整剥片(表)



調整剥片(裏)



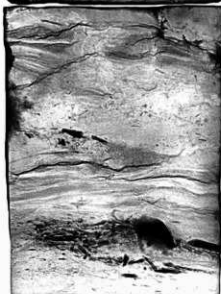
調整剥片(表)



調整剥片(裏)

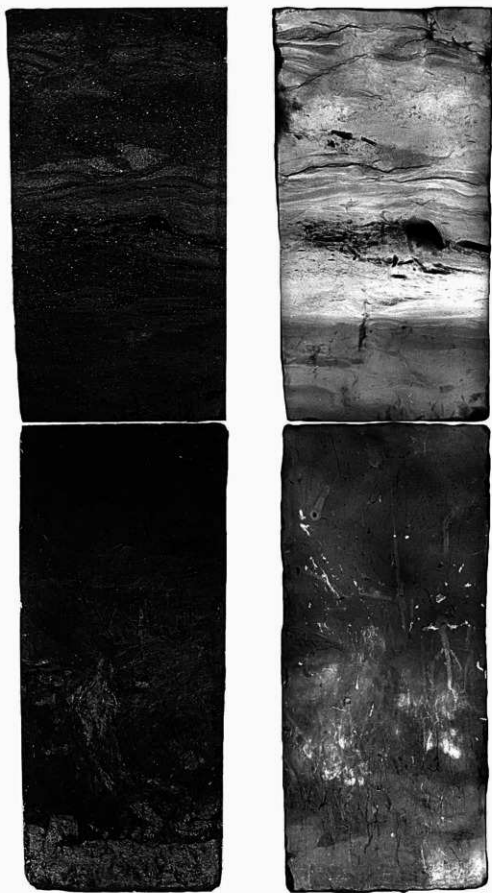


試料写真



軟X線写真

5cm



試料写真

軟X線写真

5cm



試料写真

軟X線写真

5cm



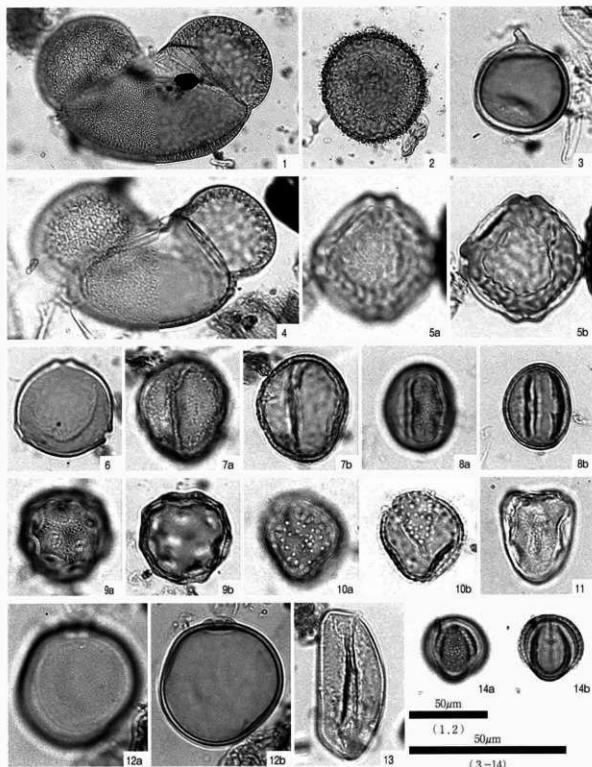
4地点試料1上部

1cm

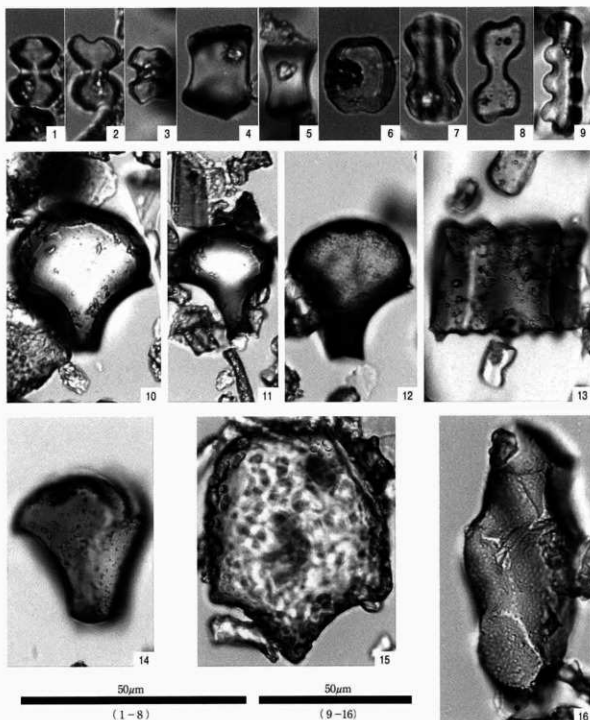


6地点試料2下部

1cm



- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. モミ属 (1 地点: 1-3) | 2. ツガ属 (1 地点: 1-1) |
| 3. スギ属 (1 地点: 1-1) | 4. マツ属 (1 地点: 1-1) |
| 5. ニレ属-ケヤキ属 (1 地点: 1-1) | 6. クマシデ属-アサダ属 (1 地点: 1-1) |
| 7. コナラ属コナラ亜属 (1 地点: 1-2) | 8. コナラ属アカガシ亜属 (1 地点: 1-1) |
| 9. サジオモダカ属 (2 地点: 2-5) | 10. オモダカ属 (1 地点: 1-2) |
| 11. カヤツリグサ科 (1 地点: 1-1) | 12. イネ科 (1 地点: 1-1) |
| 13. ミズアオイ属 (1 地点: 1-2) | 14. ヨモギ属 (1 地点: 1-1) |



1. イネ属短細胞珪酸体(2地点: 2-3)
3. イネ属短細胞珪酸体(9地点: 9-2)
5. ネザサ属短細胞珪酸体(5地点: 5-3)
7. コブナグサ属短細胞珪酸体(5地点: 5-1)
9. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(2地点: 2-2)
11. イネ属機動細胞珪酸体(5地点: 5-1)
13. ネザサ属機動細胞珪酸体(5地点: 5-3)
15. ヨシ属機動細胞珪酸体(4地点: 4-1)

2. イネ属短細胞珪酸体(6地点: 6-2)
4. ネザサ属短細胞珪酸体(1地点: 1-3)
6. ヨシ属短細胞珪酸体(10地点: 10-2)
8. ススキ属短細胞珪酸体(2地点: 2-2)
10. イネ属機動細胞珪酸体(2地点: 2-2)
12. イネ属機動細胞珪酸体(9地点: 9-2)
14. ネザサ属機動細胞珪酸体(10地点: 10-2)
16. 樹木起源珪酸体第IVグループ(3地点: 3-1)

大阪市平野区 長原遺跡発掘調査報告Ⅷ

ISBN978-4-86305-015-0

2009年3月19日 発行©

編集・発行 財団法人 大阪市文化財協会

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35

(TEL.06-6943-6833 FAX.06-6920-2272)

<http://www.occpa.or.jp/>

印刷・製本 アインズ株式会社

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-14

**Archaeological Report
of the
Nagahara Site
in Osaka, Japan**

Volume XVIII

A Report of an Excavation
Prior to the Development of
the Municipal Apartmenthouse

March 2009

Osaka City Cultural Properties Association

**Archaeological Report
of the
Nagahara Site
in Osaka, Japan**

Volume XVIII

A Report of an Excavation
Prior to the Development of
the Municipal Apartmenthouse

March 2009

Osaka City Cultural Properties Association